



e-Success-V6.5 Standard/Pro

導入・運用マニュアル

2026年5月11日

目 次

■更新履歴	5
はじめに	8
本マニュアルの使い方	8
システム的环境と機能表	8
製品の種類とその違いについて	12
◆導入・設定編◆	13
1. e-Success 導入処理の流れ	14
A. e-Success 導入の処理の流れ	14
B. 各種インストール・ツールの導入	15
2. SQL Server のインストール	16
A. SQL Server をインストールする	16
B. SQL Server Management Studio のインストール	24
C. SQL Server のサービス状態を確認する	27
D. ファイアウォールを設定する	28
E. ファイルテーブルの利用設定	33
F. NTP サーバーの設定	37
G. 管理者アカウント (sa) のユーザー ID の変更 (オプション)	39
3. e-Success データベースの構築	41
A. e-Success データベースを構築する	41
B. e-Success データベースを確認する	43
C. 旧バージョンのデータベースを現バージョンに移行する	45
4. e-Success のインストール	47
A. e-Success アプリケーションをインストールする	47
B. e-Success を評価版から正規版へ変更する	50
C. アプリケーションが独自でプロキシ接続できるように設定 (オプション)	52
5. e-Success アプリケーションの接続先設定	57
A. 接続先を設定する	57
B. 接続先設定を参照、修正する	59
C. 接続先設定の内容を他のクライアントにコピーする	59
6. データベースのバックアップについて	60
A. バックアップ方法	60
7. バックアップをタスクスケジューラで実行	63
A. バックアップ保存アプリの導入と設定	63
B. 自動バックアップをタスク登録	67
C. ログファイルの内容	71
D. バックアップログの参照	73
E. バックアップ先をネットワークドライブに設定 (オプション)	75
8. 自動タイムスタンプ付与の設定	84
A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定	84
B. 自動タイムスタンプ付与のタスク登録	89
C. ログファイル参照 (自動タイムスタンプ付与)	92
D. 自動タイムスタンプ付与ログの参照	94
E. ユーザーの任意の操作で直接タイムスタンプを付与する	95
F. ライセンスファイルを更新	97
9. 自動一括取込の設定	99
A. 他システムデータの一括取込の概要	99
B. 自動一括取込のタスク登録	103

C. ログファイルの内容（自動一括取込）	108
D. 自動一括取込ログの参照	110
E. ユーザーの任意の操作で直接一括取込を実行する	111
10. メール設定ファイルの保存	113
A. メール設定ファイルの作成	113
11. アップデート	116
A. e-Success をアップデートする	116
B. 外部アプリ（e-Success 関連アプリ）のアップデート	118
12. アンインストール	120
A. e-Success をアンインストールする	120
13. e-Success データベースの手動バックアップ	121
A. e-Success データベースを手動で完全バックアップする	121
B. e-Success データベースを手動で差分バックアップする	124
C. e-Success データベースを手動で追加・更新分バックアップする	126
14. e-Success データベースの復元	129
A. e-Success データベースを復元する	129
15. 指定の月をエクスポート	132
A. 年月を指定してファイル出力する	132
16. 指定の月を削除	135
A. 年月を指定してデータを物理削除する	135
17. 全データを物理削除	138
A. 全データを物理削除する	138
18. e-Success データベースの削除	140
A. e-Success データベースを削除する	140
B. インスタンスのアンインストール	141

◆運用・保守編◆	144
1. サーバーメンテナンス作業の準備	145
A. 現在の利用ユーザーを確認する	145
B. e-Success へのログインを禁止する	146
2. データベースメンテナンスツール	148
A. バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）について	148
B. データベースの登録状況とバックアップ状況を確認する	149
C. データベースの利用状況を確認する（バックアップ保存アプリ）	150
D. データベースの利用状況を確認する（e-Success アプリケーション）	152
3. 過去のファイルデータベースを扱う	
※SQL Server Express のみ	153
A. ファイルデータベース管理	153
B. ファイルデータベースを移行する	154
C. 過去のファイルデータベースを削除する	156
D. 過去のファイルデータベースをバックアップする	157
E. 過去のファイルデータベースを復元する	158
F. 別のサーバーにデータベースを入れ替える	159
4. 書類の物理削除	161
A. 指定の書類データを物理削除する	161
5. e-Success データの全出力	163
A. 書類データを出力する	163
6. e-Success データの連携出力／取込	165
A. e-Success データの連携出力	165
B. e-Success データの連携取込	168

制限・注意事項一覧	170
付 録	173

■更新履歴

◆注意◆ お問い合わせ

製品の不具合、機能の修正、ライブラリの更新などの製品の改訂履歴につきましては、セットアップファイルに含まれております「e-Success-V6 はじめにお読みください.txt」を確認してください。

◆注意◆ マニュアルに記載がなく、関連性のない操作について

本製品をご利用するに当たり、マニュアルに記載がない、もしくは関連性のない操作につきましては、サポート対象外となります。あらかじめご了承ください。

- 2023/05/01 初版発行
- 2023/09/06 改訂
P. 5, 6, 9, 11, 13, 14, 23 動作環境の記述から「Windows Server 2016」と「SQL Server 2016/2017」を削除
P. 17 「◆ヒント◆ SQL Server 用 Azure 拡張機能」を追加
P. 53, 63, 74 「◆ヒント◆ Windows Server 2022 でのタスクスケジューラの開き方」を追加
- 2023/11/20 改訂
製品のバージョンを e-Success-V6.1 に変更
P. 34 「G. 管理者アカウント (sa) のユーザー ID の変更 (オプション)」を追加
P. 36 「A. e-Success データベースを構築する」の内容を更新
P. 40 「C. 旧バージョンのデータベースを現バージョンに移行する」の内容を更新
P. 48 「5. e-Success アプリケーションの接続先設定」の画像を差し替え
P. 63 「E. バックアップ先をネットワークドライブに設定 (オプション)」を追加
P. 86 「◆注意◆ タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合」を追加
P. 99 「B. 外部アプリのアップデート」を追加
P. 147 制限・注意事項一覧に「■旧バージョンのデータベースからアップグレードした場合」を追加
- 2024/02/21 改訂
P. 97 「A. e-Success をアップデートする」の画像を更新
P. 99 「B. 外部アプリのアップデート」の内容を更新
- 2024/06/27 改訂
製品のバージョンを e-Success-V6.2 に変更
P. 19 「◆ヒント◆ 既定インスタンスについて」を追加
P. 42 「◆注意◆ 事業年度開始月の変更について」を更新
P. 46 「B. e-Success を評価版から正規版へ変更する」を更新
P. 48 「C. アプリケーションが独自でプロキシ接続できるように設定 (オプション)」を追加
P. 54 「◆ヒント◆ 既定インスタンスを使用する場合」を追加
P. 77 「◆注意◆ ライセンスファイルを必ず用意してください」を更新
P. 88 「F. ライセンスファイルを更新」を更新
P. 92 「◆注意◆ タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合」を更新
P. 92 「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PAdES のみ)」を追加
P. 155 制限・注意事項一覧に「■検証結果が「△」と「×」について」
P. 155 制限・注意事項一覧に「■タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合」を更新
- 2024/09/13 改訂
P. 103 「A. メール設定ファイルの作成」の「メール送信の設定項目」を更新
P. 104 「◆注意◆ 「送信ライブラリ」について」を追加
- 2024/11/01 改訂
製品のバージョンを e-Success-V6.3 に変更
P. 90 「◆注意◆ 登録できない日付について」を追加
P. 96 「B. 自動一括取込のタスク登録」の「引数の一覧」を更新
P. 97 「◆注意◆ 明日以降の日付が記されている書類データを登録する場合」を追加
- 2025/02/03 改訂
製品のバージョンを e-Success-V6.4 に変更

- P.41 「◆注意◆ アップグレードの対象」を追加
- P.46 「B. e-Success を評価版から正規版へ変更する」の内容を更新
- P.59 「A. バックアップ保存アプリの導入と設定」の内容を更新
- P.61, 81, 100 「◆ヒント◆ エラーが起きた場合のメールの送信先」を追加
- P.63 「B. 自動バックアップをタスク登録」の内容を更新
- P.66, 119, 122 「◆注意◆ 差分バックアップと追加・更新分バックアップの違いについて」を追加
- P.85 「◆注意◆ 体験版のライセンスファイルの使用」を追加
- P.87 「◆ヒント◆ タイムスタンプ付与時のエラーコードとメッセージの確認」を追加
- P.91 「F. ライセンスファイルを更新」の内容を更新
- P.107 「A. メール設定ファイルの作成」の内容を更新
- P.108 「◆ヒント◆ 「エラーテスト送信」ボタンの使用」を追加
- P.47, 92 「◆注意◆ 「ライセンスファイルを更新」ボタンで更新できない場合」を追加
- P.118 「B. e-Success データベースを手動で差分バックアップする」の内容を更新
- P.119 「◆注意◆ 追加・更新データが非常に多い場合」を追加
- P.120 「C. e-Success データベースを手動で追加・更新分バックアップする」を追加
- P.164 「制限・注意事項一覧」に「◆注意◆ 「書類番号」のスキップの発生について」の画像を差し替え

2025/04/23 改訂

- P.23 「B. SQL Server Management Studio のインストール」の内容を更新
- P.47 「◆注意◆ 0NeSaas 版の表示について」を追加
- P.68 「◆ヒント◆ バックアップファイルの複数管理機能のログ」を追加
- P.83 「◆注意◆ タイムスタンプ付与する対象の書類と対象外の書類」を追加
- P.84 「◆注意◆ スキャン画像確認のチェックの有無」を追加
- P.125 「◆注意◆ SQL Server の再起動」を追加

2025/07/30 改訂

- P.14 「◆注意◆ 0NeSaas 版の表示について」

2025/08/13 改訂

- P.53, 60 「◆ヒント◆ タイムスタンプ付与中の表示」を追加
- P.263 「◆注意◆ DB の全データ」を更新
- P.266 「◆注意◆ 「処理種別」が「DB の全データ」の e-Success データ取り込む場合」を更新

2025/10/08 改訂

- P.92 「◆ヒント◆ タイムスタンプ付与中の表示」から「◆ヒント◆ タイムスタンプ付与処理を視覚化して表示」に変更。内容も併せて更新
- P.134 「B. 全ての書類データを物理削除する」の「シークレットキー」という記述を「処理確認コード」に変更
- P.157 「A. 指定の書類データを物理削除する」の「シークレットキー」という記述を「処理確認コード」に変更
- P.136, 158 「◆ヒント◆ 処理確認コードの確認」の内容を更新

2026/05/11 改訂

- 製品のバージョンを e-Success-V6.5 に変更
- P.7 Windows 10 のサポートが切れたため、Windows 10 に関する記述を削除
- P.41 「◆注意◆ アップグレード後の設定および初期値について」を追加
- P.57 「◆注意◆ e-Success におけるバックアップ処理時のバックアップファイルの扱いについて」を追加
- P.82 「◆注意◆ AMANO のライセンスファイル」を更新
- P.101 「引数の一覧」に「/debugcheck」を追加
- P.102 「◆ヒント◆ CSV ファイルのレイアウトについて」を追加
- P.102 「◆ヒント◆ CSV ファイルの区切りについて」を追加
- P.102 「◆ヒント◆ 項目名を必ず書いてください」を追加
- P.163 「■◆注意◆ Manifest 用 XML ファイルについて」を追加
- P.164 「◆注意◆ 連携出力された e-Success データの取り込み条件」の末尾に条件を追加
- P.167 「制限・注意事項一覧」に「■Manifest 用 XML ファイルについて」を追加

2026/07/06 改訂

P.8 「■インストールに必要な環境（サーバー）」に「SQL Sever」に「2025」を追加

P.16 「A. SQL Server をインストールする」の章を、SQL Server 2025 に対応した内容へと更新する

P.24 「B. SQL Server Management Studio のインストール」にインストールの詳細を追加

本マニュアルの使い方

本マニュアルは「導入・設定編」、「運用・保守編」の2部に分かれています。

「導入・設定編」

e-Success の導入・運用のための SQL Server のインストールから e-Success のデータベース構築、e-Success アプリケーションのインストールなどの方法が記載されています。

「運用・保守編」

操作ログの確認やデータベースのメンテナンスなど、システム管理者が e-Success を運用・保守するための内容が記載されています。

システムの環境と機能表

■インストールに必要な環境（サーバー）

e-Success データベースのインストールには、SQL Server 2019/2022/2025 がインストールされた、以下のサーバー環境が必要です。

項目	内容
SQL Server	SQL Server™ 2019/2022/2025 Express または Standard 注意：e-Success-V6-Standard は Microsoft SQL Server Express/Standard e-Success-V6-Pro は Microsoft SQL Server Standard での動作となります。 ※Windows Server 2019 のメインストリームサポートは 2024 年 1 月 9 日に終了しました。延長サポートは 2029 年 1 月 9 日に終了します。
対応 OS	Windows Server® 2019/2022/2025 (64 ビット) ※いずれも日本語版 ※Windows Server 2019 のメインストリームサポートは 2024 年 1 月 9 日に終了しました。延長サポートは 2029 年 1 月 9 日に終了します。
CPU	x64 プロセッサ 1.4GHz 以上 (x64 マルチコアプロセッサ 2.0GHz 以上を推奨) ※SQL Server Express では、最大で 1CPU 4 コアまでに制限されます。
メモリ容量	6GB 以上 (8GB 以上を推奨) ※SQL Server Express では、インスタンス毎に 1GB までに制限されています。
ハードディスク	空き容量 6GB 以上 (上記の他に、電子ファイルのデータベース保存のため、少なくとも電子ファイルの保存年数分のディスク領域が必要)
バックアップデバイス	データベースの保存量に応じた空き容量を持つバックアップデバイス (データベースのバックアップ先となる外付けディスクまたはネットワーク上の共有フォルダ)
その他	Microsoft® .NET Framework 4.8

■インストールに必要な環境（クライアント）

e-Success のインストールには、以下の環境が必要です。

項目	内容
対応 OS	Windows® 11（64ビット） 日本語版 Windows Server® 2019/2022/2025（64ビット） 日本語版 ※Windows Server 2019 のメインストリームサポートは2024年1月9日に終了しました。延長サポートは2029年1月9日に終了します。

○Windows Server 2019 の場合

項目	内容
CPU	インテル® Core™ i3 以上のプロセッサ
必要メモリ容量	2.0 GB 以上（4.0 GB 以上を推奨）
ハードディスク	空き容量1GB 以上
ディスプレイ解像度	1280×768 ドット以上
その他	Microsoft® .NET Framework 4.8 以上 Microsoft® .NET Framework 言語パック（日本語）（上記と同じバージョン） DocuWorks（電子ファイルとして DocuWorks ファイル（xdw）を使用する場合）※

○Windows 11, Windows Server 2022/2025 の場合

項目	内容
CPU	インテル® Core™ i3 以上のプロセッサ
必要メモリ容量	6.0 GB 以上（8.0 GB 以上を推奨）
ハードディスク	空き容量1GB 以上
ディスプレイ解像度	1280×768 ドット以上
その他	DocuWorks（電子ファイルとして DocuWorks ファイル（xdw）を使用する場合）※

※ DocuWorks は、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の商標または登録商標です。

※ Docuworks をブラウザ上のビューアーで表示したい場合は、「9. 自動一括取込の設定」の「A. 他システムデータの一括取込の概要」の「◆注意◆ アプリで表示可能なファイルについて」を参照してください。

■e-Success-V6.5の機能

e-Success-V6.5には、以下の機能が装備されています。

機能名	e-Success-V6.5	e-Success-V6.5 (検索用アプリケーション)	マニュアル項番	電帳法モード	e文書モード
ログイン	○	○	操作マニュアルの導入・設定編-1、書類作業編-1	○	○
拠点マスタ管理	○	○	操作マニュアルの導入・設定編-4	○	○
ユーザーマスタ管理	○	○	操作マニュアルの導入・設定編-5	○	○
書類種類マスタ管理	○	△	操作マニュアルの導入・設定編-6	○	○
年度管理マスタ管理	○	△	操作マニュアルの書類作業編-10	○	○
システムの利用開始	○	△	操作マニュアルの導入・設定編-7	○	○
パスワード変更	○	○	操作マニュアルの書類作業編-2	○	○
電子証明書情報表示・設定	○	×	操作マニュアルの書類作業編-2	×	○
電子ファイル一括チェック	○	×	操作マニュアルの書類作業編-4	○	○
書類入力・確認	○	×	操作マニュアルの書類作業編-5	○	○
入力履歴	○	×	操作マニュアルの書類作業編-5	○	○
取引先／その他マスタ管理	○	△	操作マニュアルの書類作業編-6	○	○
タイムスタンプ延長処理	○	×	操作マニュアルの書類作業編-7	○	○
書類検索・検証	○	○	操作マニュアルの書類作業編-8	○	○
書類表示	○	○	操作マニュアルの書類作業編-8	○	○
書類データの仮取込・仮取込データ呼出	○	×	操作マニュアルのデータ連携編-1	○	○
他システムデータの一括取込	○	×	操作マニュアルのデータ連携編-2	○	○
検索用項目の一括更新	○	×	操作マニュアルのデータ連携編-3	○	○
書類データの先行取込	○	×	操作マニュアルのデータ連携編-4	○	○
電子ファイルの取込	○	×	操作マニュアルのデータ連携編-5	○	○
自動タイムスタンプ付与処理	○	×	導入・設定編-8	○	×
自動タイムスタンプ付与ログの参照	○	×	導入・設定編-8	○	×
サーバーサイド一括処理ログの参照	○	×	導入・設定編-9	○	○
操作ログ一覧	○	○	操作マニュアルの運用・保守編-1	○	○
タイムスタンプ付与回数集計	○	×	操作マニュアルの運用・保守編-2	○	○
お問い合わせ	○	○	操作マニュアルの運用・保守編-3	○	○
データベースメンテナンス	○	○	運用・保守編-3	○	○
書類情報の全出力	○	○	運用・保守編-4	○	○
URL 情報出力	○	○	Web サービス導入・操作マニュアルの書類作業編-3	○	○
ログイン禁止設定	○	○	運用・保守編-1	○	○
e-Success データの連携出力	○	×	運用・保守編-5	○	○
e-Success データの連携取込	×	○	運用・保守編-5	○	○

※検索専用アプリケーションの△（書類種類マスタ管理、システムの利用開始、取引先／その他マスタ管理）については、機能は利用できますが、運用上操作する必要はありません。

■電帳法モードとe-文書モード

e-Success-V6.5では、電帳法モードとe-文書モードの2つのモードを利用できます。2つのモードは、初期導入作業（データベース構築作業）で選択し、導入後の変更はできません。

電帳法モードは、紙の請求書などをスキャンした PDF ファイルなどや電子取引したデータが対象になります。このモードでは、サーバー等で任意のタイミングにより自動的にタイムスタンプを付与します。

e-文書モードは、建築図面や知財系電子文書などが対象になります。このモードでは、ユーザーごとの電子証明書を使用して、書類データの登録時にタイムスタンプを自動的に付与します。

電帳法モードとe-文書モードの2つのモードの相違点は、以下のようになります。

機能	電帳法モード	e-文書モード
利用するタイムスタンプの種類	PAdES（ドキュメントタイムスタンプ）または XAdES	PAdES 長期署名（電子署名+署名タイムスタンプ+アーカイブタイムスタンプ）
タイムスタンプ処理	サーバー上のタスクによる自動実行	e-Success アプリケーションで書類データの登録と同時にタイムスタンプを付与
タイムスタンプの処理設定	タスク実行用アプリケーションで設定	e-Success アプリケーションで設定
電子証明書	サーバー上に登録（XAdES の場合のみ）	e-Success アプリケーションでユーザー別に管理
電子証明書の期限アラート	自動タイムスタンプ処理の処理ログで確認	メインメニューの警告アイコンおよび電子証明書情報で確認

◆ヒント◆ 2つのモードを使用したいとき

電帳法モードとe-文書モードの2つのモードを両方使用したい場合は、SQL Server のインスタンスを、それぞれのモード用に分けて導入してください。

※この場合、追加費用が発生しますので、購入元にご確認ください。

◆参照◆ e-文書モード

e-文書モードでの電子証明書の設定については、e-Success 操作説明書の、書類作業編「2. メインメニューと機能」の「D. 電子証明書情報の表示と設定（e-文書モード）」を参照してください。

製品の種類とその違いについて

e-Success は、企業規模に合わせて3つのエディションを用意しています。

エディション名	Lite	Standard	Pro
お客様規模	中小企業	中小中堅企業	中堅大企業
価格帯	50万円/1台インストール ライセンス	200万円	300万円～580万円 () 内の表記
最大同時接続	1	3	同時接続/インストール台数/Web 検索同時/タイムスタンプ数/イ ンスタンス数 SW (10-id/50台/10-id/ 3,000/1) 300万円 MW (50-id/100台/50-id/ 5,000/1) 380万円 LW (100-id/200台/100-id/ 8,000/2) 480万円 EP (無制限-id/無制限台/無制 限-id/10,000/3) 580万円
最大インストール 台数	2 (追加 50 万円)	5	
Web 検索数	—	5	
SqlServer タイプ	Express	Express	Standard
クライアント PC 用インストーラー	有り	有り	有り
データのバックア ップ方法	e-Success の「データベース メンテナンス」画面で実施	SQL Server を導入している マシン上で、外部アプリを使 用して実施。	SQL Server を導入しているマシ ン上で、外部アプリを使用して実 施。
注意事項など	Windows11 以上の PC をご準 備ください。 別用途の DB がインストール されていないものをご準備 ください。 バックアップ用に外付けハ ードディスクをご準備くだ さい。 インターネット接続可能な ネットワーク環境に接続し てください。	Windows Server 2019 (64bit) 日本語版以上の OS をご準備く ださい。 バックアップ用に外付けハードディスクをご準備ください。 e-Success Standard/Pro の導入には、以下の作業が必要です。 1 SQLServer のインストール 2 e-Success データベースの構築 3 e-Success アプリケーションのインストール 4 e-Success アプリケーションの接続設定 5 e-Success データベースのバックアップ設定 詳細は「e-Success 運用・導入マニュアル」をご覧ください。 また、e-Success の Web サービスをご利用の場合は「Web サービス用の 運用・導入マニュアル」をご覧ください。	

◆注意◆ 上記情報は、このマニュアルの発行時点情報です。

e-Success の各エディションの最新情報は、<https://www.antenna.co.jp/e-success/> より必ずご確認ください。

◆導入・設定編◆

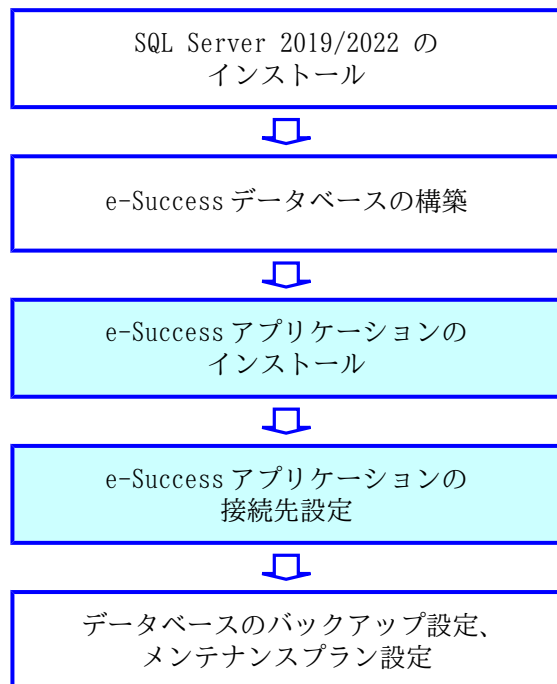
SQL Server のインストールから、e-Success のデータベース構築、e-Success アプリケーションのインストールなどの手順を説明します。

1. e-Success 導入処理の流れ

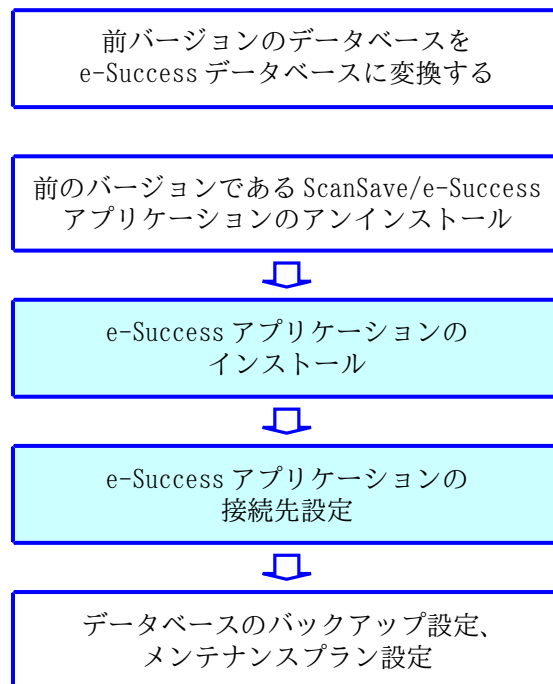
A. e-Success 導入の処理の流れ

]e-Success の導入は、以下の手順で実行します。

【新規インストールの場合】



【アップグレードの場合】



※網掛けのブロックは、クライアントでの作業です。

B. 各種インストール・ツールの導入

e-Success のセットアップフォルダには、e-Success アプリケーションのインストールプログラムと、e-Success の導入・運用に必要な各種ツール等が入っています。セットアップフォルダ内の構成は、下記の表のようになります。

■セットアップフォルダの構成

フォルダ名	導入先	導入手順など
e-SuccessWeb サービス	サーバー	Web サーバー (IIS) をインストール後、C:\inetpub フォルダに、フォルダ内容をコピーします。 詳細は「Web サービス導入・操作マニュアル」を参照
LICENSE	クライアント	e-Success アプリケーションをインストール後、フォルダ内にあるライセンスファイルを、e-Success アプリケーションのインストール先にある license フォルダ内に上書きします。 詳細は「B. e-Success を評価版から正規版へ変更する」を参照
MANUAL	サーバー/クライアントの両方	e-Success の導入マニュアル (本書) と、e-Success アプリケーションの操作マニュアルが入っています。どちらも PDF ファイルです。任意のフォルダにコピーして必要なときに参照できるようにしておいてください。
SAMPLE	クライアント	e-Success アプリケーションで、書類作業のテストをするためのファイルです。利用時にフォルダごと任意の場所にコピーしてください。
SETUP	クライアント	e-Success アプリケーションのインストールプログラム (e-Success_Setup.exe) が入っています。 e-Success アプリケーションのインストールについては「A. e-Success アプリケーションをインストールする」を参照
データベースメンテナンス	サーバー	データベースメンテナンスツール (e-SuccessDBMaintenanceApp.exe) が入っています。データベースメンテナンスツールは、フォルダ内容すべてを任意の場所にコピーして実行します。 詳細は「7. バックアップをタスクスケジューラで実行」の「A. データベースメンテナンスツールの導入と設定 ID Not Found: i02-0021f1.xhtml#e.i02-0021f1.A_2e_20 データベースメンテナンスツールの導入と設定」を参照
データベース構築	サーバーもしくはクライアント	e-SuccessDB 構築ツール (e-SuccessDB_Create.exe) が入っています。e-SuccessDB 構築ツールはセットアップフォルダから直接実行できますし、フォルダ内容すべてを任意の場所にコピーしての実行もできます。 詳細は「3. e-Success データベースの構築」を参照
メール設定ファイル保存	サーバー	メール設定ファイル作成ツール (e-Success_MailSetting.exe) が入っています。メール設定ファイル作成ツールは、フォルダ内容すべてを任意の場所にコピーして実行します。 詳細は「10. メール設定ファイルの保存」を参照
自動タイムスタンプ付与	サーバー	タイムスタンプ処理設定ツール (e-SuccessTimestamp.exe) が入っています。タイムスタンプ処理設定ツールは、フォルダ内容すべてを任意の場所にコピーして実行します。 詳細は「8. 自動タイムスタンプ付与の設定」を参照
自動一括取込	サーバー	自動一括取込プログラム (e-SuccessBulkImport.exe) が入っています。自動一括取込プログラムはフォルダ内容すべてを任意の場所にコピーしておき、タスクスケジューラに登録して実行します。 詳細は「9. 自動一括取込の設定」を参照

2. SQL Server のインストール

◆注意◆ SQL Server のインストール

SQL Server をインストールするにあたっては、本マニュアルの内容や SQL Server 2019 または 2022、2025 のインストールマニュアルなどをよくお読みの上、操作してください。

◆注意◆ SQL Server 2022 以前のバージョンを使用する

このマニュアルでは SQL Server 2025 を使用しています。SQL Server 2022 以前のバージョンを使用する場合は、「SQL Server 2025」と書かれている箇所を使用するバージョンに読み換えて操作してください。また、画面の表示など異なる部分については、適宜該当する操作を行ってください。

◆注意◆ インストールの前に

SQL Server のインストール作業は、管理者権限を持つユーザーでコンピュータにログインして実行してください。また、動作している他のアプリケーションソフト（ウイルス対策ソフトや統合セキュリティソフトを含む）を終了させてから、インストール作業を行ってください。

◆注意◆ SQL Server Express での利用

e-Success-V6.5 Standard は、SQL Server Express で利用することもできます。

SQL Server Express を使用した場合の導入方法は基本的に SQL Server Standard と同様ですが、以下の点にご注意ください。

- ・SQL Server エージェントが使用できません。そのため、メンテナンスプランで夜間の自動バックアップ等は実行できません。

- ・リモートでの接続ができるように設定変更が必要です。

これらについては、e-Success のサポート対象外となりますので、ご留意頂いた上でご利用ください。

A. SQL Server をインストールする

◆注意◆ SQL Server 2022 以前のバージョンを使用する

このマニュアルでは SQL Server 2025 を使用しています。SQL Server 2022 以前のバージョンを使用する場合は、「SQL Server 2025」と書かれている箇所を使用するバージョンに読み換えて操作してください。また、画面の表示など異なる部分については、適宜該当する操作を行ってください。

次の手順で、SQL Server をインストールします。

① SQL Server のインストールメディア、インストーラーをセットします。

② インストーラーより [SETUP]（拡張子が表示されているコンピュータの場合は [setup.exe]）をダブルクリックします。なお、DVD-ROM の自動実行で SQL Server インストールセンターが起動した場合は、この手順は不要です。

③ SQL Server インストールセンターが起動したら、次の画面が表示されます。左側の「インストール」をクリックし⁽⁻¹⁾、右側上の「SQL Server の新規スタンドアロンインストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加」をクリックしてください⁽⁻²⁾。



④ SQL Server 2025 セットアップが起動して、「プロダクトキー」ページが表示されます。[プロダクトキーを入力する]を選択して、購入済みのプロダクトキーを入力し⁽⁻¹⁾、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

※SQL server Express をインストールする場合④はありません。⑤に進んでください。

エディション	
インストールする SQL Server 2025のエディションを選択します。	
エディション ライセンス条項 グローバル ルール 製品の更新プログラム セットアップ File のインストール インストール ルール SQL Server 用 Azure 拡張機能 機能の選択 機能ルール 機能構成ルール インストールの準備完了 インストールの進行状況 完了	インストールする SQL Server のエディションを選択します。プロダクト キーを入力して購入済みの SQL Server ライセンスを使用するか、Microsoft Azure で従量課金制の課金を選択できます。SQL Server の無料版 (Enterprise Developer, Standard Developer, Evaluation, または Express) を指定することもできます。SQL Server オンライン プラットフォームに記載されているように、Evaluation には SQL Server の最大の機能セットがあり、180 日の有効期限内でアクティブ化されます。Enterprise Developer エディションには有効期限がなく、Enterprise と同じ機能セットがありますが、非運用データベース アプリケーションの開発のみにライセンスされています。Standard Developer エディションには有効期限がなく、Standard と同じ機能セットがありますが、非運用データベースアプリケーションの開発のみにライセンスされています。インストールされているエディションを別のエディションにアップグレードするには、エディション アップグレード ウィザードを実行します。 ☐ 無償のエディションを指定する(S): Evaluation ☐ Microsoft Azure を通じて従量課金制の課金を使用します(\$U): 警告: このオプションを有効にするには、後でリソース グループ、Azure リージョン、テナント ID と共に提供する必要があります。アクティブな Azure サブスクリプションが必要です。詳細については、https://aka.ms/ArcEnabledSqlPAYG を参照してください。 Standard ④-1 ☒ プロダクト キーを入力する(E): - - - - ☐ ソフトウェア アシュアランスまたは SQL ソフトウェア サブスクリプション付きの SQL Server ライセンスを持っている (A) ☒ SQL Server ライセンスのみを持っている(L) ④-2 < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

⑤ 「ライセンス条項」ページでは、購入したライセンスのライセンス条項が表示されます。内容を確認して、「ライセンス条項に同意します。」をオンにし⁽⁻¹⁾、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

ライセンス条項	
SQL Server 2025 をインストールするには、マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項に同意する必要があります。	
エディション ライセンス条項 グローバル ルール 製品の更新プログラム セットアップ File のインストール インストール ルール SQL Server 用 Azure 拡張機能 機能の選択 機能ルール 機能構成ルール インストールの準備完了 インストールの進行状況 完了	SQL Server 2025 Evaluation Edition お客様は本ライセンス条項に同意される必要があります。下記をご参照ください。本ライセンス条項の全文 (aka.ms/useterms) をご確認ください。 データ収集。本ソフトウェアは、お客様およびお客様による本ソフトウェアの使用に関する情報を収集し、その情報をマイクロソフトに送信することがあります。マイクロソフトは、サービスの提供ならびにマイクロソフトの製品およびサービスの向上を目的に、この情報を使用できます。お客様はこの収集を停止する権利がある場合は、製品付属の文書に記載されています。本ソフトウェアの特定の機能を使用すると、本ソフトウェアにアクセスする、または本ソフトウェアを使用するお客様のアプリケーションのユーザーからデータを収集できる場合があります。お客様は、この機能を使用してお客様のアプリケーションでデータ収集を行う場合、ユーザーから必要な同意を得る、データの使用、収集、および共有方法についてユーザーに正確に知らせるプライバシー ポリシーを目につきやすい形で維持するなど、適用される法令を遵守しなければなりません。マイクロソフトによるデータの収集および使用の詳細については、製品付属の文書およびマイクロソフトのプライバシーに関する声明 (https://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=521839) をご参照ください。お客様は、マ コピー(C) 印刷(P) ⑤-1 ☒ ライセンス条項と次に同意します(A): プライバシーに関する声明 SQL Server は、インストール エクスペリエンスに関する情報と、その他の使用状況とパフォーマンスのデータを送信します。Azure Arc 接続では、Azure Portal とサービスを使用して SQL Server インスタンスを管理および保護できるように、構成データも送信されます。データ処理とプライバシー管理の詳細を確認し、特定の情報の収集を無効にするには、ドキュメントを参照してください。 ⑤-2 < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

⑥ セットアップファイルのインストールが実行されます。インターネットに接続していれば、更新プログラムのスキャンが実行され、更新プログラムがあれば適用されます。

セットアップ File のインストール

SQL Server セットアップの更新プログラムが検出され、インストール対象として指定した場合は、更新プログラムもインストールされます。

エディション

ライセンス条項

グローバル ルール

製品の更新プログラム

セットアップ File のインストール

インストール ルール

SQL Server 用 Azure 拡張機能

機能の選択

機能ルール

機能構成ルール

インストールの準備完了

インストールの進行状況

完了

タスク	ステータス
製品の更新プログラムのスキャン	完了
セットアップ ファイルのダウンロード	スキップ
セットアップ ファイルの抽出	スキップ
セットアップ ファイルのインストール	開始されていません

⑦ セットアップファイルのインストールが完了すると、「インストールルール」ページが表示されます。一覧に表示された内容⁽⁻¹⁾に問題がなければ、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

インストール ルール

セットアップのルールでは、セットアップの実行中に発生する可能性がある問題を特定します。セットアップを続行する前に、エラーを修正しておく必要があります。

エディション

ライセンス条項

グローバル ルール

製品の更新プログラム

セットアップ File のインストール

インストール ルール

SQL Server 用 Azure 拡張機能

機能の選択

機能ルール

機能構成ルール

インストールの準備完了

インストールの進行状況

完了

操作が完了しました。成功 4、失敗 0、警告 1、スキップ 0。

詳細の非表示(S) << 再実行(R)

[詳細レポートの表示\(V\)](#)

結果	ルール	状態
✓	Machine Learning Server の共有機能サポート	合格
✓	SQL Server レジストリ キーの整合性の検証	合格
✓	コンピューター ドメイン コントローラー	合格
⚠	Windows ファイアウォール	警告
✓	Microsoft .NET Framework 4.7.2 以降が必要です	合格

< 戻る(B)

次へ(N) >

キャンセル

⑧ SQL Server 2022, 2025 の新規インスタンスの構築する際、SQL Server 用 Azure 拡張機能を追加について問われます。

e-Success では、SQL Server 用 Azure 拡張機能を使用した機能は備わっておりませんので、「SQL Server 用 Azure 拡張機能」のチェックを外し、「次へ」をクリックしてください。

※本操作は、SQL Server 2022 以降のバージョンのみとなります。

⑨ 次に、「機能の選択」ページが表示されます。「機能の選択」ページでは、以下のチェックボックスをオンにしてください⁽⁻¹⁾。他のチェックボックスについては、必要に応じて設定してください。設定後、[次へ] ボタンをクリックしてください⁽⁻²⁾。

- ・データベースエンジンサービス
- ・クライアントツール接続 [SQL Server 2017 以前のインストールする時のみ]

⑩ 次に「インスタンスの構成」ページが表示されます。「インスタンスの構成」ページでは、[名前付きインスタンス] を選択し、[名前付きインスタンス] の入力欄に **esuccess** と入力してください⁽⁻¹⁾。[インスタンス ID] 欄の値が「**ESUCCESS**」になっていることを確認して⁽⁻¹⁾、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

◆ヒント◆ インスタンス名

インスタンス名は任意で構いませんが、判別が付きやすいように、esuccess としてください。

◆ヒント◆ 既定インスタンスについて

既定インスタンスでもインストールは可能です。ただし、その後の接続先設定ファイルを作成する際の接続先の指定が、IP アドレスもしくはデバイス名指定となります。詳細は、「5. e-Success アプリケーションの接続先設定」を確認してください。

⑪ 次に「サーバーの構成」ページが表示されます。「サーバーの構成」ページで、「SQL Server エージェント (SQL Server Express では利用できません)」、「SQL Server データベースエンジン」、「SQL Server Browser」のスタートアップの種類を「自動」にします⁽⁻¹⁾。設定を変更したら、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

⑫ 次に「データベースエンジンの構成」ページが表示されます。「データベースエンジンの構成」ページで、認証モードを「混合モード (M) (SQL Server 認証と Windows 認証)」にして⁽⁻¹⁾、「パスワードの入力」ボックスと「パスワードの確認入力」ボックスに **SCS%Antenna** と入力します⁽⁻²⁾。

次に、「SQL Server 管理者の指定」で「現在のユーザーの追加」ボタンをクリックしてください⁽⁻³⁾。一覧に現在の管理者ユーザーが登録されたことを確認して、「FILESTREAM」タブをクリックします⁽⁻⁴⁾。

データベース エンジンの構成

データベース エンジンの認証セキュリティモード、管理者、データ ディレクトリ、TempDB、並列処理の最大限度、メモリの制限、Filestream の設定を指定します。

エディション
ライセンス条項
グローバルルール
製品の更新プログラム
セットアップ File のインストール
インストール ルール
SQL Server 用 Azure 拡張機能
機能の選択
機能ルール
インスタンスの構成
サーバーの構成
データベースエンジンの構成
機能構成ルール
インストールの準備完了
インストールの進行状況
完了

サーバーの構成 データディレクトリ TempDB MaxDOP メモリ **FILESTREAM** ⑫-4

データベース エンジンの認証モードおよび管理者を指定します。

認証モード
☐ Windows 認証モード(W)
☒ 混合モード (SQL Server 認証と Windows 認証)(M) ⑫-2

SQL Server のシステム管理者 (sa) アカウントのパスワードを指定します。

パスワードの入力(E): ●●●●●●●●
 パスワードの確認入力(E): ●●●●●●●●

SQL Server 管理者の指定

LAPTOP-DMFNKIB8YSAKAI (SAKAI)
 SQL Server の管理者には、データベースエンジンに対する無制限のアクセス権があります。

⑫-3

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

◆注意◆ 管理者パスワード

パスワードは任意で構いませんが、別のパスワードを設定した場合は、忘れることのないように必ずメモ等に残してください。

⑬ [FILESTREAM] タブの画面で、「Transact-SQL アクセスに対して FILESTREAM を有効にする」のチェックボックスと「ファイル I/O アクセスに対して FILE STREAM を有効にする」のチェックボックスをオンにして⁽⁻¹⁾、「Windows 共有名」を入力します⁽⁻²⁾。ここで入力する Windows 共有名は、ファイルテーブルを Windows エクスプローラなどで参照するときに利用される名称となります。任意の名前が指定できますが、判別しやすいインスタンス名（当マニュアルの手順では **ESUCCESS**）にしておくことをお勧めします。

データベース エンジンの構成

データベース エンジンの認証セキュリティモード、管理者、データ ディレクトリ、TempDB、並列処理の最大限度、メモリの制限、Filestream の設定を指定します。

エディション
ライセンス条項
グローバルルール
製品の更新プログラム
セットアップ File のインストール
インストール ルール
SQL Server 用 Azure 拡張機能
機能の選択
機能ルール
インスタンスの構成
サーバーの構成
データベースエンジンの構成
機能構成ルール
インストールの準備完了
インストールの進行状況
完了

サーバーの構成 データディレクトリ TempDB MaxDOP メモリ FILESTREAM

☒ Transact-SQL アクセスに対して FILESTREAM を有効にする(E) ⑬-1
☒ ファイル I/O アクセスに対して FILE STREAM を有効にする(E)

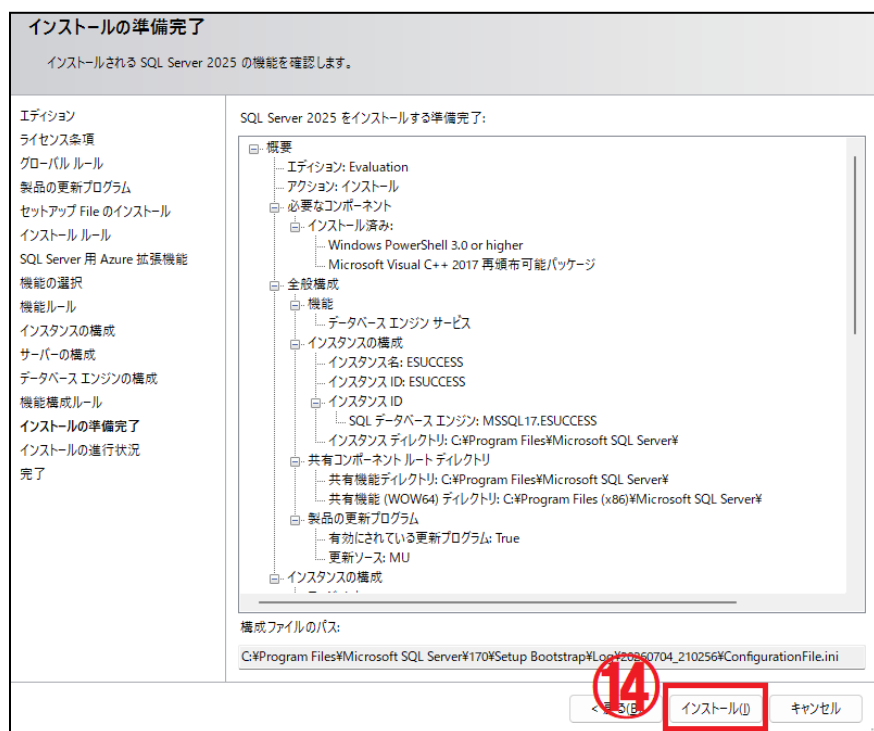
Windows 共有名(W): ESUCCESS ⑬-2

☐ リモート クライアントに FILESTREAM データへのアクセスを許可する(R)

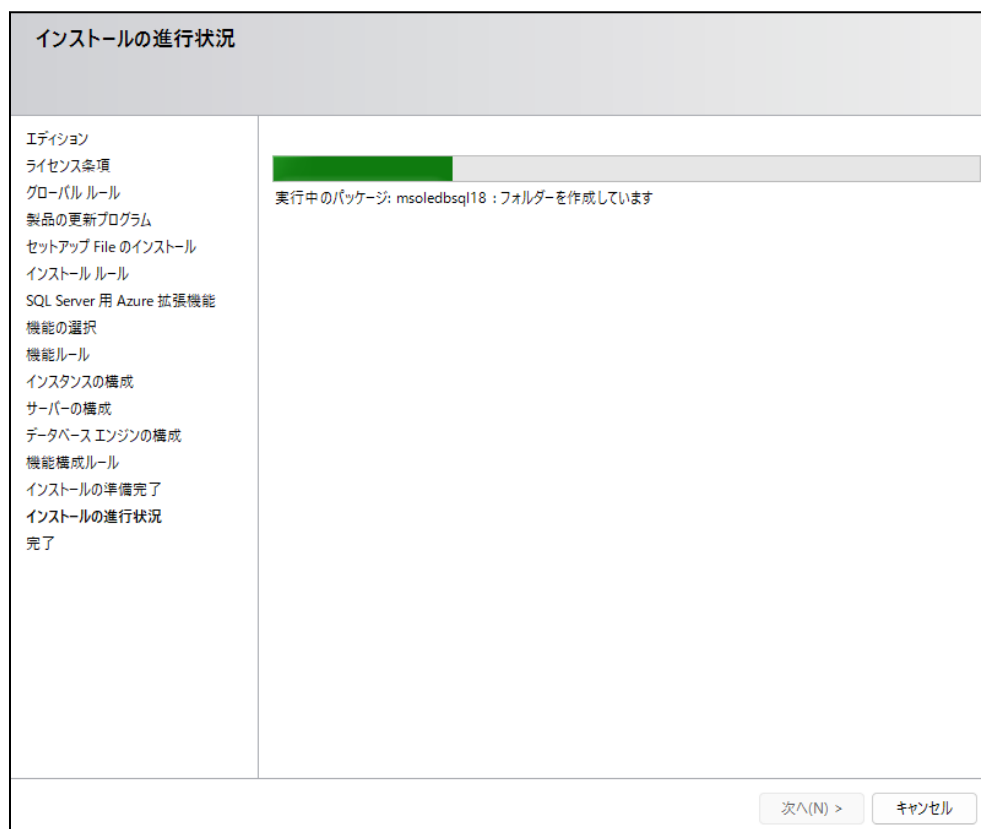
⑬-3

入力を終わったら、「次へ」をクリックします⁽⁻³⁾。

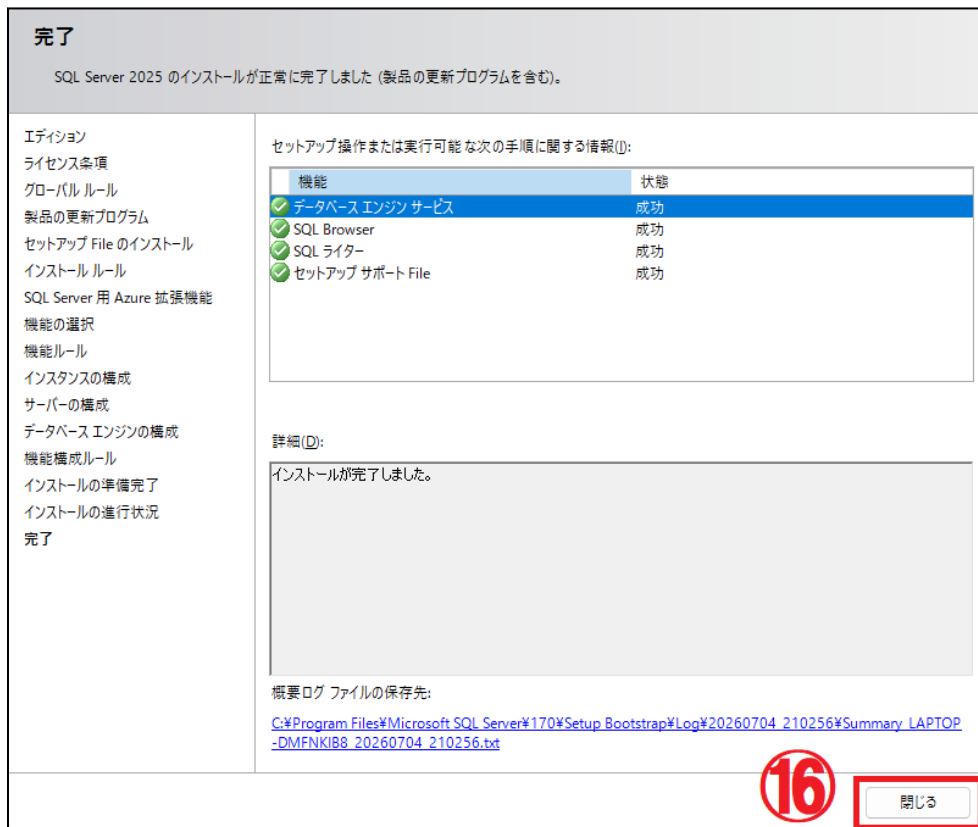
- ⑭ 「インストールの準備完了」画面が表示されますので、「インストール」ボタンをクリックしてインストールを開始してください。



- ⑮ 「インストールの進行状況」が表示されるので、完了までお待ちください。



⑩ インストールが完了すると「完了」ページが表示されるので、[閉じる] ボタンをクリックしてください。



⑪ [閉じる] ボタンをクリックすると、SQL Server インストールセンターのウィンドウが閉じます。

以上で、インストール作業は完了です。

B. SQL Server Management Studio のインストール

SQL Server の管理ツールである「SQL Server Management Studio」をインストールします。

「SQL Server Management Studio」は、e-Successでは閲覧できないデータを確認するために使用します。使用目的の例としては、e-Success のユーザー情報や書類の情報等で異常値を検出してトラブルが起きた際に使用します。

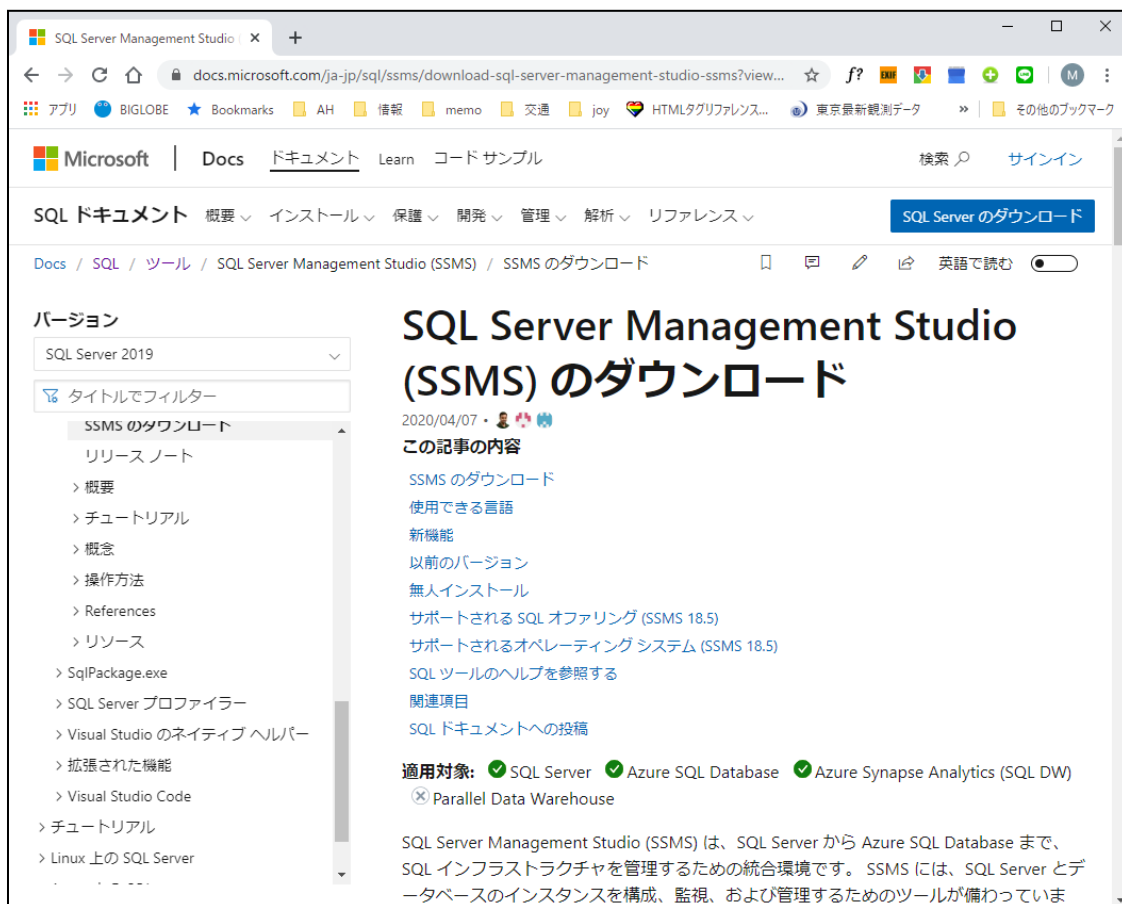
「SQL Server Management Studio」は、Microsoft のダウンロードページから入手して、インストーラーを起動してください。

○「SQL Server Management Studio」のダウンロードページ

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/ssms/download-sql-server-management-studio-ssms>

日本語版のダウンロード url (直接ダウンロードできます)

<https://aka.ms/ssmsfullsetup?clid=0x411>

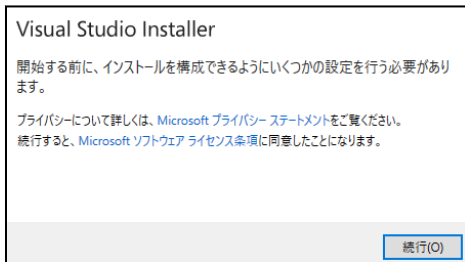


○インストール方法「SQL Server Management Studio」のダウンロードページ

① SQL Server Management Studio のインストーラー「vs_SSMS.exe」を起動します。



② [続行] をクリックして、次の画面に進みます。

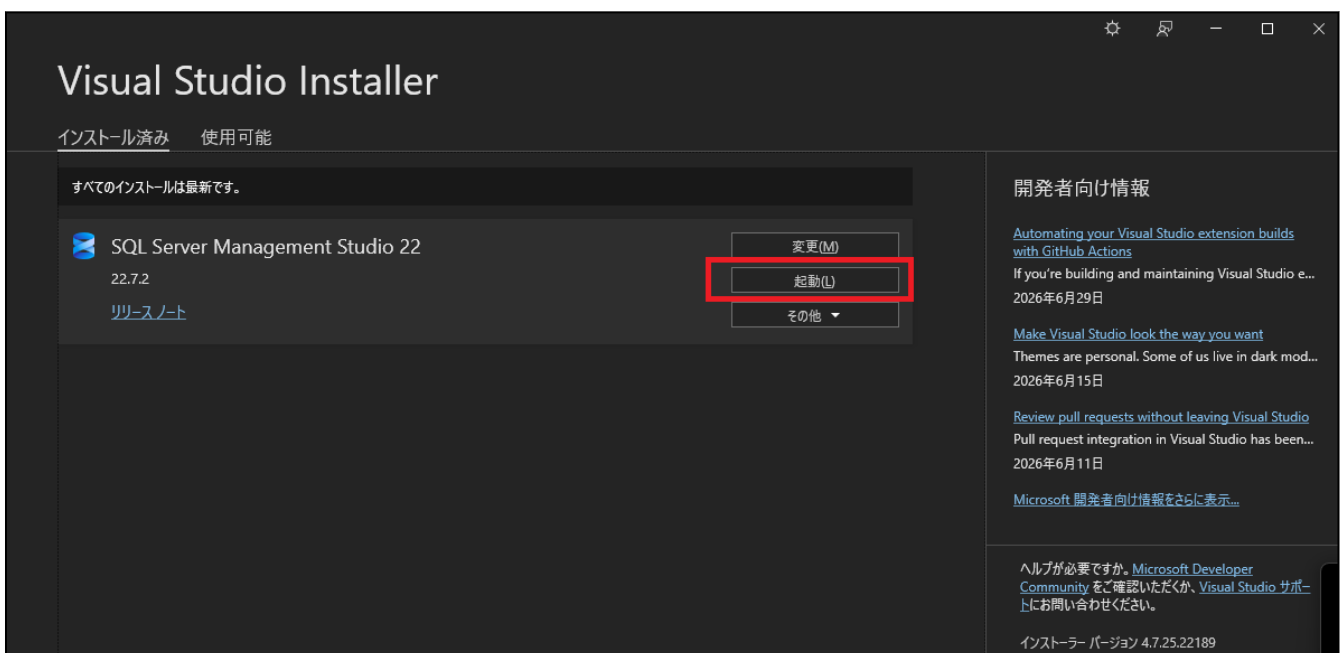


③ インストーラーのウィンドウが起動したら「言語パック」タブをクリックして、インストールする言語のバージョンを選択します。ここでは「日本語」を選択します。

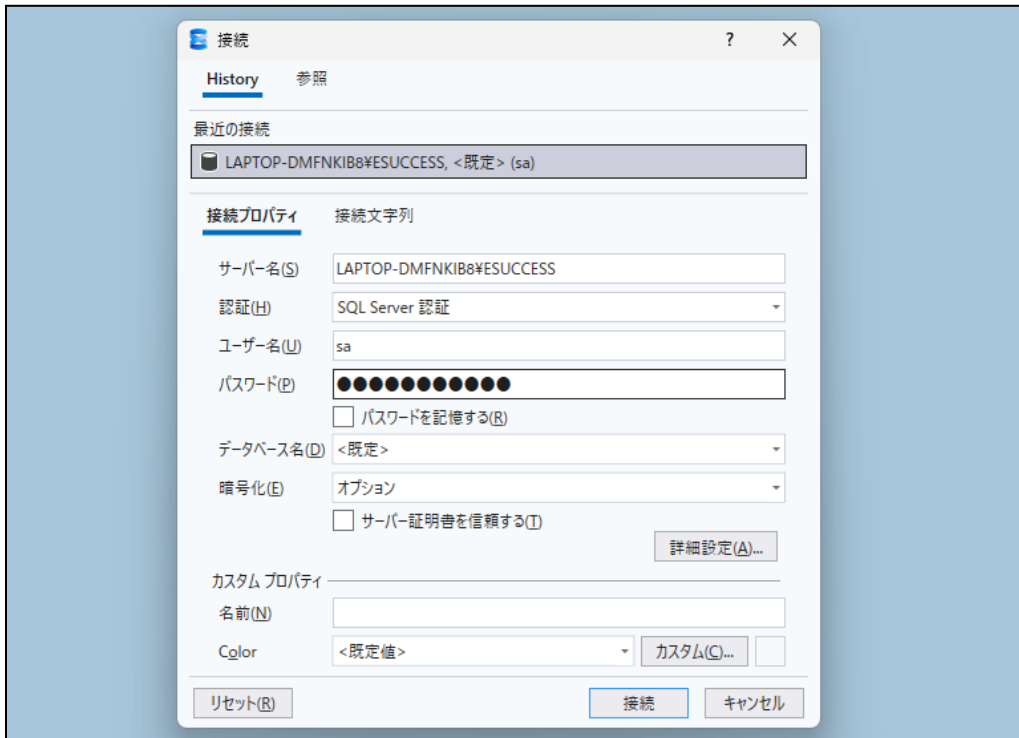
その後、「インストール」ボタンをクリックして、インストールを開始します。



④ インストール完了後、「起動」ボタンをクリックして、「SQL Server Management Studio」を起動します。



⑤ SQL Server Management Studio を起動後、ログインウィンドウが表示されたら、全てのインストールが完了となります。



C. SQL Server のサービス状態を確認する

◆注意◆ SQL Server 2022 以前のバージョンを使用する

このマニュアルでは SQL Server 2025 を使用しています。SQL Server 2022 以前のバージョンを使用する場合は、「SQL Server 2025」と書かれている箇所を使用するバージョンに読み換えて操作してください。また、画面の表示など異なる部分については、適宜該当する操作を行ってください。

SQL Server の実行（サービスの稼働状況）の確認は、次の手順で行います。

①Windows の [スタートメニュー] または [アプリビュー] から [Microsoft SQL Server 2019] グループの [SQL Server 構成マネージャー] を起動します。

◆ヒント◆ SQL Server 構成マネージャー

SQL Server 構成マネージャー (SQL Server Configuration Manager) は、SQL Server のサービスの実行状態の確認や、ネットワーク、プロトコルの設定などを行うツールです。

◆ヒント◆ SQL Server 構成マネージャーが見つからない場合

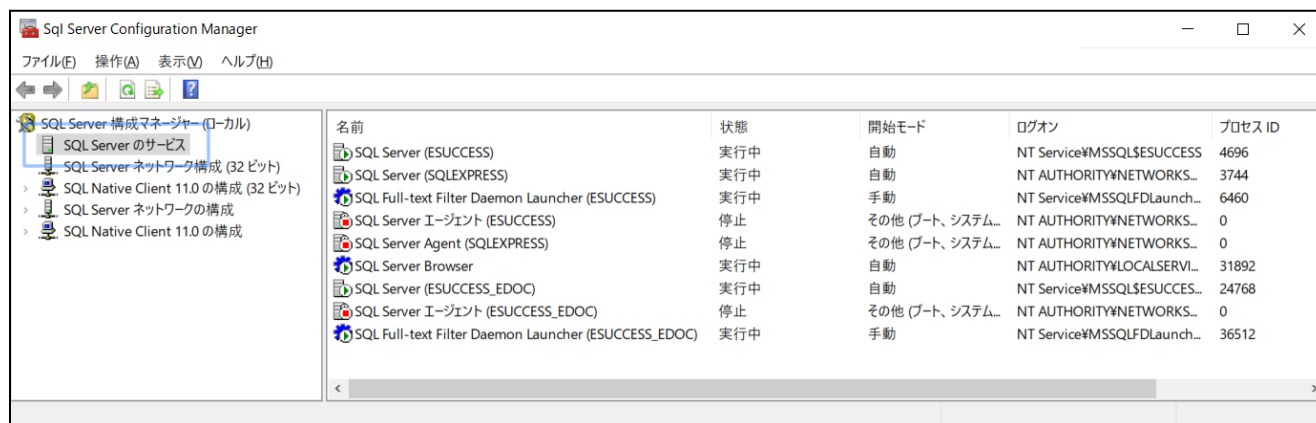
Windows の [スタートメニュー] または [アプリビュー] で [SQL Server 構成マネージャー] が見つからない場合は、[ファイル名を指定して実行] ([Windows キー]+[R] で呼び出せます) で「SQLServerManager17.msc」と入力して [OK] ボタンをクリックします。

ファイル名は SQL Server のバージョンにより異なります。

SQL Server 2025	SQLServerManager17.msc
SQL Server 2022	SQLServerManager16.msc
SQL Server 2019	SQLServerManager15.msc

②左側のペインで [SQL Server のサービス] をクリックします。

右側のペインに、インストールされている SQL Server のサービスが一覧表示されます。このとき、一覧に含まれる内容やインスタンス名は、インストール時の設定により異なります。サービス名にインスタンス名が付記されるので、複数のインスタンスをインストールしている場合、どのインスタンスのものか判別できます。



③対象の SQL Server のインスタンスについて、[SQL Server (インスタンス名)] 行の [状態] 列が「実行中」になっていることを確認してください。状態が「実行中」以外の場合は、その行をクリックするとツールバーに表示される [サービスの開始] ボタン () をクリックしてください。



④SQL Server のメンテナンスプランを使用して、バックアップ等の処理を実行する場合は、SQL Server エージェントが実行されている必要があります。[SQL Server エージェント (インスタンス名)] 行の [状態] 列が「実行中」になっていない場合は、③と同様に、その行をクリックして、ツールバーで [サービスの開始] ボタン () をクリックしてください。

D. ファイアウォールを設定する

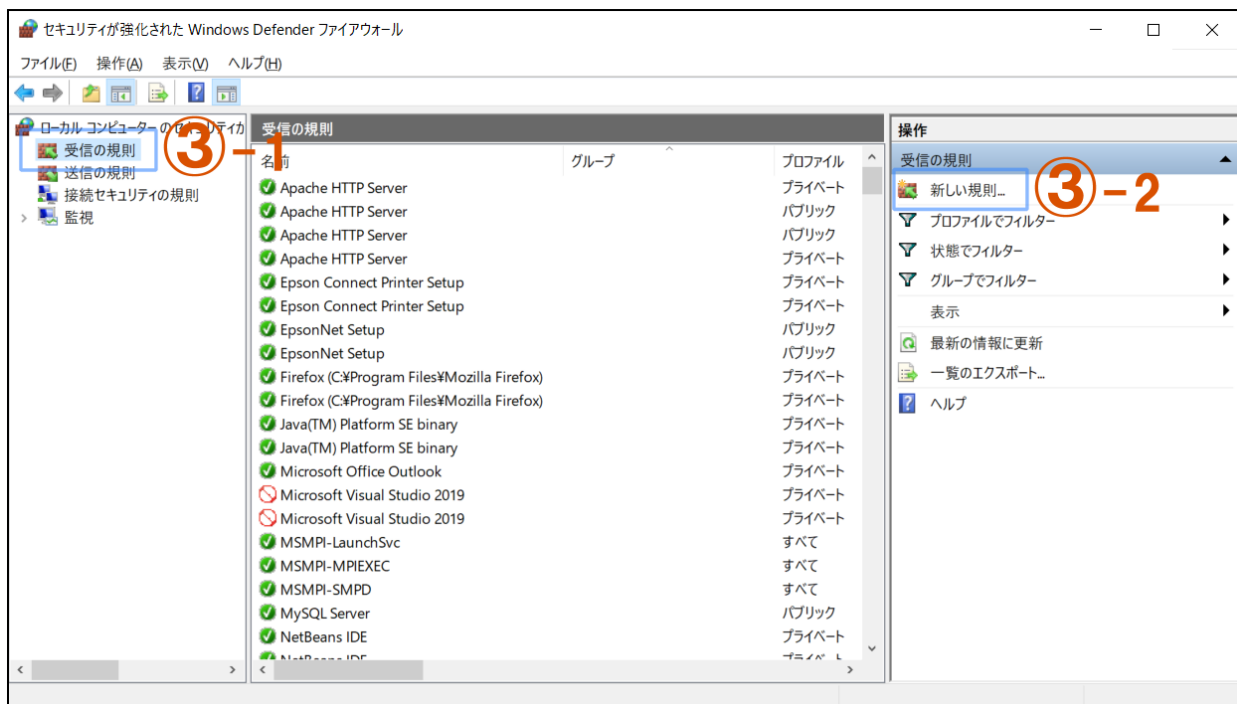
Windows ファイアウォールを実行している場合は、SQL Server の通信を許可する必要があります。ここでは、動的な TCP ポートを許可するための設定（SQL Server のプログラム自体の通信を許可する）と、UDP 1434 ポートを許可するための設定を行います。以下の手順で設定してください。

① コントロールパネルから Windows ファイアウォールの設定画面を開きます。

② 「詳細設定」をクリックします。



③ 「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」画面が表示されたら、[受信の規則] をクリックしてから⁽⁻¹⁾、右側のペインで [新しい規則] をクリックします⁽⁻²⁾。



④「新規の受信の規則ウィザード」画面が表示されたら、[プログラム] を選択して⁽⁻¹⁾、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。



⑤ 表示が「プログラム」に変わったら、「このプログラムのパス」の [参照] ボタンをクリックして、以下のプログラムを指定します⁽⁻¹⁾ (パスは、SQL Server のバージョンやインストール時の設定、インスタンス名によって異なります)。

%ProgramFiles%\Microsoft SQL Server\MSSQL15.ESUCCESS\MSSQL\Binn\sqlservr.exe

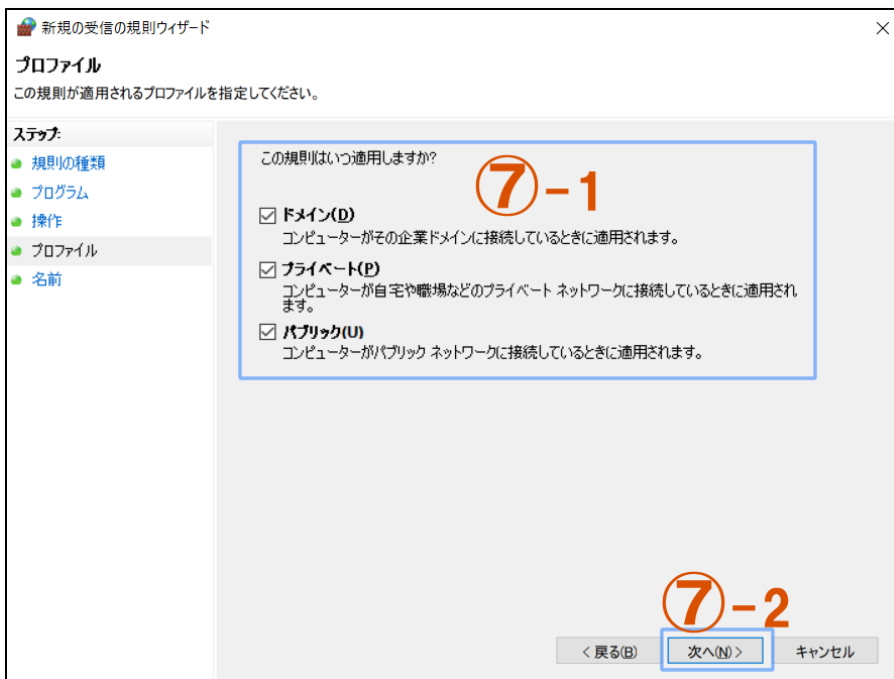
プログラムのパスを指定したら、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。



⑥ 表示が「操作」に変わったら、「接続を許可する」を選択して⁽⁻¹⁾、「次へ」ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。



⑦ 表示が「プロファイル」に変わったら、規則を適用するプロファイルを指定して⁽⁻¹⁾、「次へ」ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。



⑧ 表示が「名前」に変わったら、[名前]の入力欄に「SQL Server」と入力して、[完了] ボタンをクリックすると「新規の受信の規則ウィザード」画面が閉じます。「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」ウィンドウに戻って、「受信の規則」の一覧に「SQL Server」の規則が追加されていることを確認してください。

新規の受信の規則ウィザード

名前
この規則の名前と説明を指定してください。

ステップ:

- 規則の種類
- プログラム
- 操作
- プロファイル
- 名前

名前(N): SQL Server

説明 (オプション)(D):

< 戻る(B) 完了(F) キャンセル

⑨ 次に、UDP 1434 ポートの規則を追加します。
手順③と同様に、「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」ウィンドウの右側のペインで「新しい規則」をクリックして「新規の受信の規則ウィザード」画面を表示します。ここでは「ポート」を選択して⁽⁻¹⁾、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻²⁾。

新規の受信の規則ウィザード

規則の種類
作成するファイアウォールの規則の種類を選択してください。

ステップ:

- 規則の種類
- プロトコルおよびポート
- 操作
- プロファイル
- 名前

どの種類の規則を作成しますか?

☐ プログラム(P)
プログラムの接続を制御する規則です。

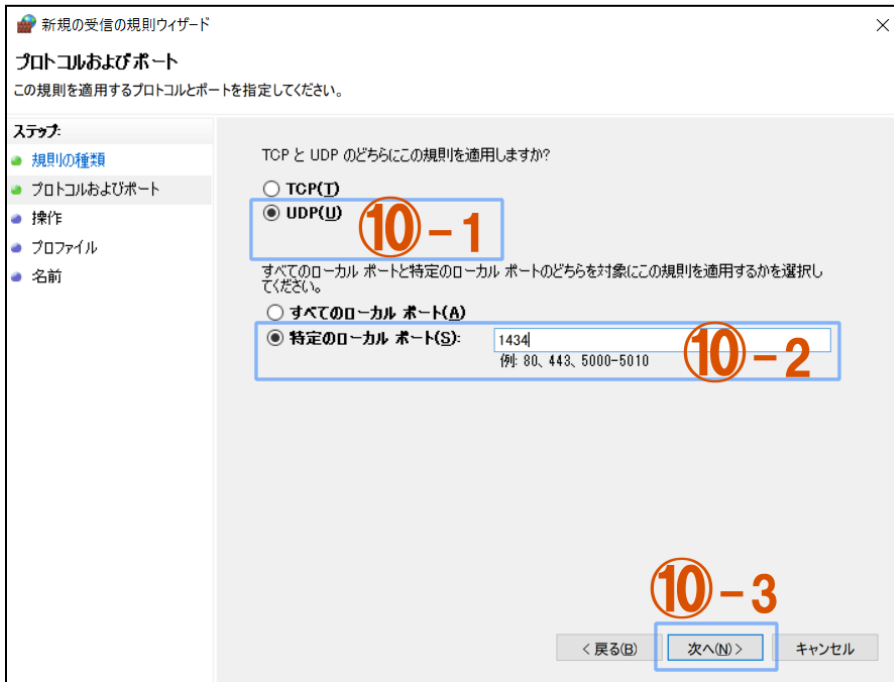
☒ ポート(P)
TCP または UDP ポートの接続を制御する規則です。

☐ 事前定義(E):
@FirewallAPI.dll-80200
Windows エクスプレスのために接続を制御する規則です。

☐ カスタム(C)
カスタムの規則です。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

⑩ [UDP] を選択し⁽⁻¹⁾、[特定のローカルポート] の入力欄に1434 と入力して⁽⁻²⁾、[次へ] ボタンをクリックします⁽⁻³⁾。



⑪ 表示が「操作」に変わったら、手順⑥と同様に「接続を許可する」を選択して、[次へ] ボタンをクリックします。

⑫ 表示が「プロファイル」に変わったら、手順⑦同様に規則を適用するプロファイルを指定して、[次へ] ボタンをクリックします。

⑬ 表示が「名前」に変わったら、手順⑧と同様に、[名前] の入力欄に「SQL Server (UDP)」と入力して、[完了] ボタンをクリックすると「新規の受信の規則ウィザード」画面が閉じます。「セキュリティが強化された Windows ファイアウォール」ウィンドウに戻って、「受信の規則」の一覧に「SQL Server (UDP)」の規則が追加されていることを確認してください。

以上で、Windows ファイアウォールの設定は完了です。

E. ファイルテーブルの利用設定

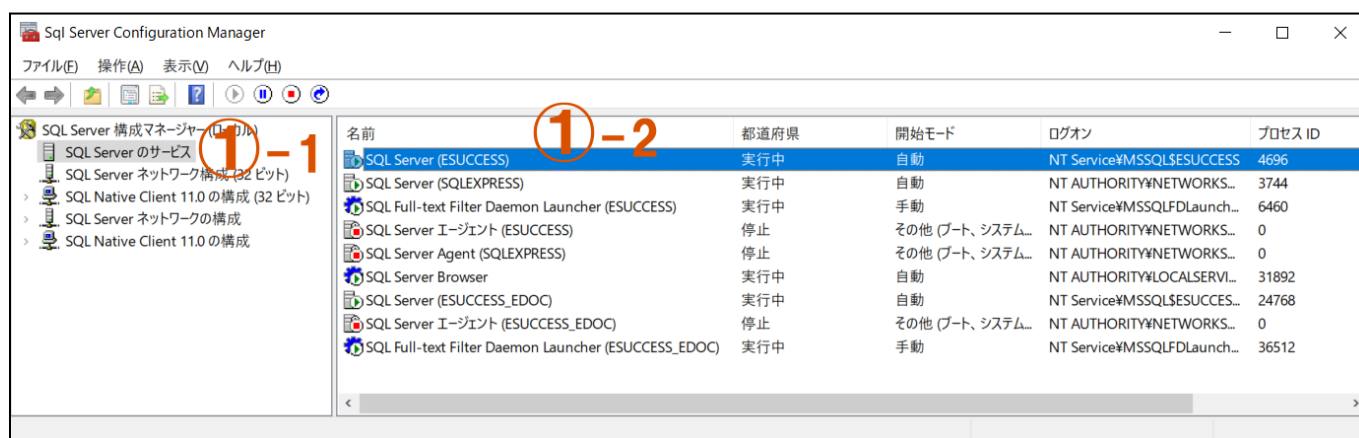
◆注意◆ 本項目について

ファイルテーブルの利用設定は、e-Success のデータベース構築が上手くいかない場合に行います。

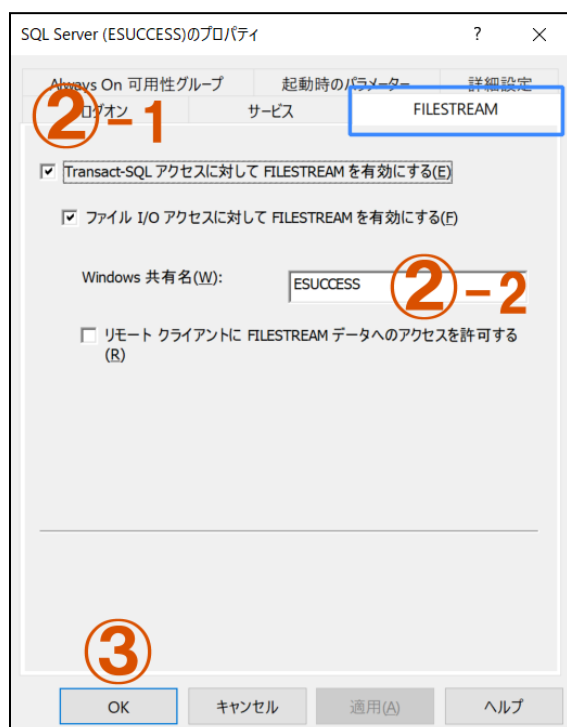
e-Success では、SQL Server のファイルテーブル (FileTable) を利用して、画像ファイルを保存します。このため、事前にファイルテーブルの利用設定をする必要があります。

「SQL Server 構成マネージャー」を起動して、以下の手順でファイルテーブルの利用設定を行ってください。

- ① SQL Server 構成マネージャーの左側のペインで [SQL Server のサービス] をクリックし⁽⁻¹⁾、右側のペインで対象の SQL Server のサービス名を右クリックして表示されるメニューで [プロパティ] をクリックしてください⁽⁻²⁾。



- ② [SQL Server のプロパティ] ダイアログボックスが表示されるので、[FILESTREAM] タブをクリックし、次の項目を設定します。



[Transact-SQL アクセスに対して FILESTREAM を有効にする] チェックボックスと [ファイル I/O アクセスに対して FILE STREAM を有効にする] チェックボックスをオンにします⁽⁻¹⁾。

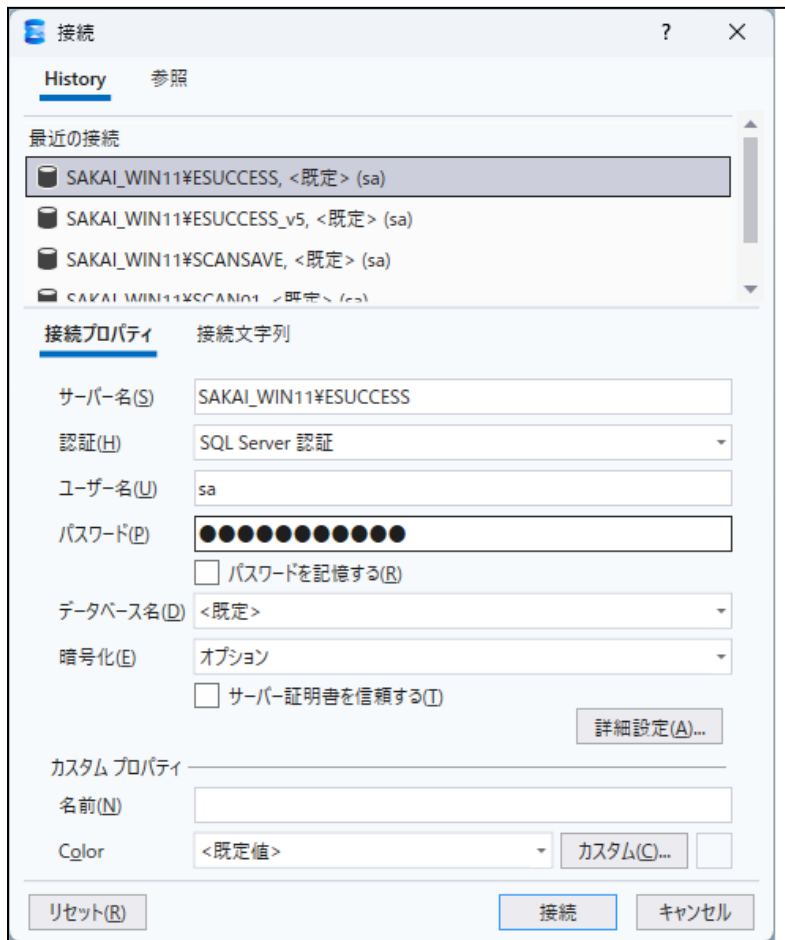
「Windows 共有名」を入力します⁽⁻²⁾。ここで入力する Windows 共有名は、ファイルテーブルを Windows エクスプローラなどで参照するとき利用される名称となります。任意の名前が指定できますが、判別が付きやすいように、インスタンス名 (当マニュアルの手順では (ESUCCESS)) と同じ名前にしておくことをお勧めします。

- ③ [OK] ボタンをクリックして、[SQL Server のプロパティ] ダイアログボックスを閉じます。

- ④ SQL Server 構成マネージャーを終了します。

⑤ Windows の [スタートメニュー] または [アプリビュー] で [Microsoft SQL Server Management Studio] グループをクリックして、SQL Server Management Studio (以下、Management Studio) を起動します。

⑥ [サーバーへの接続] ダイアログボックスが表示されるので、各項目を設定し [接続] ボタンをクリックすると、サーバーに接続します。



[サーバー名]: 入力枠に **サーバー名\$インスタンス名** を入力します

[認証]: 表示枠内をクリックすると表示される選択肢から [SQL Server 認証] を選択します

[ログイン]: 入力枠に **sa** と入力します、

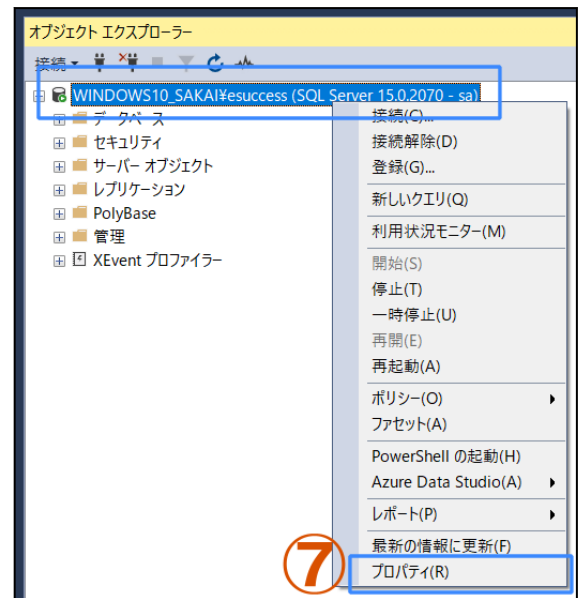
[パスワード]: 入力枠に、SQL Server のインストール時に指定したパスワードを入力します (本マニュアルの手順通りに作業した場合のパスワードは「SCS\$Antenna」です)、

[パスワードを保存する]: 次回の起動時にパスワードの入力を省略する場合は、チェックボックスをオンにします (Management Studio をクライアントで実行している場合は、セキュリティ上、パスワードの保存は推奨しません)

◆注意◆Management Studio をクライアントで実行する場合

Management Studio をクライアントで実行する場合は、事前に次項の「D. ファイアウォールを設定する」を済ませておく必要があります。

⑦ Management Studio の [オブジェクトエクスプローラー] で、先頭にある **サーバー名\インスタンス名** の項目を右クリックして表示されるメニューから、[プロパティ] をクリックします。

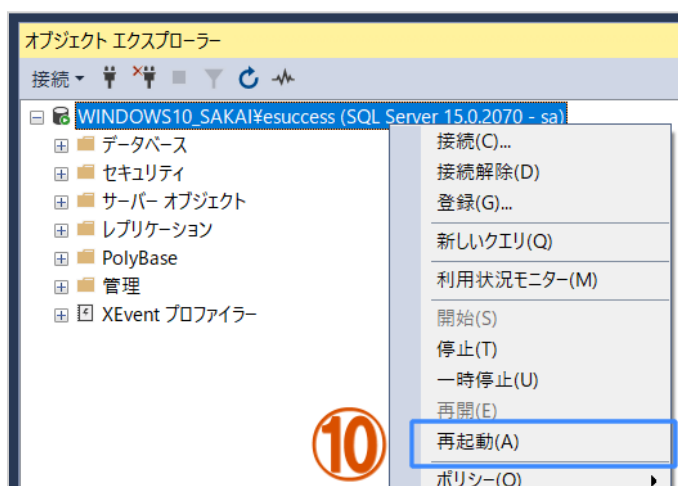


⑧ [サーバーのプロパティ] ダイアログボックスが表示されるので、左側の「ページの選択」にある「詳細設定」をクリックし⁽⁻¹⁾、右側に表示されるプロパティリストの「FILESTREAM アクセスレベル」で「有効なフルアクセス」を選択します⁽⁻²⁾。



⑨ [OK] ボタンをクリックして、[サーバーのプロパティ] ダイアログボックスを閉じます。

⑩ サーバーのプロパティ設定を有効にするため、SQL Server を再起動する必要があります。Management Studio の [オブジェクトエクスプローラー] で、先頭にある サーバー名¥インスタンス名 の項目を右クリックして表示されるメニューから、[再起動] をクリックしてください。確認メッセージでは [はい] をクリックします。



以上で、SQL Server でファイルテーブルを使用する準備が整いました。

F. NTP サーバーの設定

データベースにデータを登録する際は、電子帳簿保存法通達「4-28」（2023 年 4 月時点）に基づいて正確な日時情報も合わせて登録することにより説明事項（スキャン文書）を入力したことを確認する必要があるがあります。グリニッジ標準時に合わせた正確な日時情報は、NTP サーバーを設定することで得られるようになります。

SQL Server をインストールしているマシンで、以下の手順に沿って NTP サーバーの設定を行ってください。

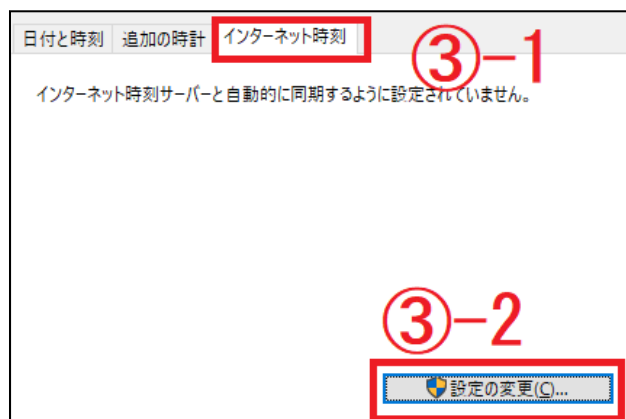
①スタートメニューの検索欄より「コントロール パネル」を検索し、コントロール パネルを起動します。起動したら、「時計と地域」をクリックします。



②「日付と時刻の設定」をクリックします。

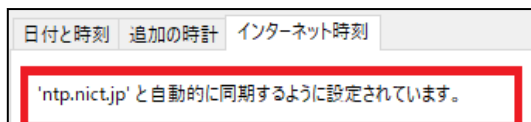


③設定画面が開かれるので、「インターネット時刻」タブをクリックします。ここでもし、NTP サーバーに同期できていない場合は、「設定の変更」をクリックします。



◆ヒント◆NTP サーバーと同期できている場合

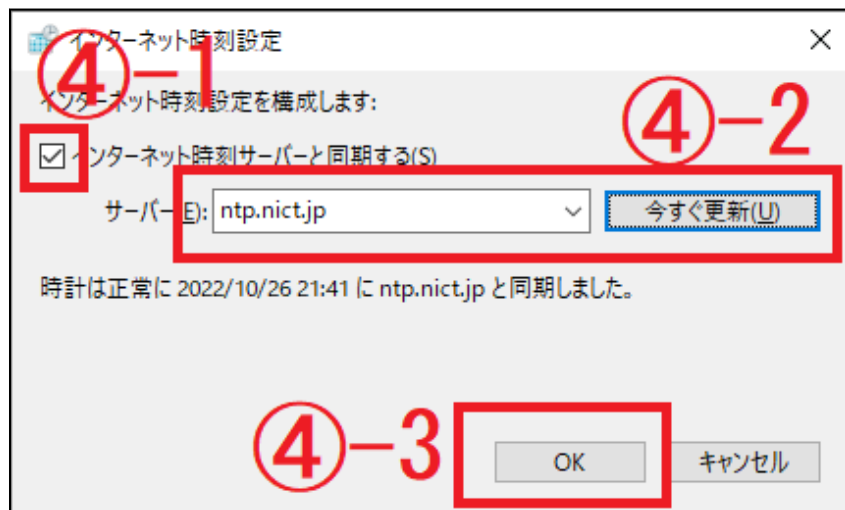
「インターネット時刻」タブを開いて、下記の画像のように NTP サーバーと既にできている場合は、既に設定完了済みとなります。



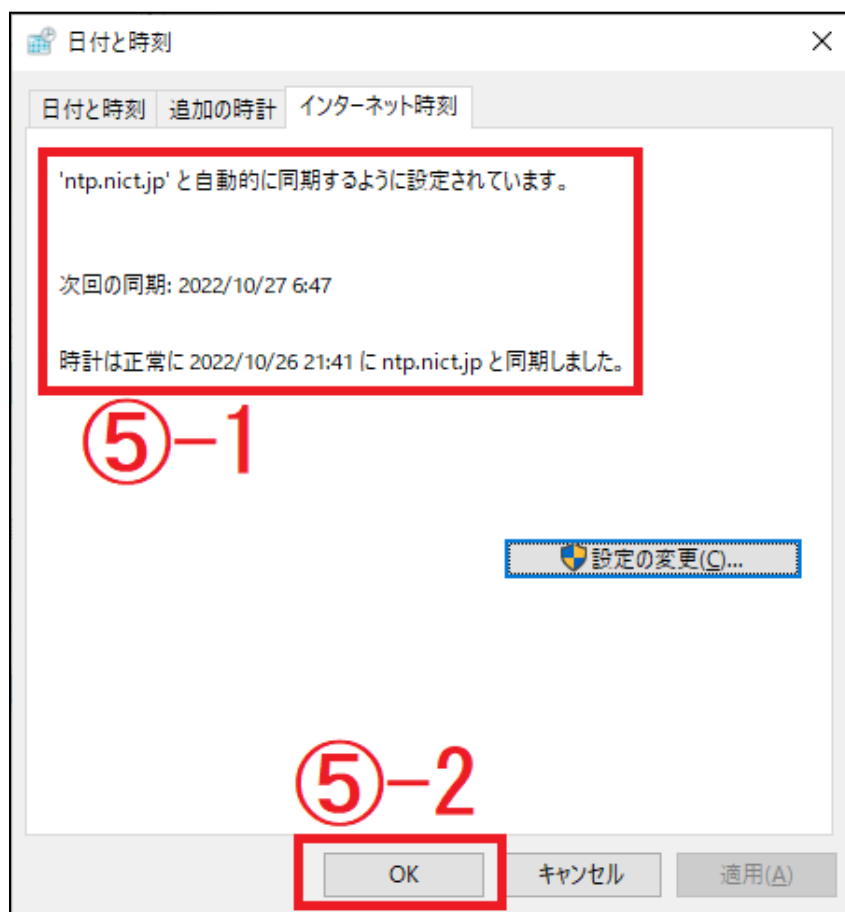
④「インターネット時刻サーバーと同期する」にチェックを入れ、「サーバー」の項目より NTP サーバーを選択します。社内に NTP サーバーを持っている場合は、社内の NTP サーバーのアドレスを入力してください。特に指定がない場合は、「ntp.nict.jp」もしくは「time.windows.com」を選択してください。

項目を選択したら、「今すぐ更新」をクリックして NTP サーバート同期します。ここで「時計は正常に YYYY/MM/DD HH:mm に（NTP サーバー名）と同期しました。」と表示されれば、無事に同期できたこととなります。

設定が完了したら、「OK」をクリックしてください。



⑤下記のがどのように、NTP サーバーと同期できたことを確認します。確認できたら「OK」をクリックしてください。これで、NTP サーバーの設定は完了となります。



G. 管理者アカウント (sa) のユーザー ID の変更 (オプション)

SQL Server のインスタンスをインストールした後、合わせて「sa」というユーザー ID を持った管理者アカウントが必ず作成されます。

SQL Server をご利用されるユーザーの中で、そのまま sa のユーザー ID を使われる方が多く、その影響で sa のユーザー ID を狙う不正アクセスも多数発生しております。

この不正アクセスを未然に防ぐため、管理者アカウントを sa から別なユーザー ID に変更します。

以下の手順に沿ってユーザー ID を変更してください。

◆注意◆ SQL Server Management Studio のインストール

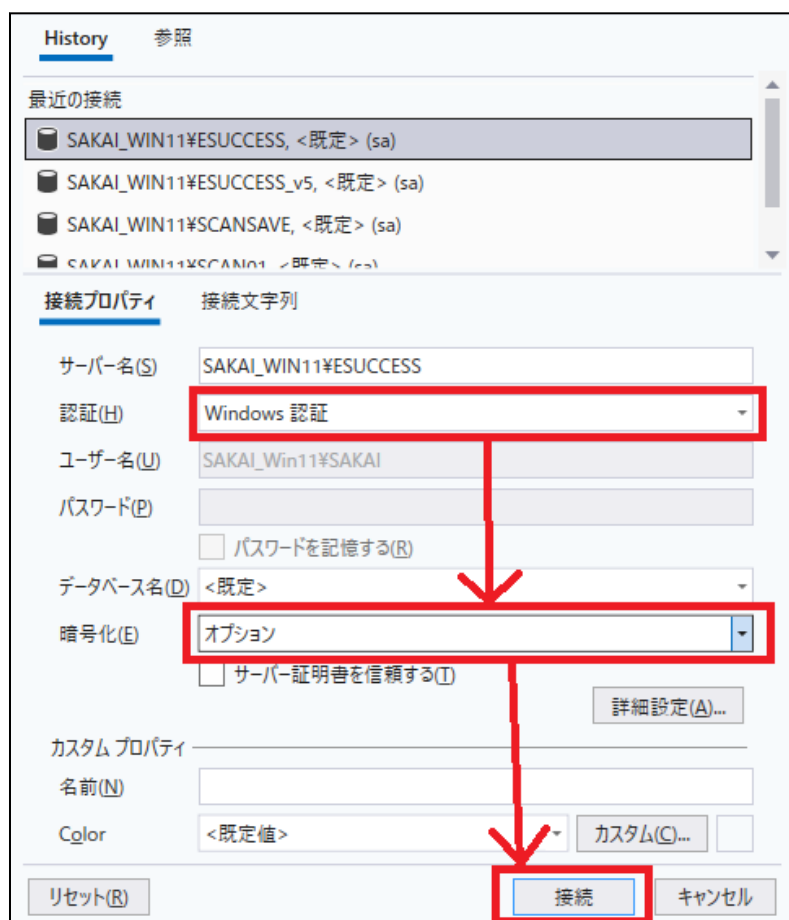
本作業は、SQL Server Management Studio を使用します。管理者アカウントのユーザー ID を変更される際は、必ず SQL Server Management Studio をインストールしてください
詳細は、「B. SQL Server Management Studio のインストール」を確認してください。

◆注意◆ ユーザー名を変更するにあたり

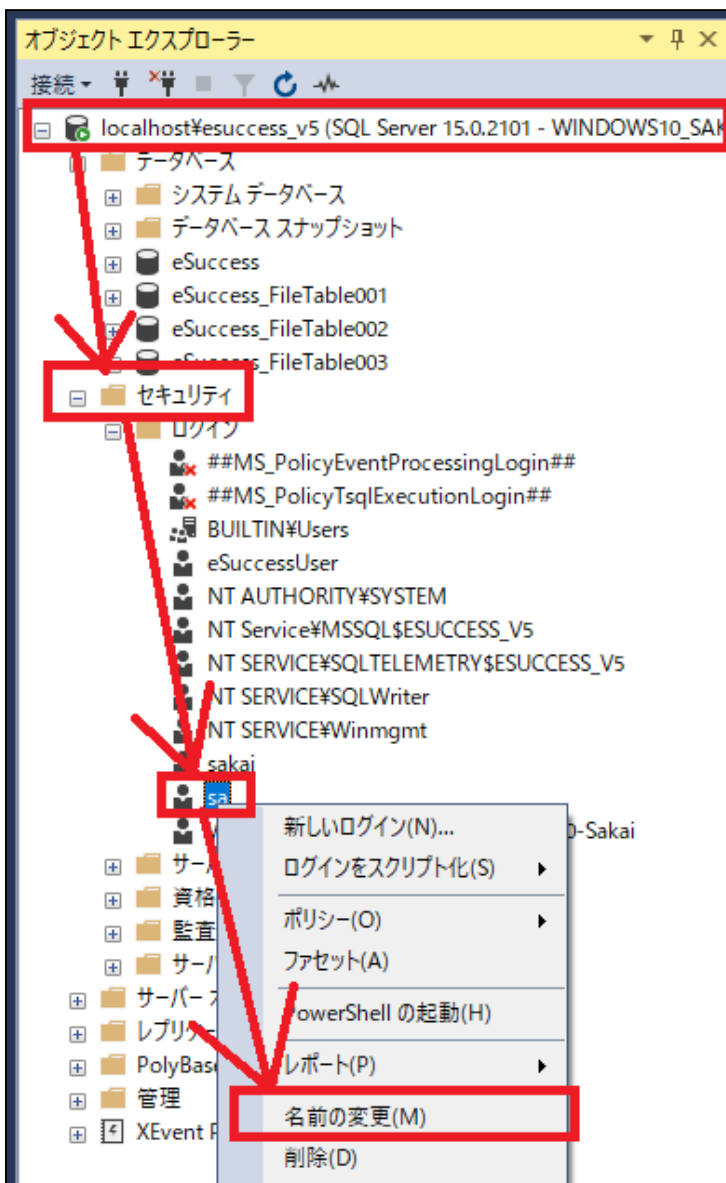
sa アカウントの上位権限でアカウントの操作ができる [Windows 認証] アカウントを使用することから、本作業では、SQL Server インスタンスをインストールしているサーバーマシンを直接操作することになります。
作業を実施する前に、サーバーマシンを管理している担当者に必ず相談してから本作業を実施してください。

① [スタートメニュー] より [Microsoft SQL Server Tool] より [Microsoft SQL Server Management Studio] を起動します。

② ログイン画面が表示されたら [認証] を [Windows 認証] に変更して、[暗号化] を [オプション] に変更して、[接続] をクリックします。



③接続できたら、ウィンドウ左の「オブジェクトエクスプローラー」より[(インスタンス)]⇒[セキュリティ]⇒[ログイン]とプルダウンします。インスタンス内に保存されている各アカウントのユーザー IDが表示されるので、その中の「sa」を右クリックし、「名前の変更」を選択します。



④ ユーザー名を「sa」から任意のユーザー名に変更します。

以上で、管理者アカウントのユーザー ID の変更は完了となります。

3. e-Success データベースの構築

A. e-Success データベースを構築する

e-Success データベースの構築は、以下の手順で行います。

◆ヒント◆ クライアントでの操作

この項の操作は、インストールした SQL Server に接続できるクライアント環境であれば、サーバーではなくクライアントでも実行できます。

- ① e-Success のセットアップフォルダの [データベース構築] フォルダにある [e-SuccessDB_Create] (拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-SuccessDB_Create.exe]) をダブルクリックして起動します。
- ② e-Success DB 構築ツールが起動するので、[サーバー名] 入力欄に **サーバー名#インスタンス名** を入力し⁽⁻¹⁾ [管理者パスワード] 入力欄にインストール時に指定したパスワードを入力します (本マニュアルの手順通りに作業した場合のパスワードは「SCS%Antenna」です)⁽⁻²⁾。[インストール先のフォルダ] 入力欄には、サーバーのフォルダ名を入力してください⁽⁻³⁾。
- ③ インストールモードは「新規インストール」を選択してください。
- ④ 利用モードは「電帳法モード」または「e-文書モード」のいずれかを選択してください。この利用モードは DB 構築後の変更はできないので、運用に合わせて適切なモードを選択してください。

◆注意◆ インストール先のフォルダとディスク容量

インストール先のフォルダは、サーバーのローカルディスク内にあらかじめ用意しておいてください。また、e-Success を使用し続けた場合、データベースの容量が大きくなるため、格納する画像ファイルのサイズを概算で計算し、空き容量に余裕のあるディスクをインストールの先フォルダに指定してください。

◆注意◆ 管理者アカウントのユーザー ID を変更している場合

管理者アカウントのユーザー ID を「sa」から別なユーザー ID に変更している場合は、[管理者ユーザー名] 入力欄に変更後のユーザー ID を入力してください。「sa」をそのまま使用されている場合は、入力欄に初期値として既に入力されていますので、再入力不要です。

◆ヒント◆ 電帳法モードとe-文書モード

電帳法モードは、紙の請求書などをスキャンしたPDF ファイルなどが対象になります。このモードでは、サーバー等で任意のタイミングにより自動的にタイムスタンプを付与します。

e-文書モードは、建築図面や知財系電子文書などが対象になります。このモードでは、ユーザーごとの電子証明書を使用して、書類データの登録時にタイムスタンプを自動的に付与します。

電帳法モードと e-文書モードの2つのモードの相違点は、以下のようになります。

機能	電帳法モード	e-文書モード
利用するタイムスタンプの種類	PADES（ドキュメントタイムスタンプ）または XAdES	PADES 長期署名（電子署名+署名タイムスタンプ+アーカイブタイムスタンプ）
タイムスタンプ処理	サーバー上のタスクによる自動実行	e-Success アプリケーションで書類データの登録と同時にタイムスタンプを付与
タイムスタンプの処理設定	タスク実行用アプリケーションで設定	e-Success アプリケーションで設定
電子証明書	サーバー上に登録（XAdES の場合のみ）	e-Success アプリケーションでユーザー別に管理
電子証明書の期限アラート	自動タイムスタンプ処理の処理ログで確認	メインメニューの警告アイコンおよび電子証明書情報で確認

◆ヒント◆ 電帳法モードとe-文書モードの2つのモードを利用したいとき

電帳法モードと e-文書モードの2つのモードを両方使用したい場合は、SQL Server のインスタンスを、それぞれのモード用に分けて導入してください。

※この場合、追加費用が発生しますので、購入元にご確認ください。

⑤ [DB 構築の実行] ボタンをクリックすると、指定したサーバーに e-Success のデータベースが構築されます。

◆注意◆ e-Success データベースが構築済みするとき

既に e-Success データベースが構築されている場合は、「指定したサーバーには、既に e-Success のデータベースが構築されています。データベースを削除してから実行してください。」とメッセージが表示され、データベース構築は実行されません。新規のデータベースを作り直す場合は、あらかじめ e-Success データベースを削除してから、この項の処理を実行してください。

◆注意◆ 管理者パスワードが間違っているとき

管理者パスワードが間違っているときは、「指定されたデータベースに接続できません。」と表示されるので、管理者パスワードを確認してください。[可視] チェックボックスをオンにすると、入力したパスワードを確認できます。

◆注意◆ ファイルテーブルの利用設定

「データベースの構築に失敗しました。」と表示された場合は、ファイルテーブルの利用設定をしてくださ。 「2. SQL Server のインストール」-「E. ファイルテーブルの利用設定」を参照して、ファイルテーブルの利用設定を行ってください。

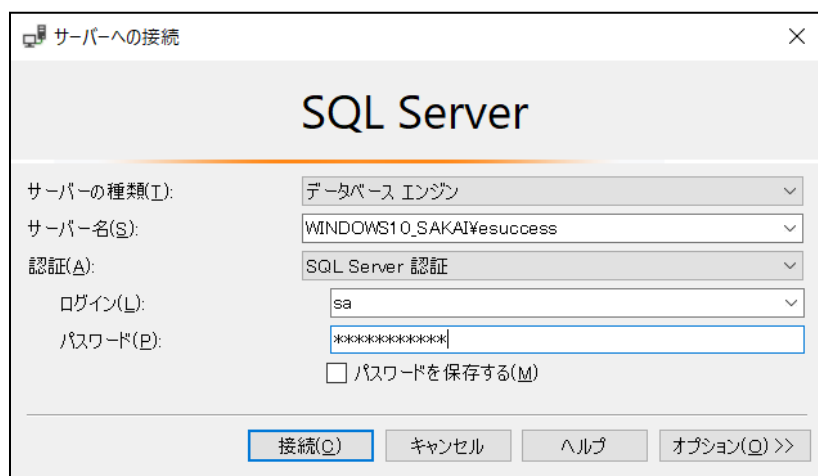
⑥ e-Success のデータベースが構築されると、「e-Success のデータベース構築が完了しました。」というメッセージが表示されます。メッセージを閉じて、e-Success DB 構築ツールを終了してください。

B. e-Success データベースを確認する

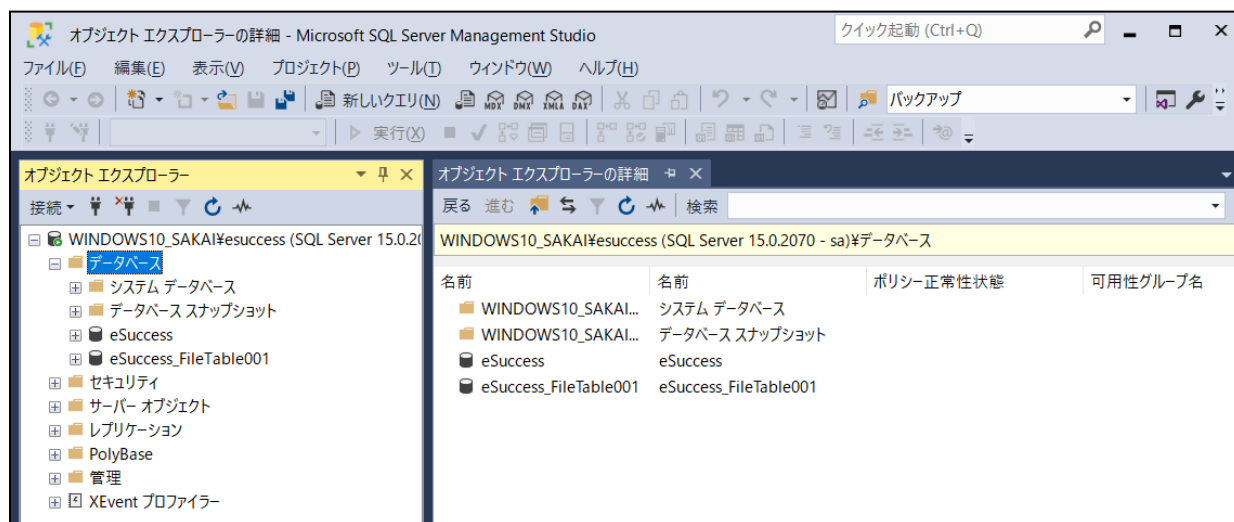
SQL Server Management Studio (以降、Management Studio) を起動して、e-Success データベースが構築されていることを確認します。

① Windows の [スタートメニュー] または [アプリビュー] で [Microsoft SQL Server Management Studio] グループをクリックして、SQL Server Management Studio (以下、Management Studio) を起動します。

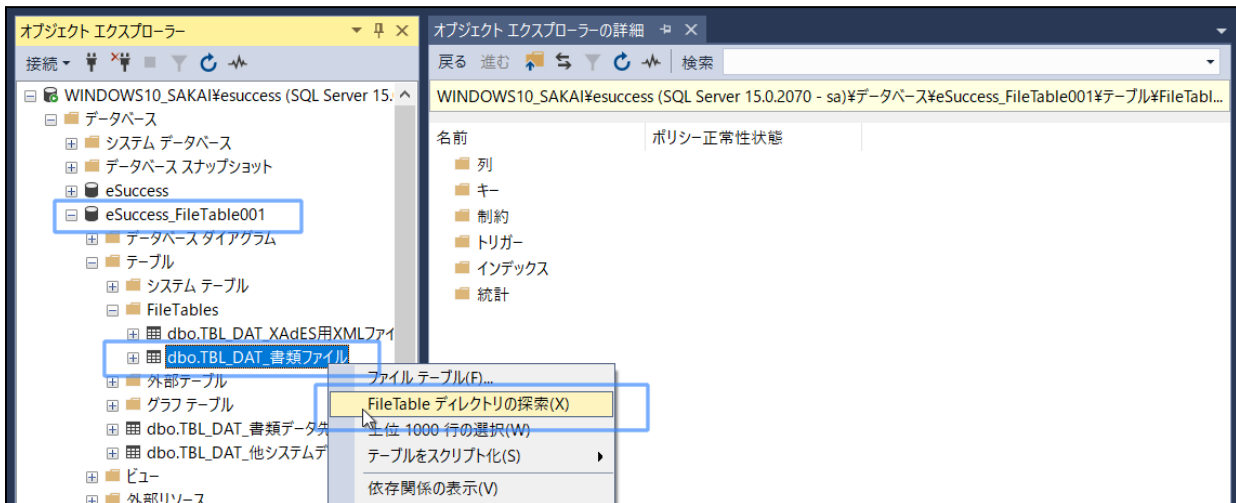
② [サーバーへの接続] ダイアログボックスが表示されるので、[サーバー名] ボックスに **サーバー名\インスタンス名** を入力して、[認証方法] ボックスで [SQL Server 認証] を選択してください。[ログイン] ボックスには管理者アカウントのユーザー ID (SQL Server の既定のユーザー ID は「sa」) と入力し、[パスワード] ボックスはインストール時に指定したパスワードを入力します (本マニュアルの手順通りに作業した場合のパスワードは「SCS%Antenna」です)。次回の起動時にパスワードの入力を省略する場合は、[パスワードを保存する] チェックボックスをオンにしてください (Management Studio をクライアントで実行している場合は、セキュリティ上、パスワードの保存は推奨しません)。[接続] ボタンをクリックして、サーバーに接続します。



③ Management Studio の「オブジェクトエクスプローラー」で [データベース] を展開します。「eSuccess」と「eSuccess_FileTable001」が作成されていれば、e-Success データベースは正しく構築されています。

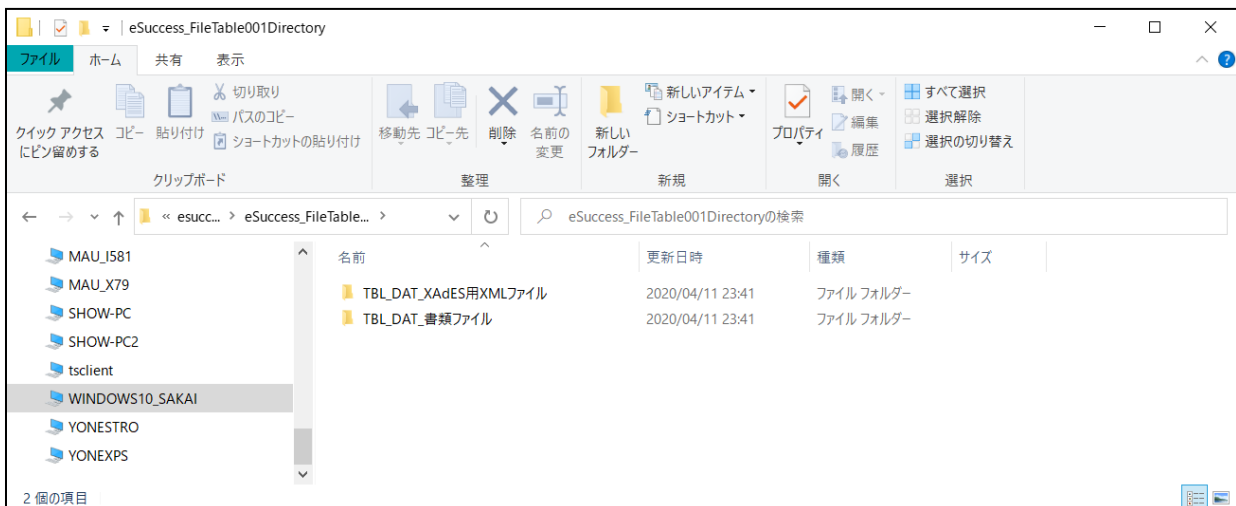


④ Management Studio の「オブジェクトエクスプローラー」で [e-Success_FileTable001]—[テーブル]—[FileTables] を展開し、そこに含まれる [dbo.TBL_DAT_書類ファイル] を右クリックして表示されるメニューから [FileTable ディレクトリの探索] をクリックします。



⑤ Windows エクスプローラでファイルテーブルディレクトリのフォルダが表示されます。表示されたフォルダの1つ上の階層がファイルテーブル全体のフォルダとなるため、ファイルテーブルのバックアップは、このフォルダを対象にしてください。フォルダのパスは、以下ようになります。

¥¥サーバー名¥¥インスタンス名¥¥eSuccess_FileTable001Directory



C. 旧バージョンのデータベースを現バージョンに移行する

旧バージョン（ScanSave/e-Success-V5, V6.0）のデータベースを、e-Success データベースに変換して利用できます。

◆注意◆ アップグレードの対象

旧バージョンのデータベースの変換を実行する前に、SQL Server のインスタンスにアップデートの対象となる旧バージョン製品のデータベースがあることを確認してください。ない場合は変換を実行できないので、データベースを新規構築してください。

V6.5 のアップデートの対象となる製品： ScanSave-V3、ScanSave-V4、e-Success-V5、e-Success-V6.0.0～V6.4.x

◆注意◆ アップグレードを行う前に

アップグレード処理では、前バージョンである「ScanSave」のデータベースファイルのファイル名の変更処理を行います。そのため、アップグレードを実行する際は、必ず SQL Server と ScanSave データベースを両方を導入しているマシンに DB 構築ツールをコピーし、接続するホスト名を「localhost」で実行してください。

◆注意◆ アップグレード後の設定および初期値について

ScanSave-V3、ScanSave-V4、e-Success-V5 からメジャーアップグレードすると、データベースの構成が変更されます。以下は、アップグレード後に必ず確認をお願いしたい項目になります。

■法令保存期限日の設定について

これまで登録した書類および以降に登録する書類に法令保存期限日を登録する場合は、以下を必ず設定してください。

- ・「処理設定」画面⇒「事業年度開始月」
- ・書類種類マスタ⇒「課税関連書類」

※e-Success Standard/Pro 操作マニュアルの「書類作業編」の「9. 法令保存期限日の通知」をご確認ください。

■アップグレード後に追加される「CSV 取込時のレイアウトバージョン」の初期値について

ScanSave-V3 からアップグレードした場合、「処理設定」画面の「CSV 取込時のレイアウトバージョン」は「e-Success-V5/ScanSave-V4」となります。

（ScanSave-V3 でご利用中の「CSV 取込時のレイアウトバージョン」を e-Success-V5/ScanSave-V4 用に修正※してください。）

※e-Success Standard/Pro 操作マニュアルの「1. 仮取込データの利用」の「CSV ファイルの項目と仕様：」をご確認ください。

■ScanSave-V3 からアップグレード後に追加される「書類種類マスタ」の「品名」「金額」「取引先名」について

ScanSave-V3 の「処理設定」画面の「品名」「金額」「取引先名」を必須入力に設定していた場合、アップグレード後に追加される「書類種類マスタ」の「品名」「取引先」「金額」の「必須」入力で設定されます。

① e-Success のセットアップフォルダ の [データベース構築] フォルダにある [e-SuccessDB_Create]（拡張子が表示されている場合は [e-SuccessDB_Create.exe]）を起動します。

② e-Success DB 構築ツールが起動するので、[サーバー名] 入力欄に **サーバー名#インスタンス名** を入力し⁽⁻¹⁾、[管理者パスワード] 入力欄に SQL Server のインストール時に指定したパスワードを入力します（本マニュアルの手順通りに作業した場合のパスワードは「SCS%Antenna」です）⁽⁻²⁾。

◆注意◆ 管理者アカウントのユーザー ID を変更している場合

管理者アカウントのユーザー ID を「sa」から別なユーザー ID に変更している場合は、[管理者ユーザー名] 入力欄に変更後のユーザー ID を入力してください。

「sa」をそのまま使用されている場合は、入力欄に初期値として既に入力されておりますので、再入力は不要です。

③ インストールモードは「アップグレード」を選択してください。

アンテナハウス e-Success DB構築ツール

イー・サクセス

DB構築ツール

指定したサーバーにe-Successデータベースを構築します。 閉じる

サーバー名: ②-1
例: dbservername, dbservername#mssql
※インスタンスを指定する場合は、サーバー名#インスタンス名を入力してください。
※ローカルPCにインストールしたDBは、サーバー名をlocalhostで指定してください。

管理者ユーザー名:
※SQL Server の管理者ユーザー「sa」のユーザー名を変更している場合は、変更後のユーザー名を入力してください。

管理者パスワード: ☐ 可視 ②-2

インストールモード: ③
※前のバージョンのインスタンスとDBがインストールしている場合は、アップグレードを選択してください。

DB構築の実行

④ [DB 構築の実行] ボタンをクリックすると、指定したインスタンスが e-Success データベースに変換されます。

尚、ScanSave-V3 データベースは「電帳法モード」の e-Success データベースとなります。ScanSave-V4, e-Success-V5, V6.0 のデータベースは、元と同じモードの e-Success データベースとなります。
インスタンス名は、元のまま変わらないのでご注意ください。

◆注意◆ e-Success データベースが構築済みするとき

既に e-Success データベースが構築されている場合は、「指定したサーバーには、既に e-Success のデータベースが構築されています。データベースを削除してから実行してください。」とメッセージが表示され、データベースの変換は実行されません。旧バージョンのデータベースを e-Success データベースに変換する場合は、新規に作成した e-Success データベースを削除してから、この項の処理を実行してください。

◆注意◆ 管理者パスワードが間違っているとき

管理者パスワードが間違っているときは、「指定されたデータベースに接続できません。」と表示されるので、管理者パスワードを確認してください。[可視] チェックボックスをオンにすると、入力したパスワードを確認できます。

⑤ e-Success のデータベースが構築されると、「e-Success のデータベース構築が完了しました。」というメッセージが表示されます。メッセージを閉じて、e-Success DB 構築ツールを終了してください。

以上でデータベースのアップグレード作業は完了となります。

4. e-Success のインストール

◆注意◆ 操作するコンピュータ

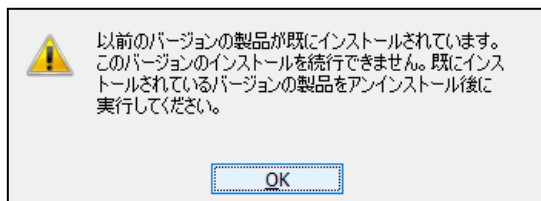
e-Success アプリケーションは、クライアントにインストールします。実際に e-Success アプリケーションを利用するクライアントのコンピュータでインストール作業をしてください。

◆注意◆ インストールの前に

e-Success アプリケーションのインストールは、管理者権限を持つユーザーでコンピュータにログインして作業してください。また、動作している他のアプリケーションソフト（ウイルス対策ソフトや統合セキュリティソフトを含む）を終了させてから、インストールを行ってください。

◆注意◆ 旧バージョンはアンインストールしてください

e-Success アプリケーションの旧バージョン（ScanSave V3.x/V4.x / e-Success v5.x）がインストールされているコンピュータに、e-Success-v6 アプリケーションはインストールできません。旧バージョンをアンインストールしてから、e-Success アプリケーションをインストールしてください。



◆注意◆ Windows Server 2016 上で動作させる場合

e-Success の各種アプリケーションを動作させるには、「.Net Framework 4.8」でのインストールが必要となります。「Windows Server 2016」は、「.Net Framework 4.5」が標準インストールされているため別途「.Net Framework 4.8」のインストールが必要です。

※「Windows Server 2016」のサポート期限は、2027年1月12日までとなります。

A. e-Success アプリケーションをインストールする

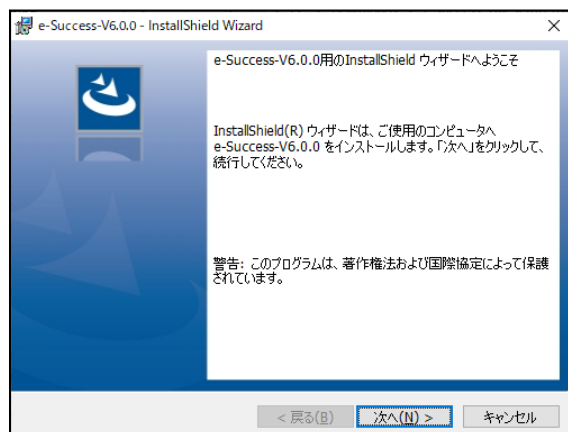
e-Success アプリケーションのインストールは、次の手順で行います。

- ① Windows エクスプローラで、e-Success のセットアップフォルダの、[SETUP] フォルダを開きます。
- ② [SETUP] フォルダ内にある [e-Success_Setup]（拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-Success_Setup.exe]）をダブルクリックします。

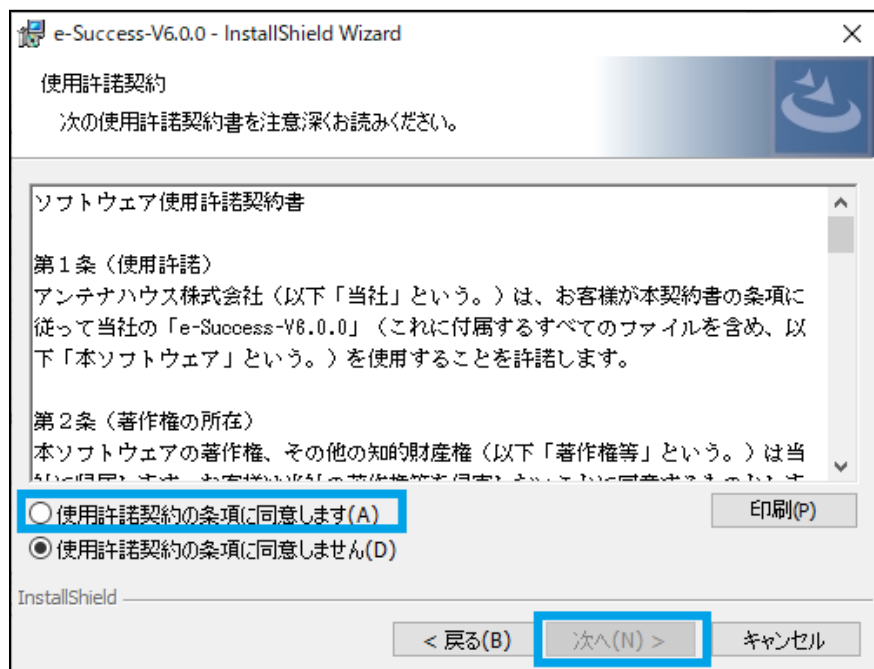
◆注意◆ ユーザーアカウント制御

セットアッププログラムを実行したときに「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されることがあります。その場合は、[許可] ボタンまたは[はい] ボタンをクリックして、作業を進めてください。

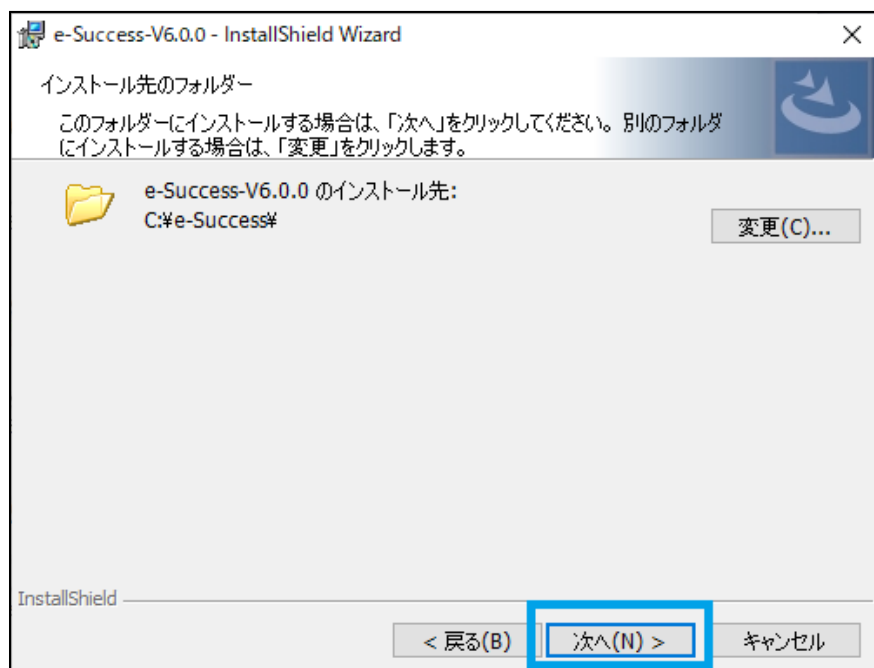
- ③ 「インストールの準備をしています。」という表示のあと、e-Success のインストール画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックしてください。



④「使用許諾契約」画面では、契約内容を確認してください。契約内容を確認して「使用許諾契約の条項に同意します」を選択すると、「次へ」ボタンが有効になるのでクリックしてください。



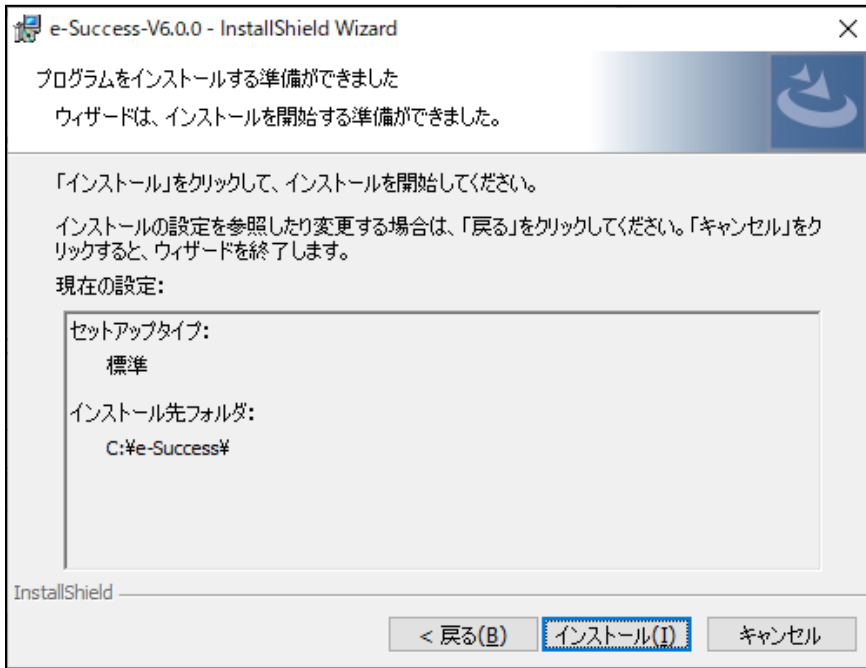
⑤「インストール先のフォルダー」画面では、e-Success をインストールするフォルダを指定します。既定値では [C:\e-Success¥] にインストールされます。インストール先を変更する場合は、「変更」ボタンをクリックして、インストール先のフォルダを指定してください。インストール先を決めたら、「次へ」ボタンをクリックしてください。



◆注意◆ アプリケーションのインストール先

e-Success アプリケーションは、必ず内蔵のドライブにインストールしてください。外付けドライブへのインストールはできません（外付けドライブは、接続の状況によって、ドライブ文字が変わる可能性があり、e-Success が正常に動作しなくなる恐れがあります）。

⑥ インストールの準備が完了したら、[インストール] ボタンをクリックしてください。インストールを開始します。



⑦ しばらくするとインストール作業が完了して、作業完了の画面が表示されるので [完了] ボタンをクリックしてください。

デスクトップに e-Success のショートカットアイコンが登録されます。



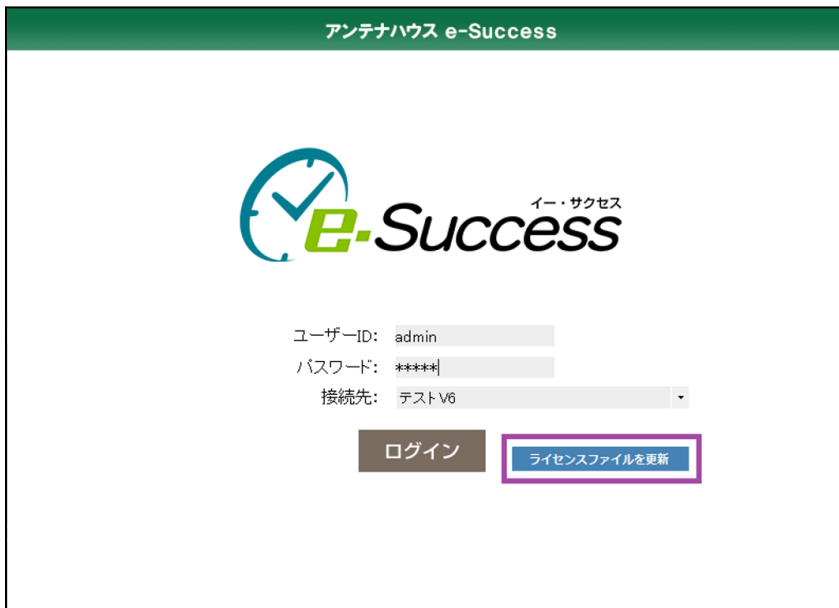
デスクトップに e-Success のショートカットアイコンが登録されます。

B. e-Success を評価版から正規版へ変更する

e-Success は、初めてインストールした直後は評価版として動作するようになっています。

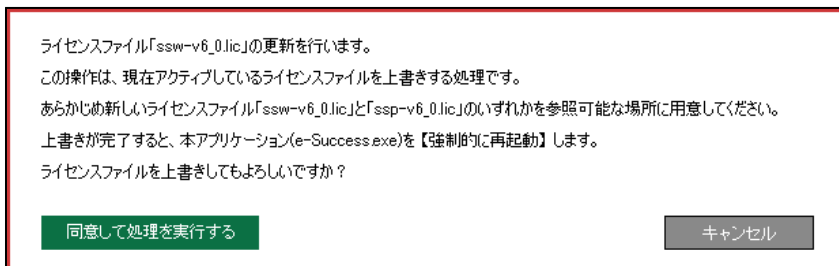
インストールした e-Success は、次の手順で、正規版のライセンスファイルをアプリケーションの所定の場所にコピーすることで正規版として動作します。

- ① アンテナハウスの納品メールに記述しているライセンスファイルのダウンロード URL にアクセス等して、新しいライセンスファイルを用意します。(e-Success のエディションによって「ssw-v6_0.lic」か「ssp-v6_0.lic」のいずれか)
- ② e-Success を起動してログイン画面を開き、「ライセンスファイルを更新」ボタンを押します。



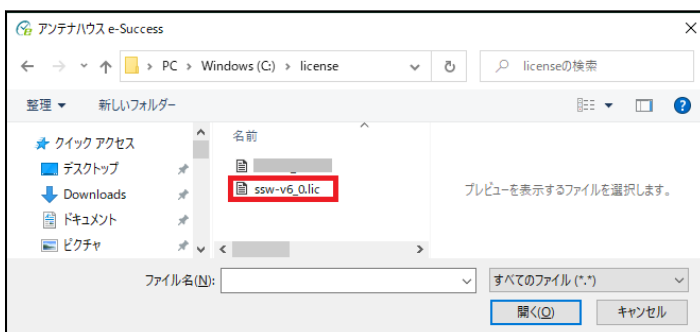
ログイン画面

- ④ 同意画面が表示されますので、「同意して処理を実行する」をクリックします。



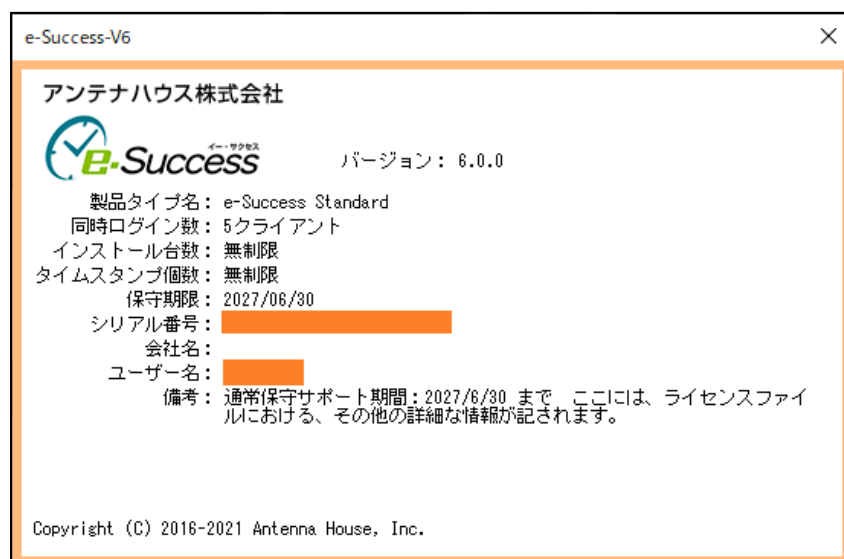
同意画面

- ③ 新しいライセンスファイルを選択します。



④ ライセンスファイル更新処理が開始されます。処理が完了すると、e-Success が強制的に再起動して新しいライセンスファイルを読み込みます。

⑤ ログイン画面が表示されましたら e-Success にログインし、メインメニューの「バージョン情報」をクリックして、正規版として起動して、保守期限が更新されていることを確認します。



バージョン情報の表示例

◆ヒント◆ 正規版ライセンスファイルの更新方法

正規版ライセンスファイルの更新方法は、本項の内容と同様、古いライセンスファイルを新しいライセンスファイルに上書きすることで更新されます。

◆ヒント◆ ライセンスファイルの種類

e-Success は、各エディション用のライセンスファイルが用意されています。以下の2種類になります。

ssw-v6_0.lic: Standard 用のライセンスファイル

ssp-v6_0.lic: Pro 用のライセンスファイル

◆注意◆ 「ライセンスファイルを更新」ボタンで更新できない場合

お客様のシステム環境によっては、「ライセンスファイルを更新」ボタンで更新できない場合があります。その場合、ライセンスファイルの置いてあるフォルダにアクセスして直接ライセンスファイルの更新を行ってください。更新方法は、以下のようになります。

- ① ライセンスファイル（「ssw-v6_0.lic」と「ssp-v6_0.lic」のいずれか）を用意します。
- ② Windows のエクスプローラで、ライセンスファイルを e-Success のインストールフォルダにある [license] フォルダにコピーします。インストールフォルダは、既定のままインストールした場合 [C:\e-Success¥] になります。
- ③ ライセンスファイルをコピーする際、同名のファイルが存在すると上書きについての警告メッセージが表示されます。この場合、ライセンスファイルを上書きしてください。

◆注意◆ ONeSaas 版の表示について

ONeSaas 版では、クラウドサービスを運営担当側で既にライセンスファイルが設定されてが行われているため、ライセンスファイルの更新は不要で「ライセンスファイルの更新」ボタンも表示されません。

◆注意◆ ライセンスファイルの保守期限

正規版のライセンスファイルの保守期限が切れても、e-Success、自動タイムスタンプ付与アプリを継続してお使い続けることができますが、e-Success のメジャー/マイナー・バージョンアップの提供を受けることができなくなります。ライセンスファイルを更新いただく場合は、下記の弊社のサポートセンターまで内容をご記入の上、お問い合わせください。

【お問い合わせ先】

アンテナハウス株式会社 e-文書・証憑/スキャナ保存製品サポートセンター
メールアドレス: edocument@antenna.co.jp

C. アプリケーションが独自でプロキシ接続できるように設定 (オプション)

e-Success では、タイムスタンプ付与する際とタイムスタンプが有効であるか検証情報を取得するために、インターネットに接続する必要があります。

プロキシサーバーを経由してインターネットに接続する場合、Windows の「設定」で指定したプロキシ設定を使用して接続することも可能ですが、e-Success では、アプリケーションに対して独自のプロキシ接続情報を設定して、プロキシサーバーに接続することも可能です。

◆注意◆ 本機能の使用制限

本機能は、タイムスタンプ方式が「PADES」場合のみ機能します。また、タイムスタンプ方式を「PADES/XAdES」で指定されている場合は、書類種類のタイムスタンプ方式が「PADES」で設定されていれば同様に機能します。

本機能が使用できるアプリケーションは、下記になります。

- ・クライアントアプリ (e-Success.exe)
- ・自動タイムスタンプ付与アプリ (e-SuccessTimeStamp.exe)
- ・自動一括取込アプリ (e-SuccessBulkImport.exe)
- ・Web 検索機能 (Web アプリケーション: esuccess)
- ・リンクビュー (Web アプリケーション: esuccesslinkview)

◆注意◆ 本機能を使用する対象のユーザーについて

本機能を使用する際は、ユーザー社内のネットワークポリシー・セキュリティポリシーが「Windows の『プロキシ』設定を使用」してプロキシサーバー経由でインターネット接続するのではなく、「アプリケーション独自でプロキシ設定を使用」して接続をするような環境である時に使用することを推奨しております。

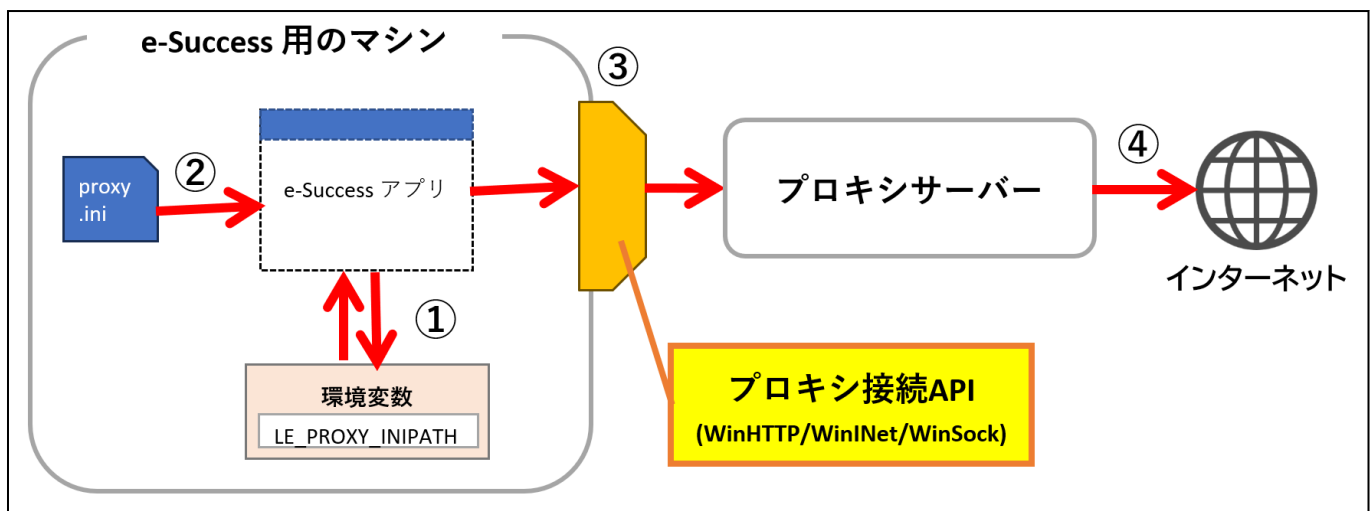
◆注意◆ 本機能の対象のプロキシサーバーについて

本機能の動作対象となるプロキシサーバーは、Squid になります。

上記以外の Apache 等のプロキシサーバーにつきましては、動作の確認ができていないため動作保証外となります。

予めご了承ください。

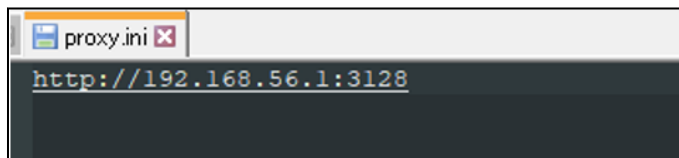
■独自プロキシ接続の設定概要



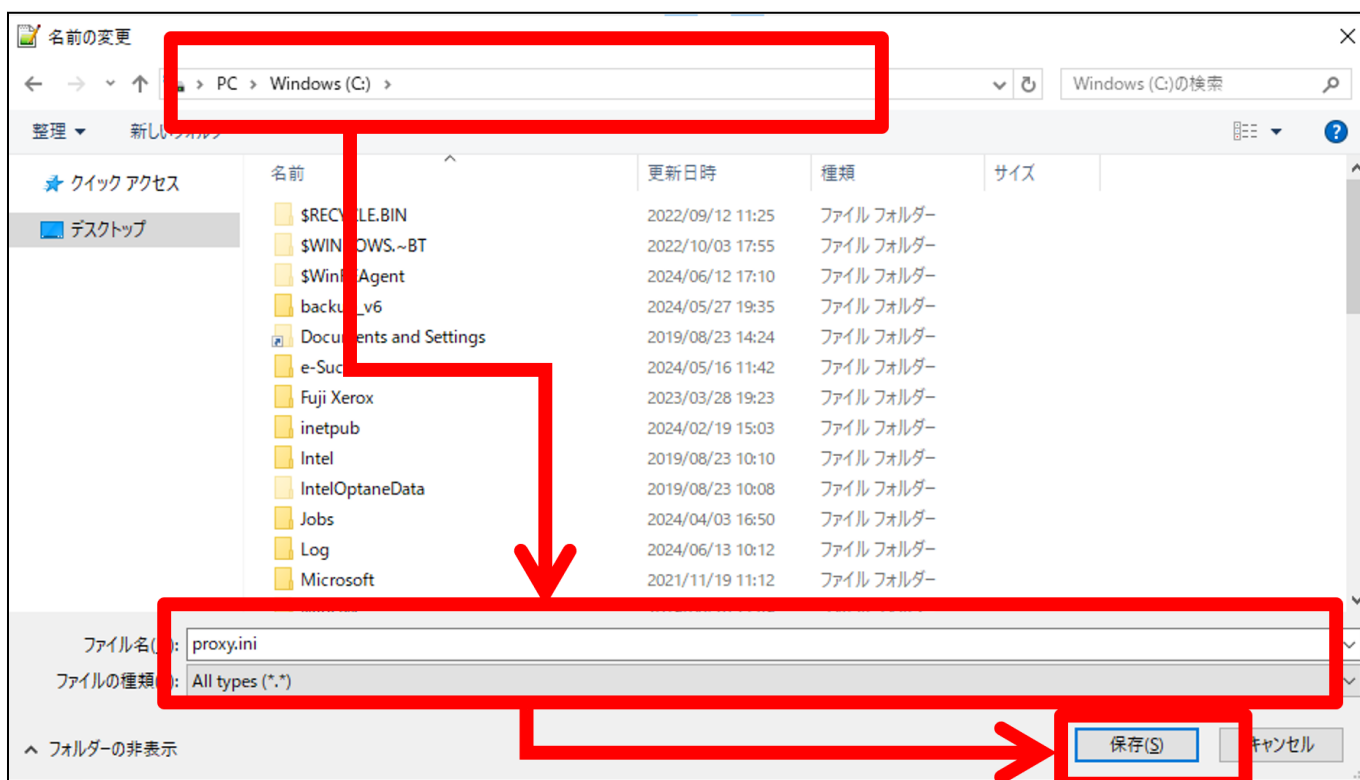
- (1) e-Success を稼働させているマシン (e-Success 用のマシン) 上で、e-Success の各種アプリケーション (e-Success アプリ) が、アプリ起動時にシステム環境変数を読み込み、その中のプロキシサーバーへの接続情報を保存している設定ファイル「proxy.ini」のパスを読み込みます。
- (2) e-Success アプリは、(1)で取得した「proxy.ini」のファイルパスの情報を元に、proxy.ini ファイルを読み込みます。この時、proxy.ini に入れるプロキシサーバーの設定情報は、プロキシサーバーの URL およびポート番号を設定します。
- (3) e-Success アプリで指定したプロキシ接続APIを使用して、(2)で「proxy.ini」で読み込んだプロキシサーバーに接続します。
- (4) プロキシサーバーに接続後、プロキシサーバーを経由してインターネットに接続し、セイコータイムスタンプサービスや検証情報の取得先などにアクセスします。

■proxy.ini の設定

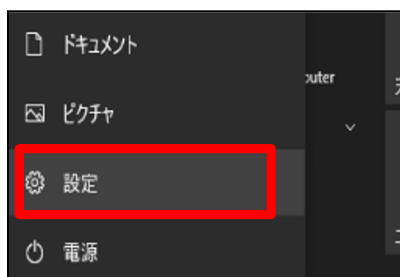
- ① 任意のテキストエディタを起動します。
- ② 文字コードを「UTF-8」に設定します。



- ③ プロキシサーバーの URL とポート番号を指定します。
書き方の例: `http://192.168.56.1:3128`
- ④ ファイル名は、「proxy.ini」という名前で設定して、任意のパスにファイルを保存します。



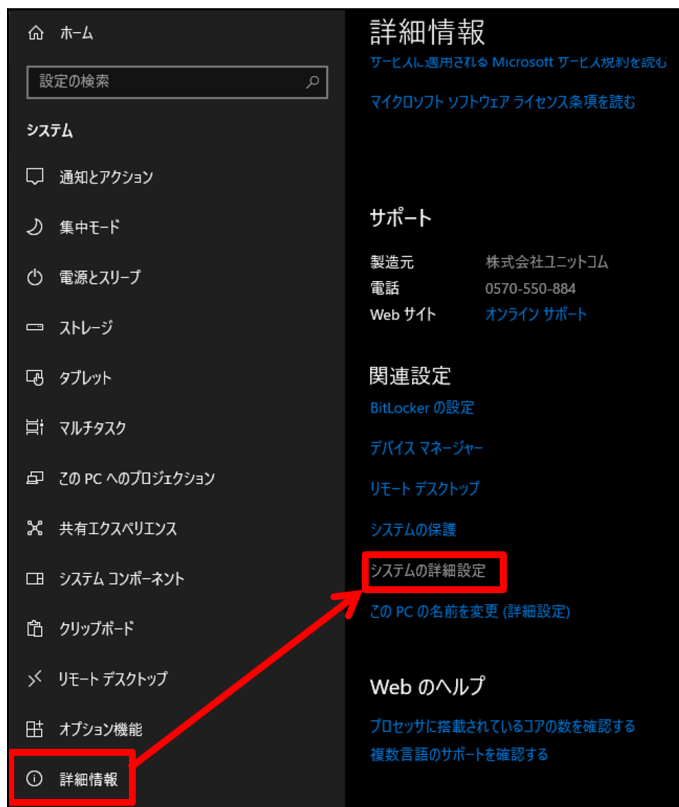
- ⑤ 次に環境変数「LE_PROXY_INIPATH」を追加し、これに「proxy.ini」のファイルパスを設定します。これにより、Le:PAdES に独自プロキシの設定を読み込ませるようにします。スタートメニューより「設定」アプリを起動します



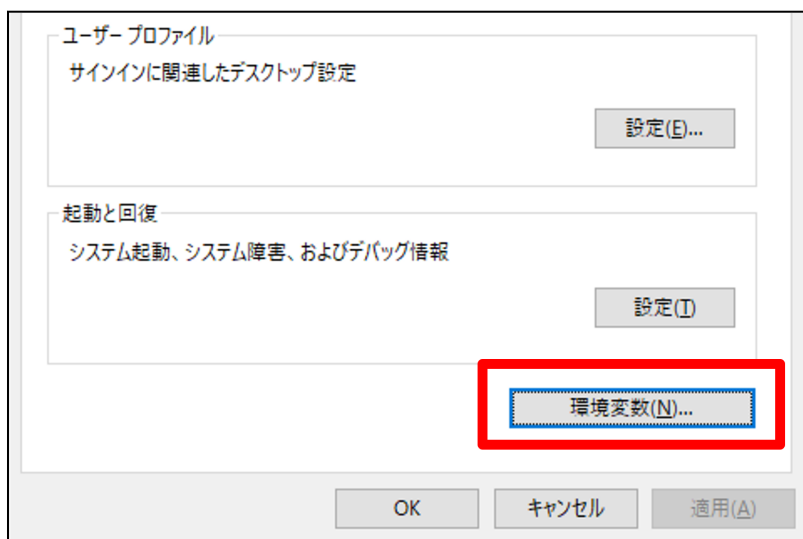
⑥ 「システム」をクリックします。



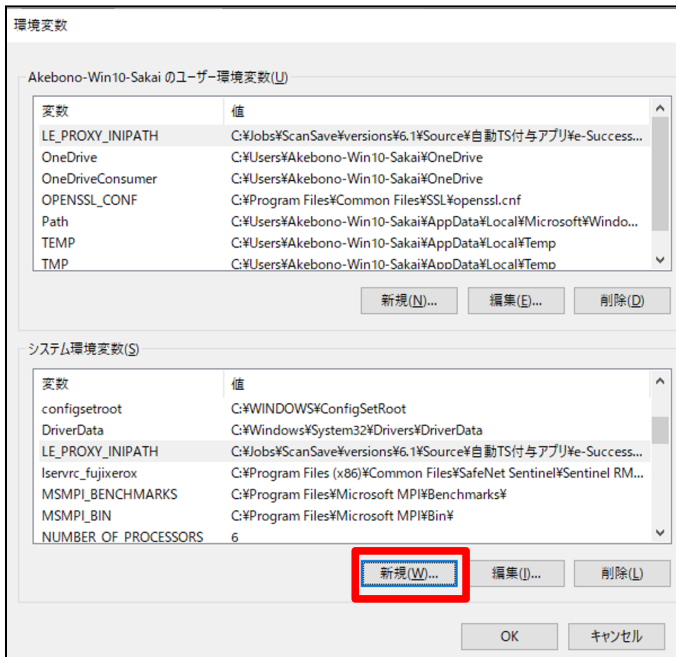
⑦ 「詳細情報」をクリック、「システムの詳細設定」をクリックします。



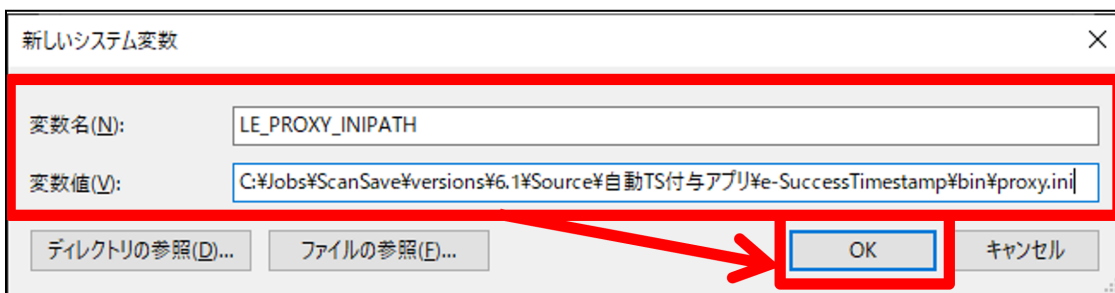
⑧ 「環境変数」をクリックし、proxy.ini のパスを追加します。



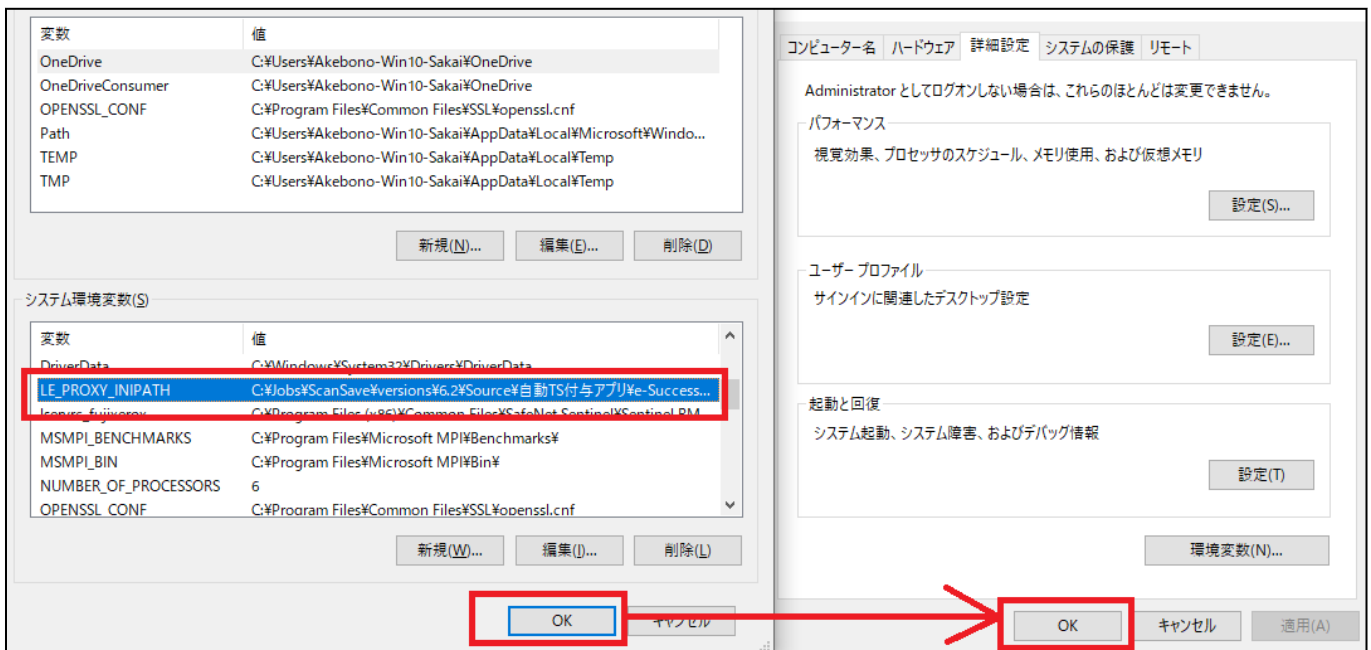
⑨ 「環境変数」画面が開きます。「システム環境変数」の「新規」をクリックします。



⑩ 「新しいシステム変数」の画面を開き、変数名「LE_PROXY_INIPATH」と読み込む「proxy.ini」の保存場所を指定します。



⑪ 環境変数の設定が完了したら、[OK]をクリックします。



⑫ 自動タイムスタンプ付与アプリを起動し、ログインします。

⑬ 「プロキシ接続方法」よりいずれかのAPIを選択し、「タイムスタンプ設定テスト」をクリックします。

e-Success イー・サクセス タイムスタンプ処理設定	
タイムスタンプ方式	PAdES(pdf) ▼
タイムスタンプ局(URL)	
認証方法	Basic認証 ▼
ユーザーID	
パスワード	*****
検証不備書類にも付与(PAdESのみ)	☒ タイムスタンプ付与する
プロキシ接続方法	☒ WinHTTP ☐ WinINet ☐ WinSock タイムスタンプ設定テスト
XAdESファイル数	

⑭ 「タイムスタンプ設定テスト」のテストに成功したら「登録」ボタンを押します。登録が完了すると、e-Success のデータベースにプロキシ接続API の設定情報が保存されます。

以上で、登録対応は完了となります。

5. e-Success アプリケーションの接続先設定

◆注意◆ 操作するコンピュータ

この節の操作はクライアントのコンピュータで行います。「4. e-Success のインストール」で e-Success アプリケーションをインストールしたクライアントで操作してください。

A. 接続先を設定する

e-Success アプリケーションの接続先は、[e-Success 接続先設定ツール] で設定します。

以下の手順で、e-Success アプリケーションの接続先設定を行ってください。

- ① デスクトップに [e-Success 接続先設定ツール] のショートカットアイコンが登録されています。これをダブルクリックして起動します。



e-Success 接続先
設定ツール

- ② [新規] ボタンをクリックして、データベース設定の項目に登録を行います。

アンテナハウス e-Success 接続先設定ツール

イー・サクセス

接続先設定ツール

表示名: ESUCCESS_TEST

データベース設定

表示名: ESUCCESS_TEST

サーバー名: localhost#ESUCCESS

例: dbservername、dbservername#mssql
※インスタンスを指定する場合は、サーバー名#インスタンス名を入力してください。
※ローカルPCにインストールしたDBは、サーバー名をlocalhostで指定してください。

管理者ユーザー名: sa

管理者パスワード: **** 可視

検索専用: ☐ 検索専用

新規 削除

↑ ↓

接続確認 保存

【e-Success 接続先設定ツール】の表示例

項目名	設定内容	備考
表示名	接続先を表す名称（グループ会社で使用する場合は会社名、顧客で使用する場合は顧客名など）	ここで設定した表示名が、e-Success のログイン画面にある「接続先」ドロップダウンリストの選択肢になります。
サーバー名	サーバー名	複数のインスタンスを使い分けしている場合は、 サーバー名#インスタンス名 を指定します。
管理者ユーザー名	管理者ユーザー名	管理者ユーザー名は SQL Server のインストール時に指定した管理者アカウントのユーザー ID をを入力してください（SQL Server の既定のユーザー ID は「sa」です）
管理者パスワード	管理者パスワード	パスワードは SQL Server のインストール時に指定した管理者アカウントのパスワードを入力してください（本マニュアルの既定のパスワードは「SCS%Antenna」です）

検索専用	検索専用でデータベースに接続する場合はオン	検索専用として設定した場合は、書類の検索や電子ファイルの表示、タイムスタンプの検証などの機能を利用できます。システム管理者を除くすべてのユーザーは検索担当者の権限で動作し、書類への検索用項目の入力や新しい電子ファイルの登録はできません。
------	-----------------------	--

◆注意◆ 管理者アカウントのユーザー ID を変更している場合

管理者アカウントのユーザー ID を「sa」から別なユーザー ID に変更している場合は、[管理者ユーザー名] 入力欄に変更後のユーザー ID を入力してください。

「sa」をそのまま使用されている場合は、入力欄に初期値として既に入力されておりますので、再入力は不要です。

◆ヒント◆ 既定インスタンスを使用する場合

既定インスタンス (MSSQLSERVER) でインスタンスを構築している場合は、「サーバー名」の項目にはインスタンス名を書かず IP アドレスかデバイス名のみで指定してください。

例①: 192.168.1.1

例②: ESUCCESS-DEVICE

など

◆ヒント◆ 複数のインスタンスを使い分けている場合

電帳法モードと e-文書モードの 2 つのモードを両方使用したい場合や、会社別などでデータベースを分けて利用する場合は、各モードもしくは複数の会社等用にそれぞれ専用のインスタンスを導入する必要があります。

※複数のインスタンスを使い分けて使用する場合、追加費用が発生しますので、購入元にご確認ください。

◆ヒント◆ 管理者パスワードの可視化

管理者パスワードの文字列を確認しながら入力したい場合は、管理者パスワードの入力欄右にある [可視] チェックボックスをオンにしてください。

③ [接続確認] ボタンをクリックすることで、設定した内容でデータベースに接続できることが確認できます。エラーメッセージが表示された場合は、ネットワークを介してサーバーに接続できることと、[サーバー名]、[管理者ユーザー名] および [管理者パスワード] の入力内容を確認してください。

④ データベースへの接続が確認できたら [保存] ボタンをクリックしてください。設定内容が保存されます。保存された設定は、左側の「表示名」リストボックスに設定の表示名が表示されます。

⑤ e-Success を起動して、接続できることを確認してください。

e-Success を起動すると、ログオン画面の「接続先」に設定した表示名が表示されます。複数の接続先を保存している場合、「接続先」の表示枠をクリックすると保存されている表示名の一覧がドロップダウン表示されるので、接続する表示名をクリックしてください。接続先を指定して、ユーザー ID とパスワードを入力したら [ログイン] ボタンをクリックしてください。なお、管理者ユーザーのユーザー ID とパスワードの既定値はいずれも「admin」です。

ログインに成功すると、e-Success のメインメニューが表示されます。

「e-Success のログイン画面」表示例

◆ヒント◆ データベースへの接続確認

「保存」ボタンのクリック時にもデータベースへの接続確認が行われます。接続が確認できない場合は、設定値は保存できません。

◆ヒント◆ 設定内容の保存先

e-Success 接続先設定ツールで設定した内容は、同じフォルダの [e-SuccessCSSetting] (拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-SuccessCSSetting.xml]) として保存されます。

◆注意◆ e-Success データの連携取込を行う環境

「B. e-Success データの連携取込」を行う環境は、データの出力元（連携出力を実行する環境）と「表示名」が一致していて、検索専用がオンになっている必要があります。

B. 接続先設定を参照、修正する

設定した接続先の、設定内容の確認と修正は、以下の手順で行います。

- ① e-Success 接続先設定ツールで、左側の「表示名」欄から参照したい設定の表示名をクリックすると、右側の「データベース設定」エリアに設定内容が表示されます。
- ② 設定内容の修正は、修正対象の項目を修正して、「保存」ボタンをクリックします。

- ③ 設定の削除は、左側の「表示名」欄で削除対象の表示名をクリックし、「表示名」欄の下にある「削除」ボタンをクリックします。削除の確認メッセージが表示されるので、確認メッセージの [OK] ボタンをクリックすると、設定が削除され「表示名」欄から表示名が消えます。

C. 接続先設定の内容を他のクライアントにコピーする

1 台のクライアントに設定した内容は、他のクライアントに簡単にコピーできます。以下の手順で操作してください。

- ① e-Success のインストールフォルダに保存されている [e-SuccessCSSetting] (拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-SuccessCSSetting.xml]) を USB メモリやネットワークフォルダ等にコピーします。
- ② e-Success がインストールされている別のクライアントで、e-Success のインストールフォルダに [e-SuccessCSSetting] をコピーします。

6. データベースのバックアップについて

サーバーの故障、ディスク破損等に備えて、e-Success のデータベースは、必ずデータベースファイルが保存されているディスクとは異なるディスクにバックアップしてください。

◆ヒント◆ 他のアプリケーションでバックアップしている場合

過去のバージョンを導入時に、既に他のアプリケーションを使用してデータベースのバックアップを実行されている場合は、そのまま継続して使用していただいて問題ありません。また、本項目と次の「7. バックアップをタスクスケジューラで実行」の工程の飛ばしていただいても問題ありません。

A. バックアップ方法

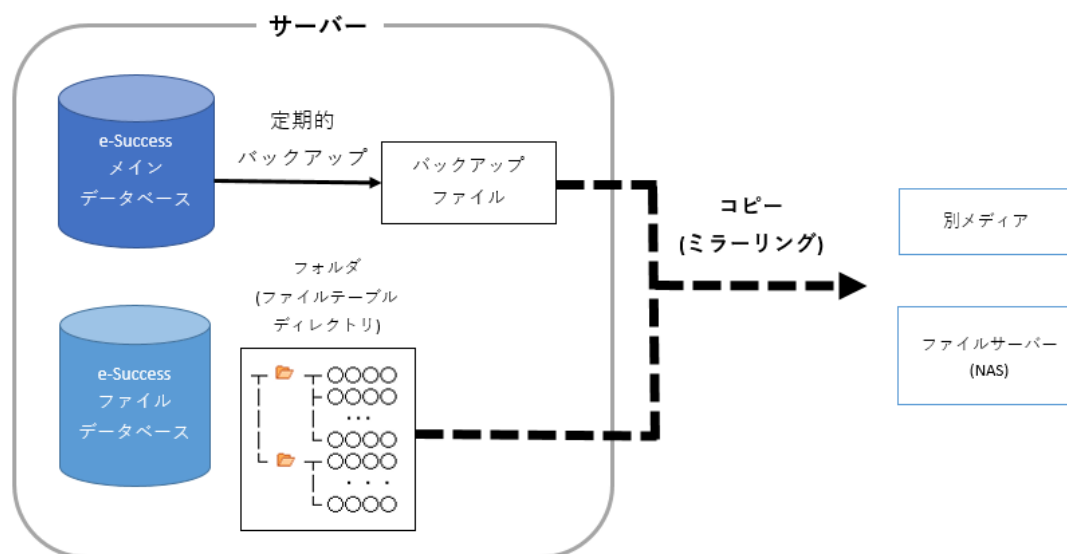
e-Success データベースのバックアップは、サーバー上で実行する「バックアップ保存 (データベースメンテナンスツール)」を使います。「バックアップ保存 (データベースメンテナンスツール)」の詳細については、運用・保守編の「2. データベースメンテナンスツール」を参照してください。

e-Success データベースでは、以下の2つがバックアップ対象になります。

- ・ メインデータベース …… 書類データや各種マスタ、システム設定情報などが格納されます。
- ・ ファイルデータベース …… 電子ファイルと、XAdES でのタイムスタンプ付与時に作成される XML ファイルが格納されます。電子ファイルが格納されるため、容量が大きくなります。

e-Success データベースは、主に次の方法でバックアップします。

① SQL Server のバックアップファイルとファイルデータベースのフォルダをコピーする方法



※ データベースメンテナンスツールについては、運用・保守編の「2. データベースメンテナンスツール」を参照してください。

e-Success のデータベースメンテナンスツールでは、メインデータベースとファイルデータベースのそれぞれに対して、完全バックアップと差分バックアップ (前回の完全バックアップ以降の更新データのみをバックアップする) を実行できます。完全バックアップと差分バックアップは、画面での対話形式でも、コマンドラインでのオプション指定でも実行可能です。

コマンドプロンプトでバックアップを実行できるので、タスクスケジューラで毎日1回定時にコマンドラインで実行するようスケジュールを組むことで、完全バックアップと差分バックアップの両方を自動実行できます。詳細はこの後の「7. バックアップをタスクスケジューラで実行」を参照してください。

ただし、ファイルデータベースの完全バックアップは、データの登録件数およびファイル容量が大きくなるにつれて、処理に要する時間が長くなります。また、マシンスペックによってもバックアップに要する時間が異なるので、自動バックアップ処理の開始時刻は、業務に支障が出ない時間帯に完了するように設定してください。

◆ヒント◆ マシンスペックとバックアップに要する時間

バックアップ処理に要する時間は、次の実測例のように、マシンスペックによって大きな差が出ます。

・バックアップ処理時間実測例①

OS:	Windows 11 Proffesional
プロセッサ	Intel Core i5-9400 @2.90GHz
メモリ	16GB
e-Success データベース	Cドライブ SSD 500G バイト
バックアップ先:	Dドライブ HDD 2T バイト
e-Success 登録件数	10,000 件
e-Success ファイルデータベース使用容量	3.5G バイト
バックアップ所要時間	約2~5分

・バックアップ処理時間実測例②

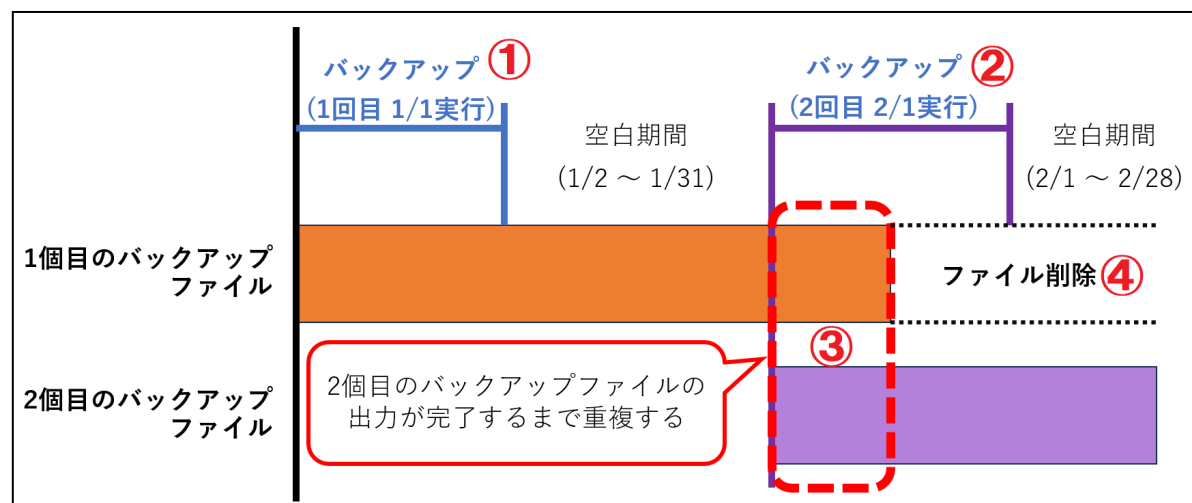
OS:	Windows Server 2016 Standard 64bit
プロセッサ	Intel Xeon E3-1220 v5 @3.00GHz
メモリ	4GB
e-Success データベース	Cドライブ HDD 500G バイト
バックアップ先:	Dドライブ HDD 500G バイト
e-Success 登録件数	4,000 件
e-Success ファイルデータベース使用容量	約1.8G バイト
バックアップ所要時間	約7~10分

◆注意◆ e-Success におけるバックアップ処理時のバックアップファイルの扱いについて

e-Success におけるバックアップ処理は、1回目を実行した際はバックアップ先のフォルダにバックアップファイルを新規で出力します。

2回目以降は、1回目の実行時にバックアップファイルを一時的に残した状態でバックアップファイルを出力し、出力が完了したら1回目のバックアップファイルを削除します。

以下は、1カ月に1度にバックアップを実行するケースを図で解説したものになります。



上の画像は、バックアップ処理を使用した

① 1/1 に「1個目のバックアップファイル」を新規で出力します。

② 2/1 に「2個目のバックアップファイル」を出力します。この時点では、バックアップ失敗などの万が一の事態に備えて、既存の「1個目のバックアップファイル」はまだ削除せずにそのまま保持します。

③ バックアップ処理中は、2つのバックアップファイルの重複して存在することになります。そのため、ストレージが圧迫しますので、必ず十分な空き容量を確保してください。

④ 「2個目のバックアップファイル」の出力が完了したら、古い「1個目のバックアップファイル」を削除します。

※バックアップファイルの出力に失敗した場合は、出力中のファイルを削除します。

また、バックアップの種類によって、2回目以降のバックアップで削除されるバックアップファイルは、異なります。

○削除対象のバックアップファイル

完全バックアップ: 古い完全バックアップファイル、差分バックアップファイル、追加・更新分のバックアップファイル

差分バックアップ: 差分バックアップファイル、追加・更新分のバックアップファイル

追加・更新分のバックアップ: 削除対象無し

バックアップしたファイルは、「バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）」の復元機能を使うことで、データベースをバックアップした時点の状態に復元できます。

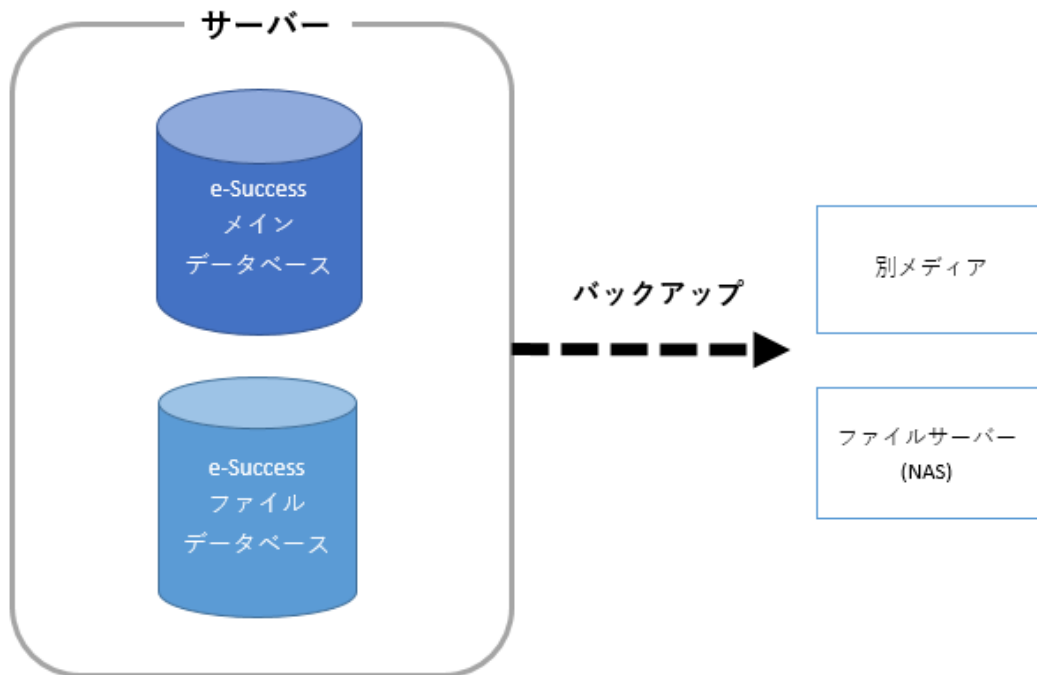
復元する際は、メインデータベースとファイルデータベースのそれぞれの完全バックアップファイルと、もし差分バックアップを行っていれば、合わせて差分バックアップファイルを必ず用意してください。

※ e-Success データベースの復元については「**14. e-Success データベースの復元**」を参照してください。

②サーバー用バックアップソフトを使用する方法

◆注意◆ サポート対象外です

e-Success のバックアップ保存（データベースメンテナンスツール）以外でのバックアップは、サポート対象外です。自己責任で運用してください。



ARCServe などのサーバー用バックアップソフトを使用して、SQL Server データベースのバックアップを行います。ただし、SQL Server のデータベースファイルは、一般的なファイルとは異なり、ロック状態（使用中の状態）となっているため、通常のバックアップソフトではコピーできません。必ず、SQL Server データベースに対応したバックアップソフトを使用してください。

◆ヒント◆ バックアップ対象のファイルテーブルディレクトリ

バックアップ対象のファイルテーブルディレクトリは、Management Studioで確認できます。確認方法については、「3.e-Success データベースの構築」-「B. e-Success データベースを確認する」を参照してください。

◆注意◆ ファイルテーブルディレクトリのミラーリング時の注意事項

ファイルテーブルディレクトリに格納される電子ファイルは、初回の登録時に格納され、タイムスタンプの付与時に更新されます（PAdES のとき）。また、XAdES の場合は、タイムスタンプ情報を保存する XML ファイルがタイムスタンプの付与時に作成され、長期化のときに更新されます。そのため、2つのフォルダについて、ファイルの追加分、更新分、削除分をミラーリングする必要があります（タイムスタンプの付与前に削除された場合はファイルが物理削除されます）。

ミラーリングツールは、ファイルの存在チェックおよびファイルサイズの比較を行うことができるものを使用してください（マイクロソフト社の Windows に標準装備されている robocopy での動作は確認済みです）。また、以下の2点についてご注意ください。

- ・ファイルテーブルディレクトリのファイルは、アーカイブフラグでの更新チェックはできないため（更新時にフラグがリセットされない）、アーカイブフラグによるミラーリングツールでは対応できません。
- ・タイムスタンプ付与時（PAdES の場合）やタイムスタンプの長期化（XAdES の場合）には、ファイルの更新日時が書き換わらないため、更新日時での更新チェックはできません。

7. バックアップをタスクスケジューラで実行

A. バックアップ保存アプリの導入と設定

◆注意◆ 事前に接続先設定ファイルの用意が必要です

接続先設定ファイル（e-SuccessCSSetting.xml）の作成方法については、導入・設定編「5. e-Success アプリケーションの接続先設定」を参照してください。

データベースのバックアップは、サーバー上で動作するデータベースメンテナンスツールで実行します。次の手順で、バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）の導入と設定をしてください。

- ① e-Success のセットアップフォルダから、[バックアップ保存] フォルダを、サーバーの任意の場所（例えば [C:\バックアップ保存] フォルダ）にコピーします。
- ② コピーした [バックアップ保存] のフォルダに、接続先設定ファイル（e-SuccessCSSetting 拡張子が表示されているコンピュータの場合は e-SuccessCSSetting.xml）をコピーします。
- ③ バックアップ保存アプリ（e-SuccessDBManagementApp）（拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-SuccessDBManagementApp.exe]）を起動します。
- ④ バックアップ保存アプリ（e-SuccessDBManagementApp.exe）が起動すると、ログイン画面が表示されます。処理対象の接続先を選択して、システム管理者権限のユーザーでログインしてください。ログインに成功すると、データベースメンテナンスツールの設定画面が表示されます。

ログイン画面

年月	書類データ件数	電子ファイル件数
2021/07	5	5
2021/06	45	45
2020/03	1	1
2017/11	20	20
2017/10	98	98
2017/09	98	98
2017/08	98	98
2016/12	98	98
2016/11	98	98
2016/10	98	98
2016/09	181	181
2016/08	1292	1292
2016/03	1	1
2011/01	1	1

ログイン後の画面

- ⑤ バックアップファイルの出力先のフォルダを指定します。「バックアップフォルダ」項目右側の「フォルダを選択」ボタンをクリックして、出力先のフォルダを指定してください。

バックアップフォルダ	
D:\backup	フォルダを選択

◆ヒント◆ バックアップフォルダがネットワークドライブの場合

バックアップファイルの出力先をネットワークドライブに指定する場合は、SQL Server インスタンスが、ネットワークドライブへアクセスできるように相互にバックアップ用のアカウントを用意して設定する必要があります。

設定方法の詳細は、E. バックアップ先をネットワークドライブに設定 ID Not Found: 202311101740.xhtml#e.202311101740.E_2e_20 バックアップ先をネットワークドライブに設定を確認してください。

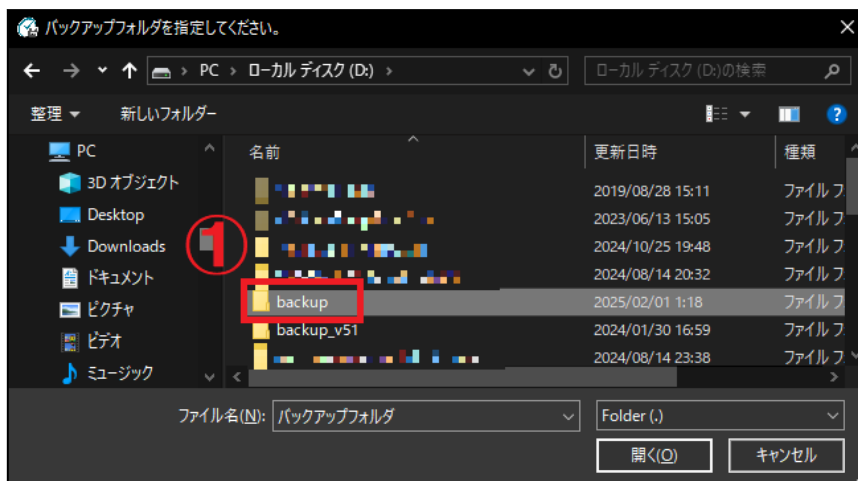
◆注意◆ バックアップフォルダ選択時の注意事項

バックアップフォルダを選択する際は、マイクロソフト公式のファイルダイアログを使用します。

そのため、バックアップフォルダを選択して「開く」をクリックすると、ダイアログが閉じてバックアップ先が登録されるのではなく、フォルダの中身がダイアログに表示されてしまいます。

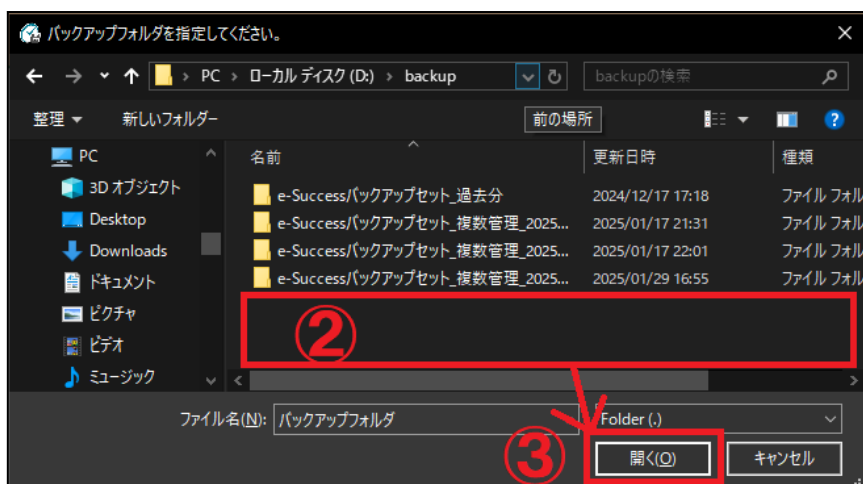
これを対策する方法は次の通りです：

- ① バックアップ先のフォルダをクリックします。もしファイルダイアログが表示された時点でバックアップ先のフォルダの中が開かれている場合でも、一つ上のフォルダの階層に戻り、再びバックアップ先のフォルダをクリックし直してください。



- ② バックアップ先として使用したいフォルダを開いた状態で、アイコンのない箇所をクリックして、階層にあるフォルダにフォーカスが当たらない状態にします。

- ③ 「開く」ボタンをクリックします。



⑥ 次に、バックアップ時に各種ログの記録、メールの送信設定を行います。[稼働設定] をクリックすると、次のように設定画面が表示されます。設定ができれば [OK] ボタンをクリックしてください。

イベントログの設定
Windows のイベントログに、バックアップの結果を記録します
イベントログ: ☐ しない ☒ する

ファイルログの設定
バックアップ結果を、logフォルダの中にログを記録します。
ファイルログ: ☐ しない ☒ する

メールの送信設定
e-SuccessMLSetting.xmlで設定した宛先に、バックアップ結果・緊急連絡を通知します
メール送信: ☐ しない ☒ する

バックアップファイルの複数管理
これまでのバックアップファイルをフォルダにまとめて日付ごとに管理できるように設定します。
複数管理: ☐ しない ☒ する
フォルダの最大管理数: フォルダ
※バックアップファイルをフォルダにまとめる処理は、「完全バックアップ」実行時に合わせて実行されます。フォルダに入る対象のファイルは「完全」「差分」「追加・更新」の各バックアップファイルになります。
※出力したフォルダ数が「フォルダの最大管理数」を超えると、自動的に最も古いフォルダを削除します。

OK

キャンセル

設定項目	設定内容
イベントログ	Windows のイベントログに、バックアップ結果を記録する場合は「する」を選択します。
ログファイルの出力	バックアップ結果をログファイルに出力する場合は「する」を選択します。ログファイルは、e-SuccessDBMaintenanceApp.exe と同じ階層にある log ファイルに出力されます。
メール送信	バックアップ結果をメールで通知させたい場合は「する」を選択します。メール送信には、コピーした [バックアップ保存アプリ] のフォルダ内に、メール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml) をコピーしておく必要があります。
バックアップファイルの複数管理	メインデータベースとファイルデータベースの前のバックアップファイルを上書きせず、別のフォルダにまとめて管理したい場合は「する」を選択してください。完全バックアップすると、合わせてバックアップ先のフォルダに「e-Success バックアップセット複数管理 [日時]」というフォルダを作成して前回のバックアップファイルをまとめます。 対象のバックアップファイルは、前回の「完全バックアップ (.sfb)」とそれ以降の「差分バックアップ (.sib)」「追加・更新分バックアップ (.saub)」です。 「e-Success バックアップセット複数管理 [日時]」フォルダの数は、「最大管理数」で設定した数だけ管理されます。完全バックアップを実行してフォルダの数が「最大管理数」を超える場合は、最も古いフォルダを削除して新しいフォルダを追加します。「最大管理数」は、1～999 まで設定できます。

◆参照◆ メール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml)

メール送信で使用するメール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml) の作成方法については、導入・設定編「10. メール設定ファイルの保存」を参照してください。

◆ヒント◆ エラーが起きた場合のメールの送信先

バックアップ処理中にエラーが発生した時、「エラーの送信先アドレス」にメールアドレスが記入されていると「エラーの送信先アドレス」の宛先にメールが送信されます。

もし無記入の場合は、「送信先アドレス」に設定されているメールアドレスに送信されます。

「エラーの送信先アドレス」の設定は、「10. メール設定ファイルの保存」を確認してください。

◆ヒント◆ バックアップファイルの複数管理設定例

例えば、以下のように設定したとします。

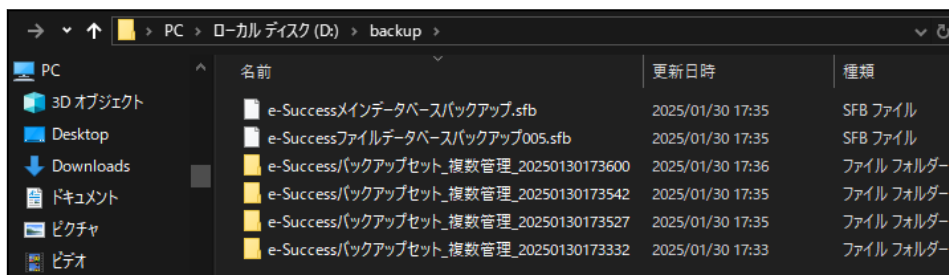
○設定例

*バックアップファイルの複数管理: (使用)する *最大管理数: 4 フォルダ

※バックアップフォルダが空の状態とします。

設定例の内容で「完全バックアップ」を5回実行すると、バックアップフォルダには以下のファイルとフォルダが作成されます。

- ・最新の完全バックアップファイル
e-Success メインデータベースバックアップ.sfb
e-Success ファイルデータベースバックアップ[番号].sfb
- ・e-Success バックアップセット_複数管理_20250130173600 (4回目) ※最も新しい
- ・e-Success バックアップセット_複数管理_20250130173542 (3回目)
- ・e-Success バックアップセット_複数管理_20250130173527 (2回目)
- ・e-Success バックアップセット_複数管理_20250130173332 (1回目) ※最も古い



個々からさらに、6回目の完全バックアップ実行すると、新しい「e-Success バックアップセット複数管理[日時]」が1つ作成され、フォルダが5つになります。

この時点で「最大管理数」を超えるため、1回目の最も古いフォルダが削除されます。

○補足

「最大管理数」を4フォルダに設定したとして、バックアップフォルダに「e-Success バックアップセット複数管理[日時]」フォルダが7フォルダあるとします。

この状態で完全バックアップを実行すると、新しい「e-Success バックアップセット複数管理[日時]」が1つ作成され、フォルダが8つになります。「最大管理数」を超えるため、古い4フォルダが削除されます。

⑦ 登録が完了したらを [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

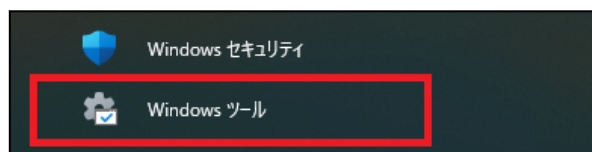
B. 自動バックアップをタスク登録

① Windows のタスクスケジューラを起動して、自動バックアップのタスクを登録します。タスクスケジューラの左側のペインで「タスクスケジューラ（ローカル）」→「タスクスケジューラライブラリ」を選択して、右側の「操作」ペインで「タスクの作成」をクリックします。



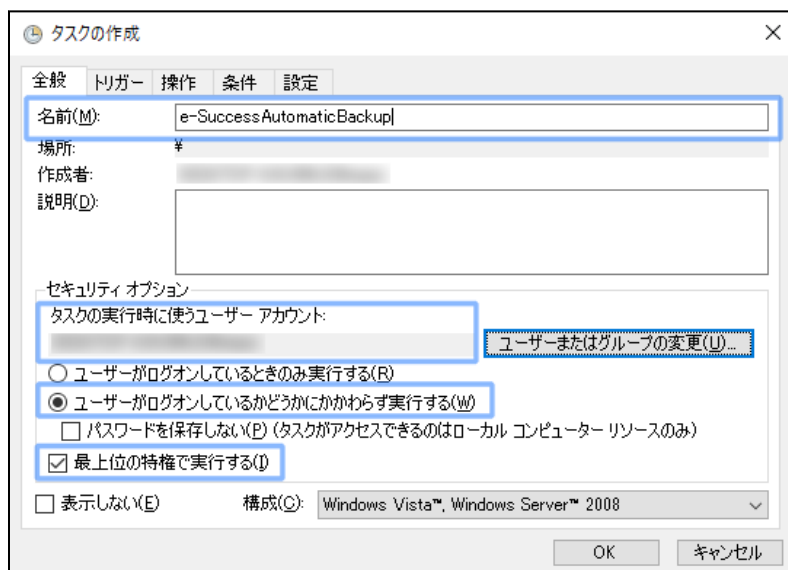
◆ヒント◆ Windows Server 2022 でのタスクスケジューラの開き方

Windows Server 2022 の場合、[スタートメニュー] の [すべてのアプリ] の [Windows ツール] を起動して、表示される Windows ツールのウィンドウから [タスクスケジューラ] を選択してください。



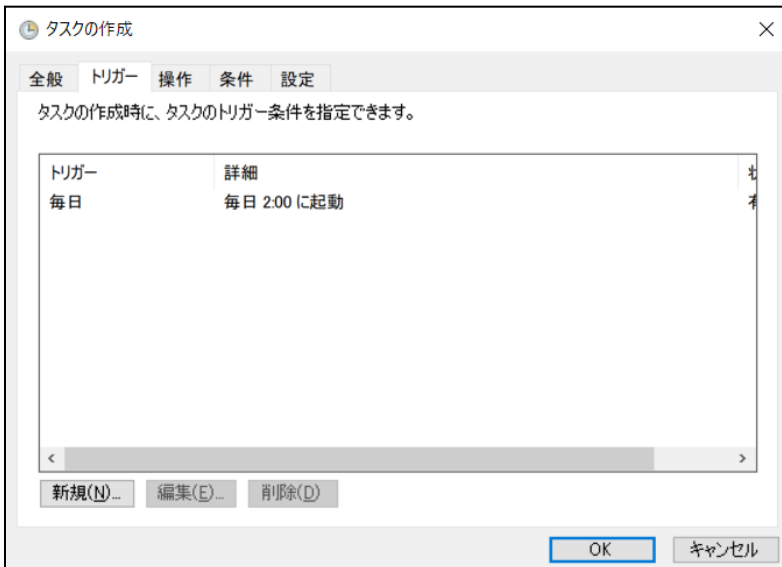
② 「タスクの作成」ダイアログでは、次のように設定してください。

[全般] タブ



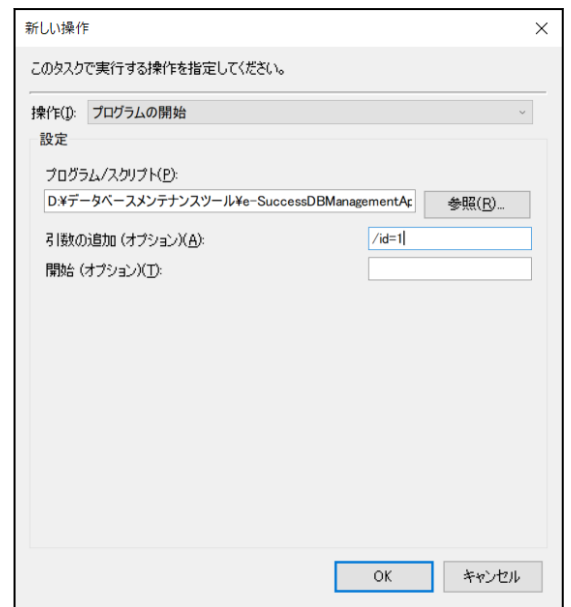
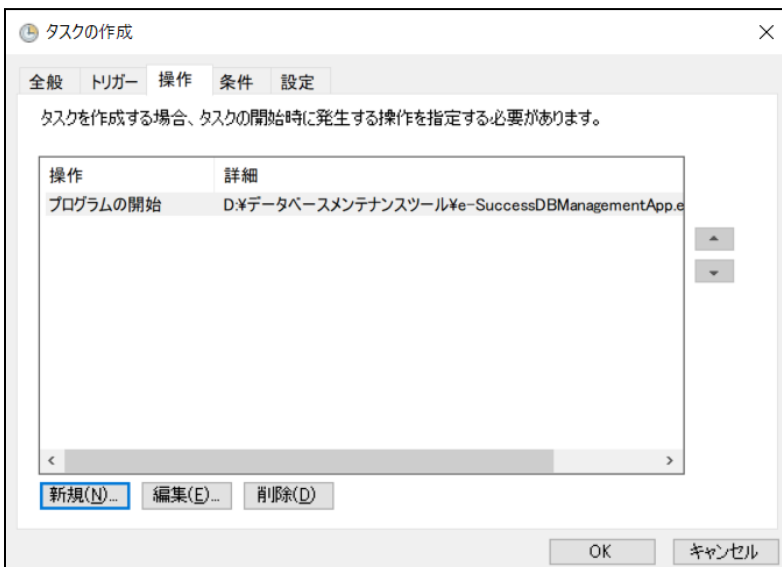
設定項目	設定内容
名前	任意の名前（例えば e-SuccessAutomaticBackup）
タスクの実行時に使うユーザーアカウント	実行可能な Windows ユーザーを指定し、「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択して、「最上位の特権で実行する」チェックボックスをオンにします

〔トリガー〕 タブ



〔トリガー〕 タブをクリックし、〔新規〕 ボタンをクリックして、実行のトリガー（スケジュール）を設定してください。上の例は毎日深夜2時に実行する設定を行ったものです。

〔操作〕 タブ



〔操作〕 タブをクリックし〔新規〕 ボタンをクリックすると「新しい操作」ダイアログが表示されます。「新しい操作」ダイアログで、〔プログラム/スクリプト〕項目に〔バックアップ保存〕フォルダの〔e-SuccessDBManegementApp〕（拡張子が表示されているコンピュータの場合は〔e-SuccessDBManegementApp.exe〕）を設定します。〔引数の追加〕項目には「/id=n」と指定してください（「/id=1」のように n には接続先設定ファイル内の ID タグの値を指定します。通常は 1 からの連番になります）。

◆ヒント◆ 差分バックアップの設定

差分バックアップは、引数に「/diff」を追加することで実行することができます。差分バックアップを実行したい場合は、〔引数の追加〕項目に「/id=n」の指定とセットで「/diff」を追加してください。
差分バックアップの詳細は、「B. e-Success データベースを手動で差分バックアップする」になります。

引数の追加の入力例: /id=1 /diff

◆ヒント◆ 追加・更新分バックアップ(トランザクションログバックアップ)の設定

追加・更新分バックアップ(トランザクションログバックアップ)は、引数に「/incre」を追加することで実行することができます。追加・更新分バックアップを実行したい場合は、[引数の追加]項目に「/id=n」の指定とセットで「/incre」を追加してください。

追加・更新分バックアップの詳細は、「C. e-Success データベースを手動で追加・更新分バックアップする」になります。

引数の追加の入力例: /id=1 /incre

◆ヒント◆ 各バックアップを組み合わせる曜日ごとに実行

e-Success では、タスクスケジューラを使用して定期的にデータベースのバックアップを実行することを推奨しております。

また、完全/差分/追加・更新分と組み合わせるそれぞれの曜日に1日1回実行するのがオススメで、例えば、完全バックアップを週1回、差分バックアップと追加・更新分バックアップはをほぼ毎日実行する、というような組み合わせを推奨しております。

以下は、タスクスケジューラの詳細な設定例の紹介となります。

○タスクスケジューラの設定例

完全と差分の2種の組み合わせ(実際にご利用されているユーザーの実例)

- ・完全バックアップ 毎週 土曜 2:00 に実行
- ・差分バックアップ 毎週 日月火水木金 2:00 に実行

完全と差分、追加・更新分の3種の組み合わせ

- ・完全バックアップ 毎週 土曜 2:00 に実行
- ・追加・更新分バックアップ 毎週 日月火木金 2:00 に実行
- ・差分バックアップ 毎週 水曜 2:00 に実行

③ 設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックし、アカウント情報を入力してタスクを保存します。タスクをテスト実行する場合は、タスクスケジューラの一覧で作成したタスクを選択し、右側の[操作]パネルで[実行]をクリックします。

④ バックアップが完了すると、「A. バックアップ保存アプリの導入と設定」で設定したバックアップフォルダにメインデータベースとファイルデータベースの各バックアップファイルが出力されます。

■ e-Successバックアップセット_過去分	2020/07/09 15:55
■ e-Success年月指定エクスポート_20200709154315	2020/07/09 15:43
□ e-Successファイルデータベースバックアップ003.sfb	2020/07/09 15:55
□ e-Successファイルデータベースバックアップ003_差分.sib	2020/07/09 15:56
□ e-Successメインデータベースバックアップ.sfb	2020/07/09 15:55
□ e-Successメインデータベースバックアップ_差分.sib	2020/07/09 15:56

ファイル名	説明
e-Success メインデータベースバックアップ.sfb	メインデータベースの完全バックアップファイル
e-Success メインデータベースバックアップ_差分.sib	メインデータベースの差分バックアップファイル
e-Success メインデータベースバックアップ_追加更新_Y.saub	メインデータベースの差分バックアップファイル。Yは、追加・更新分バックアップの実行番号。
e-Success ファイルデータベースバックアップXXX.sfb	ファイルデータベースの完全バックアップファイル。XXXは、現在稼働しているファイルデータベースの番号
e-Success ファイルデータベースバックアップXXX_差分.sib	ファイルデータベースの差分バックアップファイル。XXXは、現在稼働しているファイルデータベースの番号
e-Success ファイルデータベースバックアップXXX_追加更新_Y.saub	ファイルデータベースの差分バックアップファイル。XXXは、現在稼働しているファイルデータベースの番号。Yは、追加・更新分バックアップの実行番号。

出力した各完全バックアップファイルと差分バックアップファイルは、別のサーバーマシンに e-Success データベースを移行するときや、データベースに障害が発生した場合の、データベースの復旧時に使用します。

データベースの復元は、バックアップ保存アプリの復元機能で実行します。詳細は「**14. e-Success データベースの復元**」を参照してください。

※ 差分バックアップまたは追加・更新分バックアップを用いてデータベースを復元する場合は、必ず完全バックアップファイルとセットで、バックアップ保存アプリで設定したバックアップフォルダに入れてください。

実行結果については、バックアップ保存アプリの「稼働設定」画面で設定したログファイル/イベントログ/メールで確認してください。また、同時にデータベースにもログが格納されるため、e-Success アプリケーションおよびデータベースメンテナンスツールでも実行結果を参照できます（この後の「C. ログファイルの内容」「D. バックアップログの参照」を参照してください）。

◆注意◆ バックアップタスク実行中の他のタスクと操作について

完全/差分/追加・更新分バックアップタスクを実行中、データベースメンテナンスツール以外の他のタスクの実行と e-Success の操作は可能ですが、サーバーに大きな負荷が掛かるため推奨いたしません。また、バックアップ実行中に書類データの入力と各種取込処理などを実行した場合、新規で登録したデータはバックアップされません。タスクスケジューラで新規のバックアップのタスクを作る際は、なるべく他のタスクの実行時刻と被らないようにしてください。

◆注意◆ タスクの優先度を設定

作成したタスクの優先度が低いと、他のタスクが実行されている中で定刻になってもタスクが実行されない場合があります。そのため、確実に実行したい場合は、必ずタスクに優先度を高く設定するようにしてください。設定方法は、以下のようになります。

- ① 作成したタスクを右クリックし、「エクスポート」をクリックします。
 - ② 出力先を指定し、XML ファイルを出力します。
 - ③ 出力した XML ファイルの「priority」タグ内の数値を変更します。
数値は 0～10 までとなっており、数値が小さいと優先度が高くなり、数値が大きいと優先度が低くなります。優先度を高くする場合は、なるべく 1～4 の値を入れてください。
 - ④ 「priority」タグを変更したら、XML ファイルを保存します。
 - ⑤ 作成したタスクを右クリックし、「削除」をクリックします。
 - ⑥ ウィンドウ右の「タスクスケジューラライブラリ」の「タスクのインポート」を選択します。
 - ⑦ ③④で更新した XML ファイルを指定して、タスクを新たに登録します。
- 以上で、タスクの優先度の設定は完了となります。

◆注意◆ 差分バックアップと追加・更新分バックアップの違いについて

○差分バックアップ

差分バックアップは、前回の完全バックアップ以降に変更されたデータのみをバックアップします。

メリット	復元処理の処理時間が追加・更新分バックアップよりも早く、ファイルの管理が完全バックアップ同様、メインデータベースとファイルデータベース、それぞれ1つのバックアップファイルで済みます。
デメリット	追加・更新分バックアップのバックアップファイルよりも容量が大きいです
復元時の注意事項	完全バックアップと最新の差分バックアップが必要です。

差分バックアップの詳細は、「B. e-Success データベースを手動で差分バックアップする」になります。

○追加・更新分バックアップ（トランザクションログバックアップ）

追加・更新分バックアップは、前回のバックアップから追加・更新データをバックアップする処理になります。そのため、追加・更新分バックアップファイルは、バックアップを実行するごとに新しくバックアップファイルが出力されます。
※前回のバックアップの対象は、「完全バックアップ」「差分バックアップ」「追加・更新分バックアップ」が対象となります。

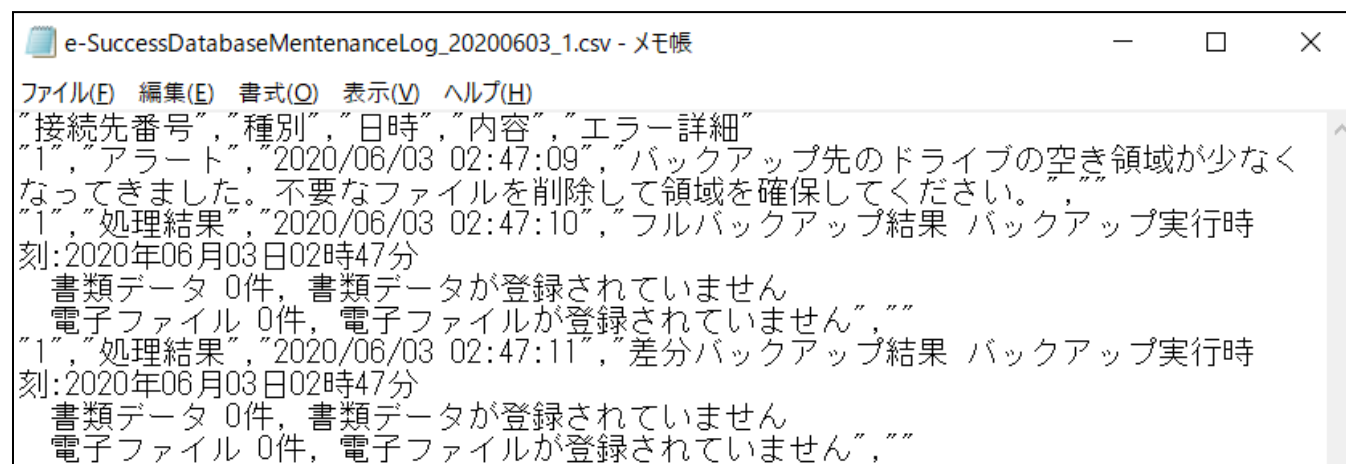
メリット	バックアップ処理が差分バックアップよりも速いです。容量も少なく済みます。
デメリット	復元処理の処理時間が差分バックアップからの復元よりも遅いです。バックアップファイルを複数ファイル管理する必要があります。
復元時の注意事項	完全バックアップ、差分バックアップ（必要な場合）、および全ての追加・更新分バックアップが必要です。

追加・更新分バックアップの詳細は、「C. e-Success データベースを手動で追加・更新分バックアップする」になります。

C. ログファイルの内容

ログファイルは、処理日別、接続設定ファイル ID 別に、e-SuccessDatabaseMaintenanceLog_yyyymmdd_n.csv (yyymmdd は処理日、n は指定された接続先設定ファイルの ID) として出力されます。同日に複数回実行した場合は、同じログファイルの末尾に追記されます。

ログファイルの例：



エラーやアラートが発生した場合は、次のログが出力されます。ここに掲載されていないログが出力された場合は、サポートにお問い合わせください。なお、Windows のイベントログには、イベント ID 「513xx」 でログが記録されます。

バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）自動バックアップ時のエラー、アラートログ一覧

ログ種別	ログの内容	対応方法
エラー	既に起動しています。	バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）が既に起動している状態です。
エラー	データベース接続設定ファイルがありません。接続先設定ツールで、データベース接続設定ファイルを準備してください。	接続先設定ファイル e-SuccessCSSetting.xml は、e-SuccessDBManagementApp.exe と同じ階層においてください。
エラー	データベース接続設定ファイル内に接続先がありません	接続先設定ファイル e-SuccessCSSetting.xml に接続するインスタンスの情報を記録していません。接続先設定ツールで接続先を作成してください。
エラー	設定ファイル内に ID の重複があります。	接続先の ID が重複しています。重複しないようにナンバリングしてください
エラー	起動パラメータ ID が不正です。	起動パラメータ id に不正な値が入力されました。接続先設定ファイル e-SuccessCSSetting.xml に記録している接続先の ID を指定してください。
エラー	接続先番号 [インスタンスの ID] の処理中に例外が発生しました。	自動バックアップ処理中に例外なエラーが発生しました。この場合、サポートセンターに問い合わせてください。
エラー	バックアップフォルダが設定されていません。	バックアップファイルの出力先が設定されていません。バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）で、バックアップフォルダを設定してください。
エラー	バックアップ先のドライブの空き領域が不足しています。	バックアップ先のドライブの空き容量が無くなると通知します。
アラート	バックアップ先のドライブの空き領域が少なくなってきました。不要なファイルを削除して領域を確保してください。	バックアップ先のドライブの使用容量が9割を超えると、アラートを通知します。
エラー	フォルダが作れませんでした。	バックアップ先にフォルダが作れませんでした。バックアップファイル出力先を正しく指定してください。
エラー	バックアップに失敗しました。	データベース上の何らかの原因でバックアップに失敗しました。

ログ種別	ログの内容	対応方法
エラー	差分バックアップファイルの削除に失敗しました。	バックアップファイルが使用中かファイルを扱う権限ないため、削除に失敗しました。
エラー	リネームに失敗しました。	バックアップファイルが使用中か、リネーム後のファイル名と同じファイル名がフォルダ内に既に存在していると、リネームに失敗します。
エラー	データベースの更新に失敗しました。	e-Success 接続先設定ツールの接続確認機能を使用して、自動タイムスタンプ付与処理が実行されているコンピュータから e-Success データベースが参照できることを確認してください。
エラー	ログファイルの出力先フォルダが存在しないため、ログファイルを生成できませんでした。	タイムスタンプ処理設定画面で、ログファイルのフォルダ指定が正しいこと、フォルダが存在していることを確認してください。
エラー	メール送信用設定ファイルがありません。	プログラムのフォルダ内にメール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml) が格納されていることを確認してください。
エラー	メール送信できません。	メール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml) が正しい設定値になっていることを確認してください。

◆ヒント◆ バックアップファイルの複数管理機能のログ

バックアップファイルの複数管理機能のログは、前回のバックアップファイルの移動先を記録します。

バックアップセット複数管理_保存結果

処理実行日時: 2025年04月01日15時44分
 前回の完全バックアップファイルが見つかりました。
 前回の完全バックアップからこれまで実行した「差分」「追加・更新分」のバックアップファイルを、下記のパスに移動させました。
 D:\backup\e-Success\バックアップセット_複数管理_20250401154459

バックアップ先のフォルダに前回のバックアップファイルが見つからない場合は、以下のようにログが残ります。

バックアップセット複数管理_保存結果

処理実行日時: 2025年04月01日16時02分
 バックアップフォルダ内に前回の完全バックアップファイルが見つからなかったため、今回の処理では管理フォルダを作成しませんでした。

D. バックアップログの参照

データベースに格納されているバックアップログは、e-Success アプリケーションの「データベースメンテナンス」機能でも、バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）からでも参照できます。

e-Success アプリケーションでは、メインメニューで「データベースメンテナンス」をクリックし、「バックアップログ」タブをクリックすると、バックアップログが表示されます。

The screenshot shows the 'e-Success データベースメンテナンスツール' (e-Success Database Maintenance Tool) window. The 'データベースメンテナンスツール' (Database Maintenance Tool) tab is active. The 'バックアップログ' (Backup Log) tab is selected. The interface displays a table of backup logs with columns: バックアップ日時 (Backup Time), 担当者 (Operator), 種別 (Type), 書類データ件数 (Document Data Count), 書類データ最終更新日時 (Document Data Last Update Time), 電子ファイル件数 (Electronic File Count), 電子ファイル最終更新日時 (Electronic File Last Update Time), XMLファイル件数 (XML File Count), and a dropdown menu. The table lists various backup operations, including alerts and maintenance tasks, with counts and timestamps.

①バックアップログは、「日付」で確認したい日付の範囲を指定して、ログを検索することができます。また、更に分類を「すべて」に選択すると、指定した日付の範囲内の通常のログ、エラーログ、アラートログの全ての分類を表示します。分類が「エラーとアラートのみ」の場合は、指定した日付の範囲内のエラーログとアラートログの2つの分類のみを表示します。データベースメンテナンスツールを起動した際、初めの既定値は、「日付」が現在の日付から「6日前以降の範囲」で指定されており、「分類」は「すべて」の分類で検索されています。

The screenshot shows the search filters for the 'バックアップログ' (Backup Log) tab. The '日付' (Date) field is set to '2021/10/05' and is highlighted with a red box and the number ①. The '分類' (Classification) field is set to 'すべて' (All) and is highlighted with a red box and the number ②. The '検索' (Search) button is highlighted with a red box and the number ③.

以下は、検索後、一覧表に表示される項目と詳細な内容になります。

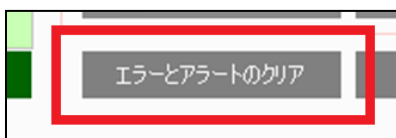
バックアップログの各項目の詳細

項目名	詳細
バックアップ日時	バックアップを実行した日時。
担当者	バックアップを実行した担当者名。自動バックアップを実行した際は、「自動バックアップ処理」と表示します。
種別	バックアップの種別。 自動（フル）：自動で完全バックアップを実行 自動（差分）：自動で差分バックアップを実行 自動（追加・更新）：自動で追加・更新分バックアップを実行 メンテナンス（フル）：画面操作で完全バックアップを実行。 メンテナンス（差分）：画面操作で差分バックアップを実行。 メンテナンス（追加・更新）：画面操作で追加・更新分バックアップを実行 メンテナンス（指定）：「指定の月をエクスポート」を実行 複数管理処理：複数管理フォルダの実行ログ（稼働設定で「バックアップファイルの複数管理」を使用するに設定している時のみ動作） エラー：バックアップに失敗。 アラート：バックアップ先の容量が少ないなどの注意。
書類データ件数	バックアップした書類データの件数。 完全バックアップの場合は、完全バックアップ処理を実行した書類データの全件数を表示します。 差分バックアップの場合は、最後の完全バックアップから追加更新した書類データの件数を表示します。 「指定の月をエクスポート」の場合は、選択した年月の書類データの件数を表示します。
書類データ最終更新日時	各バックアップ当時の書類データの中で最も新しい最終更新日時を表示します。なお、「指定の月をエクスポート」の場合は、最終更新日時は表示されません。
電子ファイル件数	各バックアップ当時の電子ファイルの中で最も新しい最終更新日時を表示します。なお、「指定の月をエクスポート」の場合は、最終更新日時は表示されません。 完全バックアップの場合は、完全バックアップ処理を実行した電子ファイルの全件数を表示します。 差分バックアップの場合は、最後の完全バックアップから追加更新した電子ファイルの件数を表示します。 「指定の月をエクスポート」の場合は、選択した年月の電子ファイルの件数を表示します。
電子ファイル最終更新日時	各バックアップ当時の電子ファイルの中で最も新しい最終更新日時を表示します。なお、「指定の月をエクスポート」の場合は、最終更新日時は表示されません。
XAdES 用 XML ファイル件数	バックアップした XAdES 用 XML ファイルの件数。 完全バックアップの場合は、完全バックアップ処理を実行した XAdES 用 XML ファイルの全件数を表示します。 差分バックアップの場合は、最後の完全バックアップから追加更新した XAdES 用 XML ファイルの件数を表示します。 「指定の月をエクスポート」の場合は、選択した年月の XAdES 用 XML ファイルの件数を表示します。
XAdES 用 XML ファイル最終更新日時	各バックアップ当時の XAdES 用 XML ファイルの中で最も新しい最終更新日時を表示します。なお、「指定の月をエクスポート」の場合は、最終更新日時は表示されません。
結果	バックアップ結果についての詳細を表示します。主に、エラー内容を特定する際に使用します。

エラーのログの行は、薄いピンク色で表示され、アラートのログの行は、黄色に表示されます。
バックアップログに新しくエラーもしくはアラートの情報が記録されると、e-Success アプリケーションのメインメニューには「データベースメンテナンス」ボタンの右に「エラーあり」アイコンが表示されます。

■ データベースメンテナンス エラーあり

エラー、アラートの内容確認後、アイコンを消すときは、画面右上の「エラーとアラートのクリア」ボタンを押すことで、アイコンを消すことができます。



E. バックアップ先をネットワークドライブに設定 (オプション)

データベースをネットワークドライブに指定することも可能です。

ただし、ローカルドライブの設定とは違い、バックアップ先の設定とは別に、SQL Server のインスタンスが、バックアップ先であるネットワークドライブへログインするためのアカウントの設定が必要になります。

ここでは、ネットワークドライブへバックアップできるようにするまでの方法をご紹介します。

◆注意◆ 説明するに当たって使用する Windows OS

本方法では SQL Server インスタンスを稼働させているバックアップ元のマシンを Windows 10 Pro、バックアップ先のマシンを Windows 11 Pro の 2 台のマシンを使用しての解説します。

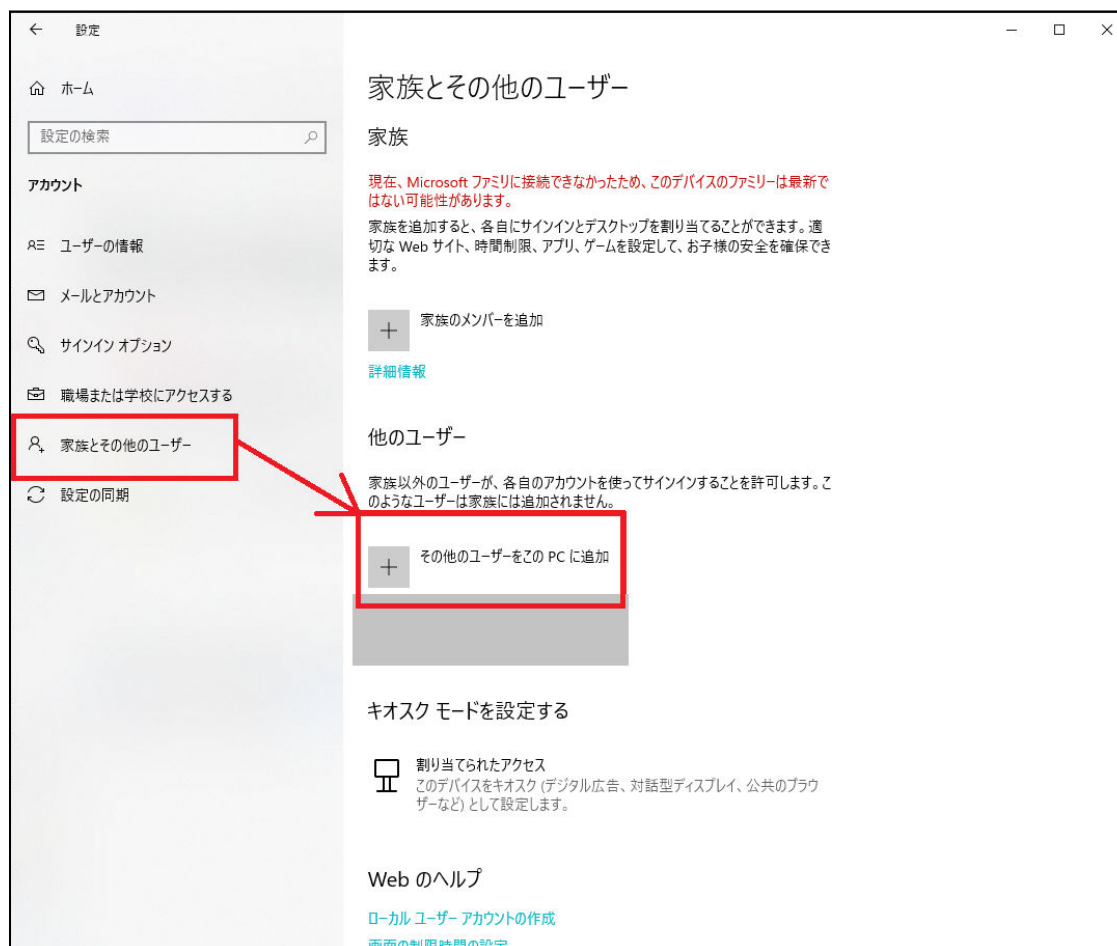
他の Windows OS を使用する場合は、OS のバージョンを読み換えて操作してください。また、画面の表示など異なる部分については、適宜該当する操作を行ってください。

① 初めにバックアップ元 (Windows 10 Pro) のマシンへアクセスし、SQL Server インスタンスがログインするためのバックアップ用の Windows アカウントを作成します。

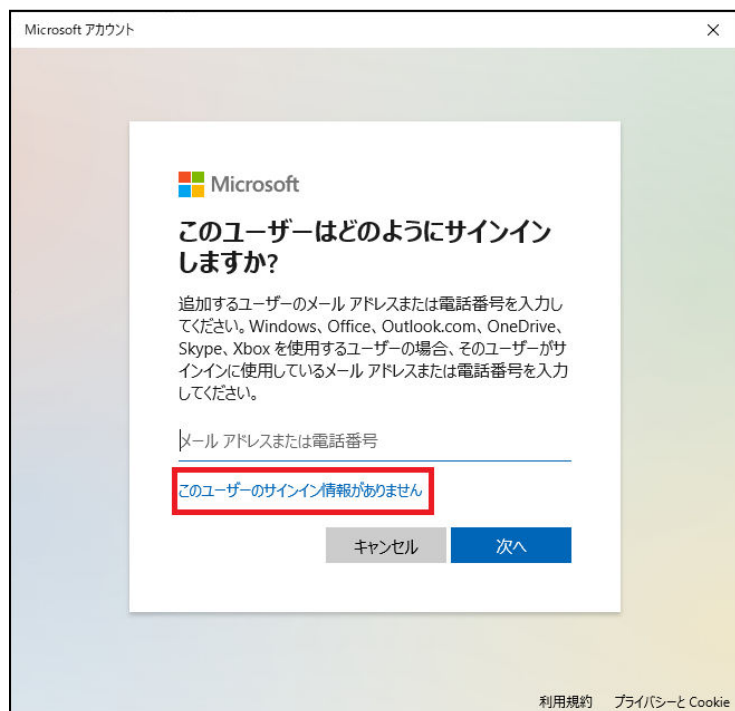
スタートメニューより「設定」を選択します。

② 設定のウィンドウが開いたら「アカウント」をクリックします。アカウントの設定が開かれるので、ウィンドウ左の「家族とその他のユーザー」を選択します。

その語、「その他のユーザーをこの PC に追加」をクリックします。

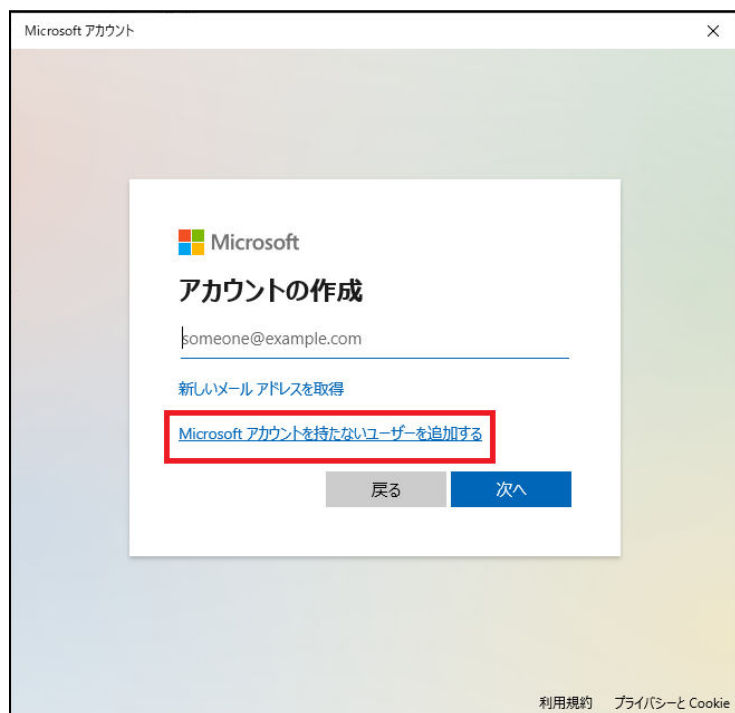


- ③ アカウント作成ウィンドウが表示されます。「このユーザーのサインイン情報がありません」をクリックします。



The screenshot shows the 'Microsoft アカウント' (Microsoft Account) window. The title bar says 'Microsoft アカウント' with a close button. The main content area has the Microsoft logo and the heading 'このユーザーはどのようにサインインしますか?' (How does this user sign in?). Below this, it says '追加するユーザーのメール アドレスまたは電話番号を入力してください。Windows、Office、Outlook.com、OneDrive、Skype、Xbox を使用するユーザーの場合、そのユーザーがサインインに使用しているメール アドレスまたは電話番号を入力してください。' (Enter the email address or phone number of the user you want to add. If the user uses Windows, Office, Outlook.com, OneDrive, Skype, or Xbox, enter the email address or phone number they use to sign in.). There is a text input field with the placeholder 'メール アドレスまたは電話番号'. Below the input field, the message 'このユーザーのサインイン情報がありません' (This user does not have sign-in information) is highlighted with a red box. At the bottom, there are two buttons: 'キャンセル' (Cancel) and '次へ' (Next). The footer contains links for '利用規約' (Terms of Use), 'プライバシーと Cookie' (Privacy and Cookies), and a close button.

- ④ 「Microsoft アカウントを持たないユーザーを追加する」を選択します。



The screenshot shows the 'Microsoft アカウント' (Microsoft Account) window. The title bar says 'Microsoft アカウント' with a close button. The main content area has the Microsoft logo and the heading 'アカウントの作成' (Create account). Below this, there is a text input field with the placeholder 'someone@example.com'. Below the input field, it says '新しいメール アドレスを取得' (Get a new email address). Below this, the option 'Microsoft アカウントを持たないユーザーを追加する' (Add a user without a Microsoft account) is highlighted with a red box. At the bottom, there are two buttons: '戻る' (Back) and '次へ' (Next). The footer contains links for '利用規約' (Terms of Use), 'プライバシーと Cookie' (Privacy and Cookies), and a close button.

⑤ ユーザーを作成するための入力項目が表示されますので、任意の「ユーザー名」「パスワード」「秘密の質問」を入力します。

本マニュアルでは、ユーザー名の例を「BackupUser」で設定します。
項目を入力し終わったら、「次へ」をクリックします。

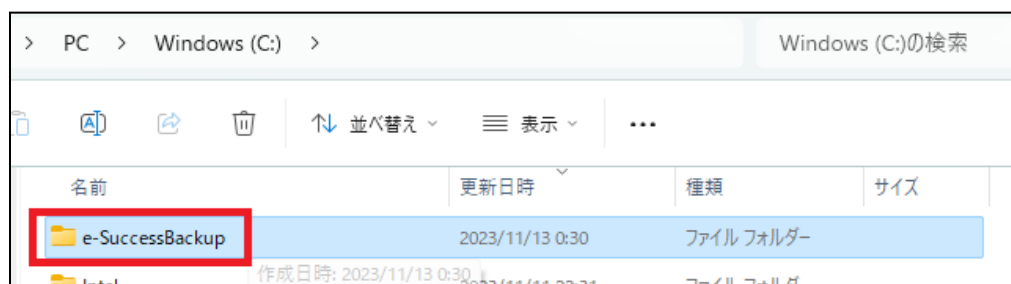
⑥ バックアップ元にバックアップ用の Windows アカウントが作成されたことを確認します。

⑦ この ①～⑥ の工程を バックアップ先 (Windows 11 Pro) でも同様に行います。またバックアップ先で設定する「ユーザー名」「パスワード」については、必ずバックアップ先で作成した「ユーザー名」「パスワード」と合わせてください。

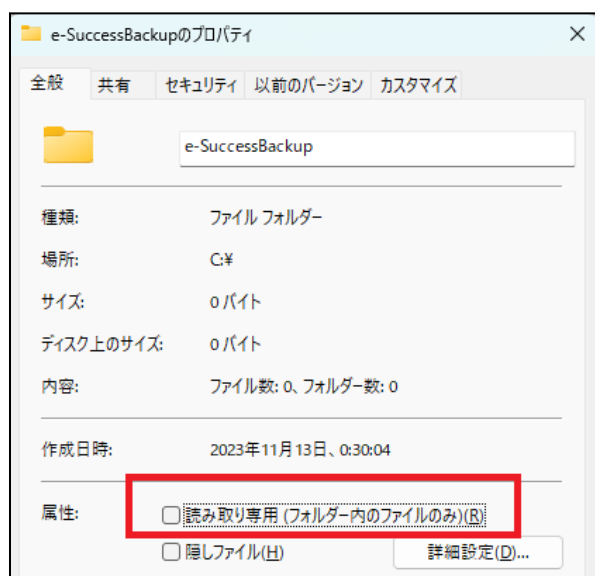
Windows 11 Pro でローカルアカウントを作成する場合は、以下の手順に沿ってウィンドウ開いてください。

- 1) 「設定」アプリを起動
- 2) ウィンドウ左より「アカウント」を選択
- 3) アカウントのメニューより「他のユーザー」を選択
- 4) 「アカウントを追加」をクリック

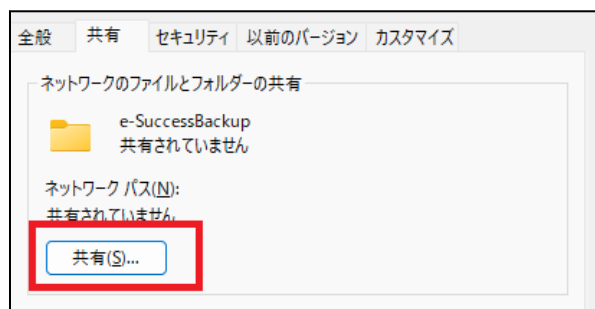
⑧ 次にバックアップ先 (Windows 11 Pro) の共有フォルダの作成とネットワークの共有設定を行います。バックアップ先のドライブに任意のバックアップフォルダを作成します。
(今回は、「e-SuccessBackup」)とします。



⑨ 「e-SuccessBackup」を右クリックして、プロパティを開きます。プロパティウィンドウが開いたら「読み取り専用」のチェックを解除します。



⑩ 次に①～⑦で作成したバックアップ用のアカウントが「e-SuccessBackup」にアクセスできるようにします。「共有」タブをクリックし、「共有」ボタンをクリックします。



⑪ プルダウンリストより⑦で作成したバックアップ用のアカウントを指定し、これを「追加」します。追加出来たら「アクセス許可のレベル」を「読み取り/書き込み」で指定します。

設定が完了したら「共有」をクリックして、「OK」をクリックして設定を完了します。



⑫ 次に、バックアップ元のPCからアクセスできるように共有設定を行います。「設定」アプリより「ネットワークとインターネット」を選択します。

その後、「ネットワークの詳細設定」をクリックします。



⑬ 「共有の詳細設定」をクリックします。



⑭ 「プライベートネットワーク」「パブリックネットワーク」「すべてのネットワーク」で、お客様のネットワーク環境に応じて、利用されるバックアップ先の共有範囲を設定します。

本マニュアルでは、「プライベートネットワーク」を「オン」にして指定します。



⑮ バックアップ元 (Windows 10 Pro) を操作し、⑫～⑭と同様の設定を行って、バックアップ先のフォルダにアクセスできるように設定します。

※Windows 10 の場合、⑬で「共有の詳細オプション」をクリックし、⑭の画面はコントロールパネルになります。なお、コントロールパネルの設定内容は、Windows 11 Pro と同様の内容となります。

⑯ 次に、バックアップ元 (Windows 10 Pro) の SQL Server に、①～⑦ で作成したバックアップ用のアカウントのユーザー名のサインイン情報を入れます。

コントロールパネルを起動し、「システムとセキュリティ」をクリックします。



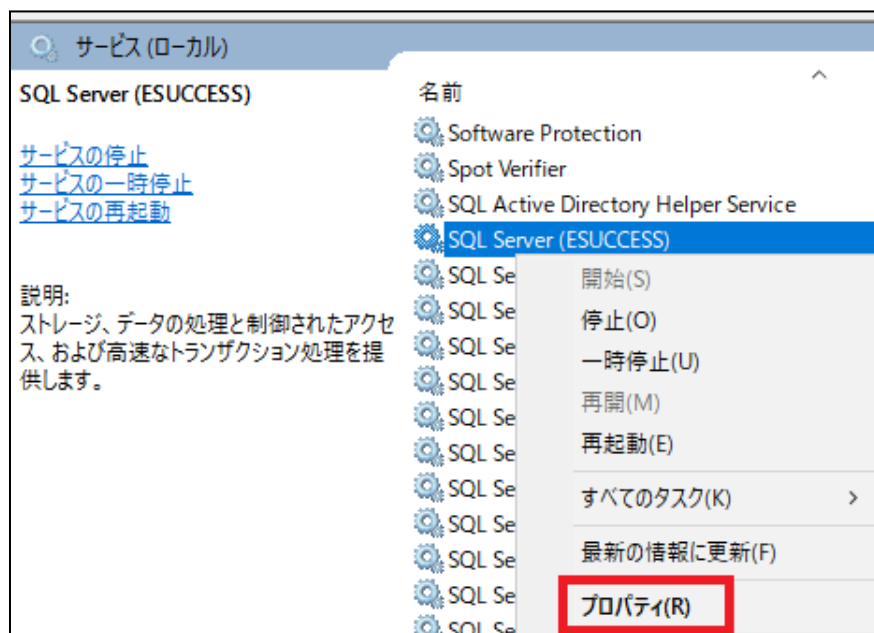
⑰ 「管理ツール」をクリックします。



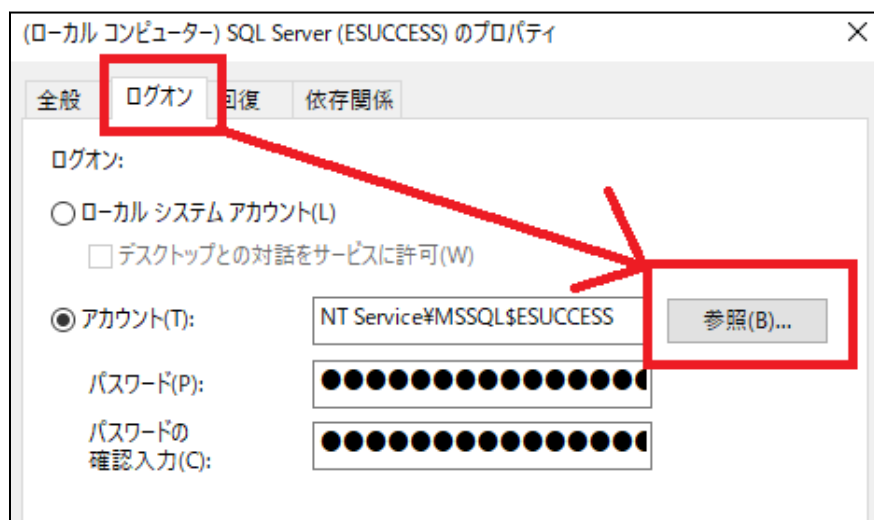
⑱ 「サービス」をダブルクリックします。

インターネットインフォメーションサービス (IIS) マ...	2019/12/07 18:10	ショートカット	2 KB
コンピューターの管理	2019/12/07 18:09	ショートカット	2 KB
コンポーネント サービス	2019/12/07 18:09	ショートカット	2 KB
サービス	2019/12/07 18:09	ショートカット	2 KB
システム構成	2019/12/07 18:09	ショートカット	2 KB

⑱ 対象のインスタンスを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

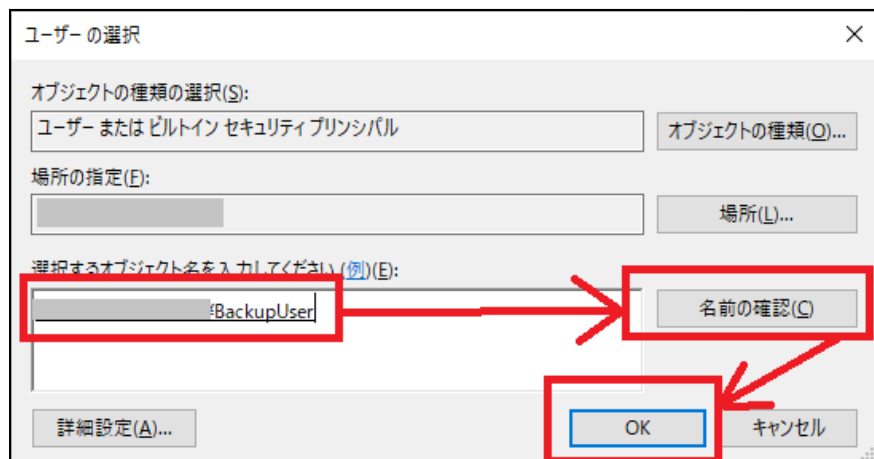


⑲ 「ログオン」タブをクリックし、「参照」ボタンをクリックします。



⑳ 「選択するオブジェクト名を入力してください」にバックアップ用のアカウントのユーザー名を入力し、「名前の確認」ボタンをクリックします。

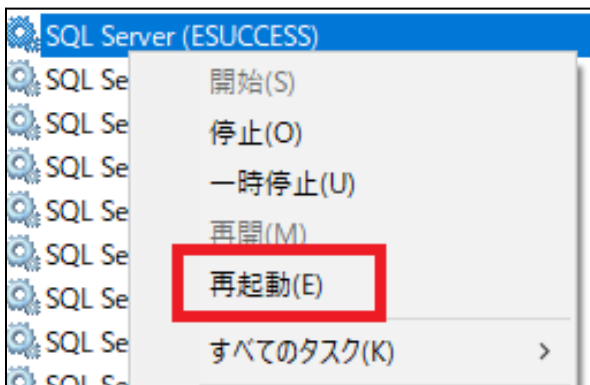
入力した「(コンピュータ名)\BackupUser」で名前の確認が取れたら、「OK」をクリックします。



② ①～⑦で設定したバックアップ用アカウントの「パスワード」を二度入力して、「OK」をクリックします。

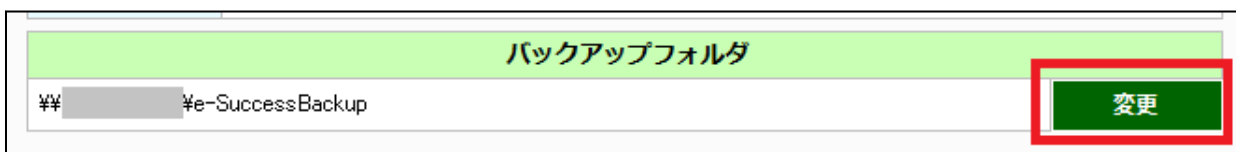


③ また、対象のインスタンスを右クリックし、「再起動」をクリックして、インスタンスで使用するアカウントをバックアップ用のアカウントに切り替えます。



④ 次に、バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）[e-SuccessDBMaintenance.exe)] を使用して、バックアップ先を指定します。

バックアップ保存アプリを起動し、「システム管理者」権限のアカウントでログインしたら、「バックアップフォルダ」の「変更」をクリックし、バックアップ先を指定します。「ネットワーク」を参照し、バックアップ先のマシンを指定して、⑧で作成した「e-SuccessBackup」を選択します。

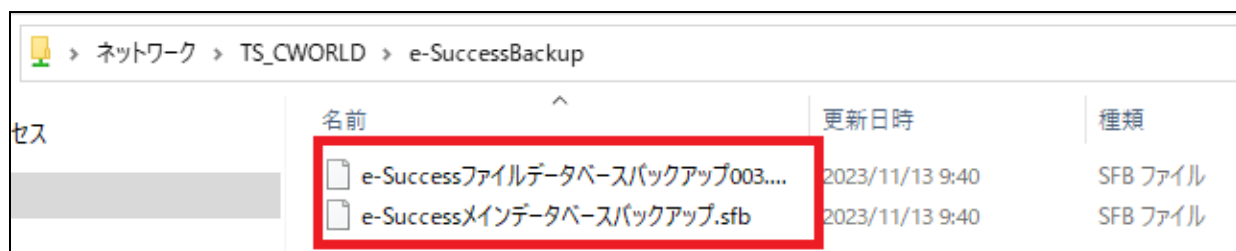


②⑤ 「データベースのバックアップ」で、完全バックアップを検証します。



②⑥ 指定したバックアップ先のマシンの「e-SuccessBackup」フォルダに、バックアップファイルが出力されていることを確認します。

問題なく出力できていれば、設定完了となります。



8. 自動タイムスタンプ付与の設定

◆注意◆ ライセンスファイルを必ず用意してください。

e-Success-V6 より、自動タイムスタンプ付与アプリにもライセンスファイル（「ssw-v6_0.lic」と「ssp-v6_0.lic」のいずれか）が必要となりました。

これは、ライセンスファイルの保守期限を超えた後にリリースした最新版のアプリケーションを保守対象から外すための判断となります。

保守期限以降にリリースした最新版のアプリケーションをご利用されたい場合は、保守の更新手続きなどが必要となりますので大変お手数ですが、下記にお問い合わせいただき、ライセンスファイルの更新を依頼してください。

【お問い合わせ先】

アンテナハウス株式会社 e-文書・証憑/スキャナ保存製品サポートセンター

メールアドレス: edocument@antenna.co.jp

A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定

「自動タイムスタンプ付与」を設定することで、電帳法モードでの、PAdES 方式もしくは XAdES 方式を利用したタイムスタンプの自動付与ができます。

◆注意◆ e-文書モードのとき

自動タイムスタンプ付与は、電帳法モードでのみ動作します。e-文書モードでは、文書の情報登録時に自動で書類にタイムスタンプを付与します。ログオンユーザーに設定された電子署名を使用して PAdES 長期署名（電子署名、タイムスタンプ、アーカイブタイムスタンプ）を実行します。

自動タイムスタンプ付与は、[e-Success 自動タイムスタンプ付与処理設定] プログラムで設定します。次のように作業してください。

① e-Success のセットアップフォルダから、[自動タイムスタンプ付与] フォルダをコンピュータの任意のフォルダ（例えば [C:\¥自動タイムスタンプ付与] フォルダ）にコピーします。

② コピーした [自動タイムスタンプ付与] フォルダに接続先設定ファイル（e-SuccessCSSetting、拡張子が表示されているコンピュータの場合は e-SuccessCSSetting.xml）をコピーします。

◆参照◆ 接続先設定ファイル

接続先設定ファイル（e-SuccessCSSetting.xml）は、e-Success アプリケーションのインストールフォルダに保存されています。

接続先設定ファイルは、[e-Success 接続先設定ツール] で作成します。詳細は、導入・設定編の「5. e-Success アプリケーションの接続先設定」を参照してください。

③ 次に、e-Success のセットアップフォルダ内の [license] フォルダにあるライセンスファイル（「ssw-v6_0.lic」）もしくは、別途メール等で届いたライセンスファイルを用意します。保守期間などの更新時の場合は、お手元に届いた更新版のメディアの [license] フォルダ内に格納されています。

④ コピーした [自動タイムスタンプ付与] フォルダにある「license」フォルダ内に、ライセンスファイルをコピーします。

◆ヒント◆ 正規版ライセンスファイルの更新方法

正規版ライセンスファイルの更新方法は、本項の内容と同様、古いライセンスファイルを新しいライセンスファイルに上書きすることで更新されます。

⑤ コピーした [自動タイムスタンプ付与] フォルダにある [e-Success 自動タイムスタンプ付与処理設定] プログラム（[e-SuccessTimestamp]、拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-SuccessTimestamp.exe]）をダブルクリックして起動します。

⑥ [e-Success 自動タイムスタンプ付与処理設定] プログラムが起動したら、処理対象の接続先を選択して、システム管理者権限のユーザー ID でログインします。

アンテナハウス e-Success 自動タイムスタンプ付与処理設定

イー・サクセス

タイムスタンプ処理設定

ユーザーID:

パスワード:

接続先: ESUCCESS_TEST

ログイン

ライセンスファイルを更新

⑦ ログインに成功するとタイムスタンプの設定画面が表示されます。
設定が完了したら「登録」ボタンをクリックしてください。

アンテナハウス e-Success 自動タイムスタンプ付与処理設定

イー・サクセス

タイムスタンプ処理設定

タイムスタンプ方式

PADES/XAdES

タイムスタンプ局(URL)

https://

認証方法

Basic認証

ユーザーID

パスワード

検証不備書類にも付与(PAdESのみ)

☒ タイムスタンプ付与する

プロキシ接続方法

☒ WinHTTP ☐ WinNet ☐ WinSock

XAdESファイル数

50

電子証明書ファイル

電子証明書パスワード

電子証明書のアラート

30 日前(30~90)からアラートを出す

ログファイルの出力

☒ エラーログ ☒ 処理ログ ☒ 証明書の期限アラート

ログファイルの出力場所

イベントログ

☒ エラーログ ☒ 処理ログ ☒ 証明書の期限アラート

メール送信

☒ エラーログ ☒ 処理ログ ☒ 証明書の期限アラート

登録

閉じる

※この設定画面を開いていると、タイムスタンプ付与のタスク実行はされません。
[登録]ボタンをクリックして設定を保存してください。

電子証明書：設定されていません

最終更新日: 2024/05/23 23:50:40

最終更新者: システム管理者

設定項目は、次のとおりです。

設定項目	設定内容
タイムスタンプ方式	タイムスタンプの付与方式を「PADES (pdf)」/「XAdES」/「PADES/XAdES」から選択します。「PADES (pdf)」を選択した場合は、PDF ファイルのみが処理対象となります。「XAdES」「PADES/XAdES」を選択した場合は電子証明書の登録が必要となります。「PADES/XAdES」のタイムスタンプ付与は、登録する書類の書類種類に応じて、タイムスタンプ付与を設定する設定です。「PADES/XAdES」で登録が完了したら、その後、「e-Success 操作マニュアル」の「書類種類マスタ管理」の「E. タイムスタンプ方式の設定」を読んで、必ず書類種類の「タイムスタンプ方式」の設定を忘れずに行ってください。

設定項目	設定内容
タイムスタンプ局 (URL)	タイムスタンプ局の URL を指定します。
認証方法	使用するタイムスタンプ局にあわせて、「認証なし」/「Basic 認証」/「AMANO 独自」から選択してください。
ユーザー ID	認証方法として「Basic 認証」を選択した場合に、タイムスタンプ局から提供されたユーザー ID を指定してください。
ライセンスファイル	認証方法として「AMANO 独自」を選択した場合に、タイムスタンプ局から提供されたファイルを指定してください。
パスワード	タイムスタンプ局から提供されたパスワードを入力してください。
検証不備書類にも付与 (PAdES のみ)	検証不備の書類にもタイムスタンプ付与を行うか指定してください。 ※本機能は、タイムスタンプ方式が、PAdES 方式のみに機能します。また、書類種類のタイムスタンプ方式が PAdES で設定している場合も同様に処理します。
プロキシ接続方法	使用するプロキシ接続 API を選択します。ユーザー社内のセキュリティポリシーとプロキシサーバーの設定に沿って選択してください。社内のポリシー等が特になければ、WinHTTP が既定値・推奨となります。
XAdES ファイル数	「XAdES」を指定した場合のファイル数を設定してください (2~2000)。
電子証明書ファイル	「XAdES」のときに使用する電子証明書ファイルを指定してください。電子証明書ファイルは、あらかじめ e-Success サーバーのフォルダにコピーしておくか、e-Success サーバーから参照できるファイルサーバーに格納してください。
電子証明書パスワード	指定した電子証明書のパスワードを入力してください。なお、入力するパスワードは、電子証明書を購入した際に申請したパスワードと同じものになります。
電子証明書のアラート	30 日~90 日で指定してください。電子証明書期限から設定された日数前にログにアラートを出力します。
ログファイルの出力	ログファイルとして出力する対象を指定してください。
ログファイルの出力場所	ログファイルの出力フォルダを指定してください。
イベントログ	Windows のイベントログとして出力する対象を指定してください。
メール送信	メールを送信する対象を指定してください。メール送信時にはプログラムのフォルダ内に e-SuccessMLSetting.xml が必要です。

タイムスタンプの設定を変更した場合は、[タイムスタンプ設定テスト] ボタンをクリックしてください。タイムスタンプ局 (URL) を使用して、指定された認証方法および認証内容を用いた「PAdES」による認証テストを実施します。

※ [タイムスタンプ設定テスト] ボタンは、「XAdES」には対応しておりません。

◆ヒント◆ **タスクスケジューラを使わず、ユーザーの任意のタイミングでタイムスタンプ付与を実行**

タスクスケジューラを使用せずに、e-SuccessTimestamp.exe を外部システム (ショートカット等) からの制御により任意のタイミングで起動させ、タイムスタンプ付与することも可能となります。
ショートカットを使用したタイムスタンプ付与の詳細な設定は、「E. ユーザーの任意の操作で直接タイムスタンプを付与する」を確認してください。

◆ヒント◆ **エラーが起きた場合のメールの送信先**

タイムスタンプ付与の処理中にエラーが発生した時、「エラーの送信先アドレス」にメールアドレスが記入されていると「エラーの送信先アドレス」の宛先にメールが送信されます。
もし無記入の場合は、「送信先アドレス」に設定されているメールアドレスに送信されます。
「エラーの送信先アドレス」の設定は、「10. メール設定ファイルの保存」を確認してください。

◆参 照◆ **メール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml)**

メール送信で使用するメール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml) の作成方法については、導入・設定編「10. メール設定ファイルの保存」を参照してください。

◆注意◆ **AMANO のライセンスファイル**

認証方法で「AMANO 独自」を選択した場合のライセンスファイルは、あらかじめ e-Success サーバーのフォルダにコピーしておくか、e-Success サーバーから参照できるファイルサーバーに格納してください。
※AMONO 製のライセンスファイルは、仕様変更に伴い 2027 年 10 月 31 日をもってサービスが終了します。新方式では「Basic 認証」を採用しております。アマノセキュアジャパン様よりアカウント発行の通知書が届きましたら「Basic 認証」で再び設定を行ってください。

◆注意◆ [タイムスタンプ設定テスト] ボタンについて

[タイムスタンプ設定テスト] ボタンは、「タイムスタンプ局(URL)」 「認証方法」 「ユーザー ID」 「パスワード」 の入力した4項目を用いて、タイムスタンプ方式「PADES」の設定に問題ないかテストする機能になります。そのため、「電子証明書ファイル」「電子証明書パスワード」も用いるタイムスタンプ方式「XAdES」には、対応しておりません。なお、タイムスタンプ方式を「XAdES」に設定したとしても、「PADES」のテストが実行されます。

◆注意◆ タイムスタンプ方式ごとに取り込める電子ファイルの種類

設定したタイムスタンプ方式によって、取り込める電子ファイルの種類の数異なります。以下は、「PADES」「XAdES」の各タイムスタンプ方式が対応している電子ファイルの種類を示した表になります。

タイムスタンプ方式	電子ファイルの種類
PADES	PDF(.pdf)
XAdES	PDF(.pdf), JPEG(.jpg, .jpeg), PNG(.png), TIFF(.tif, .tiff), Docuworks(.xdw), Word(.doc, .docx), Excel(.xls, .xlsx), PowerPoint(.ppt, .pptx), CSV(.csv)

◆注意◆ XAdES における PDF ファイルへのタイムスタンプ付与

タイムスタンプ方式として「XAdES」を選択した場合は、PDF ファイルへのタイムスタンプ付与においても、PDF ファイルへの埋め込みのタイムスタンプではなく、XML ファイルによる署名ファイルが生成されます。

◆注意◆ PADES/XAdES における PDF ファイルへのタイムスタンプ付与

タイムスタンプ方式として「PADES/XAdES」は、登録した書類の書類種類に応じてタイムスタンプを付与する機能になります。「PADES/XAdES」を選択した場合は、その後、e-Success の「書類種類マスタ」の設定で「タイムスタンプ方式」設定する必要があります。書類種類マスタでの設定方法の詳細は、「e-Success 操作マニュアル」の「書類種類マスタ管理」の「E. タイムスタンプ方式の設定」を確認してください。

なお、書類種類の「タイムスタンプ方式」を「XAdES」で選択した場合、PDF ファイルへのタイムスタンプ付与においても、PDF ファイルへの埋め込みのタイムスタンプではなく、XML ファイルによる署名ファイルが生成されます。

◆注意◆ タイムスタンプ付与する対象の書類と対象外の書類

以下の表は、自動タイムスタンプ付与アプリがタイムスタンプ付与対象とする書類の各設定と書類のステータスを示したものです。

書類のタイムスタンプ付与のステータスは、e-Success アプリケーションの「書類検索・検証」画面、「タイムスタンプの表示」の項目でステータスを選んで検索することで、確認可能です。「スキャン画像確認チェック」方法については、「処理設定」の「運用設定」タブ画面にある設定を確認してください。

タイムスタンプ検証不備の書類の詳細については、「操作マニュアル」の「書類入力編」の「8. 書類検索・検証」の「A. 登録済みの書類を検索する」の「◆注意◆ 検証不備の PDF について」を確認してください。

全ON		全OFF		全 9 件	
処理	書類番号 ▼	検証結果	ファイル名		
未	0020836		20250124145301136.pdf		
-	0020835		20250124145301136.pdf		
☐	0020818		2024-60956-00074_6.pdf		
☒	0020791		2024-60956-00074.pdf		

○タイムスタンプ付与対象（「タイムスタンプ付与済みの PDF を取り込む」がオフの場合）

ステータス	「処理」項目の表示	説明
タイムスタンプ未付与 (スキャン画像確認チェックあり)	未	まったくタイムスタンプが付与されていない書類

○タイムスタンプ付与対象（「タイムスタンプ付与済みの PDF を取り込む」がオンの場合）

ステータス	「処理」項目の表示	説明
タイムスタンプ未付与 (スキャン画像確認チェックあり)	未	まったくタイムスタンプが付与されていない書類
タイムスタンプ検証不備	☐ (チェックボックス) と 行全体がライトブルー	タイムスタンプ付与済みの書類として取り込もうとしたが、検証に失敗し、タイムスタンプの情報が確認できなかった書類 (PADES のみ) ※自動タイムスタンプ付与アプリで、「検証不備書類にも付与 (PADES のみ)」の設定がオンになっている場合のみ、タイムスタンプ付与対象となります。

○タイムスタンプ付与対象外（「タイムスタンプ付与済みの PDF を取り込む」がオン/オフ共通）

ステータス	「処理」項目の表示	説明
タイムスタンプ未付与 (スキャン画像確認チェックなし)	未	まったくタイムスタンプが付与されていない書類
タイムスタンプ付与済み	☐ (チェックボックス)	既にタイムスタンプが付与されている書類 (他のタイムスタンプサービスも含む)
タイムスタンプ対象外	— (タイムスタンプ付与しない)	書類種類の設定によって、タイムスタンプ付与の対象外として扱われている書類

※「処理」項目の表示は、「書類検索・検証」画面の検索一覧表の1番左側ある「処理」項目を指します。項目の詳細は、「操作マニュアル」の「8. 書類検索・検証」の「A. 登録済みの書類を検索する」を確認してください。

◆注意◆ スキャン画像確認のチェックの有無

e-Success の「処理設定」画面で「スキャン画像確認」の「すべて確認済みとして処理する」にチェックを入れていない設定で、「書類入力・確認」画面の「スキャン画像確認」にチェックしないで「登録して次へ」をクリックした場合、その書類は「スキャン画像確認」未チェックの書類として扱われタイムスタンプ付与の対象外となります。タイムスタンプ付与の対象にしたい場合は、もう一度該当の書類を選択して「スキャン画像確認」にチェックを入れて登録してください。

※「処理設定」画面で「スキャン画像確認」の「すべて確認済みとして処理する」にチェックを入れているのであれば、「書類入力・確認」画面の「スキャン画像確認」のチェックは不要です。

◆注意◆ 電子証明書の有効期限

タイムスタンプ方式が設定されている場合、「登録」ボタンの下に電子証明書の有効期限が表示されます。登録されている電子証明書の有効期限が90 日未満または期限切れの場合には、有効期限の右に「期限近」または「期限切」の警告アイコンが表示されます。電子証明書の有効期限が切れた場合には「XAdES」でのタイムスタンプ付与を行えなくなるため、できるだけ早めに更新するようにしてください。

登録

※この設定画面を開いていると、タイムスタンプ付与のタスク実行はされません。
[登録]ボタンをクリックして設定を保存してください。

電子証明書：期限 2024/01/05 まで

B. 自動タイムスタンプ付与のタスク登録

自動タイムスタンプ付与は、Windows のタスクスケジューラを利用して実行します。Windows のタスク処理は、次のように設定します。

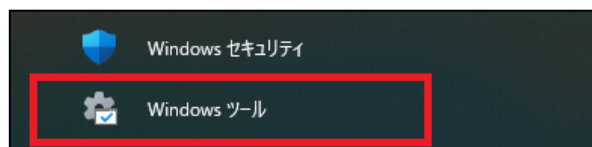
① Windows の [スタートメニュー] または [アプリビュー] から [Windows 管理ツール] の [タスクスケジューラ] をクリックして、タスクスケジューラを起動します。

左側のペインで [タスクスケジューラ (ローカル)] - [タスクスケジューラライブラリ] を選択して、右側の [操作] ペインで [タスクの作成] をクリックします。



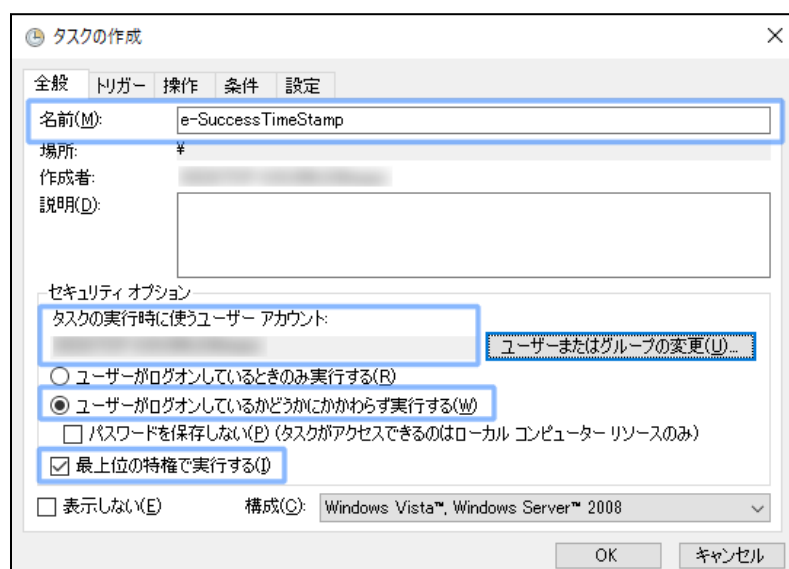
◆ヒント◆ Windows Server 2022 でのタスクスケジューラの開き方

Windows Server 2022 の場合、[スタートメニュー] の [すべてのアプリ] の [Windows ツール] を起動して、表示される Windows ツールのウィンドウから [タスクスケジューラ] を選択してください。



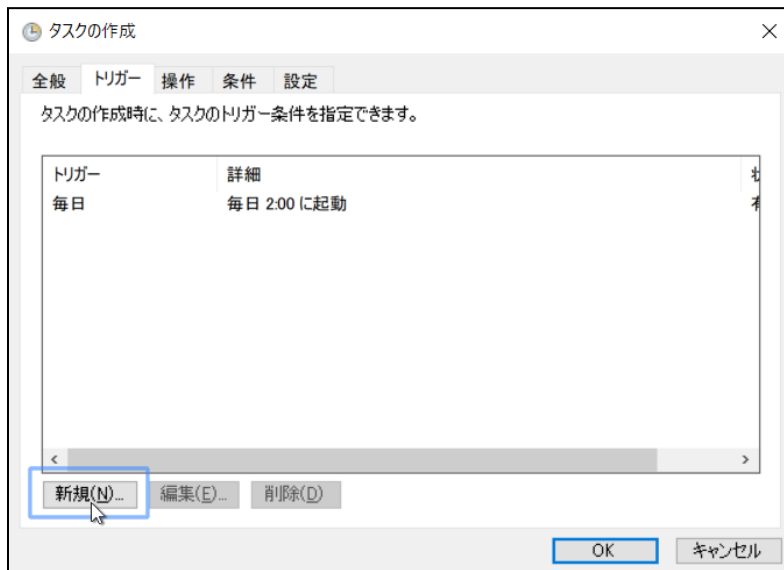
② [タスクの作成] ダイアログボックスでは、以下のように設定してください。

[全般] タブ



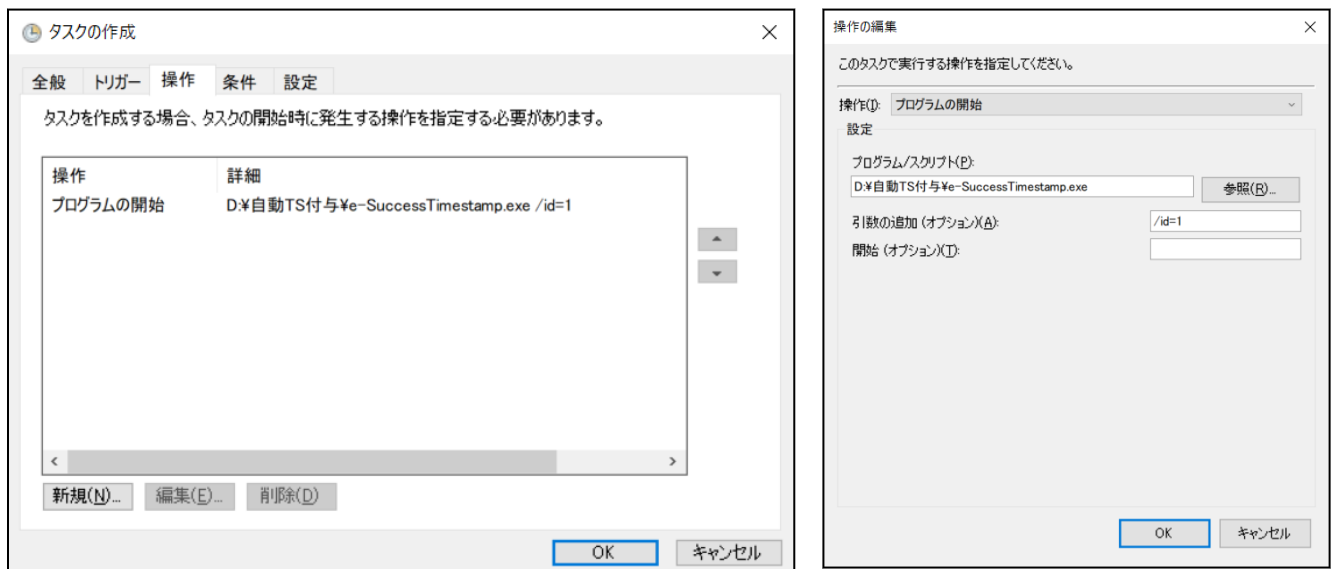
設定項目	設定内容
名前	任意の名前（例えば e-SuccessTimeStamp）
タスクの実行時に使うユーザーアカウント	実行可能な Windows ユーザーを指定し、 「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択して、 「最上位の特権で実行する」チェックボックスをオンする

〔トリガー〕タブ



〔新規〕ボタンをクリックして、実行するトリガー条件（スケジュール）を設定してください。上の図は毎日深夜2時に実行する設定を行ったものです。

〔操作〕タブ



〔操作の編集〕で、〔プログラム/スクリプト〕欄に〔自動タイムスタンプ付与〕フォルダの〔e-SuccessTimestamp〕（拡張子が表示されているコンピュータの場合は〔e-SuccessTimestamp.exe〕）のフルパスを設定します。〔引数の追加〕欄には「/id=n」と入力してください。n には、「/id=1」のように接続先設定ファイル〔e-SuccessCSSetting.xml〕内の ID タグの値を指定します。通常は1からの連番になります。

③設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックしてアカウント情報を入力して、タスクを保存します。タスクをテスト実行する場合は、タスクスケジューラの一覧で作成したタスクを選択して、右側の[操作] パネルで[実行] をクリックします。

実行結果については、タイムスタンプの設定画面で設定したログファイル/イベントログ/メールで確認してください。また、同時にデータベースにもログが格納されるので、e-Success アプリケーションで実行結果を参照することもできます（この後の「C. ログファイル参照（自動タイムスタンプ付与）」を参照してください）。

◆ヒント◆ 複数の接続先の同時実行

複数の接続先の処理を1回のタスクで同時に実行したい場合は、接続先設定ファイルのIDを「/id=1,2,3」のように、カンマ区切りで指定してください。

◆注意◆ 体験版のライセンスファイルの使用

体験版のライセンスファイルの状態でもタイムスタンプ付与することができます。ただし、有効期間が過ぎますと、タイムスタンプ付与ができなくなりますので必ず正規版のライセンスファイルに更新してください。

ライセンスファイルの更新方法は、F.ライセンスファイルを更新を参照してください。

◆注意◆ タスクの優先度を設定

作成したタスクの優先度が低いと、他のタスクが実行されている中で定刻になってもタスクが実行されない場合があります。そのため、確実に実行したい場合は、必ずタスクに優先度を高く設定するようにしてください。

設定方法は、以下のようになります。

- ① 作成したタスクを右クリックし、「エクスポート」をクリックします。
- ② 出力先を指定し、XML ファイルを出力します。
- ③ 出力した XML ファイルの「priority」タグ内の数値を変更します。
数値は0～10 までとなっており、数値が小さいと優先度が高くなり、数値が大きいと優先度が低くなります。優先度を高くする場合は、なるべく1～4 の値を入れてください。
- ④ 「priority」タグを変更したら、XML ファイルを保存します。
- ⑤ 作成したタスクを右クリックし、「削除」をクリックします。
- ⑥ ウィンドウ右の「タスクスケジューラライブラリ」の「タスクのインポート」を選択します。
- ⑦ ③④で更新した XML ファイルを指定して、タスクを新たに登録します。

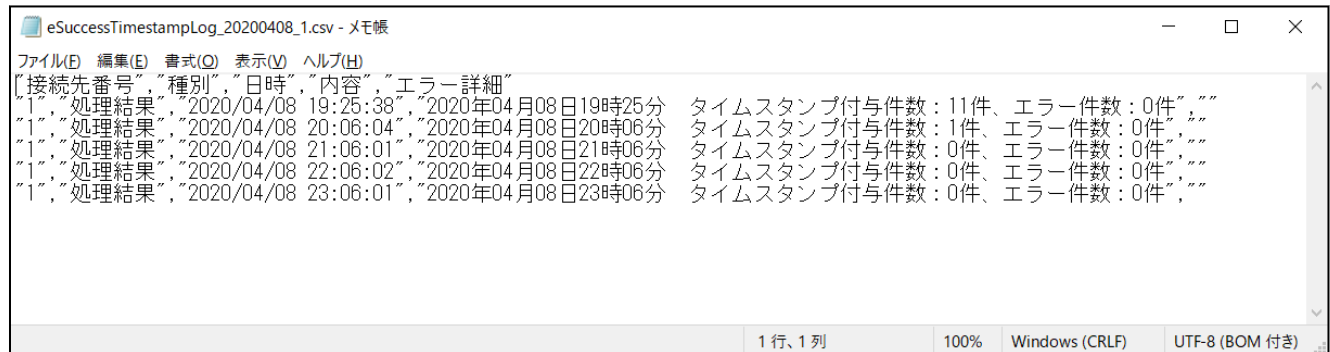
以上で、タスクの優先度の設定は完了となります。

C. ログファイル参照（自動タイムスタンプ付与）

自動タイムスタンプ付与の実行結果は、ログファイルに記録されます。

ログファイルには、自動タイムスタンプ付与の実行記録が、処理日別、接続設定ファイル ID 別に、eSuccessTimestampLog_yyyymmdd_n.csv（yyyymmdd は処理日、n は指定された接続先設定ファイルの ID）として出力されます。同日に複数回実行した場合は、ログファイルの末尾に追記されます。

ログファイルの例：



エラーやアラートが発生した場合は、次のログが出力されます。ここに掲載されていないログが出力された場合は、サポートにお問い合わせください。なお、イベントログには 513xx のイベント ID でログが記載されます。

自動タイムスタンプ付与処理 エラー、アラートログ一覧

ログ種別	ログの内容	対応方法
エラー	電帳法モード以外で実行されました。	タスクの設定で起動パラメータ id の指定を確認してください。なお、自動タイムスタンプ付与は、電帳法モードのインスタンスのみ利用可能です。
エラー	証明書のフォルダ (store) がありません。	プログラムのフォルダに [store] フォルダがありません。
エラー	証明書のフォルダ (store/trusts) がありません。	プログラムのフォルダの [store] フォルダに [trusts] フォルダがありません。
エラー	証明書ファイルが指定されていません。	タイムスタンプ処理設定画面で、正しい電子証明書が設定されていることを確認してください。
エラー	パスワードが指定されていません。	タイムスタンプ処理設定画面で、正しい電子証明書が設定されていることを確認してください。
エラー	証明書ファイルがありません。	タイムスタンプ処理設定画面で、正しい電子証明書が設定されていることを確認してください。
エラー	電子証明書の有効期限が切れています。	タイムスタンプ処理設定画面で、正しい電子証明書が設定されていることを確認してください。
エラー	電子証明書のパスワードが間違っています。	タイムスタンプ処理設定画面で、正しい電子証明書が設定されていることを確認してください。
アラート	電子証明書の有効期限 (yyyy/mm/dd) が迫っています。	証明書の期限が迫っているため、新しい電子証明書への切り替えを行ってください。
エラー	ファイルの復元に失敗しました。	データベースに格納されている電子ファイルが復元できませんでした。書類検索・検証機能で当該の電子ファイルが表示されることを確認してください。
エラー	ファイルが入れ替わっている可能性があります。	データベースに格納されている電子ファイルが変更されている可能性があります。

ログ種別	ログの内容	対応方法
エラー	タイムスタンプ付与処理でエラーが発生しました。	タイムスタンプ処理設定画面でタイムスタンプ設定テストを実施して、タイムスタンプが付与できることを確認してください。テストではタイムスタンプが付与できる場合は、対象の電子ファイルに問題がある可能性があります。
エラー	タイムスタンプの有効期限が取得できませんでした。	タイムスタンプの検証処理で検証結果が取得できなかった可能性があります。自動タイムスタンプ付与処理が実行されているコンピュータ（サーバー）がインターネットに接続できることを確認してください。また、当該の電子ファイルに付与されているタイムスタンプに問題がある可能性もあります。
エラー	データベースの更新に失敗しました。	e-Success 接続先設定ツールの接続確認機能を使用して、自動タイムスタンプ付与処理が実行されているコンピュータから e-Success データベースが参照できることを確認してください。
エラー	ログファイルの出力先フォルダが存在しないため、ログファイルを生成できませんでした。	タイムスタンプ処理設定画面で、ログファイルのフォルダ指定が正しいこと、フォルダが存在していることを確認してください。
エラー	メール送信用設定ファイルがありません。	プログラムのフォルダ内にメール設定ファイル(e-SuccessMLSetting.xml)が格納されていることを確認してください。
エラー	メール送信できません。	メール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml) が正しい設定値になっていることを確認してください。

◆ヒント◆ タイムスタンプ付与時のエラーコードとメッセージの確認

タイムスタンプ付与時に PDF の構造に問題がある場合やファイルにパスワードが掛けられている場合、署名情報が取得できない場合などでエラーが発生すると、エラー詳細に以下のようなエラーコードとエラーコードごとのメッセージが表示されます。

○エラーの表示例

【エラー詳細】書類番号：20601

詳細：PAdES_AddTS / pad.es.saveFile

リターン値：-4244

PDA_ERR_GET_DOCTS / ドキュメントタイムスタンプ取得エラー

もしエラー内容についてご不明な点等がございましたら、大変お手数ですが、下記にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

アンテナハウス株式会社 e-文書・証憑/スキャナ保存製品サポートセンター

メールアドレス：edocument@antenna.co.jp

D. 自動タイムスタンプ付与ログの参照

データベースに格納されているタイムスタンプ付与ログは、e-Success アプリケーションで参照できます。メインメニューで「自動タイムスタンプ付与ログの参照」をクリックすると、「自動タイムスタンプ付与ログの参照」画面が表示されます。

日付: 2020/04/08 ~ 検索 検索条件クリア

分類: ☒ すべて ☐ エラーのみ ☐ 処理ログのみ ☐ 電子証明書の期限アラートのみ

エラーとアラートのクリア

全27件 2020/04/09 20:06:30 時点

日時	分類	内容	エラー詳細
2020/04/09 07:06:01	処理結果	2020年04月09日 07時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/09 06:06:01	処理結果	2020年04月09日 06時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/09 05:06:01	処理結果	2020年04月09日 05時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/09 04:06:01	処理結果	2020年04月09日 04時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/09 03:06:01	処理結果	2020年04月09日 03時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/09 02:06:01	処理結果	2020年04月09日 02時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/09 01:06:01	処理結果	2020年04月09日 01時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/09 00:06:01	処理結果	前日(2020年04月08日)のタイムスタンプ付与件数合計: 12件、エラー件数合計: 0件	
2020/04/09 00:06:01	処理結果	2020年04月09日 00時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/08 23:06:01	処理結果	2020年04月08日 23時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/08 22:06:02	処理結果	2020年04月08日 22時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/08 21:06:01	処理結果	2020年04月08日 21時06分 タイムスタンプ付与件数: 0件、エラー件数: 0件	
2020/04/08 20:06:04	処理結果	2020年04月08日 20時06分 タイムスタンプ付与件数: 1件、エラー件数: 0件	
2020/04/08 19:25:38	処理結果	2020年04月08日 19時25分 タイムスタンプ付与件数: 11件、エラー件数: 0件	

既定では直近1週間分のログが表示され、期間、ログの分類を指定して「検索」ボタンをクリックすることで、任意のログを参照できます。エラーのログの行は、薄いピンク色で表示されます。このとき、メインメニューには「自動タイムスタンプ付与ログの参照」ボタンの右に「エラーあり」アイコンが表示されます。

■ 自動タイムスタンプ付与ログの参照 エラーあり

「自動タイムスタンプ付与ログの参照」画面で「エラーとアラートのクリア」ボタンをクリックすると、薄いピンク色の表示がなくなり、メインメニューでの「エラーあり」アイコンの表示もなくなります（表示時点までのエラーをクリアします）。

◆注意◆ 自動タイムスタンプでエラーが発生した場合

「エラーあり」アイコンが表示された場合は、必ず「自動タイムスタンプ付与ログの参照」画面でエラーの内容を確認してください。
電帳法の法令要件上、タイムスタンプはスキャンした電子ファイルに当日内の付与が求められているという点にご注意ください。

◆ヒント◆ メインメニューでの「エラーあり」アイコンの表示

メインメニューにおける「エラーあり」アイコンの表示方法は、処理設定の「運用設定」タブで「すべてのユーザーで表示」または「システム管理者のみ表示」のいずれかに設定できます。

E. ユーザーの任意の操作で直接タイムスタンプを付与する

◆注意◆ 以下の手順を踏む前に

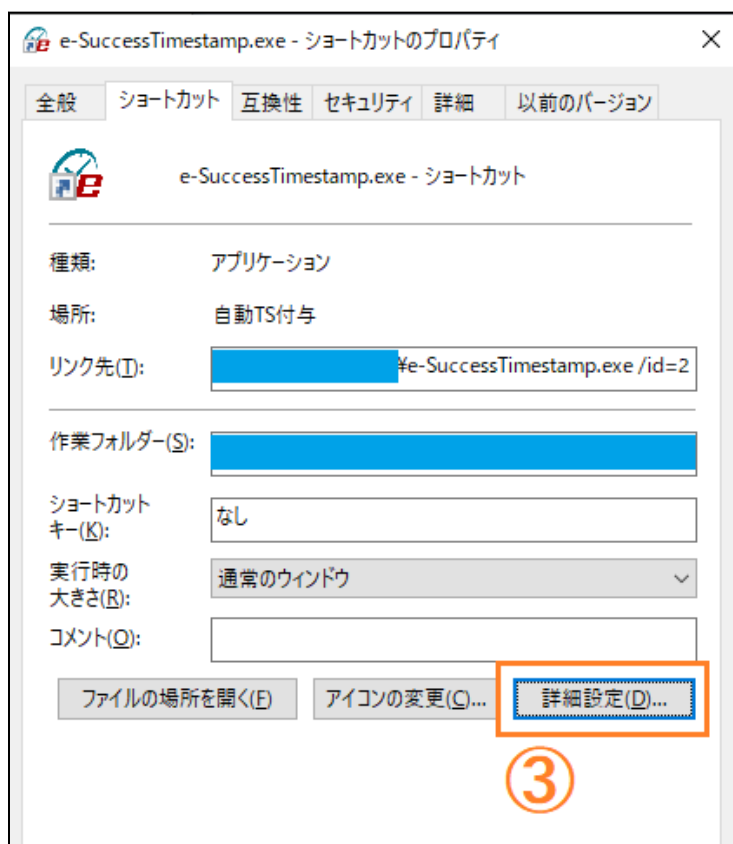
以下の内容は、「A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定」でタイムスタンプの設定が完了していることを前提に説明した内容となります。タイムスタンプの設定が完了できていない場合は、先に「A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定」を完了させて下さい。

タイムスタンプ付与は、タスクスケジューラを使わずに、タイムスタンプ付与アプリのショートカットを作成して引数を設定することで、ユーザーの任意のタイミングで操作することも可能です。

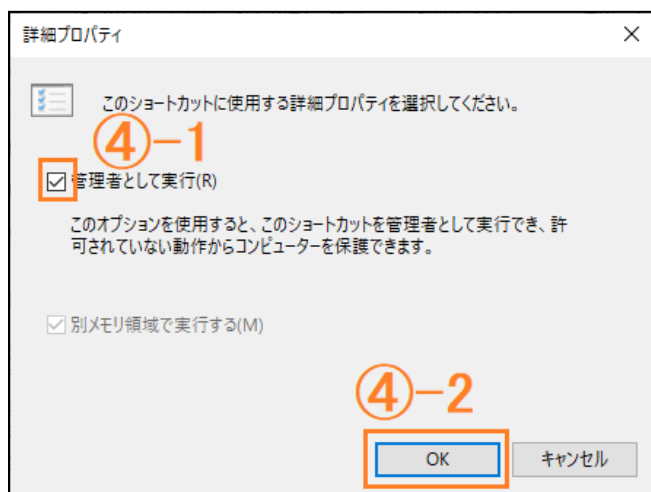
①インストール先にある「e-SuccessTimestamp.exe」を右クリックし、「ショートカットを作成」をクリックします。

②作成したショートカットを右クリックして、「プロパティ」を選択します。

③「ショートカット」タブの「詳細設定」ボタンをクリックします。



④「管理者として実行」にチェックを入れて「OK」をクリック

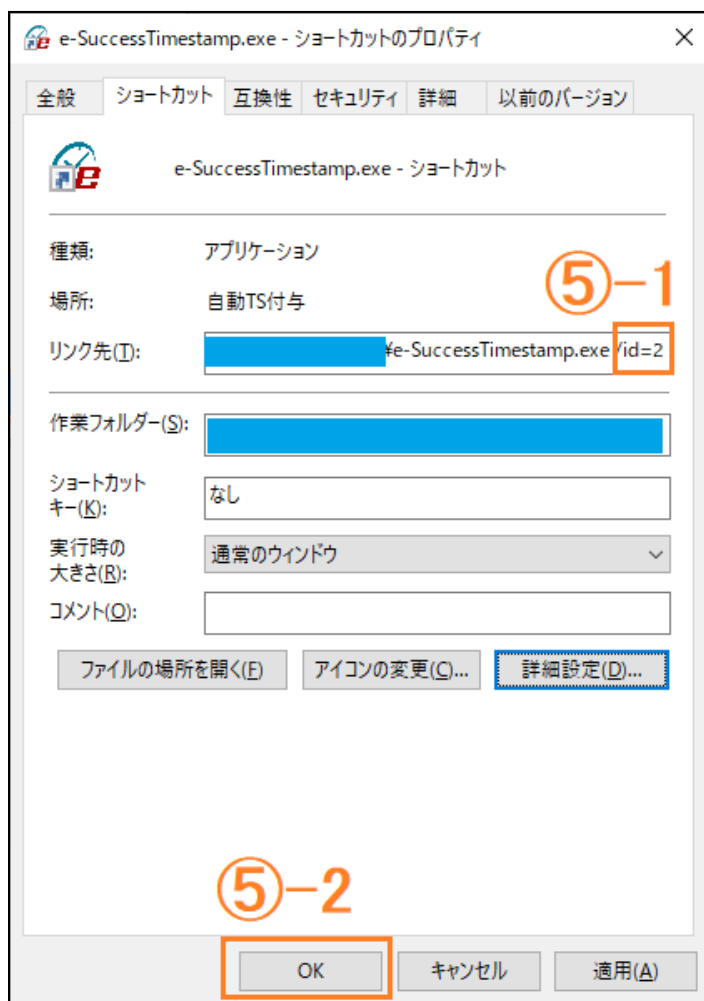


⑤「ショートカット」タブの「リンク先」の末尾に引数を追加し、「OK」を押します。

◆ヒント◆ 引数について

末尾に追加する引数は、「B. 自動タイムスタンプ付与のタスク登録」の②の[操作]タブの「引数の追加」に入力する引数と同じ値を使います。引数の詳細は、「B. 自動タイムスタンプ付与のタスク登録」の②の[操作]タブを確認してください。

入力例:¥e-SuccessTimestamp.exe /id=1



⑥作成したショートカット任意の位置に置いて、その後、ショートカットをダブルクリックして、問題なくタイムスタンプ付与されれば完了となります。

◆ヒント◆ タイムスタンプ付与処理を視覚化して表示

タイムスタンプ付与実行時にオプションコマンドとして「/show」を追加することで、接続先名が画面に表示され、タイムスタンプが付与されていることが視覚的に確認できます。

ショートカットアイコンからタイムスタンプ付与実行されるユーザーには、本機能をご利用することをお勧めします。

コマンドライン実行例: e-SuccessTimeStamp.exe /id=1 /show

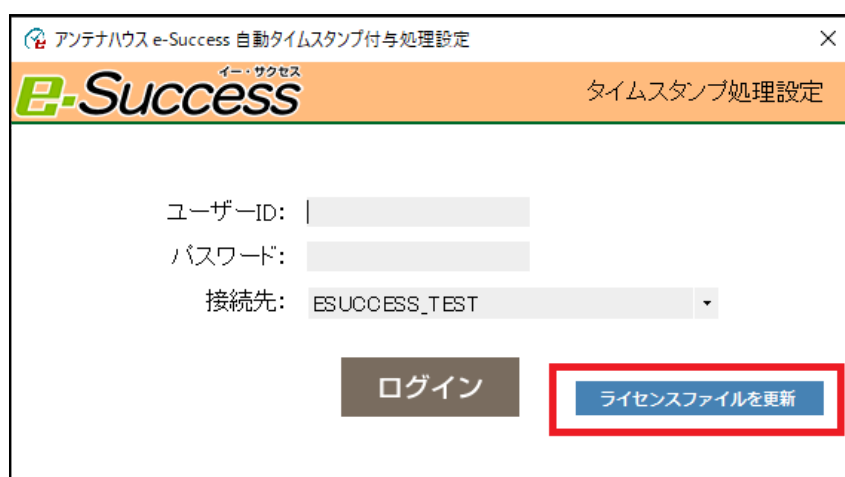
※「/show」オプションを追加した状態でタスクスケジューラ上でタイムスタンプ付与を実行しますと、エラーとなって処理が実行されません。タスクスケジューラでは「/show」オプションを使用しないでください。

接続先「E-SUCCESS」を処理中...

F.ライセンスファイルを更新

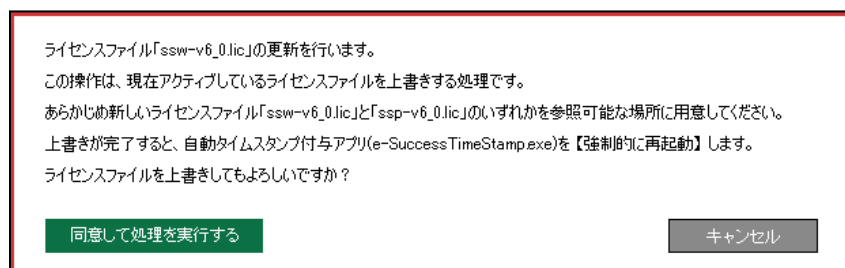
インストールした自動タイムスタンプ付与アプリは、次の手順で、正規版のライセンスファイルをアプリケーションの所定の場所にコピーすることで正規版として動作します。

- ① アンテナハウスの納品メールに記述しているライセンスファイルのダウンロード URL にアクセス等して、新しいライセンスファイルを用意します。(e-Success のエディションによって「ssw-v6_0.lic」か「ssp-v6_0.lic」のいずれか)
- ② 自動タイムスタンプ付与アプリを起動してログイン画面を開き、「ライセンスファイルを更新」ボタンを押します。



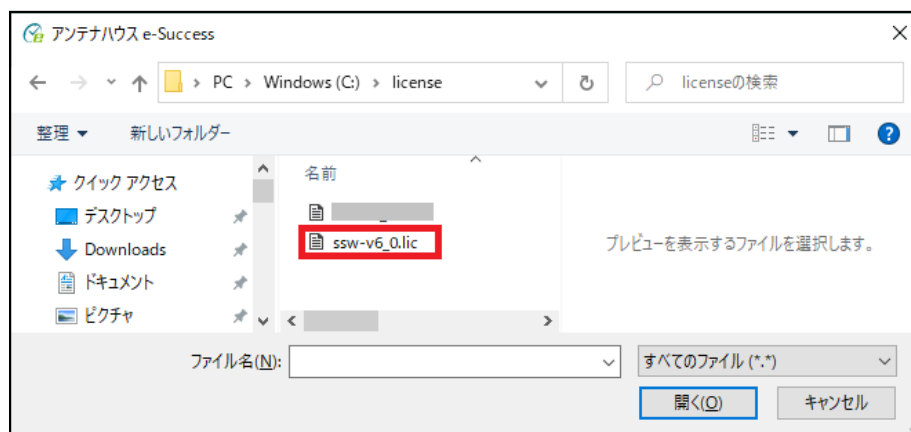
ログイン画面

- ③ 同意画面が表示されますので、「同意して処理を実行する」をクリックします。



同意画面

- ④ ライセンスファイルを選択します。



⑤ライセンスファイル更新処理が開始されますので、処理完了後、自動タイムスタンプ付与アプリが強制的に再起動されます。

◆ヒント◆ 正規版ライセンスファイルの更新方法

正規版ライセンスファイルの更新方法は、本項の内容と同様、古いライセンスファイルを新しいライセンスファイルに上書きすることで更新されます。

◆ヒント◆ ライセンスファイルの種類

e-Success は、各エディション用のライセンスファイルが用意されています。以下の2種類になります。

ssw-v6_0.lic: Standard 用のライセンスファイル

ssp-v6_0.lic: Pro 用のライセンスファイル

◆注意◆ 「ライセンスファイルを更新」ボタンで更新できない場合

お客様のシステム環境によっては、「ライセンスファイルを更新」ボタンで更新できない場合があります。その場合、ライセンスファイルの置いてあるフォルダにアクセスして直接ライセンスファイルの更新を行ってください。更新方法は、以下のようになります。

- ① ライセンスファイル（「ssw-v6_0.lic」と「ssp-v6_0.lic」のいずれか）を用意します。
- ② Windows のエクスプローラで、ライセンスファイルを e-Success のインストールフォルダにある [license] フォルダにコピーします。インストールフォルダは、既定のままインストールした場合 [C:\e-Success¥] になります。
- ③ ライセンスファイルをコピーする際、同名のファイルが存在すると上書きについての警告メッセージが表示されます。この場合、ライセンスファイルを上書きしてください。

◆注意◆ ライセンスファイルの保守期限

正規版のライセンスファイルの保守期限が切れても、e-Success、自動タイムスタンプ付与アプリを継続してお使い続けることができますが、e-Success のメジャー/マイナー・バージョンアップの提供を受けることができなくなります。ライセンスファイルを更新いただく場合は、下記の弊社のサポートセンターまで内容をご記入の上、お問い合わせください。

【お問い合わせ先】

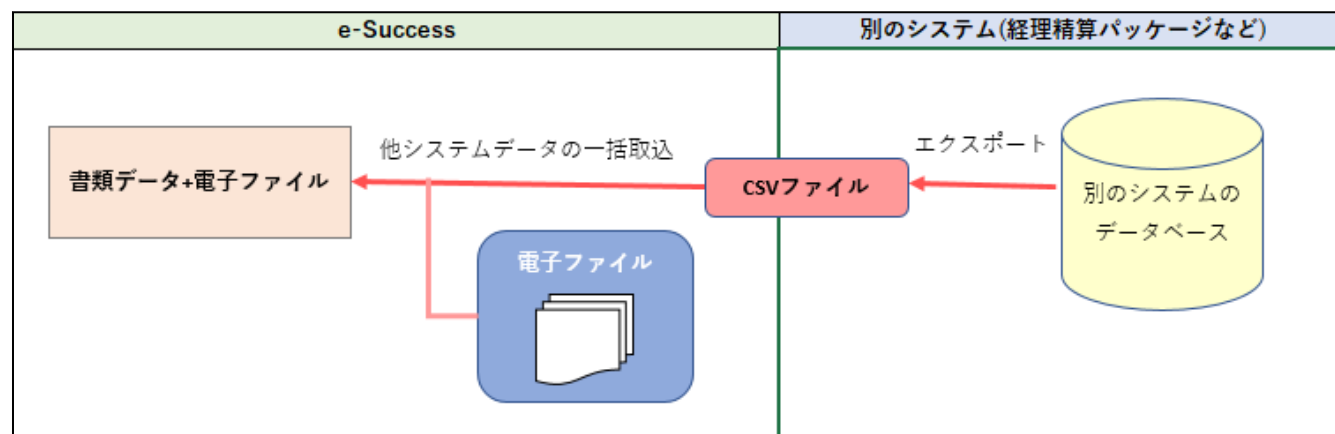
アンテナハウス株式会社 e-文書・証憑/スキャナ保存製品サポートセンター

メールアドレス: edocument@antenna.co.jp

9. 自動一括取込の設定

A. 他システムデータの一括取込の概要

〔他システムデータの一括取込〕機能を利用すると、あらかじめ準備しておいた他のシステム（経費精算パッケージなど）の書類データと該当データ分の電子ファイルを一括で取り込みます。取り込んだデータは、検索用項目が入力された状態になり、すぐにタイムスタンプを付与できます。



CSV ファイルに格納されている書類データと、電子ファイルについては、以下の点に注意してください。

- ・ 書類データと電子ファイルが1対1になっている …… 取り込み可能
- ・ 書類データに指定されている電子ファイルが不足している場合 …… エラーが表示され、処理を中止
- ・ 書類データ中の複数行に、同じ電子ファイルのファイル名が指定されている場合 …… 電子ファイルを自動的に複製して取り込む
- ・ 書類データに含まれていない電子ファイルが存在する場合 …… 処理を続行

◆注意◆ 他システムデータの一括取込機能の前提要件

「他システムデータの一括取込」機能を利用する場合は、以下の前提要件を満たしていることを確認してください。

- ・ 一括取り込みされるスキャン画像などと CSV ファイルのデータ整合性が確認されていること
- ・ 紙原本とスキャン画像の照合がされていること（スキャナ保存の場合）
- ・ 関連法令の要件が確保されていること
- ・ 書類種類ごとに必要な項目のみが CSV ファイルに格納されていること
- ・ 書類種類マスタで登録されている書類種類 ID が指定されていること
- ・ 拠点マスタで登録されている拠点コードが指定されていること

◆注意◆ 登録できない日付について

以下は、SQL Server、e-Success の各アプリケーションの仕様上で登録できない日付です。

- ・ 1753/1/1 より前の日付は登録できません。
- ・ 10000/1/1 以上の日付は登録できません。
- ・ 課税関連書類がオンの書類種類で登録している書類データについては、9992/1/1 以降の日付は登録できません。

◆注意◆ 各 OS の文字コードの扱いについて

OS ごとに、扱われている文字コードが異なっております。Windows は主に「Shift-JIS」、Mac OS/Linux 系は主に「UTF-8」が採用されております。

そのため、外部システムで出力した CSV にも OS が採用している文字コードの影響が出る可能性があります。本機能を使用する前に CSV ファイルの文字コードを確認してください。

◆注意◆ インポートする CSV ファイル

インポートする CSV ファイルは指定されたフォルダに任意の名前で格納してください。このとき、拡張子 CSV のファイルが 1 ファイルのみとなっている必要があります（複数の CSV ファイルが格納されている場合はエラーとなり、インポートが実行されません）。

◆注意◆ インポートする電子ファイル

設定したタイムスタンプ方式によって、取り込み電子ファイルの種類の数異なります。以下は、「PADES」「XAdES」の各タイムスタンプ方式が対応している電子ファイルの種類を示した表になります。

タイムスタンプ方式	電子ファイルの種類
PADES	PDF(.pdf)
XAdES	PDF(.pdf), JPEG(.jpg, .jpeg), PNG(.png), TIFF(.tif, .tiff), Docuworks(.xdw), Word(.doc, .docx), Excel(.xls, .xlsx), PowerPoint(.ppt, .pptx), CSV(.csv)

なお、XAdESで拡張子なしを指定して取り込んだ場合は、上記のいずれかのファイルを探します（同名で異なる拡張子のファイルが存在する場合はエラーとなります）

◆注意◆ アプリで表示可能なファイルについて

クライアントアプリ (e-Success.exe)、Web 検索機能およびリンクビューの電子ファイルプレビューエリアでは、保存形式とインストールしているアプリケーションによって、表示できるファイルとできないファイルが存在します。

下記は、各拡張子の表示の可・不可をまとめた表になります。

保存形式	表示 (クライアント アプリ)	表示 (Web ブラウザ)	補足
PDF(.pdf)	○	○	「Adobe Acrobat Reader」をインストールすることで表示されるようになります。 「Adobe Acrobat Reader」のインストーラーは、下記の URL よりダウンロードしてください。 https://www.adobe.com/jp/acrobat/pdf-reader.html
JPEG(.jpg, .jpeg)	○	○	
PNG(.png)	○	○	
TIFF(.tif, .tiff)	○	△	Web ブラウザ上での表示は、Safari のみ表示可能
Docuworks(.xdw)	○	○	クライアントアプリで表示する場合、「Docuworks」もしくは「Docuworks Viewer Light」をインストールすることで、表示されます。 Web ブラウザ上での表示は、下記の条件を満たすことで表示されます。 ・「Docuworks」もしくは「Docuworks Viewer Light」をインストールされている ・Microsoft Edge の IE モードを使用する。(IE モードのサポート期限は、2029 年まで) 「Docuworks Viewer Light」のインストーラーは、下記の URL より無料でダウンロードすることができます。 https://www.fujifilm.com/fb/download/software/docuworks/download101 Microsoft Edge の IE モードの使用方法は、下記になります。 ①Microsoft Edge を起動します。 ②ウィンドウ右上の「…」をクリックし、「設定」をクリックします。 ③ウィンドウ左の「設定」のメニューより、「既定のブラウザ」をクリックします。 ④「Internet Explorer モード (IE モード) でサイトの再読み込みを許可」を「許可」に設定します。 ⑤「Internet Explorer モード ページ」に Web 検索機能の「書類ビュー」画面とリンクビューの「書類ビュー」画面を各 URL を追加します 追加する URL 例: ・ Web 検索機能: http://localhost/esuccess/SS001_doclist.aspx ・ リンクビュー: http://localhost/esuccesslinkview/SS001_docview.aspx
Word(.doc, .docx)	○	×	「Microsoft Office」をインストールすることで表示されるようになります。(クライアントアプリのみ)
Excel(.xls, .xlsx)	○	×	「Microsoft Office」をインストールすることで表示されるようになります。(クライアントアプリのみ)
PowerPoint(.ppt, .pptx)	○	×	「Microsoft Office」をインストールすることで表示されるようになります。(クライアントアプリのみ)
CSV(.csv)	○	○	対象の文字コードは、「Shift-JIS」「UTF-8」の 2 種類となりまた、自動で文字コードを判別してビューアーに表示されます。下記の点を守って、CSV ファイルを登録してください。 ・最初の 1 行目に項目名を入力してください。 ・値を区切る際は、「,(カンマ)」で区切ってください。 ※Shift-JIS に UTF-8 の文字が含まれている等の影響によって、文字コードを誤変換し文字化けが発生する可能性があります。あらかじめご了承ください。

※○は可、×は不可

◆注意◆ インポート可能件数

1回の操作でインポートできる件数は、最大 20000 件までとなります。

◆注意◆ 金額の単位が「ドル」「ユーロ」「なし」の場合

設定した書類種類の「金額の単位」が「ドル」「ユーロ」「なし」の場合、小数第三位までの金額を取り込めます。小数第四位以下の金額を入れた場合は、小数第四位に対して、書類種類マスタの「外貨の小数第四位の対応」で設定した「切り捨て」「四捨五入」「切り上げ」を実行してから登録されます。

◆注意◆ CSV 取込時のレイアウトのバージョン

一括取込で用意した CSV ファイルのレイアウトバージョンと、「処理設定」の「CSV 取込時にレイアウトのバージョン」で設定したレイアウトのバージョンが異なると、他システムデータの一括取込は実行されません。一括取込を実行したい場合は、CSV ファイルのレイアウトバージョンと「処理設定」の「CSV 取込時にレイアウトのバージョン」を「V6」は「V6」、「V5/V4」は「V5/V4」で必ずそろえてください。

◆注意◆ タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合

タイムスタンプ付与済みの PDF を取り込む際、検証不備となる場合※があります。検証不備となった PDF が見つかった場合は、処理を中止します。

※この現象は、主に以下の要因によって発生します。

- ・インターネットへの接続ができない状態
- ・検証情報が不足している
- ・ルート証明書、中間 CA 証明書が不足している
- ・付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している

「インターネットへの接続ができない状態」「検証情報が不足している」という点については、PDF に付与されている署名には、検証時に必要なルート証明書と中間 CA 証明書の有効期限や有効性の情報を記述された CRL ファイル、OCSP ファイルの取得先の URL が記述されています。もしインターネットに接続にできない場合、CRL ファイル、OCSP ファイルを取得することができないため、検証不備として結果が「△」「×」になります。

なお、PAdES におきましては、CRL ファイル、OCSP ファイルを「store」フォルダに入れることで、オフラインでの検証が可能です。詳細は、次項の「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PAdES のみ)」を参照してください。

「ルート証明書、中間 CA 証明書が不足している」が不足しているケースについては、「e-Success 操作マニュアル」の「書類作業編」の「8. 書類検索・検証」の「A. 登録済みの書類を検索する」の「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった際の対応補足」を参照してください。

「付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している」が発生している書類については、正常なファイルとして扱えませんので、e-Success から対象の書類を削除して、元のファイルを調査してください。

なお、「検証不備」の書類は取り込むことが可能です。取り込み方法、その後の検証不備の書類の扱いについては、「B. 自動一括取込のタスク登録」の「◆注意◆ 検証不備の PDF を取り込みについて」を確認してください。

◆ヒント◆ データが存在しないとき

Windows タスクスケジューラで定期的にタスクを実行する場合、ヘッダ行だけの CSV ファイルが格納されていれば、0 件として処理が実行されエラーになりません。

◆ヒント◆ 一括取込フィルター

「一括取込フィルター」で、上記を事前にチェックできます。「一括取込フィルター」は単独のプログラムで、e-Success クライアントとは別に導入する必要があります。「一括取込フィルター」の詳細は、「e-Success 一括取込フィルター 操作マニュアル」を参照してください。

◆ヒント◆ 必須入力項目の取込について

必須入力項目を入力せずに実行した場合、項目の入力を促すメッセージが表示されますが、書類データと電子ファイルを取り込むことが可能です。ただし、書類検索を実行する場合、検索にヒットしない影響が発生しますので、なるべく入力してください。

◆ヒント◆ タスクスケジューラを使わず、ユーザーの任意のタイミングで一括取込を実行

タスクスケジューラを使用せずに、e-SuccessBulkImport.exe を外部システム (ショートカット等) からの制御により任意のタイミングで起動させ、他システムデータ一括取込することも可能となります。

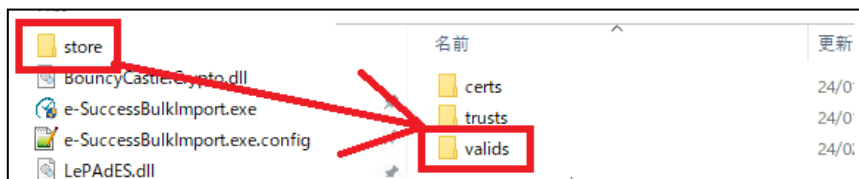
ショートカットを使用した一括取込の詳細な設定は、「E. ユーザーの任意の操作で直接一括取込を実行する」を確認してください。

◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PAdES のみ)

署名検証時は、署名情報と署名と紐づくルート証明書と中間 CA 証明書の有効性を確認するためにインターネット接続を必須としておりますが、ユーザーのネットワーク環境の都合上どうしてもインターネットに接続ができない場合は、検証に必要な CRL ファイルと OCSP ファイルを事前にダウンロードすることで、オフラインでも検証が可能です。

【オフラインでの検証環境の構築方法について】 セイコータイムスタンプサービスで付与された PDF を取り込む場合は、以下のような対応になります。

① 自動一括取込アプリの「store」フォルダを開き、その中に「valids」というフォルダを追加します。



② 以下の URL にアクセスし、CRL ファイルと OCSP ファイルをダウンロードします。

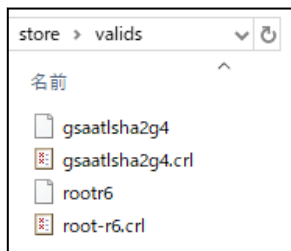
【CRL ファイル】

- ・ <http://crl.globalsign.com/ca/gsaatlsha2g4.crl>
- ・ <http://crl.globalsign.com/root-r6.crl>

【OCSP ファイル】

- ・ <http://ocsp.globalsign.com/ca/gsaatlsha2g4>
- ・ <http://ocsp2.globalsign.com/rootr6>

③ ダウンロードした CRL ファイルと OCSP ファイルを、「valids」フォルダに入れます。



④ 自動一括取込アプリを使用して、セイコータイムスタンプサービスで付与された PDF を取り込みます。

⑤ 取り込みが完了したら、e-Success.exe(クライアントアプリ)もしくはWeb 検索機能にログインして、「書類検索・検証」画面を開き、取り込んだ PDF に対して「一括検証」処理を実行します。

結果がもし「○」になれば設定が完了となります。

B. 自動一括取込のタスク登録

自動一括取込の設定は、Windows のタスクスケジューラを利用して実行します。Windows のタスク処理は、次のように設定します。

- ① e-Success のインストールメディア（DVD 等）から、[自動一括取込] フォルダをコンピュータの任意のフォルダ（例えば [C:¥自動一括取込] フォルダ）にコピーします。
- ② コピーした [自動一括取込] フォルダに接続先設定ファイル（e-SuccessCSSetting、拡張子が表示されているコンピュータの場合は e-SuccessCSSetting.xml）をコピーします。

◆参照◆ 接続先設定ファイル（e-SuccessCSSetting.xml）

接続先設定ファイル（e-SuccessCSSetting.xml）は、e-Success アプリケーションのインストールフォルダに保存されています。

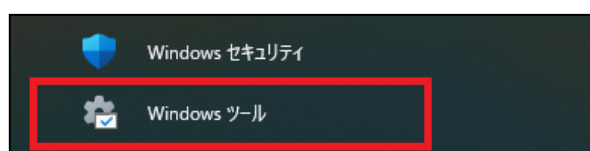
接続先設定ファイルは、[e-Success 接続先設定ツール] で作成します。詳細は、導入・設定編の「5. e-Success アプリケーションの接続先設定」を参照してください。

- ③ Windows の [スタートメニュー] または [アプリビュー] から [Windows 管理ツール] の [タスクスケジューラ] をクリックして、タスクスケジューラを起動します。
左側のペインで [タスクスケジューラ（ローカル）] - [タスクスケジューラライブラリ] を選択して、右側の [操作] ペインで [タスクの作成] をクリックします。



◆ヒント◆ Windows Server 2022 でのタスクスケジューラの開き方

Windows Server 2022 の場合、[スタートメニュー] の [すべてのアプリ] の [Windows ツール] を起動して、表示される Windows ツールのウィンドウから [タスクスケジューラ] を選択してください。



④ [タスクの作成] ダイアログボックスでは、以下のように設定してください。

[全般] タブ

タスクの作成

全般 トリガー 操作 条件 設定

名前(M): e-SuccessBulkImport

場所: ¥

作成者:

説明(D):

セキュリティオプション

タスクの実行時に使うユーザー アカウント:

ユーザーまたはグループの変更(U)...

☐ ユーザーがログオンしているときのみ実行する(B)

☒ ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する(W)

☐ パスワードを保存しない(P) (タスクがアクセスできるのはローカル コンピューター リソースのみ)

☒ 最上位の特権で実行する(I)

☐ 表示しない(X)

構成(C): Windows Vista™, Windows Server™ 2008

OK キャンセル

設定項目	設定内容
名前	任意の名前（例えば e-SuccessBulkImport）
タスクの実行時に使うユーザーアカウント	実行可能な Windows ユーザーを指定し、「ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する」を選択して、[最上位の特権で実行する] チェックボックスをオンにする

[トリガー] タブ

タスクの作成

全般 トリガー 操作 条件 設定

タスクの作成時に、タスクのトリガー条件を指定できます。

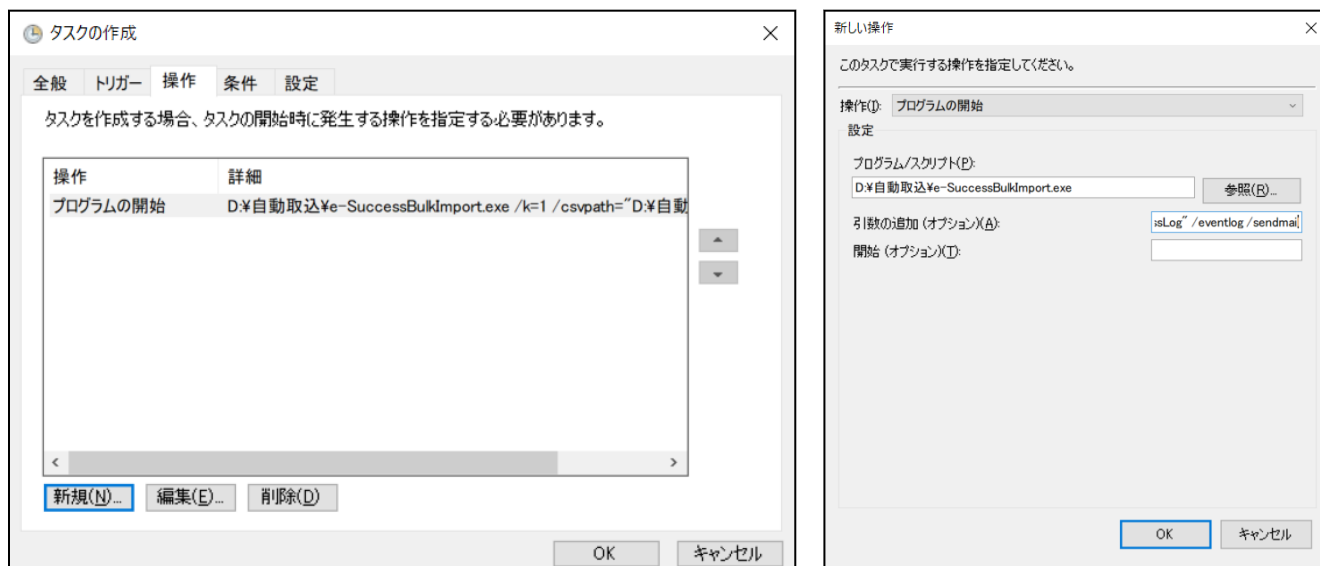
トリガー	詳細
毎日	毎日 2:00 に起動

新規(N)... 編集(E)... 削除(D)

OK キャンセル

[新規] ボタンをクリックして、実行するトリガー条件（スケジュール）を設定してください。上の図は毎日深夜2時に実行する設定を行ったものです。

[操作] タブ



[新しい操作] で、[プログラム/スクリプト] 欄に [自動一括取込] フォルダの [e-SuccessBulkImport] (拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-SuccessBulkImport.exe]) のフルパスを設定します。[引数の追加] 欄は、次のように設定してください。必須に「○」が付いている引数は必ず指定してください。

引数の一覧

引数	必須	説明
/k=Number	○	Number には接続先設定ファイルの ID を指定してください。
/csvpath=PathName	○	PathName にはインポートする CSV ファイルが保存されているフォルダのフルパスを指定してください (ダブルクォーテーションで囲みます)。例: "c:¥e-SuccessImport"
/filepath=PathName	○	PathName にはインポートする電子ファイルが保存されているフォルダのフルパスを指定してください (ダブルクォーテーションで囲みます)。例: "c:¥e-SuccessImportPDF"
/filecolumn_num=Number	○	Number には CSV ファイル内の電子ファイル名が格納されている列番号を指定してください (7: その他項目 1、8: その他項目 2、9: その他項目 3、10: その他項目 4、11: その他項目 5、12: その他項目 6) ※「処理設定」の「CSV 取込時のレイアウトのバージョン」が「V5/V4」の場合は、その他項目 5、6 の列番号を指定しないでください。
/logpath=PathName		PathName にはログファイルの出力先フォルダのフルパスを指定してください (ダブルクォーテーションで囲みます)。指定がない場合はログファイルを出力しません。フォルダは実行前に作成してください。
/eventlog		ログをイベントログに書き込む場合に指定してください。
/sendmail		ログをメールで送信する場合に設定してください。プログラムのフォルダ内に e-SuccessMLSetting.xml が必要です。
/extension		CSV ファイルに記載されている電子ファイル名を拡張子ありとして処理します。
/import_notvel		「検証不備」の書類も含めて取り込む場合に指定してください。 ※本機能は、タイムスタンプ方式が PAdES の場合に機能します。
/futuredate		明日以降の日付が記述されている書類データの取り込む場合に指定してください。
/debugcheck		現在実行している取込処理の進捗状況の詳細をログを CSV 形式で記録する機能です。 CSV のログファイルは、「/logpath」で指定したパスに「Debuglog」というフォルダが作成され、その中に「e-SuccessBulkImportDebugLog_(日時).csv」というファイルが出力されます。 ※本オプションは、自動一括取込実行時に例外エラー等が起きてサポートに問い合わせの際に使用してください。問い合わせの際は、本オプションで記録したログも合わせてお送りください。

引数の指定例 : /k=1 /csvpath="c:¥e-SuccessImport" /filepath="c:¥e-SuccessImportPDF" /filecolumn_num=7/logpath="c:¥e-SuccessLog" /eventlog /sendmail /import_notvel /futuredate

◆ヒント◆ インポートする CSV ファイル

インポートに使用する CSV ファイルのレイアウトや注意事項については、操作マニュアルの「データ連携編」を参照してください。

◆ヒント◆ CSV ファイルと電子ファイルのフォルダ

CSV ファイルと電子ファイルは同じフォルダを使用することも可能です。その場合は、/csvpath と /filepath に同じフォルダのパスを指定してください。

◆ヒント◆ ファイル名が重複している場合

CSV ファイルのデータに重複した電子ファイル名が指定されている場合は、自動的にファイルを複製して処理を行います（ファイル名が電子ファイル名_1.pdf～電子ファイル名_n.pdf のようになります）。

◆ヒント◆ CSV ファイルのレイアウトについて

取り込む CSV ファイルのレイアウトは、「e-Success-V6」「e-Success-V5/ScanSave-V4」の 2 種類あります。V5 以前の CSV レイアウトを使用する場合は「e-Success-V5/ScanSave-V4」を「処理設定」画面で設定します。V6 のレイアウトを使用する場合は「e-Success-V6」で設定し、これまで扱われていた「e-Success-V5/ScanSave-V4」CSV ファイルの「その他 4」の項目の右隣に「その他 5」「その他 6」の項目が追加します。CSV のレイアウトを設定する方法は、別途マニュアル「e-Success 操作マニュアル」の「◆導入・設定編◆」の「3. 処理設定」の「C. 運用設定の設定内容」を参照してください。

◆ヒント◆ CSV ファイルの区切りについて

e-Success において CSV ファイルで使用する区切り文字は、「, (カンマ)」区切りが仕様です。なお、「,」もしくは「,」区切りは、どちらでも受け付けます。

※「””(ダブルクォーテーション)」で、データを囲っていない場合、「(スペース)」の文字が認識されない事があるので、「”」付が推奨となります。

◆ヒント◆ 項目名を必ず書いてください

「項目名」の行は CSV の 1 行名に必要です。なお、CSV ファイルのデータ例「項目名」の「その他 N」は、任意に書換可能です。

※項目名の文字コード (Shift-JIS/UTF-8) を基準とするので、2 行目以降のデータに 1 行目に合わせて任意の文字コードで、保存してください。

※「項目名」および「項目に沿ったデータ」の数が合致しない場合は、エラーになり取り込めません。

◆ヒント◆ バッチファイルの作成

自動一括取込のプログラムについては、引数の設定が多いため、あらかじめバッチファイルを作成しておいて、そのバッチファイルを「プログラム/スクリプト」に登録することもできます。バッチファイルを作成した場合は、バッチファイルで実行テストを行うこともできます。

◆ヒント◆ エラーが起きた場合のメールの送信先

一括取込処理中にエラーが発生した時、「エラーの送信先アドレス」にメールアドレスが記入されていると「エラーの送信先アドレス」の宛先にメールが送信されます。

もし無記入の場合は、「送信先アドレス」に設定されているメールアドレスに送信されます。

「エラーの送信先アドレス」の設定は、「10. メール設定ファイルの保存」を確認してください。

◆参 照◆ メール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml)

メール送信で使用するメール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml) の作成方法については、導入・設定編「10. メール設定ファイルの保存」を参照してください。

◆注意◆ 電子ファイルの拡張子 (/extension) で選択の誤りによるファイル名の不一致

CSV ファイルの電子ファイルの拡張子名 (/extension) の有無の誤りで、書類データに記載されているファイル名と実際の電子ファイルのファイル名で、不一致のエラーが起きることが各所見受けられるようになりました。

書類データのファイル名に記載されているその他の項目の内容を確認し、電子ファイルの拡張子を正しく選択してください。

◆注意◆ 明日以降の日付が記されている書類データを登録する場合

自動一括取込アプリおきましては、通常の場合、明日以降の日付が記されている書類データを取り込むことができません。もし登録したい場合は、コマンドラインにオプション「/futuredate」を追加して実行してください。

引数の指定例:

/k=1 /csvpath="c:\e-SuccessImport" /filepath="c:\e-SuccessImportPDF" /filecolumn_num=7 /futuredate

⑤ 設定が完了したら、[OK] ボタンをクリックしてアカウント情報を入力して、タスクを保存します。タスクをテスト実行する場合は、タスクスケジューラの一覧で作成したタスクを選択して、右側の[操作]パネルで[実行]をクリックします。

実行結果については、引数で指定したログファイル/イベントログ/メールで確認してください。また、同時にデータベースにもログが格納されるので、e-Success アプリケーションで実行結果を参照することもできます（この後の「C. ログファイルの内容（自動一括取込）」を参照してください）。

◆注意◆ 取込処理に失敗した場合

自動一括取込アプリが、取込途中で失敗した際、全ての取込処理を中止するなっています。その場合、ログでエラーを確認して、再度取込処理を行ってください。

◆注意◆ タスクの優先度を設定

作成したタスクの優先度が低いと、他のタスクが実行されている中で定刻になってもタスクが実行されない場合があります。そのため、確実に実行したい場合は、必ずタスクに優先度を高く設定するようにしてください。

設定方法は、以下のようになります。

- ① 作成したタスクを右クリックし、「エクスポート」をクリックします。
- ② 出力先を指定し、XML ファイルを出力します。
- ③ 出力した XML ファイルの「priority」タグ内の数値を変更します。
数値は 0～10 までとなっており、数値が小さいと優先度が高くなり、数値が大きいと優先度が低くなります。優先度を高くする場合は、なるべく 1～4 の値を入れてください。
- ④ 「priority」タグを変更したら、XML ファイルを保存します。
- ⑤ 作成したタスクを右クリックし、「削除」をクリックします。
- ⑥ ウィンドウ右の「タスクスケジューラライブラリ」の「タスクのインポート」を選択します。
- ⑦ ③④で更新した XML ファイルを指定して、タスクを新たに登録します。

以上で、タスクの優先度の設定は完了となります。

◆注意◆ 検証不備の PDF を取り込みについて

検証不備の PDF は、コマンドラインのオプションで「/import_notvel」を追加することで取り込むことが可能です。

取り込んだ検証不備の PDF は、「処理」項目を見ると以下のようにセルが水色で表示されます。

タイムスタンプ付与済みの PDF と同様検証することは可能ですが、正常なタイムスタンプ付与済みの PDF とは扱われていない状態です。書類検証して、結果が「○」となりその有効性が認められるまでは、セルは水色の表示のままとなります。

処理	書類番号 ▲	検証結果
	0000199	e
	0000200	e

検証不備の書類は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプを付与することができます。また、タイムスタンプ付与した場合は、セイコータイムスタンプのタイムスタンプ日時が記録され、検証することも可能です。

しかし、検証不備のタイムスタンプと二重で署名になることから、タイムスタンプサービスのタイムスタンプに問題はなくとも、検証不備のタイムスタンプに問題がある場合は、結果が「△」となり有効化が認められません。

不足しているルート証明書、中間 CA 証明書を追加する等といった対応行って、検証不備のタイムスタンプを有効化してください。

※検証不備の書類に対してタイムスタンプ付与する場合は、自動タイムスタンプ付与アプリで検証不備の書類に付与できるように設定する必要があります。

設定方法は、「8. 自動タイムスタンプ付与の設定」の「A. 自動タイムスタンプ付与の処理設定」を確認してください。

なお、e 文書モードをご利用されている場合は、検証不備の PDF を取り込むことができません。

ご不明の場合は、弊社サポートまでお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

アンテナハウス株式会社 e-文書・証憑/スキャナ保存製品サポートセンター

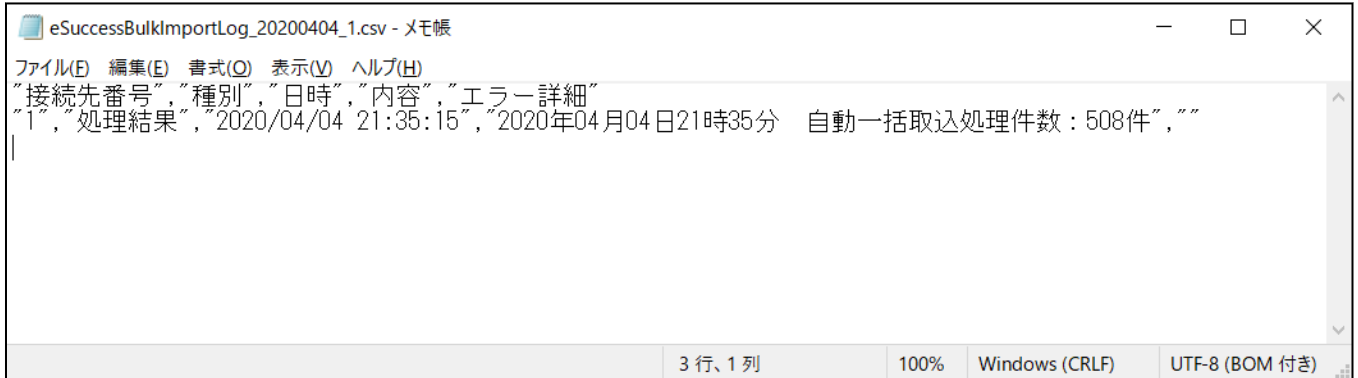
メールアドレス: edocument@antenna.co.jp

C. ログファイルの内容（自動一括取込）

自動一括取込の実行結果は、ログファイルに記録されます。

ログファイルは、自動一括取込の実行記録が、処理日別、接続設定ファイル ID 別に、eSuccessBulkImportLog_yyyymmdd_n.csv (yyymmdd は処理日、n は指定された接続先設定ファイルの ID) として出力されます。同日に複数回実行した場合は、ログファイルの末尾に追記されます。

ログファイルの例：



エラーが発生した場合は、以下のログが出力されます。ここに掲載されていないログが出力された場合は、サポートにお問い合わせください。なお、イベントログには 523xx のイベント ID でログが記載されます。

自動一括取込処理 エラーログ一覧

ログ種別	ログの内容	対応方法
エラー	起動パラメータ/logpathが不正です。	起動パラメータ/logpathに指定されているフォルダが存在していることを確認してください。
エラー	起動パラメータ/kが設定されていません。	起動パラメータ/kを指定してください。
エラー	起動パラメータ/kが不正です。	起動パラメータ/kに指定されている番号が、e-SuccessCSSetting.xml に存在していることを確認してください。
エラー	起動パラメータ/kが不正です。	e-Success 接続先設定ツールの接続確認機能を使用して、自動一括取込処理が実行されているコンピュータから e-Success データベースが参照できることを確認してください。
エラー	起動パラメータ/csvpathが指定されていません。	タスクの設定で起動パラメータ/csvpathを指定してください。
エラー	起動パラメータ/csvpathの値が不正です。	タスクの設定で起動パラメータ/csvpathに指定されているフォルダが存在していることを確認してください。
エラー	起動パラメータ/filepathが指定されていません。	タスクの設定で起動パラメータ/filepathを指定してください。
エラー	起動パラメータ/filepathの値が不正です。	タスクの設定で起動パラメータ/filepathに指定されているフォルダが存在していることを確認してください。
エラー	起動パラメータ/filecolumn_numが指定されていません。	タスクの設定で起動パラメータ/filecolumn_num を指定してください。
エラー	起動パラメータ/filecolumn_numが不正です。	CSV ファイルのその他項目 1～その他項目 6（7 列目～12 列目）のうち、ファイル名が格納されている列の番号を指定してください。 ※「処理設定」の「CSV 取込時のレイアウトのバージョン」が「V5/V4」の場合は、その他項目 5, 6 の列番号を指定しないでください。
エラー	CSV ファイルがありません。	指定フォルダに CSV ファイルが格納されていることを確認してください。
エラー	CSV ファイルが複数あります。	指定フォルダに複数の CSV ファイルが存在するため、1 ファイルごとに処理を実行してください。
エラー	一括取込用の CSV ファイルではありません。	自動一括取込用の CSV ではない可能性があります。CSV ファイルを確認してください。

ログ種別	ログの内容	対応方法
エラー	一括取込用の CSV ファイルまたは電子ファイルに不備があります。	CSV ファイルに不備があります。エラー詳細に記載されているエラー CSV ファイルを開いて「エラー」列を確認してください。
エラー	一括取込用の CSV ファイルまたは電子ファイルに不備があります。	エラー列の内容については、別表の「※エラー CSV ファイル内のエラー一覧」を参照してください。
エラー	「ファイル名の列」で指定された列のデータに空欄が存在しているため、設定できません。	一括取込用の CSV ファイルの内容を確認してください。
エラー	既に作業中の同名の電子ファイルが存在しています。先に作業中の電子ファイルにタイムスタンプを付与する必要があります。	1つの電子ファイルに対しては、必ず同じ書類種類 ID をセットするようにしてください。
エラー	他システムデータの一括取込が実行中のため、実行できませんでした。	e-Success アプリケーションの他システムデータの一括取込処理が実行中であつた可能性があります。再度実行してください。
エラー	e-文書モードでは、タイムスタンプが付与されていない PDF は利用することができません。	タイムスタンプ付与済みの PDF を使用してください。
エラー	一括取込で処理できる件数は一度に 20000 件までです。件数を減らして再度処理を実行してください。	取り込み件数の上限をオーバーしたため、データ件数を減らしてください。
エラー	ログファイルの出力先フォルダが存在しないため、ログファイルを生成できませんでした。	起動パラメータ/logpath に指定されているフォルダが存在していることを確認してください。
エラー	メール送信用設定ファイルがありません。	プログラムのフォルダ内にメール設定ファイル (e-SuccessMLSetting.xml) が格納されていることを確認してください。

エラー CSV ファイル内のエラー一覧

CSV ファイル内のエラー内容	対応方法
1 列目にマスタに登録されていない書類種類 ID が含まれています。	書類種類マスタに登録されている書類種類 ID を指定してください。
2 列目にマスタに登録されていない拠点コードのデータが含まれています。	拠点マスタに登録されている拠点コードを指定してください。
3 列目に日付型以外のデータが含まれています。	“YYYY/MM/DD” または “YYYY/M/D” 形式で指定してください。
4 列目に数値（カンマなし）以外のデータが含まれています。	数値で指定してください。
5 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。
6 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。
7 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。
8 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。
9 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。
10 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。
11 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。 ※「処理設定」の「CSV 取込時のレイアウトのバージョン」が「V6」の場合は、「その他 5」の列になります。 ※「処理設定」の「CSV 取込時のレイアウトのバージョン」が「V5/V4」の場合は、「備考」の列になります。
12 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。 ※「処理設定」の「CSV 取込時のレイアウトのバージョン」が「V5/V4」の場合は、この列は存在しません。

CSV ファイル内のエラー内容	対応方法
13 列目に 201 文字以上のデータが含まれています。	200 文字以内の文字列で指定してください（半角全角問わず）。 ※「処理設定」の「CSV 取込時のレイアウトのバージョン」が「V5/V4」の場合は、この列は存在しません。
ファイル名が格納されている列が空欄です。	起動パラメータ/filecolumn_num で指定した列は、必ず値が指定されている必要があります。
該当する電子ファイルが存在しません。	起動パラメータ/filecolumn_num で指定した列のファイル名が、起動パラメータ/filepath で指定したフォルダに存在することを確認してください。
タイムスタンプ方式が PAdES のため PDF 以外のファイルは利用できません。	PAdES のときは、PDF ファイルのみ利用可能です。
PDF、jpg、jpeg、xdw、png、tif、tiff、csv および Office 以外のファイルは利用できません。	PDF、jpg、jpeg、xdw、png、tif、tiff、csv および Office(doc、docx、xls、xlsx、ppt、pptx) 以外のファイルは利用できません。

D. 自動一括取込ログの参照

データベースに格納されている自動一括取込ログは、e-Success アプリケーションで参照できます。e-Success アプリケーションのメインメニューで「サーバーサイド一括処理ログの参照」をクリックすると、「サーバーサイド一括処理ログの参照」画面が表示されます。

サーバーサイド一括処理ログの参照

日付: 2020/04/08 ~ 検索 検索条件クリア

分類: ☒ すべて ☐ エラーのみ

エラーのクリア

全10件 2020/04/09 20:04:54 時点

日時	分類	内容	エラー詳細
2020/04/05 17:09:46	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/05 16:56:09	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/05 16:55:59	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/05 16:55:41	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/05 16:48:05	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/05 16:47:53	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/05 16:47:31	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/05 01:41:44	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/05 01:41:37	エラー	CSVファイルがありません。	
2020/04/04 21:35:15	処理結果	2020年04月04日 21時35分 自動一括取込処理件数: 508件	

既定では直近1週間分のログが表示され、期間、ログの分類を指定して「検索」ボタンをクリックすることで、任意のログを参照できます。エラーのログの行は、薄いピンク色で表示されます。このとき、メインメニューには「サーバーサイド一括処理ログの参照」ボタンの右に「エラーあり」アイコンが表示されます。

■ サーバーサイド一括処理ログの参照 エラーあり

「サーバーサイド一括処理ログの参照」画面で「エラーのクリア」ボタンをクリックすると、薄いピンク色の表示がなくなり、メインメニューでの「エラーあり」アイコンの表示もなくなります（表示時点までのエラーをクリアします）。

◆ ヒント ◆ メインメニューでの「エラーあり」アイコンの表示

メインメニューにおける「エラーあり」アイコンの表示方法は、処理設定の「運用設定」タブで「すべてのユーザーで表示」または「システム管理者のみ表示」のいずれかに設定できます。

E. ユーザーの任意の操作で直接一括取込を実行する

◆注意◆ 以下の手順を踏む前に

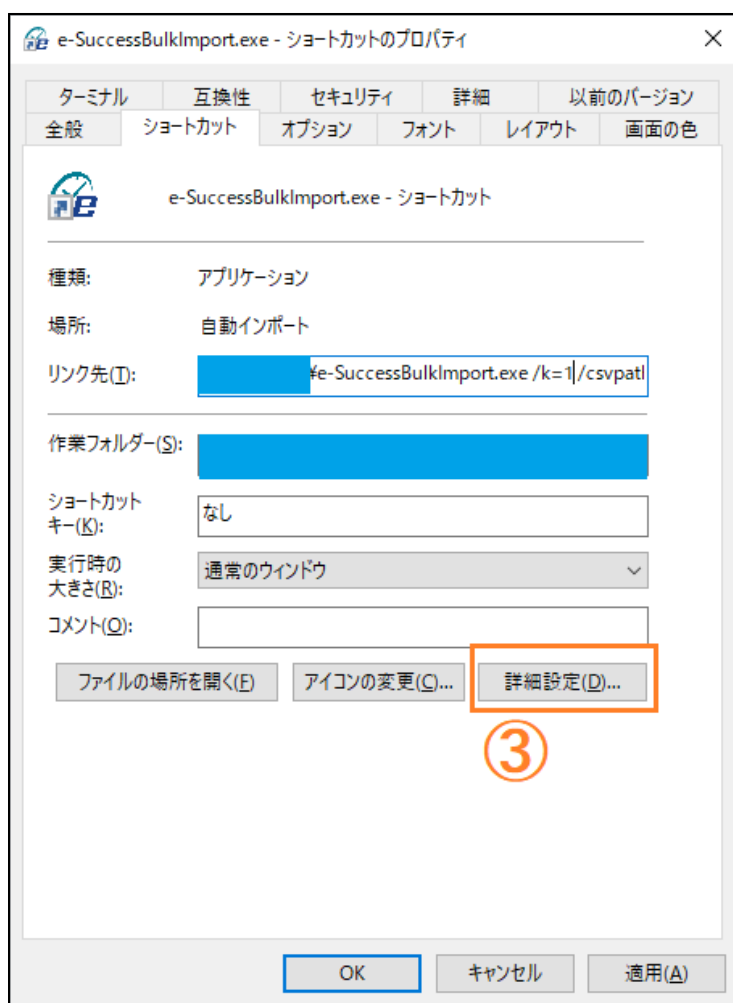
以下の内容は、「B. 自動一括取込のタスク登録」の②までの一括取込の設定が完了していることを前提に説明した内容となります。一括取込の設定が完了できない場合は、先に「B. 自動一括取込のタスク登録」の②までの工程を完了させて下さい。

一括取込は、タスクスケジューラを使わずに、一括取込アプリのショートカットを作成して引数を設定することで、ユーザーの任意のタイミングで操作することも可能です。

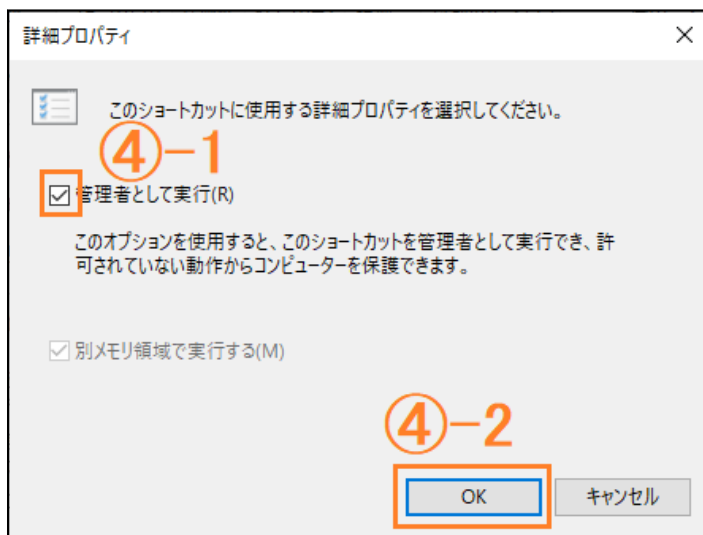
①インストール先にある「e-SuccessBulkImport.exe」を右クリックし、「ショートカットを作成」をクリックします。

②作成したショートカットを右クリックして、「プロパティ」を選択します。

③「ショートカット」タブの「詳細設定」ボタンをクリックします。



④「管理者として実行」にチェックを入れて「OK」をクリック

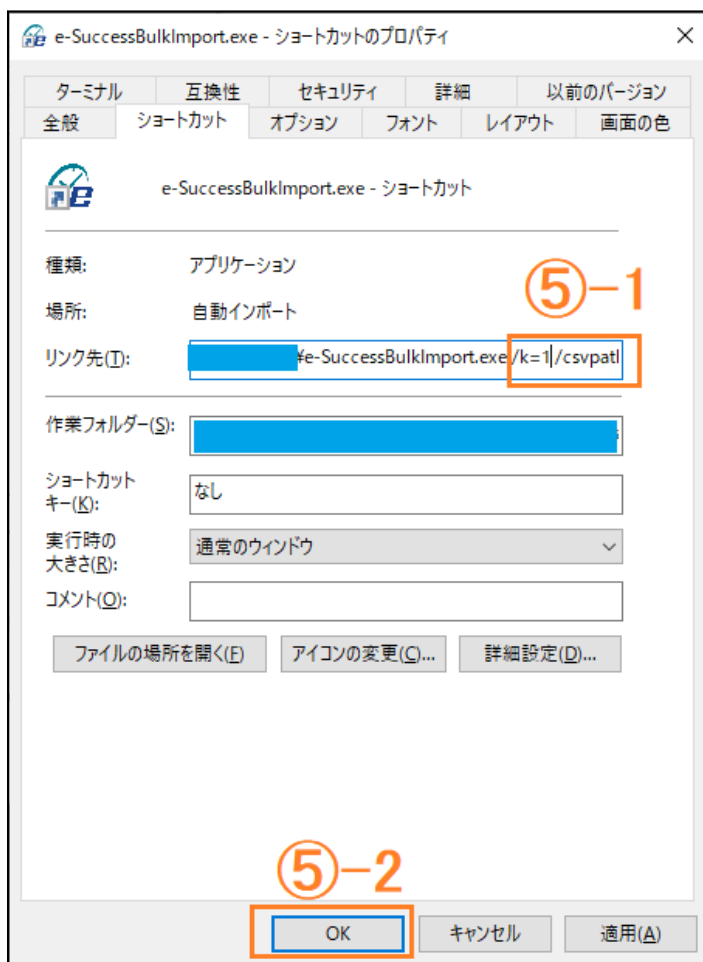


⑤「ショートカット」タブの「リンク先」の末尾に引数を追加し、「OK」を押します。

◆ヒント◆ 引数について

末尾に追加する引数は、「B. 自動一括取込のタスク登録」の④の「操作」タブの「引数の追加」に入力する引数と同じ値を使います。引数の詳細は、「B. 自動一括取込のタスク登録」の「引数の一覧」を確認してください。

入力例:¥e-SuccessBulkImport.exe /k=1 /csvpath="(CSV ファイルを入れているフォルダパス)" /filepath="(PDF 等の電子ファイルを入れているフォルダパス)" /filecolumn_num=7 /logpath="(PDF 等の電子ファイルを入れているフォルダパス)¥log" /eventlog /sendmail



⑥作成したショートカット任意の位置に置いて、その後、ショートカットをダブルクリックして、問題なく一括取込が実行されれば完了となります。

10. メール設定ファイルの保存

「自動タイムスタンプ付与」および「自動一括取込」の自動処理ログをメールで送信するには、メール設定ファイルを作成する必要があります。

A. メール設定ファイルの作成

メール設定ファイルは、「メール設定ファイル作成ツール」で作成します。次の手順でメール設定ファイルを作成してください。

- ① e-Success のセットアップフォルダから、「メール設定ファイル保存」フォルダを、コンピュータの任意のフォルダ（例えば「C:\¥メール設定ファイル保存」フォルダ）にコピーします。
- ② コピーした「メール設定ファイル保存」フォルダの「e-Success_MailSetting」（拡張子が表示されているコンピュータの場合は「e-Success_MailSetting.exe」）を起動します。
- ③ 「メール設定ファイル作成ツール」が起動するので、メール送信についての各項目を設定します。

Gmail のメールサーバーを利用した場合の設定例

メール送信の設定項目

項目名	必須	設定内容	備考
送信先アドレス	○	自動処理ログの送信先アドレス	すべて半角。 複数のメールアドレスに送信する場合は、カンマで区切って入力してください。
エラーの送信先アドレス		自動処理時にエラーが発生した際の送信先アドレス	すべて半角。 複数のメールアドレスに送信する場合は、カンマで区切って入力してください。 ※本項目の記入がない場合、自動処理時にエラーが発生した時は「送信先アドレス」で記入したメールアドレスに送信されます。
SMTP サーバー	○	メールを送信する SMTP サーバー	
ユーザー ID	○	SMTP サーバーのユーザー ID	
パスワード	○	SMTP サーバーのパスワード	
送信元アドレス	○	自動処理ログの送信元アドレス	
ポート番号	○	SMTP サーバーのポート番号	
送信ライブラリ	○	メール送信時に使用するライブラリ	[Mailkit(推奨)]、[System.Net.Mail] の選択いずれかを設定してください。デフォルトの設定は、[Mailkit(推奨)] になります。
SSL を使用する (SSL/TLS)	○	SSL を使用する場合はオン	SSL を使用する場合は、SMTP 認証方法では [SMTP 認証] または [POP before SMTP] のいずれかを選択してください。
SMTP 認証方法	○	[なし]、[SMTP 認証]、[SMTP 認証 (STARTTLS)]、[POP before SMTP] のいずれかを選択	[POP before SMTP] を選択した場合は POP サーバーと POP ポートの設定欄が表示されます。
POP サーバー	○	POP before SMTP で利用する POP サーバー	SMTP 認証方法で [POP before SMTP] を選択したときは設定してください。
POP ポート	○	POP before SMTP で利用する POP サーバーのポート番号	SMTP 認証方法で [POP before SMTP] を選択したときは設定してください。

◆ヒント◆ メール送信の設定

メール送信の設定内容は、利用するメールサーバーによって異なります。

◆注意◆ 「送信ライブラリ」について

「送信ライブラリ」の選択は、お客様の社内のセキュリティポリシーやマシンの環境設定などの状態に応じて選択してください。

また Microsoft 公式では、「System.Net.Mail」のサポートが既に終了しており、公式からは「Mailkit」の使用を推奨しております。「System.Net.Mail」を使用する際は、サポート終了を理解したうえでご使用ください。

④ [テスト送信] ボタンをクリックすると、設定した内容でテストメールが送信されます。エラーメッセージが表示された場合やメールが届かなかった場合は、メール送信の設定を確認してください。

◆ヒント◆ 「エラーテスト送信」ボタンの使用

[エラーテスト送信] ボタンをクリックすることで、エラーが発生した時のメールの送信先アドレスにテストメールを送信することもできます。

「エラーの送信先アドレス」にメールアドレスが記入されている場合は、「エラーの送信先アドレス」宛にテストメールが送信されます。無記入の場合は、「送信先アドレス」に設定されているメールアドレスに送信されます。

⑤ [設定ファイル作成] ボタンをクリックすると、[メール設定ファイル保存] フォルダに [e-SuccessMLSetting] (拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-SuccessMLSetting.xml]) が保存されます。

再度、メール設定ファイル作成ツールを起動すると、自動的にフォルダ内の設定ファイル [e-SuccessMLSetting.xml] が読み込まれて、前回の設定内容が表示されます。設定内容を変更する場合は、対象の項目を修正して、[設定ファイル作成] ボタンをクリックしてください。

自動タイムスタンプ付与および自動一括取込の自動処理ログをメールで送信する場合は、この項の手順で作成した設定ファイル[e-SuccessMLSetting.xml]を、それぞれの実行用のフォルダにコピーして使用します。設定方法については、「**8. 自動タイムスタンプ付与の設定**」または「**9. 自動一括取込の設定**」、「**7. バックアップをタスクスケジューラで実行**」を参照してください。

11. アップデート

e-Success アプリケーションは、動作の改善や不具合の改修をした版をメンテナンスリリースとしてご提供することがあります。

メンテナンスリリースを、e-Success アプリケーションが導入されているコンピューターに導入することにより、e-Success アプリケーションをアップデートできます。

◆注意◆ アップデートの前に

e-Success アプリケーションのアップデートを実行するときは、管理者権限を持つユーザーでコンピューターにログオンしてください。また、動作している他のアプリケーションソフト（ウイルス対策ソフトや統合セキュリティソフトを含む）を終了させてから、アップデートを実行してください。

◆注意◆ ライセンスファイルを一時的避難

e-Success アプリケーションのアップデートを実行すると、ライセンスファイルが評価版ライセンスに上書きされてしまいます。アップデートを行う前に、あらかじめ正規版ライセンスファイルを任意のパスに一時避難させてください。

A. e-Success をアップデートする

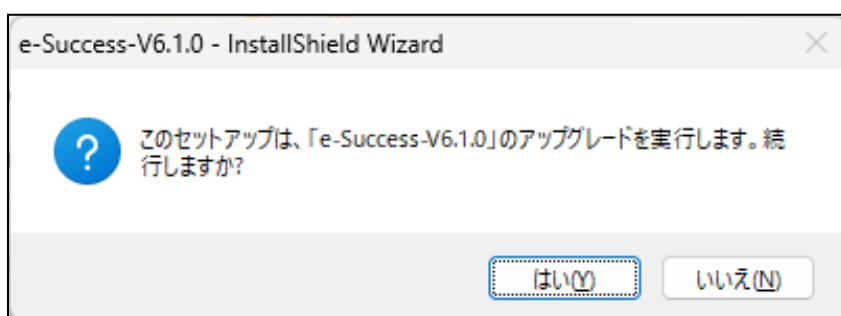
e-Success アプリケーションのアップデートは、次の手順で実行します。なお、この操作は e-Success アプリケーションがインストールされているすべてのクライアントで実行してください。

- ① Windows エクスプローラで、e-Success のセットアップフォルダから [SETUP] フォルダを開きます。
- ② [SETUP] フォルダ内の [e-Success_Setup]（拡張子が表示されているコンピュータの場合は [e-Success_Setup.exe]）をダブルクリックします。

◆注意◆ ユーザーアカウント制御

セットアッププログラムを実行したときに「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されることがあります。その場合は、[許可] ボタンまたは [はい] ボタンをクリックして、作業を進めてください。

- ③ アップデートの確認メッセージで、[はい] ボタンをクリックしてください。



④ アップデートの準備が完了したら、[次へ] ボタンをクリックしてください。アップデートを開始します。



⑤ 作業完了の画面が表示されたら、アップデート作業は完了です。[完了] ボタンをクリックして画面を閉じてください。



⑥ e-Success を起動して、システムにログインし、メインメニューの「バージョン情報」でアプリケーションのバージョンが更新されていることを確認してください。

B.外部アプリ（e-Success 関連アプリ）のアップデート

インストーラーによるクライアントアプリ（e-Success.exe、一括取込フィルターなど）の更新が完了した後、次に下記の外部アプリが更新作業を行います。

- ・メール設定ファイル保存（e-Success_MailSetting.exe）
- ・自動タイムスタンプ付与（e-SuccessTimestamp.exe）
- ・自動一括取込（e-SuccessBulkImport.exe）
- ・データベース構築（e-SuccessDB_Create.exe）
- ・バックアップ保存（e-SuccessDBManagementApp.exe）

外部アプリの更新作業の工程は、アプリケーションとアプリケーションに依存しているファイルの上書きになります。

作業を行う前に、先にお客様の環境でインストールした各種アプリケーションのファイルパスを確認してください。

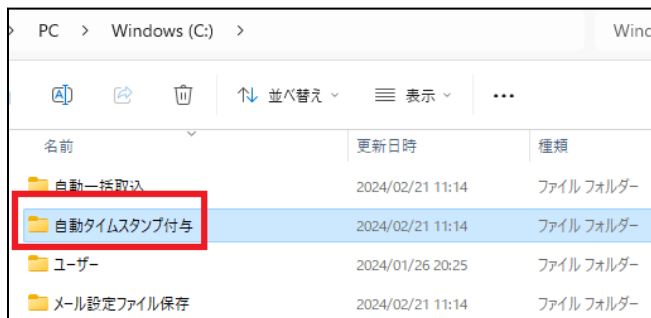
※外部アプリの中には、更新されていないアプリもあります。更新情報につきましては、セットアップファイル内の「はじめにお読みください」の改訂履歴、もしくは、製品ページの改訂履歴を参照してください。

<https://www.antenna.co.jp/support/update-sys/scansave/scansave3.html>

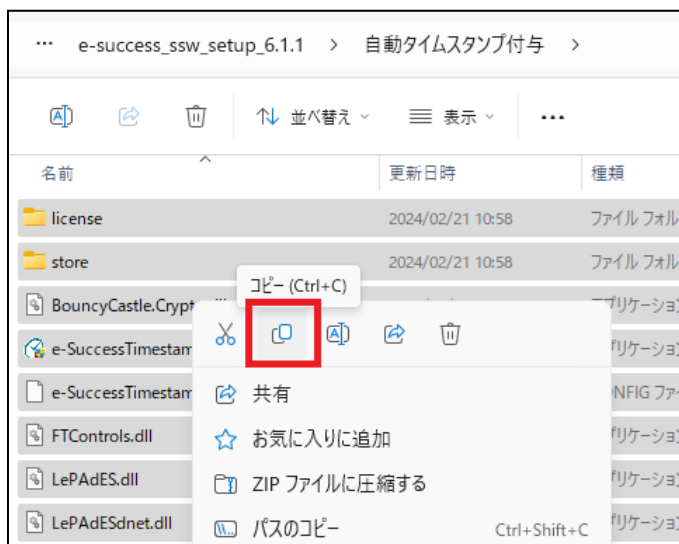
次の手順で、外部アプリを更新してください。

① 最初に[自動タイムスタンプ付与]アプリを例に更新作業を行います。作業を行う前に旧バージョンの[自動タイムスタンプ付与]アプリを、任意のフォルダにバックアップします。

例えば、自動タイムスタンプ付与アプリを「C:\¥自動タイムスタンプ付与」のパスにインストールしている場合、[自動タイムスタンプ付与]のフォルダごとバックアップしてください。

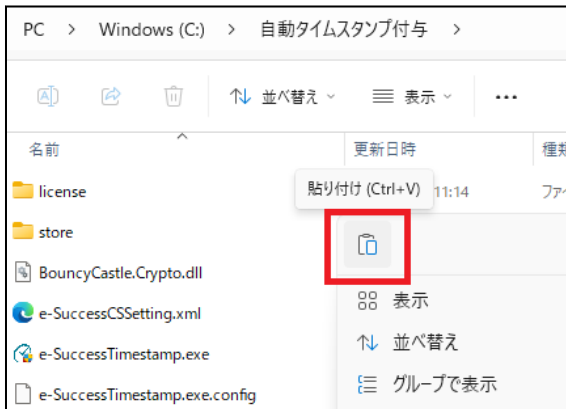


② ダウンロードした e-Success の最新版のセットアップファイルから [自動タイムスタンプ付与] のフォルダを開き、[自動タイムスタンプ付与] 内のファイルを全て選択して、右クリックして表示されるメニューから「コピー」をクリックします。

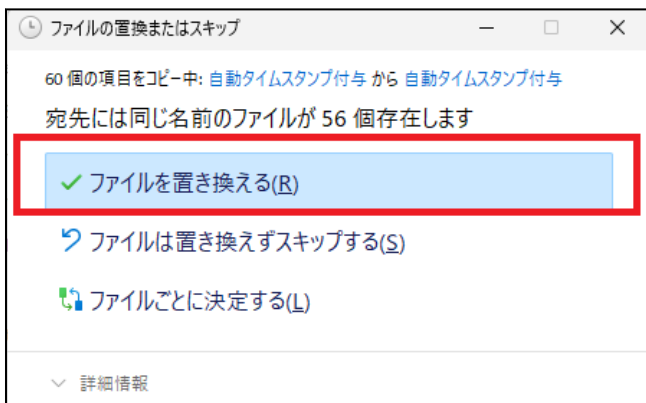


③ 旧バージョンの「自動タイムスタンプ付与」アプリを置いているフォルダ内で、右クリックして表示されるメニューから「貼り付け」をクリックします。

例えば、自動タイムスタンプ付与アプリを「C:¥自動タイムスタンプ付与」のパスにインストールしている場合、[自動タイムスタンプ付与] フォルダの中身を対象に「貼り付け」を実行してください。



④ 「ファイルを置き換える」を選択して、アプリを上書きして更新してください。



⑤ 「自動一括取込」「データベース構築」「メール設定ファイル保存」「バックアップ保存」についても、同様の手順（①～④）で更新作業を行います。

以上で、外部アプリの更新作業は完了となります。

12. アンインストール

◆注意◆ アンインストールの前に

e-Success アプリケーションをアンインストールする場合は、管理者権限を持つユーザーでコンピュータにログオンしてください。また、念のため動作している他のアプリケーションソフト（ウイルス対策ソフトや統合セキュリティソフトを含む）を終了させてから、アンインストールを行ってください。

A. e-Success をアンインストールする

e-Success アプリケーションは、次の手順でアンインストールできます。

- ① 「設定」アプリから、「アプリ」⇒「インストールされているアプリ」の一覧（プログラムの一覧）を表示します。
- ② プログラムの一覧から [e-Success-V6.5.0] を選択して、[アンインストール] をクリックします。確認メッセージが表示された場合は、[はい] をクリックしてください。



「アプリと機能」の表示例

- ③ しばらくすると、アンインストール作業が終了し、デスクトップの e-Success アイコンが削除されます。アプリケーションのインストールフォルダに残っているフォルダやファイルについては、不要であれば削除してください。

13. e-Success データベースの手動バックアップ

A. e-Success データベースを手動で完全バックアップする

「完全バックアップ」は、e-Success のメインデータベースとファイルデータベースにある全てのデータを対象にバックアップする処理となります。

サーバーマシンの交換などで、データベースを別のサーバーに移動する場合は、外付けのハードディスクドライブなどにバックアップしたバックアップファイルを出力します。その後の復元方法については、「14. e-Success データベースの復元」を参照してください。

次の手順で、e-Success データベースを手動で完全バックアップします。

- ① バックアップ保存アプリ（サーバーにコピーした「バックアップ保存アプリ」のフォルダの「e-SuccessDBManagementApp」（拡張子が表示されているコンピュータの場合は「e-SuccessDBManagementApp.exe」）を起動します。

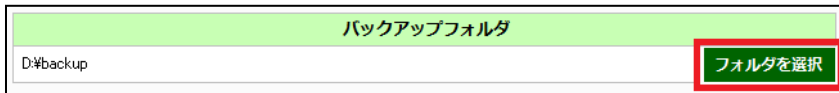
バックアップ保存アプリが起動したら、処理対象の接続先を選択して、システム管理者権限のユーザーでログインしてください。

「データベースメンテナンスツール」のログイン画面

年月	書類データ件数	電子ファイル件数
☒ 2021/07	5	5
☐ 2021/06	45	45
☐ 2020/03	1	1
☐ 2017/11	20	20
☐ 2017/10	98	98
☐ 2017/09	98	98
☐ 2017/08	98	98
☐ 2016/12	98	98
☐ 2016/11	98	98
☐ 2016/10	98	98
☐ 2016/09	181	181
☐ 2016/08	1292	1292
☐ 2016/03	1	1
☐ 2011/01	1	1

ログイン後の画面

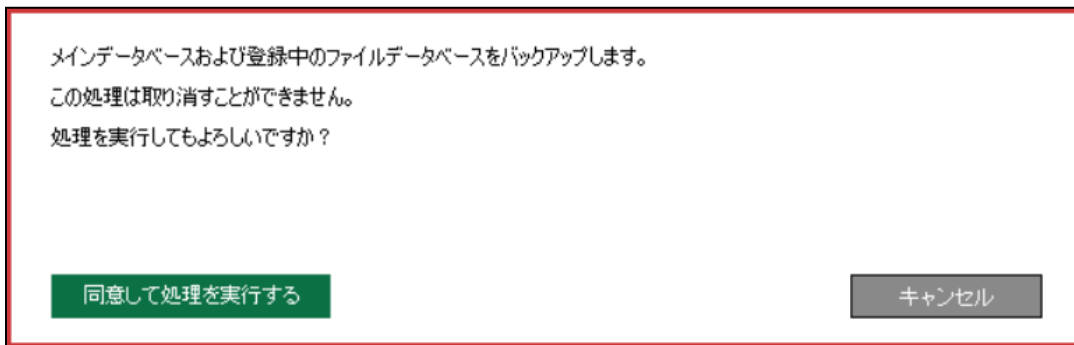
② 外付けハードディスクドライブなどに、バックアップフォルダを設定します。バックアップフォルダ項目の下の「変更」ボタンをクリックして、出力先のフォルダを選択してください。



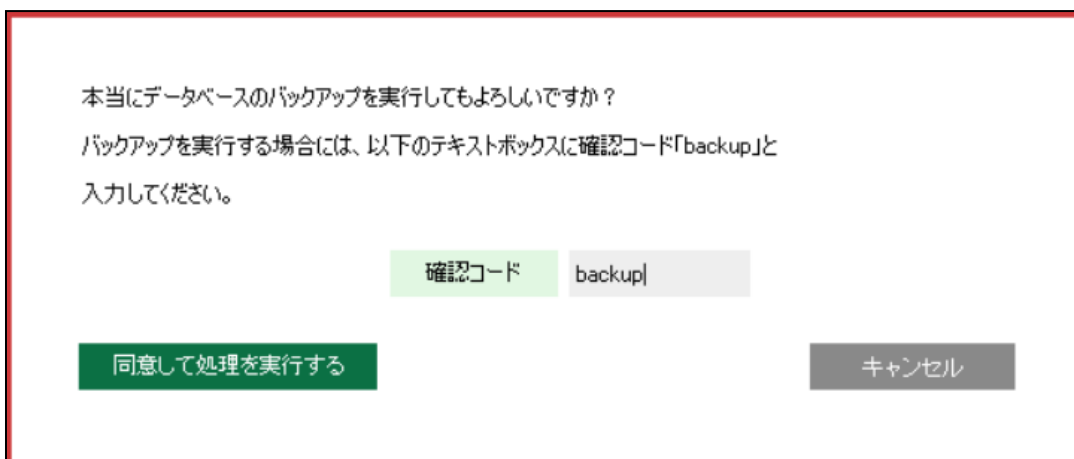
③ 「データベースのバックアップ」のクリックで、完全バックアップを実行します。



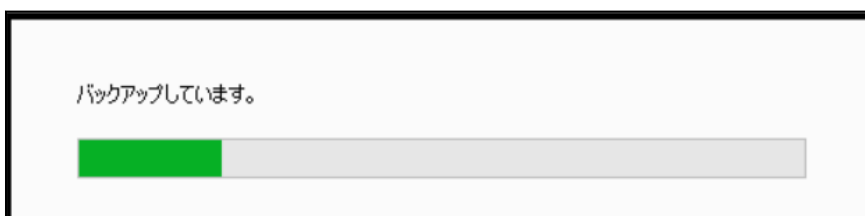
④ 確認メッセージが表示されるので、「同意して処理を実行する」ボタンをクリックします。



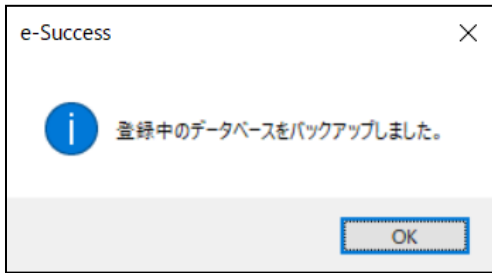
⑤ 処理の再確認画面が表示されるので、確認コード「backup」を入力し、「同意して処理を実行する」ボタンをクリックします。



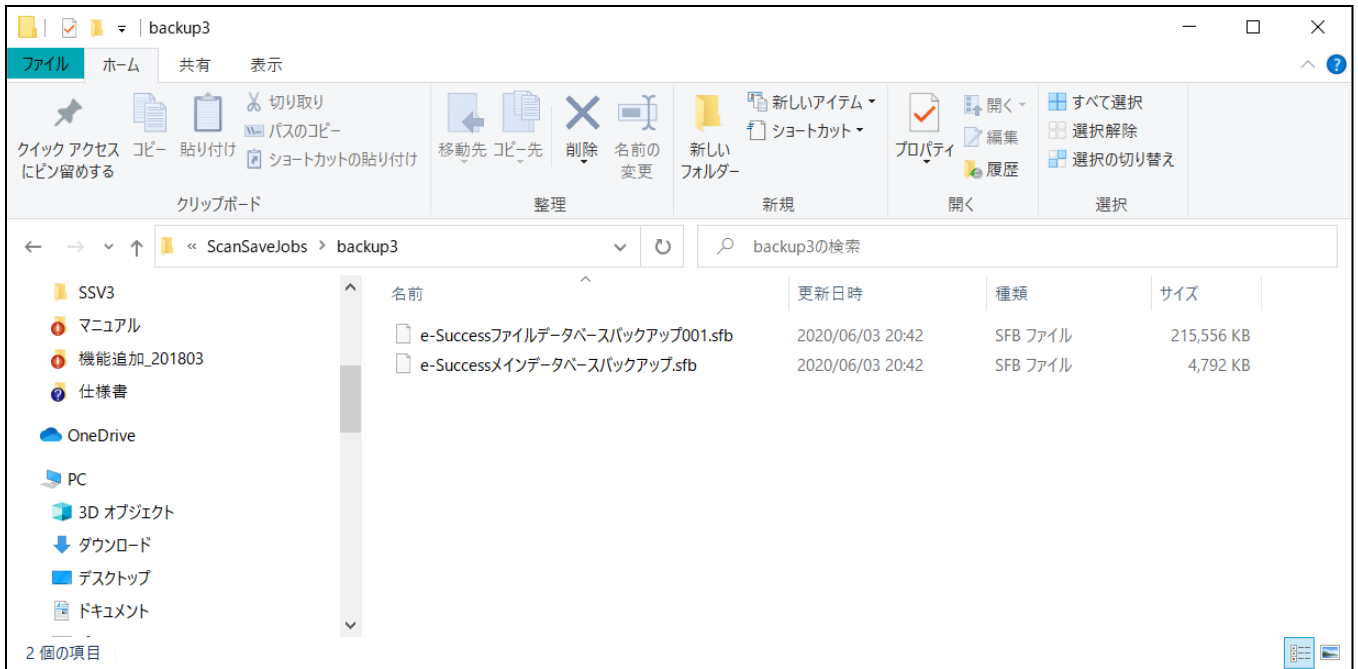
⑥ 完全バックアップ処理が開始され、バックアップ状況がステータスで表示されます。データベースの登録数が多くなっていると、バックアップが完了するまでに時間が掛かりますので、しばらくお待ちください。



⑦ 完全バックアップ処理が完了すると下記の完了通知が表示されるので、[OK] ボタンをクリックして、データベースメンテナンスツールのメイン画面に戻ってください。



⑧ バックアップフォルダのパスを開いて、バックアップファイルが出力されていることを確認してください



上記の操作で、登録されているすべてのデータがバックアップされます。

B. e-Success データベースを手動で差分バックアップする

差分バックアップは、前回の完全バックアップ以降から追加・更新したデータのみをバックアップする処理になります。

そのため、e-Success のデータベースを全てバックアップする「完全バックアップ」と比べ、容量が少なくバックアップ処理時間も短いです。

日付(例)	バックアップファイル			
2025/1/1 (完全バックアップ実行開始)	完全バックアップ(100GB)			
2025/2/1 (差分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	差分バックアップ ファイル(2GB)		
2025/3/1 (差分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	差分バックアップファイル (5GB)		
2025/4/1 (差分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	差分バックアップファイル (10GB)		
	※表のサイズの幅と容量のサイズは、特に関係ありません。			

なお、サーバーマシンの交換などで、e-Success データベースを別のサーバーマシンに復元する場合は、この手順で作成した差分バックアップファイルと先に作成した完全バックアップファイルの両方が必要です。バックアップファイルから e-Success データベースを復元する手順については、次項の「**14. e-Success データベースの復元**」を参照してください。

◆注意◆ 差分バックアップを手動で実行する前に

差分バックアップを実行できるようにするには、「バックアップフォルダ」にメインデータベースとファイルデータベースの完全バックアップファイルが置かれている必要があります。先に、「**7. バックアップをタスクスケジューラで実行**」で自動バックアップを行うか、前項の「**A. e-Success データベースを手動で完全バックアップする**」の手順で、完全バックアップを実行してください。

◆注意◆ 追加・更新データが非常に多い場合

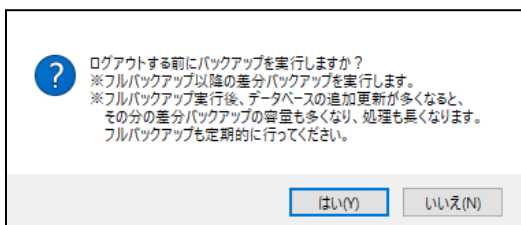
完全バックアップ以降に追加・更新データが多くなると、差分バックアップの処理時間がより大きくなります。1週間に1回など定期的に完全バックアップを実行して、差分バックアップの処理時間を短くすることをお勧めします。

e-Success データベースの差分バックアップは、次の手順で操作してください。

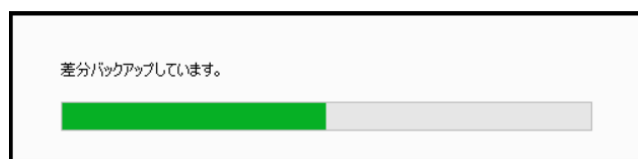
① バックアップ保存アプリで「ログアウト」ボタンをクリックします。



② 「ログアウトする前にバックアップを実行しますか?」と、メッセージボックスが表示されるので「はい」をクリックします。



③ 差分バックアップ処理が開始され、バックアップ状況がステータス表示されます。完全バックアップを行って以降に、多量の件数のデータを追加していると、差分バックアップの完了までに多くの時間を要しますので、暫くお待ちください。



④ 差分バックアップが完了すると、バックアップ保存アプリはログイン画面に戻りますので、バックアップフォルダにメインデータベースとファイルデータベースの差分バックアップファイルがそれぞれ出力されていることを確認してください。

e-Successファイルデータベースバックアップ003.sfb	2020/07/10 15:00	SFB ファイル
e-Successファイルデータベースバックアップ003_差分.sib	2020/07/10 15:08	SIB ファイル
e-Successメインデータベースバックアップ.sfb	2020/07/10 14:59	SFB ファイル
e-Successメインデータベースバックアップ_差分.sib	2020/07/10 15:08	SIB ファイル

出力した各差分バックアップファイルと先に出力している完全バックアップファイルは、別のサーバーマシンにe-Success データベースを移行するときや、データベースに障害が発生した場合の、データベースの復旧時に使用します。

データベースの復元は、データベースメンテナンスツールの復元機能で実行します。詳細は「**14. e-Success データベースの復元**」を参照してください。

※ 差分バックアップを用いてデータベースを復元する場合は、完全バックアップファイルとセットで、データベースメンテナンスツールで設定したバックアップフォルダに入れてください。

◆注意◆ 差分バックアップと追加・更新分バックアップの違いについて

○差分バックアップ

差分バックアップは、前回の完全バックアップ以降に変更されたデータのみをバックアップします。

メリット	復元処理の処理時間が追加・更新分バックアップよりも早く、ファイルの管理が完全バックアップ同様、メインデータベースとファイルデータベース、それぞれ1つのバックアップファイルで済みます。
デメリット	追加・更新分バックアップのバックアップファイルよりも容量が大きいです
復元時の注意事項	完全バックアップと最新の差分バックアップが必要です。

○追加・更新分バックアップ(トランザクションログバックアップ)

追加・更新分バックアップは、前回のバックアップから追加・更新データをバックアップする処理になります。

そのため、追加・更新分バックアップファイルは、バックアップを実行するごとに新しくバックアップファイルが出力されます。

※前回のバックアップの対象は、「完全バックアップ」「差分バックアップ」「追加・更新分バックアップ」が対象となります。

メリット	バックアップ処理が差分バックアップよりも速いです。容量も少なく済みます。
デメリット	復元処理の処理時間が差分バックアップからの復元よりも遅いです。バックアップファイルを複数ファイル管理する必要があります。
復元時の注意事項	完全バックアップ、差分バックアップ(必要な場合)、および全ての追加・更新分バックアップが必要です。

追加・更新分バックアップの詳細は、「C. e-Success データベースを手動で追加・更新分バックアップする」になります。

C. e-Success データベースを手動で追加・更新分バックアップする

追加・更新分バックアップ(トランザクションログバックアップ)は、前回のバックアップから追加・更新データをバックアップする処理になります。

そのため、追加・更新分バックアップファイルは、バックアップを実行するごとに新しくバックアップファイルが出力されます。

※前回のバックアップの対象は、「完全バックアップ」「差分バックアップ」「追加・更新分バックアップ」が対象となります。

日付(例)	バックアップファイル			
2025/1/1 (完全バックアップ実行開始)	完全バックアップ(100GB)			
2025/2/1 (追加・更新分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	追加・更新分バックアップ_1 (2GB)		
2025/3/1 (追加・更新分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	追加・更新分バックアップ_1 (2GB)	追加・更新分バックアップ_2 (3GB)	
2025/4/1 (追加・更新分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	追加・更新分バックアップ_1 (2GB)	追加・更新分バックアップ_2 (3GB)	追加・更新分バックアップ_3 (5GB)
※表のサイズの幅と容量のサイズは、特に関係ありません。				

なお、サーバーマシンの交換などで、e-Success データベースを別のサーバーマシンに復元する場合は、この手順で作成した追加・更新分バックアップファイルと先に作成した完全バックアップファイルの両方が必要です。もし、差分バックアップも実行している場合は、差分バックアップファイルも必要です。

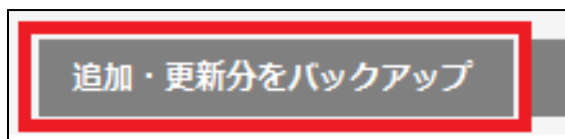
バックアップファイルから e-Success データベースを復元する手順については、次項の「**14. e-Success データベースの復元**」を参照してください。

◆注意◆ 追加・更新分バックアップを手動で実行する前に

追加・更新分バックアップを実行できるようにするには、「バックアップフォルダ」にメインデータベースとファイルデータベースの完全バックアップファイルが置かれている必要があります。先に、「**7. バックアップをタスクスケジューラで実行**」で自動バックアップを行うか、「**A. e-Success データベースを手動で完全バックアップする**」の手順で、完全バックアップを実行してください。

e-Success データベースの追加・更新分バックアップは、次の手順で操作してください。

- ① バックアップ保存アプリで「追加・更新分をバックアップ」ボタンをクリックします。



- ② 確認メッセージが表示されるので、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

データベースに登録した追加・更新分のデータをバックアップ(トランザクションログバックアップ)を実行します。

この処理は取り消すことができません。

処理を実行してもよろしいですか？

※本処理を実行する前に、バックアップフォルダに完全バックアップファイルがあることを確認してください。

同意して処理を実行する
キャンセル

③ 処理の再確認画面が表示されるので、確認コード「backup」を入力し、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

本当にデータベースのトランザクションログバックアップを実行してもよろしいですか？
バックアップを実行する場合には、以下のテキストボックスに確認コード「backup」と入力してください。

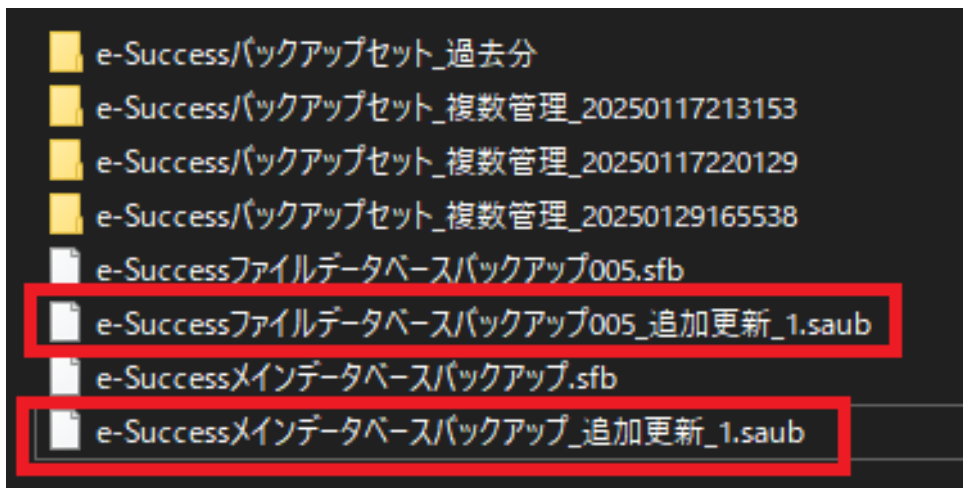
確認コード |

同意して処理を実行する キャンセル

④ 追加・更新分バックアップ処理が開始され、バックアップ状況がステータス表示されます。前回のバックアップ（「完全」「差分」「追加・更新分」の全ての種類が対象）以降に、多量の件数のデータを追加していると、追加・更新分バックアップの完了までに多くの時間を要しますので、暫くお待ちください。

追加・更新分バックアップ(トランザクションログ)を開始します。

⑤ 追加・更新分バックアップが完了すると、バックアップ保存アプリはログイン画面に戻りますので、バックアップフォルダにメインデータベースとファイルデータベースの追加・更新分バックアップファイルがそれぞれ出力されていることを確認してください。



出力した全ての追加・更新分バックアップファイルと先に出力している完全バックアップファイル（もし差分バックアップファイルも出力していれば、含める）は、別のサーバーマシンに e-Success データベースを移行するときや、データベースに障害が発生した場合の、データベースの復旧時に使用します。

データベースの復元は、データベースメンテナンスツールの復元機能で実行します。詳細は「**14. e-Success データベースの復元**」を参照してください。

※ 全ての追加・更新分バックアップを用いてデータベースを復元する場合は、完全バックアップファイルともし差分バックアップファイルも出力していれば、差分バックアップファイルも含めてセットで、データベースメンテナンスツールで設定したバックアップフォルダに入れてください。

◆注意◆ 追加・更新分バックアップを実行した後に、差分バックアップを実行する

追加・更新分バックアップ（トランザクションログバックアップ）を1回以上実行した後に差分バックアップを実行すると、差分バックアップを行う前に実行した追加・更新分バックアップファイルがすべて削除されます。これは、差分バックアップファイルに、差分バックアップを実行するまでに行われたすべての追加・更新分バックアップのデータが含まれているためです。

日付(例)	バックアップファイル				
2025/1/1 (完全バックアップ実行開始)	完全バックアップ(100GB)				
2025/2/1 (追加・更新分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	追加・更新分バックアップ_1 (2GB)			
2025/3/1 (追加・更新分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	追加・更新分バックアップ_1 (2GB)	追加・更新分バックアップ_2 (3GB)		
2025/4/1 (差分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	差分バックアップ (10GB)			
2025/5/1 (追加・更新分バックアップ実行)	完全バックアップ(100GB)	差分バックアップ (10GB)			追加・更新分バックアップ_1 (2GB)

※表のサイズの幅と容量のサイズは、特に関係ありません。

◆注意◆ 差分バックアップと追加・更新分バックアップの違いについて

○差分バックアップ

差分バックアップは、前回の完全バックアップ以降に変更されたデータのみをバックアップします。

メリット	復元処理の処理時間が追加・更新分バックアップよりも早く、ファイルの管理が完全バックアップ同様、メインデータベースとファイルデータベース、それぞれ1つのバックアップファイルで済みます。
デメリット	追加・更新分バックアップのバックアップファイルよりも容量が大きいです
復元時の注意事項	完全バックアップと最新の差分バックアップが必要です。

○追加・更新分バックアップ（トランザクションログバックアップ）

追加・更新分バックアップは、前回のバックアップから追加・更新データをバックアップする処理になります。そのため、追加・更新分バックアップファイルは、バックアップを実行するごとに新しくバックアップファイルが出力されます。

メリット	バックアップ処理が差分バックアップよりも速いです。容量も少なく済みます。
デメリット	復元処理の処理時間が差分バックアップからの復元よりも遅いです。バックアップファイルを複数ファイル管理する必要があります。
復元時の注意事項	完全バックアップ、差分バックアップ（必要な場合）、および全ての追加・更新分バックアップが必要です。

差分バックアップの詳細は、「B. e-Success データベースを手動で差分バックアップする」になります。

14. e-Success データベースの復元

A. e-Success データベースを復元する

e-Success のバックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）でバックアップしたファイルは、同アプリで復元できます。

バックアップの手順については、「[7. バックアップをタスクスケジューラで実行](#)」および「[13. e-Success データベースの手動バックアップ](#)」を参照してください。

◆注意◆ データベースを復元する前に

- 新しいサーバーにデータベースを復元する場合は、あらかじめ e-Success データベースを構築しておいてください（導入・設定編「[3. e-Success データベースの構築](#)」参照）。
- 差分バックアップ、もしくは追加・更新分バックアップ、もしくはそれら両方のバックアップを実行している場合は、必ずメインデータベースとファイルデータベースの各完全バックアップファイルと差分バックアップファイル、追加・更新分バックアップファイルをセットで用意してください。
- 過去のファイルデータベースをバックアップしている場合は、データベースデータベースメンテナンス機能で設定したバックアップフォルダに入れてください。

◆注意◆ SQL Server の再起動

データベースを復元する前に、SQL Server の再起動を実行します。復元処理時は、復元処理を実行しているシステム管理者以外の全てユーザーのアクセスを一時的に切断します。
あらかじめ、ご理解した上で利用してください。

バックアップファイルからの e-Success データベースの復元は、バックアップファイルを準備してから、次の手順で操作してください。

① メインデータベースとファイルデータベースの完全バックアップファイルを任意のバックアップフォルダに入れてください。差分バックアップを行っている場合や追加・更新分バックアップを行っている場合は、必ず各バックアップファイルを同じフォルダに入れてください。

SQL Server Express を使用している場合、過去のファイルデータベースのバックアップをしていれば、過去のファイルデータベースのバックアップファイルも同じフォルダに入れてください。

配置例

■ e-Successバックアップセット_過去分	2020/07/09 15:55	ファイルフォルダ	
■ e-Successファイルデータベースバックアップ003.sfb	2020/07/10 15:00	SFB ファイル	3,400,344 KB
■ e-Successファイルデータベースバックアップ003_差分.sib	2020/07/10 15:08	SIB ファイル	1,556 KB
■ e-Successメインデータベースバックアップ.sfb	2020/07/10 14:59	SFB ファイル	10,616 KB
■ e-Successメインデータベースバックアップ_差分.sib	2020/07/10 15:08	SIB ファイル	1,080 KB

② バックアップ保存アプリを起動して、処理対象の接続先を選択し、システム管理者権限のユーザーでログインします。

ログイン画面

データベースメンテナンスツール

データベースの保存先 (SQL Serverファイルテーブル仮想ディレクトリ)

メインデータベース: C:\SSW_test\WeSuccess.mdf
 ファイルデータベース: C:\SSW_test\WeSuccess_FileTable005.mdf

バックアップフォルダ

D:\backup **フォルダを選択**

登録件数一覧

年月	書類データ件数	電子ファイル件数
☒ 2021/07	5	5
☐ 2021/06	45	45
☐ 2020/03	1	1
☐ 2017/11	20	20
☐ 2017/10	98	98
☐ 2017/09	98	98
☐ 2017/08	98	98
☐ 2016/12	98	98
☐ 2016/11	98	98
☐ 2016/10	98	98
☐ 2016/09	181	181
☐ 2016/08	1292	1292
☐ 2016/03	1	1
☐ 2011/01	1	1

最新のバックアップ情報

完全バックアップ

書類データ件数	電子ファイル件数
20579	40
最終更新日時 2025/01/30 17:36:01	

差分バックアップ

書類データ件数	電子ファイル件数
0	0
最終更新日時 完全バックアップ後に差分バックアップを実行してません	

データベースを完全バックアップ

追加・更新分をバックアップ データベースの復元 指定の月をエクスポート 指定の月を削除 データベースの連携取込

ログイン後の画面

- ③ バックアップフォルダを設定していなければ、バックアップフォルダを指定してください。バックアップフォルダの項目名の右下の「変更」ボタンをクリックして、バックアップファイルを入れたフォルダを選択します。

バックアップフォルダ

D:\backup **フォルダを選択**

- ④ 「データベースの復元」のボタンをクリックします。

データベースの復元

- ⑤ 確認メッセージが表示されるので、表示内容を確認して「同意して処理を実行する」ボタンをクリックします。

メインデータベースおよび登録中のファイルデータベースを復元します。

この処理を実行すると、現在のデータベースが以前のバックアップの状態(2020/06/03 20:42時点)に戻ります。

この処理は取り消すことができません。処理を実行してもよろしいですか？

同意して処理を実行する **キャンセル**

⑥ 処理の再確認画面が表示されるので、確認コード「**restore**」を入力し、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

本当にデータベースの復元処理を実行してもよろしいですか？

復元処理を実行する場合には、以下のテキストボックスに確認コード「restore」と入力してください。

確認コード

⑦ 復元処理が開始され、復元状況をステータス表示します。バックアップファイルに入っているデータファイル量が多いと、復元が完了するまで非常に時間が掛かりますので、しばらくお待ちください。

メインデータベースを復元しています。

⑧ 復元処理が完了すると完了通知が表示されるので [OK] ボタンをクリックしてください。データベースメンテナンスツールのメイン画面に戻ります。

e-Success

メインデータベースとファイルデータベースNo.001を復元しました。
ログイン画面に戻ります。
再度ログインして、「処理設定」で作業フォルダやバックアップフォルダの設定内容を確認してください。

以上で、バックアップファイルからデータベースを復元できました。

◆注意◆ 復元に失敗したときは

データベースの復元に失敗したときは、「SQL Server 構成マネージャー」を開いて、復元したいデータベースが入ったインスタンスをクリックして、再起動を行ってください。もしくは、SQL Server の Management Studio を起動して、インスタンスにログインして、[オブジェクトエクスプローラー] 上でインスタンスを右クリックして、再起動を行ってください。

◆注意◆ データベースの復元における注意事項

データベースを復元すると、復元先のデータベースのすべての情報がバックアップファイルの内容に置き換えられます。データベースの復元作業を行う際は、復元先のデータベースが対象のものであることを確認してください。また、データベースをいずれかのユーザーが使用している場合は、復元処理を実行できません。すべてのユーザーの e-Success アプリケーションを終了させてから、再度復元処理を実行してください。

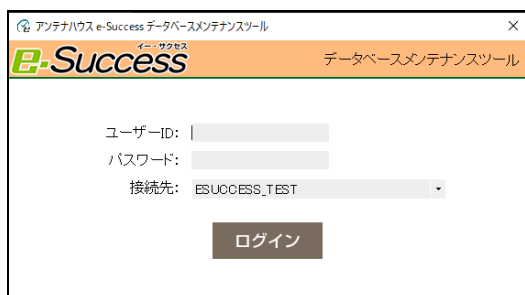
15. 指定の月をエクスポート

A. 年月を指定してファイル出力する

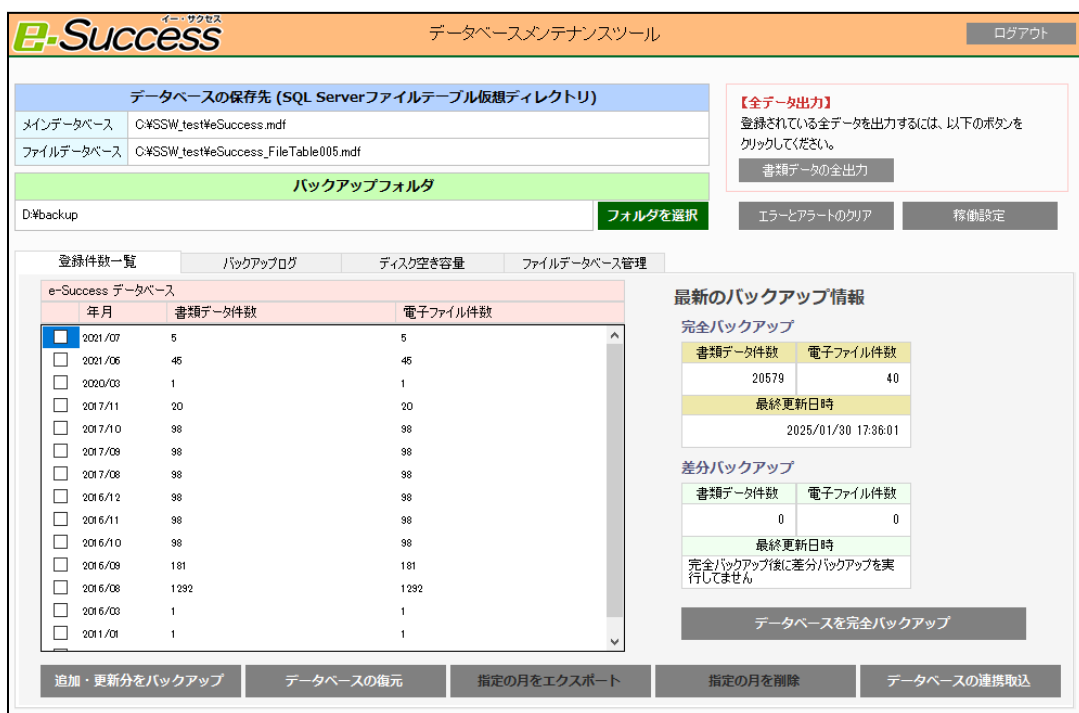
e-Success バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）で、年月を選択して、類データの日付の年月を選択して、選択した年月のレコードを、ファイル（書類データをまとめた CSV、電子ファイル、XAdES 用の XML ファイル）に出力（エクスポート）できます。

次の手順で、e-Success データベースから指定年月のレコードをファイルに出力します。

- ① バックアップ保存アプリを起動して、処理対象の接続先を選択し、システム管理者権限のユーザーでログインします。



ログイン画面



データベースの保存先 (SQL Serverファイルテーブル仮想ディレクトリ)			
メインデータベース	C:\SSW_test\#eSuccess.mdf		
ファイルデータベース	C:\SSW_test\#eSuccess_FileTable\005.mdf		

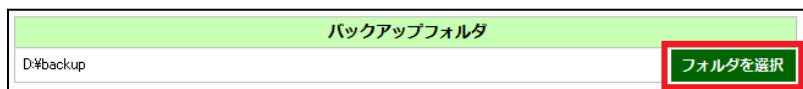
バックアップフォルダ			
D:\backup	フォルダを選択		

登録件数一覧			
年月	書類データ件数	電子ファイル件数	
☒ 2021/07	5	5	
☐ 2021/06	45	45	
☐ 2020/03	1	1	
☐ 2017/11	20	20	
☐ 2017/10	98	98	
☐ 2017/09	98	98	
☐ 2017/08	98	98	
☐ 2016/12	98	98	
☐ 2016/11	98	98	
☐ 2016/10	98	98	
☐ 2016/09	181	181	
☐ 2016/08	1292	1292	
☐ 2016/03	1	1	
☐ 2011/01	1	1	

最新のバックアップ情報			
完全バックアップ			
書類データ件数	電子ファイル件数		
20579	40		
最終更新日時			
2025/01/30 17:36:01			
差分バックアップ			
書類データ件数	電子ファイル件数		
0	0		
最終更新日時			
完全バックアップ後に差分バックアップを実行してません			
データベースを完全バックアップ			

ログイン後の画面

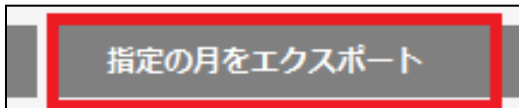
- ② バックアップフォルダを設定していなければ、バックアップフォルダを指定してください。バックアップフォルダの項目名の右下の「変更」ボタンをクリックして、バックアップファイルを入れるフォルダを選択します。



③ [登録件数一覧] タブの [e-Success サーバー] の枠で、出力したい年月にチェックを入れてください。

e-Success データベース		
	年月	書類データ件数
☒	2020/07	2
☒	2019/07	104
☐	2019/06	240

④ チェックを入れたら [指定の月をエクスポート] ボタンをクリックします。



⑤ 確認メッセージが表示されるので、表示内容を確認して [同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

選択した年月の書類データおよび電子ファイルをバックアップします。
この処理は取り消すことができません。
処理を実行してもよろしいですか？

同意して処理を実行する
キャンセル

⑥ 処理の再確認画面が表示されるので、確認コード「**export**」を入力し、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

本当にデータベースから指定した年月のファイルをエクスポートしてもよろしいですか？
エクスポートする場合には、以下のテキストボックスに確認コード「**export**」と入力してください。

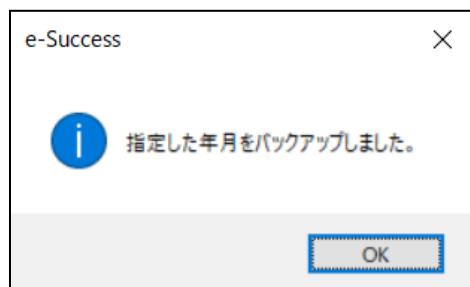
確認コード
export

同意して処理を実行する
キャンセル

⑦ エクスポート処理が開始され、出力状況をステータス表示します。多数の年月を選択していると、出力が完了するまでに時間が掛かりますので、しばらくお待ちください。

CSVファイルを出力しています。

⑧ 処理が完了すると、完了の通知が表示されます。[OK] ボタンをクリックして、データベースメンテナンスツールのメイン画面に戻ってください



⑨ バックアップフォルダのパスを開いて、ファイルが出力されていることを確認してください。出力されるファイルは「e-Success 年月指定エクスポート_yyyyMMddhhmmss」で出力されます

名前	更新日時	種類	サイズ
■ e-Success年月指定エクスポート_20200605023533	2020/06/05 2:35	ファイル フォルダー	
■ e-Success年月指定エクスポート_20200605023720	2020/06/05 2:37	ファイル フォルダー	
📄 e-Successファイルデータベースバックアップ001.sfb	2020/06/03 20:42	SFB ファイル	215,556 KB
📄 e-Successメインデータベースバックアップ.sfb	2020/06/03 20:42	SFB ファイル	4,792 KB

これで、指定したデータの出力が完了しました。

なお、出力したファイルは、「e-Success 連携取込」や「他システムデータ一括取込」、外部のシステムにて利用することもできます。

16. 指定の月を削除

A. 年月を指定してデータを物理削除する

e-Success バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）で、書類データの日付の年月を選択して、選択した年月のレコードを物理削除できます。

◆注意◆ 削除の前に

削除したレコードは、データベースから物理削除され、元には戻せません。レコードの削除を実行する前に、「13. e-Success データベースの手動バックアップ」もしくは「15. 指定の月をエクスポート」を実行して、バックアップを取っておいてください。

次の手順で、e-Success データベースから選択した年月のレコードを削除します。

- ① バックアップ保存アプリを起動して、処理対象の接続先を選択し、システム管理者権限のユーザーでログインします。

ログイン画面

データベースの保存先 (SQL Serverファイルテーブル仮想ディレクトリ)

メインデータベース	C:\SSW_test\WeSuccess.mdf
ファイルデータベース	C:\SSW_test\WeSuccess_FileTable005.mdf

バックアップフォルダ

D:\backup フォルダを選択

登録件数一覧

年月	書類データ件数	電子ファイル件数
☒ 2021/07	5	5
☐ 2021/06	45	45
☐ 2020/03	1	1
☐ 2017/11	20	20
☐ 2017/10	98	98
☐ 2017/09	98	98
☐ 2017/08	98	98
☐ 2016/12	98	98
☐ 2016/11	98	98
☐ 2016/10	98	98
☐ 2016/09	181	181
☐ 2016/08	1292	1292
☐ 2016/03	1	1
☐ 2011/01	1	1

最新のバックアップ情報

完全バックアップ

書類データ件数	電子ファイル件数
20579	40
最終更新日時	
2025/01/30 17:36:01	

差分バックアップ

書類データ件数	電子ファイル件数
0	0
最終更新日時	
完全バックアップ後に差分バックアップを実行してません	

データベースを完全バックアップ

追加・更新分をバックアップ データベースの復元 指定の月をエクスポート 指定の月を削除 データベースの連携取込

ログイン後の画面

② [登録件数一覧] タブの [e-Success サーバー] の枠で、削除したい年月にチェックを入れてください。

e-Success データベース		
	年月	書類データ件数
☒	2020/07	2
☒	2019/07	104
☐	2019/06	240

③ チェックを入れたら [指定の月を削除] ボタンをクリックします。



④ 確認メッセージが表示されるので、表示内容を確認して [同意して処理を実行する] ボタンをクリックしてください。

選択した年月の書類データ、電子ファイルを全て削除します。
削除した書類データ、電子ファイルは参照することはできなくなります。
バックアップを実行していない場合、必ずバックアップを行ってください。
この処理は取り消すことができません。処理を実行してもよろしいですか？

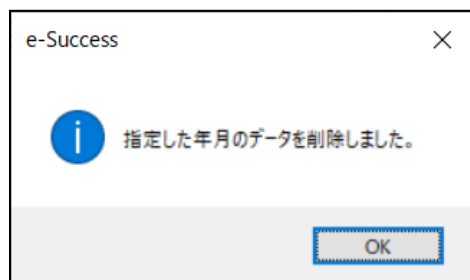
⑤ 処理の再確認画面が表示されるので、確認コード「**delete**」を入力し、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

削除したレコードは、二度と戻りません。本当に指定した年月のレコードを削除してもよろしいですか？
削除処理を実行する場合には、以下のテキストボックスに確認コード「delete」と入力してください。

⑥ 削除処理が開始され、削除状況がステータス表示されます。削除する件数が多いと、処理の完了までに時間を要することがありますので、しばらくお待ちください。

指定した年月の書類データを削除しています。

⑦ 処理が完了すると、完了の通知が表示されます。[OK] ボタンをクリックして、バックアップ保存アプリのメイン画面に戻ってください



これで、指定した年月のデータが物理削除されました。

17. 全データを物理削除

A. 全データを物理削除する

本番運用の前に、動作の確認やテスト運用を行っていた場合には、e-Success アプリケーションの「システムの利用開始」で不要なデータを物理削除できます。

◆注意◆ データの削除

この操作によって消去されたデータは元に戻せないなので、実行は慎重に検討してください。物理削除ではなく、削除フラグによってデータを非表示にする論理削除もできます（データ自体は、検索可能でデータベースに残ります）。論理削除の手順については、操作マニュアルの導入・設定編「7. システムの利用開始」を参照してください。
※なお、各種マスタとログ、履歴、「処理設定」の設定情報などは、対象外となります。

- ①「システム管理者」権限のあるユーザーで、e-Success アプリケーションにログインします。
- ②メインメニューで「システムの利用開始」をクリックすると、確認メッセージが表示されるので、「同意して処理を実行する」ボタンをクリックします。

データベースに保存されているすべての書類データを削除（論理削除）します。

処理を実行してよろしいですか？

※この操作は元に戻せません。

同意して処理を実行する

キャンセル

- ③処理の再確認画面が表示されるので、「処理設定」で設定した「シークレットキー」を入力し、「同意して処理を実行する」ボタンをクリックします（このとき画面上には論理削除用の確認コードが表示されますが、物理削除の場合は当手順の確認コードを入力します）。

本当にデータベースに保存されているすべての書類データを削除（論理削除）してもよろしいですか？

削除処理を実行する場合には、以下のテキストボックスに確認コード「delete」と入力してください。

確認コード

butsurisakujo|

同意して処理を実行する

キャンセル

◆ヒント◆ 処理確認コードの確認

処理確認コードは、操作マニュアルの導入・設定編の「3. 処理設定」の「F. 「システム設定」の設定内容」より、処理確認コードの入力項目の隣にある「可視」にチェックを入れることで確認できます。

なお、処理確認コードの初期値は「butsurisakujo」になります。

④最終確認のメッセージが表示されるので、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

運用開始にともない、データベースに保存されているすべての書類データを物理削除します。

処理を実行してよろしいですか？

※この操作は元に戻せません。

同意して処理を実行する

キャンセル

以上の操作で、登録されている書類データ、電子ファイル・画像等と検索条件のすべてのデータが物理削除されます。また、物理削除後、書類番号の登録開始番号も初期化され、次回登録する時は「1」から開始となります。

なお、システム管理者で登録できる処理設定の各種設定情報と各種マスタ等については、削除されません。

18. e-Success データベースの削除

A. e-Success データベースを削除する

サーバーマシンの交換などで不要となった古いサーバーマシンの e-Success データベースは、削除してください。

◆注意◆ 削除の前に

e-Success データベースを削除すると、すべての書類データ及び電子ファイルが消去されて、元には戻せません。別のサーバーマシンにデータベースを移行する場合は、新しいサーバーマシンにデータベースが移行できていて、問題なく運用できることを確認してから、削除を実行してください。

◆注意◆ 接続しているユーザーの確認

e-Success アプリケーションでデータベースに接続しているユーザーがいると、データベースの削除はできません。すべてのユーザのログアウトを確認してください。接続中のユーザーの確認方法については、「◆運用・保守編◆」「1. サーバーメンテナンス作業の準備」の「A. 現在の利用ユーザーを確認する」を参照してください。また e-Success アプリケーションでデータベースへの接続を禁止する方法については「B. e-Success へのログインを禁止する」を参照してください。

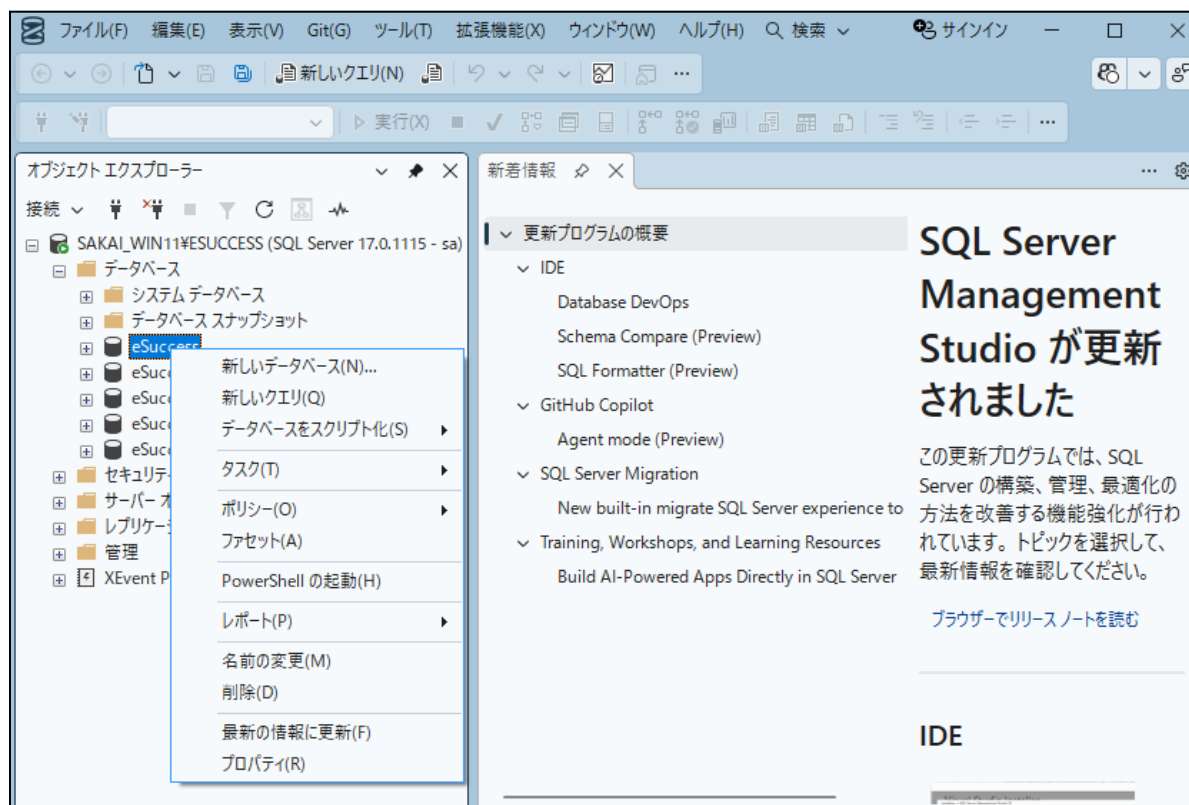
e-Success データベースは、次の手順で削除できます。

① SQL Server の Management Studio を起動して、サーバーに接続します。

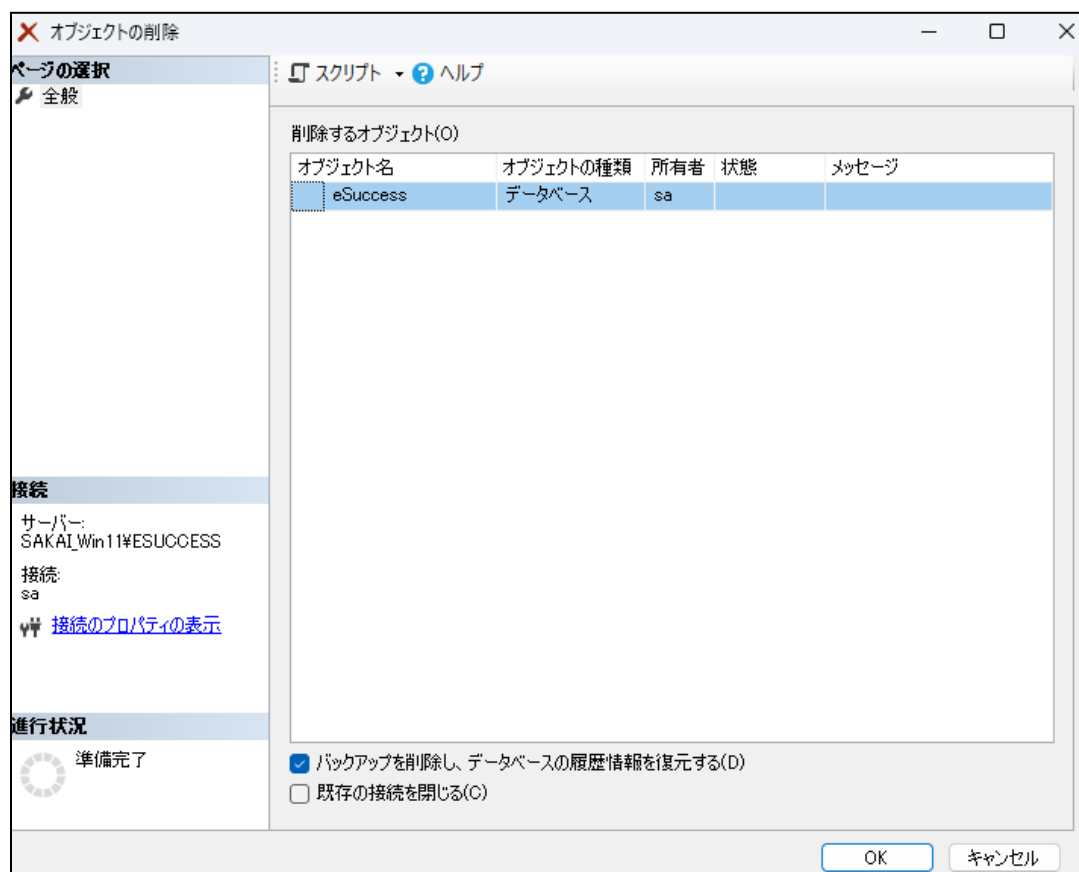
◆参照◆ Management Studio の起動とサーバーへの接続

Management Studio の起動方法およびサーバーへの接続方法については、導入・設定編「2. SQL Server のインストール」－「E. ファイルテーブルの利用設定」を参照してください。

② Management Studio の「オブジェクトエクスプローラー」で [データベース] を展開します。「eSuccess」を右クリックして表示されるメニューから、[削除] をクリックすると「オブジェクトの削除」ダイアログボックスが表示されます。



③ [オブジェクトの削除] ダイアログボックスで [削除されるオブジェクト] リストに「eSuccess」が表示されていることを確認して、[OK] ボタンをクリックします。



④ データベースの削除処理が実行され、「オブジェクトエクスプローラー」から削除されます。

⑤ 手順②、③と同様の操作で、「eSuccess_FileTable001」を削除します。

B. インスタンスのアンインストール

サーバーの交換などで、データベースを含むインスタンスも不要となった場合は、次の手順でインスタンスをアンインストールしてください。

◆注意◆ アンインストールの前に

アンインストールしたインスタンスは、元には戻せません。また、データベースを削除せずにインスタンスをアンインストールすると、インスタンス内のデータベースがDBの構築先にファイル(.mdf/.ldf)として残ってしまうので、「A. e-Success データベースを削除する」を実行してからインスタンスをアンインストールしてください。

① 「設定」アプリから、「アプリ」⇒「インストールされているアプリ」の一覧（プログラムの一覧）を表示します。

② プログラムの一覧から [Microsoft SQL Server 2025 (64bit)] を選択して、[アンインストール] をクリックします。確認メッセージが表示された場合には、[はい] をクリックしてください。

◆ヒント◆ インスタンスが 2022 以前のバージョンの場合

SQL Server 2022 以前のバージョンのインスタンスをインストールしている場合は、2025 と同様インストールしたバージョンの SQL Server を選択してください。

③ プログラムの準備が起動すると処理の選択画面が表示されるので、「削除」をクリックします。



④ アンインストールするインスタンスを選択し、[次へ] ボタンをクリックします。



- ⑤ 「データベース エンジン サービス」にチェックを入れ、[次へ] ボタンをクリックします。

◆ヒント◆ **SQL Server が必要なくなった場合**

SQL Server を今後使用しない場合は、「データベース エンジン サービス」の他の「共有機能」内の項目に全てチェックを入れます。

機能の選択

このコンピューターにインストールされている SQL Server 機能を以下に示します。機能を削除するには、機能名の横にあるチェック ボックスをオンにしてください。

グローバル ルール
インスタンスの選択
機能の選択
機能ルール
削除の準備完了
削除の進行状況
完了

機能(F):

説明(D):

データベース エンジン サービス

再頒布可能な機能

すべて選択(S) すべて選択解除(U)

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

- ⑥ [削除] ボタンをクリックします。すると、アンインストール処理が開始されますので、しばらく待ちます。

削除の準備完了

削除する SQL Server 2025 の機能を確認します。

グローバル ルール
インスタンスの選択
機能の選択
機能ルール
削除の準備完了
削除の進行状況
完了

SQL Server 2025 を削除する準備完了:

概要
エディション: Express
アクション: アンインストール
全般構成
機能
データベース エンジン サービス

構成ファイルのパス:
C:\Program Files\Microsoft SQL Server\170\Setup Bootstrap\Log\20260702_2011\%ConfigurationFile.ini

< 戻る(B) **削除(R)** キャンセル

以上で、SQL Server のインスタンスのアンインストールは完了となります。

◆運用・保守編◆

e-Success を導入し運用を開始してから行う、定期メンテナンスの内容と手順について説明します。

1. サーバメンテナンス作業の準備

◆ヒント◆ サーバメンテナンスの定期実施

サーバのメンテナンスを定期的の実施してください。

メンテナンス作業としては、サーバ動作確認（バックアップ動作の確認、イベントエラーの確認、ディスクエラーの確認、ディスク残容量の確認、サーバの再起動、Windows Updateの実施など）を月1回程度実施、バックアップの復元テストを年1回程度実施することを推奨します。

A. 現在の利用ユーザーを確認する

サーバのメンテナンス作業のうち、データベースのアップデートやサーバの再起動を伴う作業を行う場合は、必ずユーザーによる e-Success の利用を停止してください。

e-Success でデータベースに接続中のユーザー（当該データベースへのログインユーザー）は、次の手順で確認できます。

① e-Success アプリケーションに、接続先を指定して、「システム管理者」権限のあるユーザーでログインします。

② メインメニューで「利用状況一覧」ボタンをクリックすると、指定した接続先の現在の利用状況が一覧表示されます。利用状況一覧には、同じ接続先にログオンしているユーザーが一覧表示されるので、各ユーザーに e-Success の利用終了を通知してください。

イー・サクセス

e-Success

利用状況一覧

メニューに戻る

現在、全1名のユーザーがシステムを利用しています。

更新

2020/04/09 19:42時点

ログイン日時	ユーザーID	ユーザー名	ユーザー種別	コンピュータ名
2020/04/09 19:38	admin	システム管理者	システム管理者	WINDOWS10_SAKAI

③ 「更新」ボタンをクリックすると、手動で利用状況一覧を最新の情報に更新できます。すべてのユーザーの利用が終了したことを確認してください（現在、利用状況一覧を使用しているシステム管理者自身だけが残ります）。

◆注意◆ ログインユーザーのユーザー種別

利用状況一覧は、「システム管理者」権限のあるユーザーだけが利用できます。

◆ヒント◆ 利用データの更新タイミング

利用状況一覧の表示は、30秒ごとに自動更新されます。あるユーザーが e-Success アプリケーションを終了した場合、最大30秒経過すると利用状況一覧から除去されます。

B. e-Success へのログインを禁止する

サーバーのメンテナンス作業の際に、一時的に e-Success アプリケーションからのログインを禁止できます。

次の手順で、ログイン禁止設定を行います。

①「システム管理者」権限のあるユーザーで、e-Success にログインします。

②メインメニューで[ログイン禁止設定]ボタンをクリックすると、「ログイン禁止設定」画面が表示されます。

ログイン禁止設定

ログイン禁止 ☒ システム管理者以外のログインを禁止

ログイン禁止時のメッセージ
現在サーバーメンテナンス中のため
システムを利用できません。
稼働開始予定: 2020/4/10 13:00

※枠内に収まるように入力してください。

登録 キャンセル

③ [システム管理者以外のログインを禁止] チェックボックスをオンにして、[ログイン禁止時のメッセージ]の入力欄にユーザーに通知するメッセージを入力します。メッセージは、入力欄の枠内に収まるように入力してください。[登録] ボタンをクリックして、ログイン禁止設定を登録します。

④ e-Success をログアウトします。

⑤ ログイン禁止設定を行うと、次の図のようにログイン画面にメッセージが表示されます。

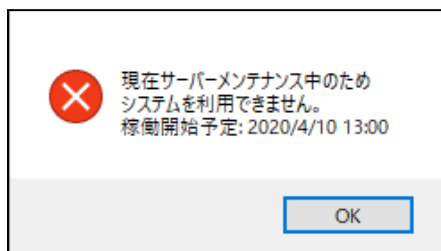
アンテナハウス e-Success

ユーザーID: admin
パスワード:
接続先: ESUCCESS_TEST

ログイン ライセンスファイルを更新

現在サーバーメンテナンス中のため
システムを利用できません。
稼働開始予定: 2020/4/10 13:00

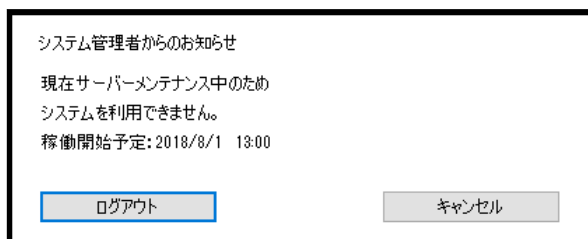
⑥ ログイン禁止が設定されていると、システム管理者以外のユーザーでログインしようすると、次のようにメッセージが表示されます。システム管理者権限のユーザーは、ログイン禁止になっていても通常通りログインできます。



⑦ サーバーのメンテナンスが終了したら、再度「ログイン禁止設定」画面を表示して、[システム管理者以外のログインを禁止] チェックボックスをオフにしてください。[ログイン禁止時のメッセージ] は保存されるので、次回再利用できます。チェックボックスがオフになっていれば、ログイン画面にログイン禁止時のメッセージは表示されません（ログイン禁止の設定時にのみ、設定したメッセージが表示されます）。

◆ヒント◆ 利用中のユーザーへの表示

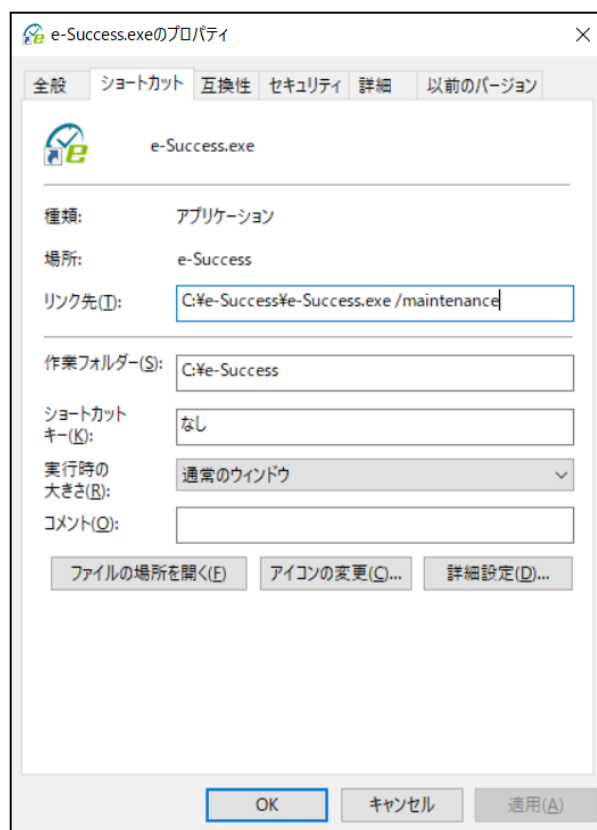
ログイン禁止を設定すると、e-Success アプリケーションを利用中のユーザーには、メインメニュー表示中に一定時間ごとにメッセージが表示されます。メッセージが表示されても、[キャンセル] ボタンをクリックすることで利用を継続できるため、強制的にログアウトさせることはできません。



◆ヒント◆ 検証用のログイン

検証のため、ログイン禁止のときにシステム管理者以外でログインしたい場合は、e-Success アプリケーション（e-Success.exe）にコマンドラインオプション「/maintenance」を付けて起動してください。

コマンドラインオプションを付けて起動するには、e-Success.exe のショートカットを作成して、ショートカットのプロパティで [リンク先] ボックスの「e-Success.exe」の後ろに、半角スペースを空けて「/maintenance」と入力します。設定したショートカットから起動すると、ログイン禁止になっている状態でも、システム管理者以外のユーザーでログインできます。バージョンアップ等における修正プログラムの動作テストなどにご利用ください。



2. データベースメンテナンスツール

A. バックアップ保存アプリ (データベースメンテナンスツール) について

バックアップ保存アプリ (データベースメンテナンスツール) は、e-Success データベースの利用状況の確認や、データベースのバックアップ・復元、ファイルデータベースの移行・削除・復元など、e-Success データベースをメンテナンスするためのツールです。

バックアップ保存アプリ [e-SuccessDBMaintenanceApp.exe] は、データベースメンテナンス専用のサーバー用アプリケーションです。データベースメンテナンスツールの導入と、利用に必要な設定などは、導入・設定編「7. バックアップをタスクスケジューラで実行」の「A. バックアップ保存アプリの導入と設定」を参照してください。

◆ヒント◆ e-Success アプリケーションのデータベースメンテナンス機能

データベースメンテナンス機能は、e-Success アプリケーションにも用意されていますが、利用できる機能は限られており、データベースのバックアップ・復元などはできません。

データベースメンテナンスツールで利用できる機能と

e-Success アプリケーションのデータベースメンテナンス機能の比較

○:搭載 ×:非搭載 △:搭載(条件付き)

機 能	e-Success アプリケーション	データベース メンテナンスツール
データベースの保存先	×	○
バックアップフォルダ	×	○
全データ出力	○	○
タブを更新	○	○
稼働設定	×	○
登録件数一覧タブ	○	○
e-Success データベース登録一覧	○	○
最新のバックアップ情報	○	○
データベースのバックアップ	×	○
指定の月をエクスポート	×	○
データベースの連携取込	△※1	○
指定の月を削除	×	○
データベースの復元	×	○
バックアップログタブ	○	○
ディスク空き容量タブ	×	○
利用中のハードディスク容量	×	○
利用中のデータベース情報	○	○
バックアップ先のハードディスク情報	×	○
ファイルデータベース管理タブ	×	△※2
ファイルデータベースの管理(過去分)	×	△※2
ファイルデータベースの移行	×	△※2
コマンドライン実行によるバックアップ	×	○

※1 連携取込は、接続先設定ツールで、接続するインスタンスを「検索モード」に設定することで使用可能。ただし、e-Success アプリケーションでは、メインメニュー画面の [e-Success データの連携取込] で実行する。詳細は「5. e-Success データの連携出力/取込 ID Not Found: i02-0053.xhtml#e.i02-0053.5_EF_BC_8E-Success データの連携出力_EF_BC_8F取込」を参照

※2 接続している SQL Server のエディションが Express の場合にのみ使用可能

B. データベースの登録状況とバックアップ状況を確認する

データベースメンテナンスでは、e-Success データベースに登録している書類データ、電子ファイルの各件数を確認することができます。

また、完全バックアップと差分バックアップが完了できている場合、それぞれの最新のバックアップ件数と最終更新日時を確認することもできます。

バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）を起動してログインし、データベースメンテナンス画面で「登録件数一覧」タブをクリックすると、次のように e-Success データベースの登録件数が一覧表示されます。

登録件数一覧			
e-Success データベース			
年月	書類データ件数	電子ファイル件数	
☒ 2017/11	10	10	
☒ 2017/10	49	49	
☒ 2017/09	49	49	
☒ 2017/08	49	49	
☐ 2016/12	49	49	
☐ 2016/11	49	49	
☐ 2016/10	49	49	
☐ 2016/09	49	49	
☐ 2016/08	147	147	

最新のバックアップ情報			
完全バックアップ			
書類データ件数	電子ファイル件数	XMLファイル件数	
1500	500	10	
最終更新日時			
2020/10/29 1:23:43			
差分バックアップ			
書類データ件数	電子ファイル件数	XMLファイル件数	
0	0	0	
最終更新日時			
完全バックアップ後に差分バックアップを実行してません			

①「e-Success データベース」の情報

画面左側の「e-Success データベース」欄には、月毎の e-Success サーバーへの登録件数が一覧表示されます。

- ・ **チェック欄** …… 「指定の月のエクスポート」と「指定の月の削除」で、処理対象年月の選択に使用します。（※ e-Success アプリケーションにはありません）
- ・ **年月** …… 書類データの年月です。書類データの日付の年月部分で対象となるデータ数を集計しています。
- ・ **書類データ件数** …… 書類データの月毎の登録件数です。
- ・ **電子ファイル件数** …… 電子ファイルの月毎の登録件数です。

②「最新のバックアップ情報」の情報

画面右側の「最新のバックアップ情報」欄には、バックアップの実行状況が表示されます。

- ・ **完全バックアップ** …… 完全バックアップの最新情報を表示します。書類データ、電子ファイル、XML ファイルには、完全バックアップファイル内に保存しているデータの件数が表示されます。最終更新日時には、完全バックアップを実行した最新の日時が表示されます。
- ・ **差分バックアップ** …… 差分バックアップの最新情報を表示します。書類データ、電子ファイル、XML ファイルには、差分バックアップファイル内に保存しているデータの件数が表示されます。最終更新日時には、差分バックアップを実行した最新の日時が表示されます。

C. データベースの利用状況を確認する（バックアップ保存アプリ）

サーバーマシンで実行するデータベースメンテナンスツールでは、e-Success データベースの利用状況を細かに確認できます。

バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）で「ディスク空き容量」タブをクリックすると、次のようにデータベースの利用状況についての情報が表示されます。

データベースの保存先 (SQL Serverファイルテーブル仮想ディレクトリ)

メインデータベース	C:\SSW_test\WeSuccess.mdf
ファイルデータベース	C:\SSW_test\WeSuccess_FileTable001.mdf

バックアップフォルダ

D:\backup

フォルダを選択

登録件数一覧 バックアップログ **ディスク空き容量** ファイルデータベース管理

ハードディスクの容量

アプリケーションのインストールドライブ	容量	使用容量	残容量	使用率
Cドライブ	465.0GB	418.9GB	46.1GB	90.1%

メインデータベース

使用容量(ハードディスクの使用容量の内)
80MB

ファイルデータベース

No.	使用開始年月	使用容量	残容量	使用率
001	2022/02	0.6GB	9.4GB	6.0%

バックアップ先のハードディスク容量

バックアップ先のドライブ	容量	使用容量	残容量	使用率
Dドライブ	932.0GB	712.0GB	220.0GB	76.4%

データベースメンテナンスツールの画面には、利用中のデータベースについて以下の情報が表示されます。

①「データベースの保存先」

メインデータベース メインデータベースのファイルのパス
ファイルデータベース ファイルデータベースのファイルのパス

◆ヒント◆ 各データベースについて

【メインデータベース】 システム設定情報や書類データを格納するデータベース

【ファイルデータベース】 電子ファイルを格納するデータベース

PADESの場合は電子ファイルが格納されます。

XADESの場合は電子ファイルとXMLによる署名ファイルが格納されます。

②「利用中のデータベース情報のハードディスク情報」

現在接続しているインスタンス内の e-Success データベースを保存しているハードディスクドライブの使用状況を表示します

アプリケーションのインストールドライブ データベースを保存しているドライブの情報
容量 ハードディスクドライブ全体の容量
使用容量 ハードディスクドライブの使用容量
残容量 ハードディスクドライブの残容量
使用率 ハードディスクドライブの使用率

③「利用中のデータベース情報」

現在接続しているインスタンス内の e-Success データベースの使用状況を表示します

【メインデータベース】

使用容量 …… メインデータベースのファイルサイズ

【ファイルデータベース】

No. …… ファイルデータベースの番号

使用開始年月 …… ファイルデータベースの使用開始年月

使用容量 …… ファイルデータベースの使用容量

残容量 …… ファイルデータベースの残容量 (SQL Server Express に接続しているときのみ表示)

使用率 …… ファイルデータベースの使用率 (SQL Server Express に接続しているときのみ表示)

④「バックアップ先のハードディスク情報」

[バックアップフォルダ]で設定したデータベースのバックアップ先ハードディスクドライブの使用状況を表示します。

バックアップ先のドライブ …… バックアップ先ドライブの情報

容量 …… バックアップ先のハードディスクドライブ全体の容量

使用容量 …… バックアップ先のハードディスクドライブの使用容量

残容量 …… バックアップ先のハードディスクドライブの残容量

使用率 …… バックアップ先のハードディスクドライブの使用率

◆注意◆ バックアップ先が、ネットワークドライブの場合

バックアップ先のネットワークドライブである場合、以下の画像のように「バックアップ先のハードディスク情報」の各種容量の情報が表示されません。これは、Windows の仕様上の問題で、ネットワークドライブの容量を調べられないからになります。

そのため、ネットワークドライブの容量を調べる際は、ドライブを管理しているマシンを直接操作して調べてください。

バックアップ先のハードディスク容量

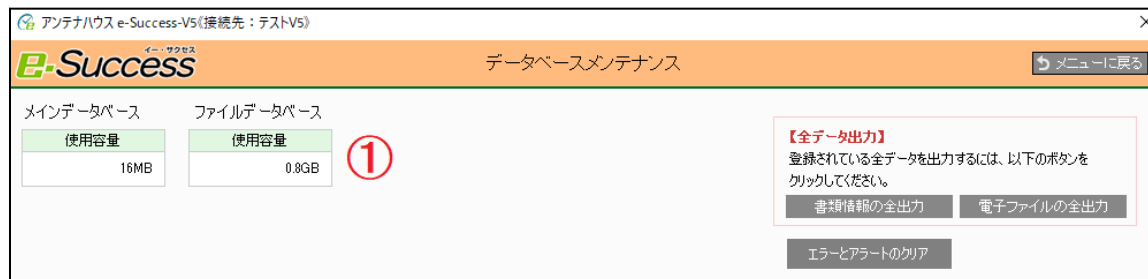
バックアップ先のドライブ

ネットワークドライブ

D. データベースの利用状況を確認する（e-Success アプリケーション）

e-Success アプリケーションのデータベースメンテナンス機能でも、e-Success で使用しているデータベースの利用状況を確認できます。

e-Success アプリケーションにシステム管理者権限のユーザーでログインして、メインメニューで「データベースメンテナンス」をクリックすると、データベースメンテナンス画面が表示されます。



e-Success アプリケーションの「データベースメンテナンス」画面

①「利用中のデータベース情報」

利用中のデータベースについて、次の情報が表示されます。

【メインデータベース】 システム設定情報や書類データを格納するデータベース
使用容量 …… メインデータベースのファイルサイズ

【ファイルデータベース】 電子ファイルを格納するデータベース（PAdES の場合は電子ファイルが格納されます。XAdES の場合は電子ファイルと XML による署名ファイルが格納されます。）
使用容量 …… ファイルデータベースの使用容量

3. 過去のファイルデータベースを扱う

※SQL Server Express のみ

◆注意◆ ファイルデータベース管理機能について

e-Success-V6.5の Standard は、SQL Server Express を使用します。
SQL Server Express では、インスタンス当たりのデータベースサイズが10GB までに制限されているため、e-Success ではファイルデータベースが大きくなって制限サイズに達する前に外部ファイル（過去のファイルデータベース）に退避し、新たに空のファイルデータベースを作って移行することで、データベースサイズの制限を回避しています。

ファイルデータベースの移行処理と、過去のファイルデータベースの管理は、サーバーマシンで動作するバックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）のファイルデータベース管理機能で行います。

尚、e-Success-V6.5以降のバージョンの Pro では、SQL Server Standard と Enterprise が対象となるので、この対応は不要です。

A. ファイルデータベース管理

バックアップ保存アプリ（データベースメンテナンスツール）の「ファイルデータベース管理」タブの機能は、現在稼働中のファイルデータベースの移行および過去に稼働していたファイルデータベースの削除・復元など、ファイルデータベースを管理する機能になります。

バックアップ保存アプリを起動してログインし、「ファイルデータベース管理」タブをクリックすると、以下のデータベースメンテナンス画面が表示されます。

データベースの保存先 (SQL Serverファイルテーブル仮想ディレクトリ)

メインデータベース	C:\SSW_test\#eSuccess.mdf
ファイルデータベース	C:\SSW_test\#eSuccess_FileTable003.mdf

バックアップフォルダ

D:\backup フォルダを選択

登録件数一覧 バックアップログ ディスク空き容量 **ファイルデータベース管理**

ファイルデータベースの管理(過去分)

No.	閲覧可能	使用開始年月	使用容量	操作
001	○	2021/09	0.0GB	削除 バックアップ
002	×	2021/09	0.9GB	① 復元

【全データ出力】
登録されている全データを出力するには、以下のボタンをクリックしてください。
書類データの全出力

エラーとアラートのクリア 移植設定

② ファイルデータベースの移行処理
※現在のファイルデータベースを終了して、新しいファイルデータベースNo.004を作成します。

ファイルデータベース管理では、次の情報が表示されます。

①「ファイルデータベースの管理（過去分）」

過去に使用したファイルデータベースの状況を一覧します。また、このブロックでは、過去のファイルデータベースの閲覧可能状態に応じて、削除・バックアップ・復元の処理を実行します

No.		各ファイルデータベースの番号
閲覧可能		ファイル検索機能などで書類データと電子ファイルの閲覧状態 ○:閲覧可能 ×:閲覧不可
使用開始年月		各ファイルデータベースの使用開始年月（移行開始年月）
使用容量		各ファイルデータベースの使用容量
操作		各ファイルデータベースに対して、各種ボタンをクリックして処理を実行
削除		選択した過去のファイルデータベースを削除 インスタンスから過去のファイルデータベースを削除することで、インスタンスの残容量を増やせます。
バックアップ		選択した過去のファイルデータベースをバックアップ
復元		選択した過去のファイルデータベースを復元 過去のファイルデータベースを復元することで、過去に登録した書類データおよび電子ファイルが閲覧できます。

②「ファイルデータベースの移行処理」

現在稼働している e-Success のファイルデータベースをバックアップし、新しいファイルデータベースに切り替えます。詳細は、次項の「B. ファイルデータベースを移行する」を参照してください。

B. ファイルデータベースを移行する

ファイルデータベースには、タイムスタンプが付与されたスキャンファイルが格納されるため、書類数の増加に伴って、データベースのサイズが大きくなっていきます。

利用中のファイルデータベースを保存して、新しいファイルデータベースを構築します。新しいファイルデータベースに移行すると、バックアップの作業時間も短くなるため、適宜移行処理を実行してください。

①ファイルデータベースの移行を実行するには、[ファイルデータベース移行処理] ボタンをクリックします。

登録件数一覧 バックアップログ ディスク空き容量 **ファイルデータベース管理**

ファイルデータベースの管理(過去分)

No.	閲覧可能	使用開始年月	使用容量	操作	
001	○	2020/10	0.3GB	削除	バックアップ
002	×	2020/10	0.2GB	復元	

ファイルデータベースの移行処理

※現在のファイルデータベースを終了して、新しいファイルデータベースNo.004を作成します。

②確認メッセージが表示されるので、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

現在のファイルデータベースNo.003を終了して、新しいファイルデータベースNo.004を作成します。
同時に、バックアップフォルダに過去のデータベースとしてバックアップします。
この処理は取り消すことができません。処理を実行してもよろしいですか？

同意して処理を実行する キャンセル

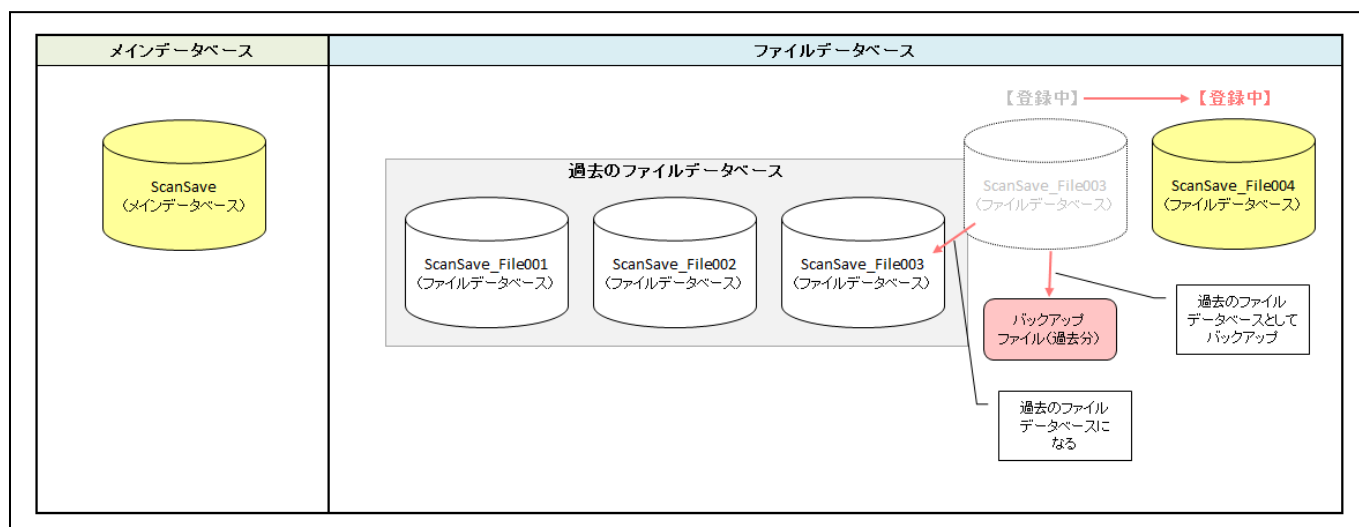
③処理の再確認画面が表示されるので、確認コード「migration」を入力し、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックすると、移行処理が実行されます。

本当にファイルデータベースの移行処理を実行してもよろしいですか？
移行処理を実行する場合には、以下のテキストボックスに確認コード「migration」と入力してください。

確認コード migration

同意して処理を実行する キャンセル

④ 移行処理が完了すると、登録中のファイルデータベースが空の新しいデータベースとなり、新しい番号が付番されます。また、使用していたファイルデータベースは自動的に過去のファイルデータベースとしてバックアップされ、過去分のファイルデータベースの一覧に表示されます。



例えば、上の図のように、これまでファイルデータベース No.003 を登録中であった場合、ファイルデータベース No.003 を過去分のファイルデータベースに移行します。そして、ファイルデータベース No.004 が新規に作成され、登録中のファイルデータベースとして利用します。

⑤ なお、新しく生成したファイルデータベースは、生成した段階では完全バックアップができていないので差分バックアップができません。手動で完全バックアップをするか、自動バックアップをタスク登録してください。

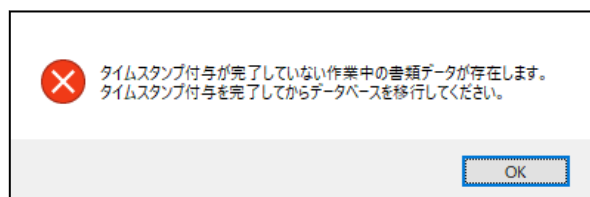
- 手動で完全バックアップについては「導入・設定編」の「**13. e-Success データベースの手動バックアップ**」を参照
- 自動バックアップをタスク登録については「導入・設定編」の「**7. バックアップをタスクスケジューラで実行**」を参照

◆ヒント◆ 年度ごとや半期ごとのファイルデータベース管理

移行処理を利用して、ファイルデータベースを年度ごとや半期ごとといった管理ができます。

◆注意◆ タイムスタンプ付与を全て完了してから実施してください

タイムスタンプ付与が完了していない書類データが存在している場合は、下記の画像の通知が表示され、「データベースの移行処理」を実行できません。移行処理を行う前に、必ずタイムスタンプ付与を完了させてください。



C. 過去のファイルデータベースを削除する

使用しているコンピュータのディスク容量が不足してきたときは、過去のファイルデータベースを一時的に削除することで空き容量を確保できます。

次の手順で、過去のファイルデータベースの削除できます。

①過去のファイルデータベース一覧で対象のデータベースの「削除」ボタンをクリックします。

No.	閲覧可能	使用開始年月	使用容量	操作
001	○	2020/06	0.2GB	削除
002	×	2020/06	0.0GB	バックアップ

ファイルデータベースの移行処理
※現在のファイルデータベースを終了して、新しいファイルデータベースNo.004を作成します。

②確認メッセージが表示されるので、「同意して処理を実行する」ボタンをクリックします。

ファイルデータベースNo.001のデータベースファイルを削除します。
このファイルデータベースに格納されているスキャン画像を参照することはできなくなります。
スキャン画像の参照時には、バックアップファイルからデータベースを復元してください。
この処理は取り消すことができません。処理を実行してもよろしいですか？

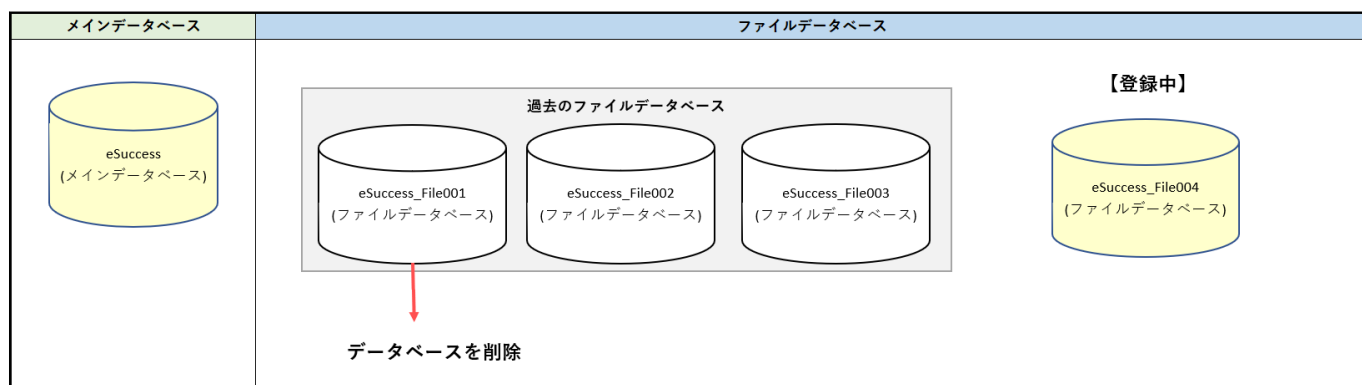
同意して処理を実行する キャンセル

③処理の再確認画面が表示されるので、確認コード「delete」を入力し、「同意して処理を実行する」ボタンをクリックすると、削除処理が実行されます。

本当にファイルデータベースNo.001を削除してもよろしいですか？
削除処理を実行する場合には、以下のテキストボックスに確認コード「delete」と入力してください。

確認コード delete

同意して処理を実行する キャンセル



例えば、上の図のように、過去のファイルデータベースNo.001～003が存在する場合、No.001を削除すると、No.001に格納されていたスキャンファイルは参照不可になります（No.002とNo.003に格納されていたスキャンファイルは、これまで通り参照できます）。

ただし、削除後も書類の入力データはメインデータベースに格納されているため、書類データは検索できます（スキャン画像を確認する際に以下の図のように表示されます）。

◆ヒント◆ 削除したデータベースのスキャンファイルを参照するには？

ファイルデータベースを削除すると、対象のデータベースに格納されていたスキャンファイルは参照できなくなります。参照が必要な場合は、削除したファイルデータベースを復元してください。

D. 過去のファイルデータベースをバックアップする

「ファイルデータベースの移行処理」を実行すると、自動的にファイルデータベースがバックアップされますが、任意に過去のファイルデータベースをバックアップすることもできます。

次の手順で、過去のファイルデータベースをバックアップできます。

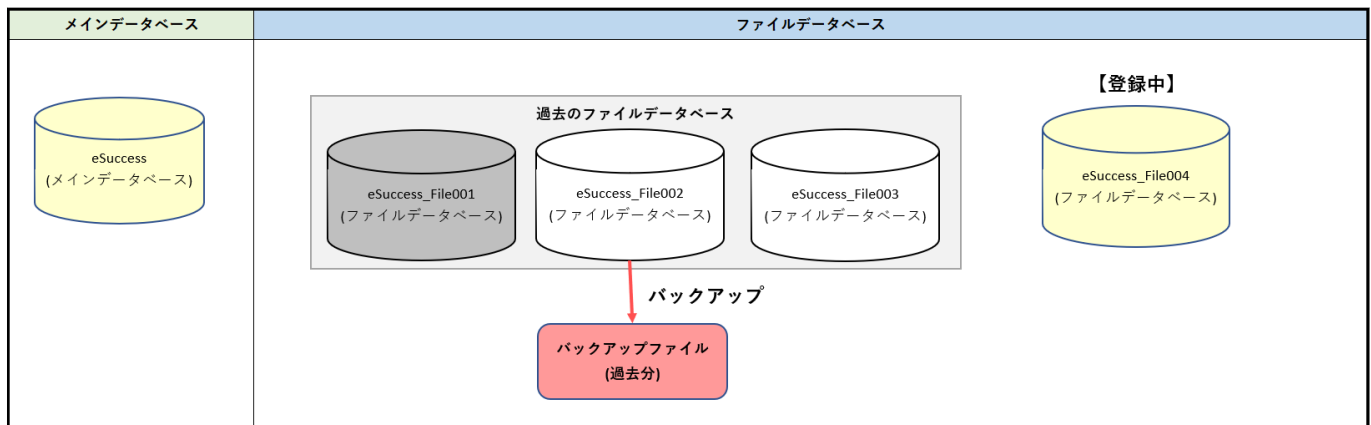
- ① ファイルデータベースの管理（過去分）の一覧で、バックアップしたいファイルデータベースの「バックアップ」ボタンをクリックします。

②確認メッセージが表示されるので、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

ファイルデータベースNo.001のデータベースファイルをバックアップします。
処理を実行してもよろしいですか？

同意して処理を実行する

キャンセル



例えば、上の図のように、過去のファイルデータベース No.002 や 003 について、過去ファイルデータベースのバックアップを実行できます (No.001 については、削除されているためバックアップできません)。

◆ヒント◆ 過去ファイルデータベースのバックアップ

ファイルデータベースの移行処理によってファイルデータベースが自動的にバックアップされるため、この処理は通常は利用しません。バックアップしていた HDD に障害が発生したときや新しい外付け HDD にバックアップを保存したいときなどにご利用ください。

E. 過去のファイルデータベースを復元する

削除した過去のファイルデータベースのデータを閲覧したい場合は、削除したファイルデータベースを復元することで閲覧できるようになります。

次の手順で削除した過去のファイルデータベースを復元できます。

① ファイルデータベースの管理 (過去分) の一覧で、対象のデータベースの [復元] ボタンをクリックします。

登録件数一覧

バックアップログ

ディスク空き容量

ファイルデータベース管理

ファイルデータベースの管理(過去分)

No.	閲覧可能	使用開始年月	使用容量	操作	
001	○	2020/06	0.2GB	削除	バックアップ
002	×	2020/06	0.0GB		復元

ファイルデータベースの移行処理

※現在のファイルデータベースを終了して、新しいファイルデータベースNo.004を作成します。

② 確認メッセージが表示されるので、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックします。

ファイルデータベースNo.002のデータベースファイルを復元します。
この処理は取り消すことができません。処理を実行してもよろしいですか？

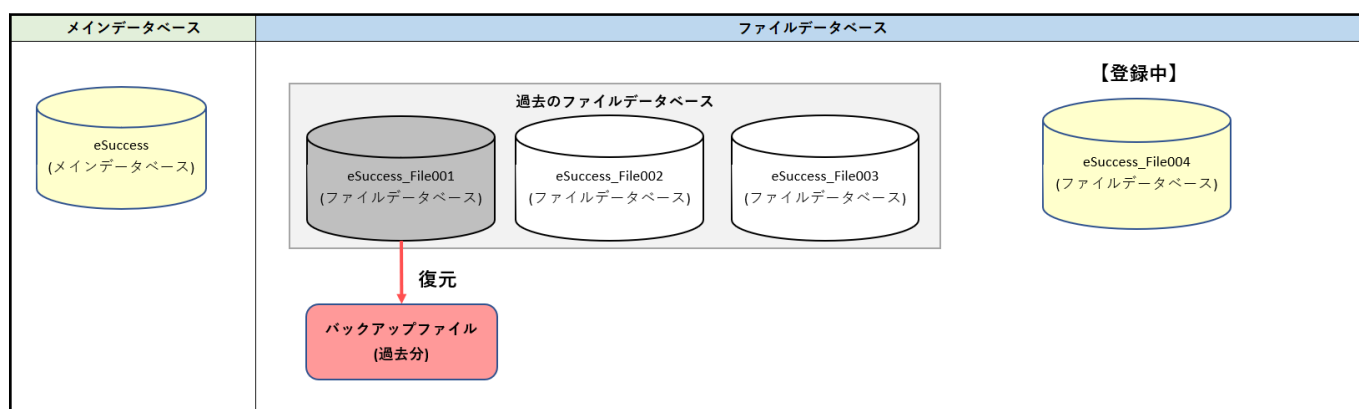
同意して処理を実行する
キャンセル

③ 処理の再確認画面が表示されるので、確認コード「**restore**」を入力し、[同意して処理を実行する] ボタンをクリックすると、復元処理が実行されます。

本当にファイルデータベースNo.002のデータベースファイルを復元してもよろしいですか？
復元処理を実行する場合には、以下のテキストボックスに確認コード「restore」と入力してください。

確認コード

同意して処理を実行する
キャンセル



例えば、上の図のように、過去のファイルデータベースNo.001をバックアップファイル（過去分）から復元することで、過去のファイルデータベースNo.001に格納されていたスキャンファイルを再び参照できるようになります。

◆注意◆ 復元時の対象ファイル

バックアップファイルは、「処理設定」で設定したバックアップフォルダに保存されている必要があります。

F. 別のサーバーにデータベースを入れ替える

サーバーマシンの変更が必要になった場合は、次の手順で作業を行ってください。

【移行元のサーバーで行う作業】

① データベースのバックアップを実行する「**13. e-Success データベースの手動バックアップ**」の手順でバックアップを実行してください。

◆ヒント◆ データベースのバックアップ

利用中のデータベースは、バックアップフォルダの「e-Success バックアップセット」フォルダに保存されます。

② 過去のファイルデータベースをバックアップしていない場合は、「D. 過去のファイルデータベースをバックアップする」の手順でバックアップを実行してください。すべての過去のファイルデータベースに対して、バックアップを作成する必要があります。

◆ヒント◆ 過去のファイルデータベースのバックアップ

過去のファイルデータベースは、バックアップフォルダの「e-Success バックアップセット_過去分」フォルダに保存されます。過去のファイルデータベース分だけ、「e-Success ファイルデータベースバックアップ xxx.sfb」(xxx はファイルデータベース番号)が作成されます。

【移行先のサーバーで行う作業】

◆注意◆ データベースを復元する前に

新しいサーバーにデータベースを復元する場合、あらかじめ移行先のサーバーに e-Success データベースを構築しておいてください(導入・設定編「**3. e-Success データベースの構築**」を参照)。

◆ヒント◆ バックアップファイルを保存した外付けドライブのコピー

移行先のコンピュータで作業を行う前に、念のためバックアップファイルを保存したハードディスクドライブなどを別の外付けハードディスクドライブなどにコピーしておくことをお勧めします。

① バックアップファイルが保存されている外付けハードディスクドライブなどを移行先のサーバーマシンに接続します。

② バックアップ保存アプリ(データベースメンテナンスツール)で、バックアップフォルダを接続した外付けハードディスクドライブなどの指定フォルダに設定します。バックアップフォルダの変更方法については、導入・設定編の「**13. e-Success データベースの手動バックアップ**」を参照してください。

③ 「**14. e-Success データベースの復元**」の手順でバックアップファイルを復元します。この時点では、メインデータベースと登録中のファイルデータベースだけが復元されます。

④ 「E. 過去のファイルデータベースを復元する」の手順で、過去のファイルデータベースを復元してください。すべての過去のファイルデータベースに対して、復元処理を実行する必要があります(書類参照の必要のない過去のファイルデータベースについては、復元しなくても問題ありません)。

【クライアントのコンピュータで行う作業】

① e-Success アプリケーションを起動し、「作業フォルダ」ボタンをクリックして、作業フォルダの設定内容を確認してください。各ユーザーの作業フォルダについての情報は、サーバーのデータベースに記録されているので、食い違いがないかユーザー毎に確認が必要です。

もし、食い違いがあった場合は、作業フォルダの設定を修正してください。作業フォルダの変更方法については、「e-Success 操作マニュアル」の書類作業編の「2. メインメニューと機能」を参照してください。また、XAeS を使用している場合は、各ユーザーの電子証明書ファイルについて、設定されている保存先にファイルをコピーするか、再度登録してください。電子証明書の設定方法は、「e-Success 操作マニュアル」の書類作業編の「2. メインメニューと機能」の「C. 電子証明書情報の表示と設定」を参照してください。

以上の操作で過去のファイルデータベースを含む、すべてのデータベースが復元されます。「書類検索・検証」画面を使用して、最近の書類や古い書類などの検索を実行し、必要な情報がすべて移行できていることを確認してください。

◆注意◆ 移行前のサーバーマシンを廃棄する前に

移行前のサーバーマシンを廃棄する前に、移行先のサーバーマシンに書類データがコピーされていることを必ず確認してください。

4. 書類の物理削除

A. 指定の書類データを物理削除する

「書類検索・検証」画面では、データを誤って登録した場合の取り消しや、サーバーの使用容量削減のために、不要な書類データと電子ファイルを「物理削除」できます。

◆注意◆ 物理削除を実行する前に

- 「物理削除」の実行には、「システム管理者」の権限が必要です。
- 「物理削除」を実行すると、書類データと電子ファイルがデータベースから完全に削除されます。「物理削除」したデータは復元できないので、厳重に注意して操作してください。
- サーバーの使用容量削減のために「物理削除」を実行する場合は、書類データの「法令保存期限日」が過ぎたデータを削除するときのみ実行されることを推奨します。
「法令保存期限日」については、「e-Success 操作マニュアル」の「書類作業編」の「9. 法令保存期限日時の通知」の「A. 法令保存期限日時について」を参照してください。

「物理削除」は、次の手順で実行します。

- ① 検索条件を指定して、「検索」ボタンをクリックしてください。
- ② 物理削除したい書類データの「処理」欄をクリックしてチェックを付けます。

書類番号	検証結果	ファイル名	法令保存期限日	日付	書類種類	金額	取引先名	品名	拠
0020771		e-Success_1.pdf	2032/02/28 23:59:59	2024/10/01	請求書	555,555			本社
0020770	☒	e-Success_9.pdf	2024/06/01 0:00:00	2023/09/09	請求書	1,468,800	株式会社ScanSave00	品名	本社
0020769	☒	e-Success_8.pdf	2024/06/01 0:00:00	2023/09/09	請求書	1,468,800	株式会社ScanSave00	品名	本社
0020768	☒	e-Success_7.pdf	2024/06/01 0:00:00	2023/09/09	請求書	1,468,800	株式会社ScanSave00	品名	本社

- ③ 「書類を削除」をクリックします。
- ④ 「物理削除」実行の確認メッセージが表示されるので、ほんとうに実行してよいなら「同意して処理を実行する」ボタンをクリックします。

チェックした書類データを削除(物理削除)します。

処理を実行してよろしいですか？

※この操作は元に戻せません。

同意して処理を実行する

キャンセル

- ⑤「確認コード」入力画面が表示されるので、「確認コード」欄にシークレットキーを入力して、「同意して処理を実行する」をクリックします。

本当に選択した書類データをデータベースから削除(物理削除)してもよろしいですか？
削除処理を実行する場合には、以下のテキストボックスにシークレットキーを入力して、同意してください。

確認コード

◆ヒント◆ 処理確認コードの確認

処理確認コードは、「処理設定」画面の「システム設定」シートで確認できます。処理確認コードは伏字表示となっていますが、処理確認コード入力項目の右にある「可視」をクリックしてチェックを付けることで可視表示されます。処理確認コードについては、「e-Success 操作マニュアル」の「導入・設定編」の「3.処理設定」の「F.「システム設定」の設定内容」を参照してください。
※処理確認コードの初期設定時のコードは「butsurisakujo」になります

- ⑥「最終確認」画面が表示されます。ここで「同意して処理を実行する」をクリックすると、検索画面からチェックした書類データが消えて物理削除が完了します。

運用開始にともない、データベースに保存されている書類データを物理削除します。
処理を実行してよろしいですか？
※この操作は元に戻せません。

◆ヒント◆ 「書類表示(ビュー)」画面でも物理削除が可能

書類の物理削除する機能は、「書類表示(ビュー)」画面でも使用することができます。

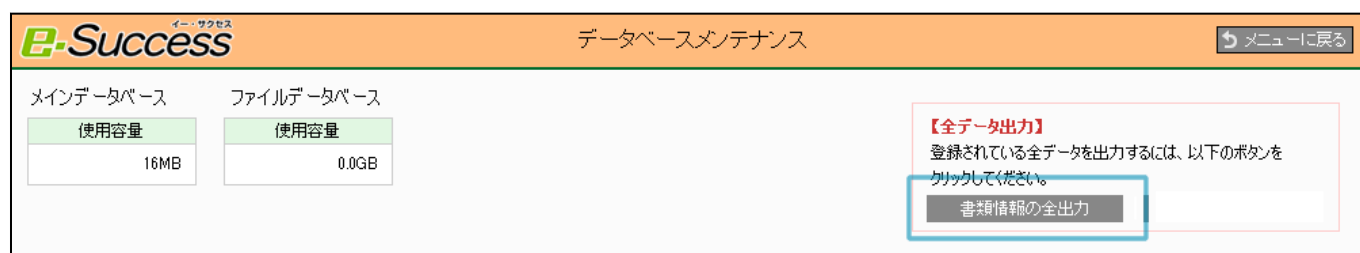
「書類検索・検証」画面の「書類を削除」と同様、「システム管理者」権限を持ったアカウントでログインすることで、以下の図のようにウィンドウ右下に「物理削除」ボタンが表示されます。「物理削除」ボタンは、「書類検索・検証」画面の「書類を削除」とほぼ同じ仕様となっており、「物理削除」ボタンの場合、複数選択の削除はできず、現在「書類表示(ビュー)」画面に表示されている書類データおよび電子ファイルのみを物理的に削除します。

5. e-Success データの全出力

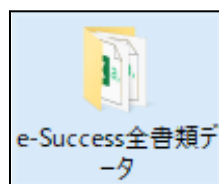
A. 書類データを出力する

データベースに格納されている書類データ（検索用項目の入力データなど）を CSV ファイルとして出力し、合わせて登録した電子ファイルも出力できます。

e-Success アプリケーションにシステム管理者権限のユーザーでログインし、メインメニューで「データベースメンテナンス」ボタンをクリックして、データベースメンテナンス画面を表示します。
データベースメンテナンス画面で、「書類情報の全出力」ボタンをクリックすると、出力先のフォルダ参照画面が表示されます。



フォルダを指定して「OK」ボタンをクリックすると、指定したフォルダに「e-Success 全書類データ」フォルダが作成され、書類データが CSV ファイルとして出力します。また、ファイルデータベースに格納されている電子ファイル（タイムスタンプ付与済み）も、書類データと紐づけた状態で出力します。



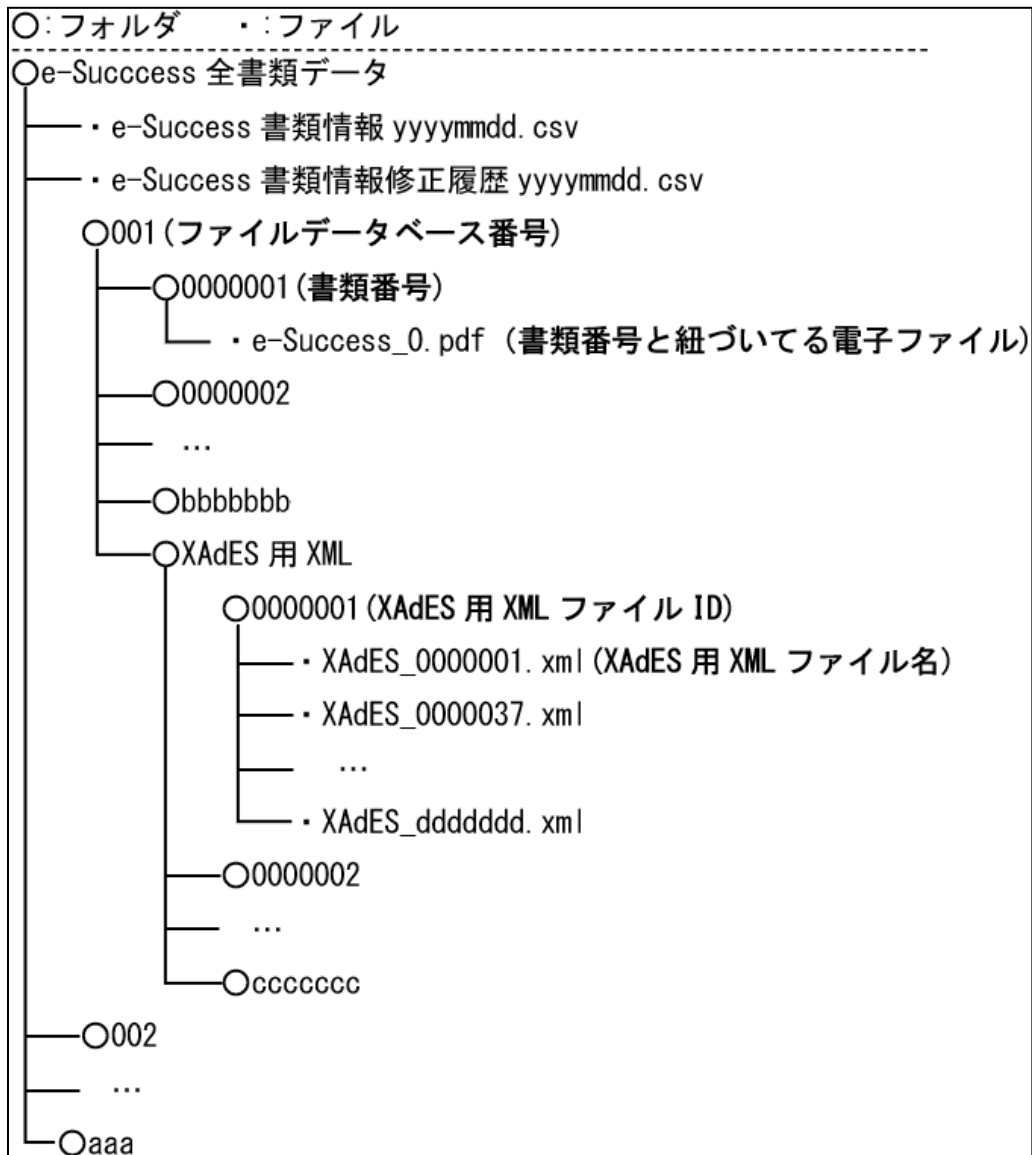
※「書類データの全出力」は、データベースメンテナンスツール（サーバー）、e-Success アプリケーション（クライアント）のデータベースメンテナンス機能の両方で実行できます。

出力された CSV ファイルは、Excel などの表計算ソフトで開いたり、Access などのデータベースソフトでの利用もできます。

PAdES でタイムスタンプを付与した場合は、フォルダに出力されている PDF ファイル自体にタイムスタンプが付与された状態になっています。

XAdES でタイムスタンプを付与した場合は、各ファイルデータベース番号のフォルダに「XAdES 用 XML」フォルダが作成され、このフォルダに各ファイルのタイムスタンプ付与に使用された XML ファイルが格納されます。各電子ファイルにおいて、どの XML ファイルが使用されているのかは、出力された書類データファイル（CSV ファイル）の「XAdES 用 XML ファイル」列のファイル名を参照してください。

以下は、「書類情報の全出力」ボタンで出力した出力した「e-Success 全書類データ」フォルダの構成になります。



◆ヒント◆ バックアップとしての利用

「書類データの全出力」で出力されたファイルは、バックアップデータとして利用できます。必要に応じて、通常の e-Success データベースのバックアップとは別の二次バックアップ機能としてご利用ください。

◆注意◆ 出力するドライブの空き容量

本機能を利用する場合、データベースに格納されている電子ファイルがすべて出力されます。主力先は、外付けの HDD など十分な空き容量のあるドライブを指定してください。使用中のコンピュータのローカルドライブに出力した場合、空き容量不足で利用しているソフトウェアが動作しなくなる危険性があります。

6. e-Success データの連携出力／取込

データベースに格納されている書類データや電子ファイルは、e-Success データの連携機能によって、別の e-Success 検索アプリケーションの環境にコピーできます。

◆注意◆ e-Success データの連携取込を行う環境

e-Success データの連携取込を行う環境は、データの出力元（連携出力を実行する環境）と「表示名」が一致していて、検索専用がオンになっている必要があります。表示名と検索専用の設定方法については、導入・設定編「5. e-Success アプリケーションの接続先設定」-「A. 接続先を設定する」を参照してください。
検索専用として設定されていない場合は、e-Success データの連携取込機能を使用できません（メニューに表示されません）。

A. e-Success データの連携出力

e-Success データの連携出力は、次の手順で実行します。

① e-Success アプリケーションにシステム管理者権限のユーザーでログインし、メインメニューの「e-Success データの連携出力」ボタンをクリックすると、「e-Success データの連携出力」画面が表示されます。

出力フォルダ 参照 ②

処理種別 ☐ 追加・更新分 ☐ 全件 ☒ DBの全データ ③

データエクスポート ④

実行履歴

処理番号	処理種別	エクスポート対象	実行ユーザー名
10	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/09/03 11:23:09	システム管理者
9	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/20 16:35:34	User01
8	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/20 16:31:24	User01
7	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/20 16:23:16	User01
6	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/19 20:36:53	User01
5	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/06 16:52:07	User01
4	全件	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/06/30 12:00:28	User01
3	全件	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/06/30 11:53:46	User01
2	全件	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/06/30 11:41:37	システム管理者
1	全件	2021/03/26 16:11:55 ~ 2021/05/25 20:49:39	User01

② [参照] ボタンをクリックして、出力フォルダを指定します。

③ [処理種別] で、「追加・更新分」または「全件」を選択します。通常は「追加・更新分」を選択してください。データベースを別なサーバーに移行する場合やデータベースのバックアップを取る場合は、「DBの全データ」を選択してください。

◆ヒント◆ 全件での出力

「全件」は、新しい環境に全データを入れ直すときに選択してください。「全件」を選択した場合は、前回までの出力状況に関わらず、書類データおよび電子ファイルの全件を出力します。また、全件を出力する場合、電子ファイルの容量が大きくなる可能性があるため、出力先フォルダの空き容量に注意してください。

◆注意◆ DBの全データ

「DBの全データ」は、以下の操作を行いたい場合のみ必ず選択してください。

- ・e-Success のデータベースを別のインスタンスもしくは別なサーバーマシンなどの新しい環境に移行する場合
- ・各種マスタを含め、重大なデータを削除してしまわないようバックアップを取る場合

「DBの全データ」は、現在データベースに保存されている書類データと電子ファイル以外にも、「処理設定」と自動タイムスタンプ付与アプリの設定情報、「ユーザマスタ」「拠点マスタ」「書類種類マスタ」などの各種マスタの情報、「サーバーサイド一括ログ」「自動タイムスタンプ付与ログ」などのログの情報など、データベースの全ての情報を出力します。その後、「データの連携取込」機能を使用してデータを取り込む際には、e-Success のメインデータベースおよびファイルデータベース内の対象テーブルに対して、新規登録や追加・更新を行い、これにより、e-Success で使用する各テーブルの全データを移行することが可能です。

ただし、この処理はバックアップファイルを用いた復元とは異なり、SQL Server によって管理されている各データベースのログ情報は移行されません。

また、「DBの全データ」で出力する場合、容量が大きくなる可能性があるため、出力先フォルダの空き容量に注意してください。

④ [データエクスポート] ボタンをクリックすると確認メッセージが表示されるので、[OK] ボタンをクリックします。完了メッセージが表示されたら [OK] ボタンをクリックしてください。

⑤ 「実行履歴」には処理番号、処理種別、エクスポート対象（対象データの更新日時の期間）、実行ユーザー名が追加されます。[メニューに戻る] ボタンをクリックして、処理を終了します。

データエクスポート			
実行履歴			
処理番号	処理種別	エクスポート対象	実行ユーザー名
10	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/09/03 11:23:09	システム管理者
9	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/20 16:35:34	User01
8	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/20 16:31:24	User01
7	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/20 16:23:16	User01
6	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/19 20:36:53	User01
5	DBの全データ	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/07/06 16:52:07	User01
4	全件	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/06/30 12:00:28	User01
3	全件	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/06/30 11:53:46	User01
2	全件	2021/03/26 16:11:56 ~ 2021/06/30 11:41:37	システム管理者
1	全件	2021/03/26 16:11:55 ~ 2021/05/25 20:49:39	User01

⑥ Windows のエクスプローラで指定したフォルダを参照すると、[e-SuccessExport] フォルダが作成され、その中に次のファイルが格納されています。

○ 「処理種別」が【追加・更新分】【全件】のいずれかの場合

- e-Success 書類データ.csv 書類データデータ
- e-Success 書類データ修正履歴.csv 書類データの修正履歴データ
- e-SuccessIndex.dat 出力情報が書き込まれたファイル
- e-SuccessFile フォルダ 子ファイル、XAdES 用 XML ファイルおよび Manifest 用 XML ファイル
XAdES 用 XML ファイルと Manifest 用 XML ファイルは、XAdES で運用している場合のみ出力される)

○「処理種別」が【DBの全データ】の場合

e-Success 書類データ.csv	 書類データデータ
e-Success 書類データ修正履歴.csv	 書類データの修正履歴データ
e-SuccessIndex.dat	 出力情報が書き込まれたファイル
e-SuccessFile フォルダ	 電子ファイル、XAdES 用 XML ファイルおよび Manifest 用 XML ファイル XAdES 用 XML ファイルと Manifest 用 XML ファイルは、XAdES で運用している場合のみ出力される)
e-Success 仮取込データ.csv	 仮取込が完了した書類データ
e-Success 書類データの先行取込.csv	 先行取込が完了した書類データ
e-Success コントロールマスタ.csv	 「処理設定」や自動タイムスタンプ付与アプリで設定したシステムのマスタ
e-Success 拠点マスタ.csv	 拠点マスタのデータ
ユーザーマスタ.csv	 ユーザーマスタのデータ
e-Success 書類種類マスタ.csv	 書類種類マスタのデータ
e-Success 取引先マスタ.csv	 取引先マスタのデータ
e-Success その他1マスタ.csv	 その他1マスタのデータ
e-Success その他2マスタ.csv	 その他2マスタのデータ
e-Success その他3マスタ.csv	 その他3マスタのデータ
e-Success その他4マスタ.csv	 その他4マスタのデータ
e-Success その他5マスタ.csv	 その他5マスタのデータ
e-Success その他6マスタ.csv	 その他6マスタのデータ
e-Success タイムスタンプ付与回数.csv	 タイムスタンプ付与回数のログデータ
e-Success 自動タイムスタンプ付与ログ.csv	 自動タイムスタンプ付与のログデータ
e-Success サーバーサイド一括処理ログ.csv	 サーバーサイド一括処理のログデータ
e-Success バックアップ履歴.csv	 バックアップ履歴のログデータ
e-Success データインポート履歴.csv	 データインポート履歴のログデータ
e-Success データエクスポート履歴.csv	 データエクスポート履歴のログデータ
e-Success 操作ログ.csv	 操作ログのログデータ

◆注意◆ フォルダが存在する場合

出力先のフォルダに e-SuccessExport フォルダが存在する場合は、エラーメッセージが表示され、出力は実行できません。e-SuccessExport フォルダを削除するか移動してから再度実行してください。

◆注意◆ Manifest 用 XML ファイルについて

Manifest とは、W3C の XML 署名 (Xmldsig) 仕様で定義されている仕組みの一つです。Manifest 用 XML ファイルは、PDF などの外部リソースへの参照 (Reference) をリスト構造で一括管理するための XML ファイルになり、署名対象を階層化するために利用されます。

※Le:XAdES-V3 では、このリスト構造を外部ファイルとして扱う形式となりました。

B. e-Success データの連携取込

「A. e-Success データの連携出力」で出力したファイルを別の環境に取り込むことで、e-Success のデータをコピーできます。作業を始める前に、「A. e-Success データの連携出力」で出力したファイルを「A. e-Success データの連携取込」を実行するクライアントで読めるように、外付けハードディスクドライブなどにコピーしておいてください。

◆注意◆ 連携出力された e-Success データの取り込み条件

e-Success データの連携出力機能で出力されたデータは、以下の条件が一致する環境にのみ取り込めます。

- ・ e-Success アプリケーションのバージョンが同じであること。
- ・ 同じ接続先名が設定されていること（導入・設定編「**5. e-Success アプリケーションの接続先設定**」参照）。
- ・ 処理種別「追加・更新分」「全件」とデータベースメンテナンスツールの「指定した年月をエクスポート」で出力したフォルダをインポートする際は、事前に「拠点マスタ」「書類種類マスタ」「ユーザーマスタ」の設定を完了させていること

◆注意◆ 接続先設定ツールで検索モードに設定する

e-Success アプリケーションで「e-Success データの連携取込」を実行するには、e-Success アプリケーション起動する前に「e-Success 接続先設定ツール (e-Success_DBConnectionSetting.exe)」を起動して、接続先の「データベース設定」で「検索専用」にチェックを入れ、保存ボタンをクリックして設定を保存しておいてください。

The screenshot shows the 'e-Success DB Connection Setting Tool' window. The 'Database Setting' tab is selected. The 'Display Name' field contains 'E-SUCCESS'. The 'Server Name' field contains 'localhost#esuccess'. Below this, there is a note: '例: dbservername, dbservername#mssql ※インスタンスを指定する場合は、サーバー名#インスタンス名を入力してください。 ※ローカルPCにインストールしたDBは、サーバー名をlocalhostで指定してください。' The 'Administrator User Name' field is empty. The 'Administrator Password' field contains masked characters. To the right of the password field is a 'Visible' checkbox which is unchecked. The 'Search Only' checkbox is checked and highlighted with a red box. At the bottom, there are buttons for 'New', 'Delete', 'Search Confirmation', and 'Save'.

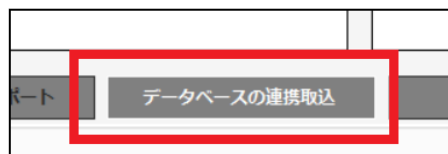
e-Success データの連携取込は、次の手順で実行します。

① e-Success アプリケーションにシステム管理者権限のユーザーでログインし、メインメニューの「e-Success データの連携取込」ボタンをクリックすると、「e-Success データの連携取込」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'e-Success データの連携取込' (e-Success Data Import) screen. At the top, there is a 'Import Target Folder' field with the value 'C:\Users\Akebono-Win10-Sakai\Desktop\#e-SuccessExpo' and a 'Reference' button. Below this is a 'Data Import' button, which is highlighted with a red circle and the number 3. At the bottom, there is a table titled '実行履歴' (Execution History) with columns: '処理番号' (Process Number), '処理種別' (Process Type), 'インポート対象' (Import Target), and '実行ユーザー名' (Executing User Name). The table is currently empty.

◆ヒント◆ データベースメンテナンスツールでも取込可能

サーバーで実行するデータベースメンテナンスツールにも「e-Success 連携取込」機能があります。アプリにログインし、[データベースの連携取込] ボタンをクリックすることで、同じ処理を実行できます。



- ② [参照] ボタンをクリックし、取り込む対象の [e-SuccessExport] フォルダを指定します。
- ③ [データインポート] ボタンをクリックすると、データの取込処理を開始します。
- ④ 処理が完了すると、「実行履歴」に、処理番号、処理種別、インポート対象（対象データの更新日時の間）、実行ユーザー名が追加されます。[メニューに戻る] ボタンをクリックして、処理を終了します。

データインポート			
実行履歴			
処理番号	処理種別	インポート対象	実行ユーザー名
2	DBの全データ	2021/07/20 16:31:24 ~ 2021/09/03 11:23:09	システム管理者
1	DBの全データ	2021/07/20 16:31:24 ~ 2021/07/20 16:35:34	システム管理者

- ⑤ その後、「書類検索・検証」に移動して、連携取込した書類データを検索し、電子ファイルが表示されることを確認してください。

◆注意◆ インポート対象期間が連続していない場合

「追加・更新分」を連携取込する場合は、前回処理した「インポート対象」の終了日時と今回処理するデータの「インポート対象」の開始日時が同じである必要があります（つまり、インポートデータの期間が連続していること）。期間が連続していない場合は、エラーメッセージが表示され、インポートはできません。追加分のデータが存在しない場合は、データベースを構築し直してから、「A. e-Success データの連携出力」の「全件」で出力を行い、全件のインポートを行ってください。

なお、データベースを構築し直すには、導入・設定編「**18. e-Success データベースの削除**」で削除してから、導入・設定編「**3. e-Success データベースの構築**」でデータベースを作成し直します。

◆注意◆ 「処理種別」が「DBの全データ」の e-Success データ取り込む場合

「処理種別」が「DBの全データ」の e-Success データは、以下のケースをクライアント側で操作できるように用意した取込機能となります。

- ・ e-Success のデータベースを別のインスタンスもしくは別なサーバーマシンに移行する場合
- ・ 重大なデータを削除してしまい、データの復元を行う場合

なお、取り込まれる e-Success データは、「A. e-Success データの連携出力」の「DBの全データ」を出力した時点のデータとなります。出力後にも「処理設定」や各種マスタ、「書類データの仮取込」「書類データの先行取込」でデータの追加・変更などを行った場合は、追加・変更されたデータは、接続先のデータベースに全く反映されませんので注意してください。

また、バックアップファイルを用いた復元とは異なり、SQL Server によって管理されている各データベースのログ情報は移行されません。

また、データベースを構築し直すには、上記の「◆注意◆ 連携出力された e-Success データの取り込み条件」と同様、導入・設定編「**18. e-Success データベースの削除**」で削除してから、導入・設定編「**3. e-Success データベースの構築**」でデータベースを作成し直します。

制限・注意事項一覧

■SQL Server のサービス起動

SQL Server のサービスが起動していない場合、データベースにアクセスできません。各クライアントからログオンできない場合は、SQL Server のサービスが正常に動作していることを確認してください。

SQL Server のサービス状態の確認方法については、導入・設定編「**2. SQL Server のインストール**」の「**C. SQL Server のサービス状態を確認する**」を参照してください。

■同時接続制限と処理速度

e-Success アプリケーションのクライアントコンピューターへの最大インストール台数（クライアントに e-Success アプリケーションをインストールした台数）と最大同時接続ユーザー数（特定の時間に同時に e-Success アプリケーションを使用しているユーザーの数）は、ご注文時に許諾された設定数までご利用頂けます。

アプリケーションとしては、最大同時接続数でユーザーの同時接続制限を行っていますが、ご利用するサーバーのスペック、ネットワーク環境、データ連携機能のご利用やそのタイミングによって、処理速度が著しく低下することが考えられます。

その様な場合は、拠点ごとに異なる時間帯での利用に分散するなどの方法で同時接続ユーザー数を軽減するなど、ご購入元とご相談の上、事前検証を行ったうえで運用してください。

■バックアップの実施と保存先

データベースのバックアップについては、必ず確実な方法によって定期的実施するようにしてください（少なくとも1日1回のバックアップを推奨します）。また、バックアップデータは、データベースファイルが保存されているサーバーのローカルディスクとは異なるディスク（例えば、外付けHDD）に保存するようにしてください。バックアップファイルが保存されていない場合は、サーバー破損時においてデータベースの復元はできません。

■検証結果が「△」と「×」について

検証結果が「△」と「×」は、以下のような結果を意味します。

△：検証情報の不足。ルート証明書や中間 CA 証明書、CRL ファイル等が不足している。

×：検証結果の不正。不正のケースとしては、検証情報が全くない。署名情報の形式である XML として不正な文字が使われていたり、XMP として認められないタグ要素が使われていることがあった場合。

■タイムスタンプ付与済みの PDF として扱われない場合

タイムスタンプ付与済みの PDF を取り込む際、タイムスタンプ検証に失敗して検証不備となる場合があります。検証不備となった PDF を取り込む場合は、「付与済み」として扱われず「検証不備」のステータスとして扱って取り込まれます。

この現象は、主に以下の要因によって発生します。

- ・インターネットへの接続ができない状態
- ・検証情報が不足している
- ・ルート証明書、中間 CA 証明書が不足している
- ・付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している

「インターネットへの接続ができない状態」「検証情報が不足している」という点については、PDF に付与されている署名には、検証時に必要なルート証明書と中間 CA 証明書の有効期限や有効性の情報を記述された CRL ファイル、OCSP ファイルの取得先の URL が記述されています。もしインターネットに接続にできない場合、CRL ファイル、OCSP ファイルを取得することができないため、検証不備として結果が「△」「×」になります。

「インターネットへの接続ができない状態」という点については、PDF に付与されている署名には、検証時に

必要なルート証明書と中間 CA 証明書の有効期限や有効性の情報を記述された CRL ファイル、OCSP ファイルの取得先の URL が記述されています。もしインターネットに接続にできない場合、CRL ファイル、OCSP ファイルを取得することができないため、検証不備として結果が「△」「×」になります。

なお、PAdES におきましては、CRL ファイル、OCSP ファイルを「store」フォルダに入れることで、オフラインでの検証が可能です。詳細は、「e-Success 操作マニュアル」の「書類作業編」の「8. 書類検索・検証」の「A. 登録済みの書類を検索する」の「◆ヒント◆ オフラインで署名検証する場合 (PAdES のみ)」を参照してください。

「ルート証明書、中間 CA 証明書が不足している」が不足しているケースについては、「e-Success 操作マニュアル」の「書類作業編」の「8. 書類検索・検証」の「A. 登録済みの書類を検索する」の「◆ヒント◆ 検証結果が「△」と「×」となった際の対応補足」を参照してください。

「付与されている署名情報に不正値、もしくは改竄が発生している」が発生している書類については、正常なファイルとして扱えませんので、e-Success から対象の書類を削除して、元のファイルを調査してください。

■金額の単位が「ドル」「ユーロ」「なし」で、小数点以下を入力する場合

書類データに設定した書類種類の「金額の単位」が「ドル」「ユーロ」「なし」で設定されている場合、小数第三位までの金額を取込みができます。小数第四位以下の金額を入れた場合は、小数第四位に対して、書類種類マスタの「外貨の小数第四位の対応」で設定した「切り捨て」「四捨五入」「切り上げ」を実行してから登録されます。

■サーバーメンテナンスとバックアップの定期検査の実施

サーバーのメンテナンスは、必ず定期的に実施してください（月 1 回のメンテナンスを推奨します）。また、バックアップデータについても、定期的に別の検証用サーバーでのデータベース復元テスト（バックアップデータに格納されたデータの参照確認）を実施することを推奨します（年 1 回の検査を推奨します）。

■旧バージョンのデータベースからアップグレードした場合

SQL Server インスタンス上で稼働しているデータベースを旧バージョン (ScanSave-V3/ScanSave-V4/e-Success-V5) からアップグレードした場合、クライアントアプリ (e-Success.exe) を使用して「処理設定」の「事業年度開始月」を設定する必要があります。

設定していない間は、以下の書類を登録する機能がご利用できませんので、必ず設定してください。

○クライアントアプリでご利用できなくなる機能

- ・書類入力・確認
- ・書類データの仮取込
- ・検索用項目の一括更新
- ・他システムデータの一括取込
- ・書類データの先行取込
- ・電子ファイルの取込
- ・書類検索・検証

○ご利用できなくなるアプリの機能

- ・自動一括取込アプリの取込処理
- ・Web 検索機能の他システムデータ一括取込
- ・自動タイムスタンプ付与アプリのタイムスタンプ付与機能

■Manifest 用 XML ファイルについて

Manifest とは、W3C の XML 署名 (XmlDsig) 仕様で定義されている仕組みの一つです。

Manifest 用 XML ファイルは、PDF などの外部リソースへの参照 (Reference) をリスト構造で一括管理するための XML ファイルになり、署名対象を階層化するために利用されます。

※Le:XAdES-V3 では、このリスト構造を外部ファイルとして扱う形式となりました。

◆注意◆ 「書類番号」のスキップの発生について

書類番号の生成は、SQL Server の自動採番処理によって行われています。

しかし、「e-Success データの全出力」などの処理中に実行される書類番号 (ID) の生成処理中に番号をスキップする場合があります。

※なお、書類番号がスキップされるのみで、書類の取込自体には特に影響ありません。

書類番号のスキップが発生する原因の例としては、以下のようなものがあります。

トランザクションのロールバック	書類データ、電子ファイルの取込時に、途中で何らかのトラブルが発生して取込に失敗した場合は、e-Success でデータベースを取込前の状態に戻します。 その際、通常は SQL Server 側で自動採番の ID(書類番号)も取込前の状態に戻りますが、SQL Server 側が自動採番の ID(書類番号)を取込前の状態に戻さずにそのまま残る場合があります。
サーバーの再起動	SQL Server の再起動時に、自動採番の ID(書類番号)がキャッシュされている場合、キャッシュされた自動採番の ID(書類番号)が失われることがあります。
高速取込処理	自動一括取込アプリなどで大量データ※を取り込もうとした時、SQL Server の自動採番処理が同時に ID(書類番号)を生成し、競合が発生してスキップされる場合があります。 ※大量データについて：1000 件以上のデータ

■SQL Server の再起動

データベースを復元する前に、SQL Server の再起動を実行します。復元処理時は、復元処理を実行しているシステム管理者以外の全てユーザーのアクセスを一時的に切断します。

あらかじめ、ご理解した上で利用してください。

■e-Success on ONeSaas をご利用の場合

e-Success on ONeSaas をご利用の場合は、別途仕様上の制限や条件などの異なる部分が存在します。最新情報については

<https://www.antenna.co.jp/e-success/ss-on-onesaas.html>

を参照してください。

付 録

■e-Success-V6 と前バージョンとのデータベースの違い

e-Success-V6 と前バージョンの製品である ScanSave-V3 と ScanSave-V4、e-Success-V5 は、それぞれデータベースの構成が異なります。

以下より、前バージョン各製品から e-Success-V6 のデータベースのアップグレード後に発生する変更箇所についてまとめた表になります。

○ScanSave-V3 から e-Success-V6 にアップグレードした場合

変更箇所	ScanSave-V3.0	ScanSave-V3.1
追加点	■追加したテーブル ・ 検索用項目一括更新用書類データ ・ 書類データ先行取込用データ ・ サーバースイド一括処理ログ ・ 自動タイムスタンプ付与ログ ・ バックアップ履歴 ・ その他3 マスタ ・ その他4 マスタ ・ その他5 マスタ ・ その他6 マスタ ■追加したカラム ○仮取込データ ・ その他3 ・ その他4 ・ その他5 ・ その他6 ・ 連携方法 ・ 対象列 ○書類マスタ ・ その他3 ・ その他4 ・ その他5 ・ その他6 ・ 法令保存期限日 ・ URL リンク出力済みフラグ ・ pca_slip_number ・ pca_slip_data_line_number ・ pca_link_view_done ○書類マスタ修正履歴 ・ その他3 ・ その他4 ・ その他5 ・ その他6 ・ 法令保存期限日 ・ URL リンク出力済みフラグ ・ pca_slip_number ・ pca_slip_data_line_number ・ pca_link_view_done ○他システムデータ用書類データ	■追加したテーブル ・ 検索用項目一括更新用書類データ ・ 書類データ先行取込用データ ・ サーバースイド一括処理ログ ・ 自動タイムスタンプ付与ログ ・ バックアップ履歴 ・ その他3 マスタ ・ その他4 マスタ ・ その他5 マスタ ・ その他6 マスタ ■追加したカラム ○仮取込データ ・ その他3 ・ その他4 ・ その他5 ・ その他6 ・ 連携方法 ・ 対象列 ○書類マスタ ・ その他3 ・ その他4 ・ その他5 ・ その他6 ・ 年度開始日時 ・ 年度終了日時 ・ 起算日時 ・ 法令保存期限日時 ・ pca_slip_number ・ pca_slip_data_line_number ・ pca_link_view_done ○書類マスタ修正履歴 ・ その他3 ・ その他4 ・ その他5 ・ その他6 ・ 年度開始日時 ・ 年度終了日時 ・ 起算日時 ・ 法令保存期限日時

・その他3 ・その他4 ・その他5 ・その他6	・pca_slip_number ・pca_slip_data_line_number ・pca_link_view_done
○コントロールマスタ	○他システムデータ用書類データ
・その他3ラベル名 ・その他4ラベル名 ・その他5ラベル名 ・その他6ラベル名 ・年度開始月 ・利用モード設定 ・削除ボタンの利用不可 ・パスワードミス連続回数 ・ログイン禁止 ・ログイン禁止時のメッセージ ・ログイン禁止最終更新日時 ・ログイン禁止最終更新者 ・自動タイムスタンプエラーログ最終確認日時 ・サーバーサイドエラーログ最終確認日時 ・バックアップエラーログ最終確認日時 ・自動TS_証明書ファイルパス ・自動TS_証明書パスワード ・自動TS_証明書のアラート ・自動TS_ファイルログ_エラーログ ・自動TS_ファイルログ_前日の処理ログ ・自動TS_ファイルログ出力場所パス ・自動TS_ファイルログ_証明書期限アラート ・自動TS_イベントログ_エラーログ ・自動TS_イベントログ_前日の処理ログ ・自動TS_イベントログ_証明書期限アラート ・自動TS_メール送信_エラーログ ・自動TS_メール送信_前日の処理ログ ・自動TS_メール送信_証明書期限アラート ・自動処理ログ参照のエラーありアイコンの表示 ・リンクビューURLの個別出力機能の利用 ・リンクビューURLの Protokol ・リンクビューURLのサーバー名 ・バックアップ結果メール送信 ・バックアップイベントログ ・バックアップファイルログ ・シークレットキー ・csv_layout	・その他3 ・その他4 ・その他5 ・その他6
○ファイルデータベース	○コントロールマスタ
・pca_user_name ・pca_password	・その他3ラベル名 ・その他4ラベル名 ・その他5ラベル名 ・その他6ラベル名 ・年度開始月 ・利用モード設定 ・削除ボタンの利用不可 ・パスワードミス連続回数 ・ログイン禁止 ・ログイン禁止時のメッセージ ・ログイン禁止最終更新日時 ・ログイン禁止最終更新者 ・自動タイムスタンプエラーログ最終確認日時 ・サーバーサイドエラーログ最終確認日時 ・バックアップエラーログ最終確認日時 ・自動TS_証明書ファイルパス ・自動TS_証明書パスワード ・自動TS_証明書のアラート ・自動TS_ファイルログ_エラーログ ・自動TS_ファイルログ_前日の処理ログ ・自動TS_ファイルログ出力場所パス ・自動TS_ファイルログ_証明書期限アラート ・自動TS_イベントログ_エラーログ ・自動TS_イベントログ_前日の処理ログ ・自動TS_イベントログ_証明書期限アラート ・自動TS_メール送信_エラーログ ・自動TS_メール送信_前日の処理ログ ・自動TS_メール送信_証明書期限アラート ・自動処理ログ参照のエラーありアイコンの表示 ・リンクビューURLの個別出力機能の利用 ・リンクビューURLの Protokol ・リンクビューURLのサーバー名 ・バックアップ結果メール送信 ・バックアップイベントログ ・バックアップファイルログ ・シークレットキー ・csv_layout
○書類種類マスタ	○ファイルデータベース
・解像度チェック ・階調チェック ・色チェック ・スキャン画像確認 ・タイムスタンプ付与	・リンクビューURLの個別出力機能の利用 ・リンクビューURLの Protokol ・リンクビューURLのサーバー名 ・バックアップ結果メール送信 ・バックアップイベントログ ・バックアップファイルログ ・シークレットキー ・csv_layout

	・課税関連書類 ・日付の利用 ・日付の必須 ・金額の利用 ・金額の必須 ・金額の単位 ・金額の小数制御 ・品名の必須 ・取引先名の利用 ・取引先名の必須 ・その他1の利用 ・その他1の必須 ・その他1ラベル名 ・その他2の利用 ・その他2の必須 ・その他2ラベル名 ・その他3の利用 ・その他3の必須 ・その他3ラベル名 ・その他4の利用 ・その他4の必須 ・その他4ラベル名 ・その他5の利用 ・その他5の必須 ・その他5ラベル名 ・その他6の利用 ・その他6の必須 ・その他6ラベル名 ・並び順	・pca_user_name ・pca_password ○書類種類マスタ ・解像度チェック ・階調チェック ・色チェック ・スキャン画像確認 ・タイムスタンプ付与 ・課税関連書類 ・日付の利用 ・日付の必須 ・金額の利用 ・金額の必須 ・金額の単位 ・金額の小数制御 ・品名の必須 ・取引先名の利用 ・取引先名の必須 ・その他1の利用 ・その他1の必須 ・その他1ラベル名 ・その他2の利用 ・その他2の必須 ・その他2ラベル名 ・その他3の利用 ・その他3の必須 ・その他3ラベル名 ・その他4の利用 ・その他4の必須 ・その他4ラベル名 ・その他5の利用 ・その他5の必須 ・その他5ラベル名 ・その他6の利用 ・その他6の必須 ・その他6ラベル名 ・並び順
変更点	■変更したカラム ○書類マスタ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類マスタ修正履歴 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更）	■変更したカラム ○書類マスタ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類マスタ修正履歴 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更）

	・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○ユーザースタ ・拠点名（文字数を100に変更） ○拠点マスタ ・拠点コード（文字列型20文字に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類種類マスタ ・品名登録フラグ ⇒ 品名の利用 ○仮取込データ ・ファイル名 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○他システムデータ用書類データ ・ファイル名 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○取引先マスタ ・取引先名（文字数を200に変更） ・取引先名カナ（文字数を400に変更） ・検索用取引先名（文字数を400に変更） ○その他1マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更） ○その他2マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更）	・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○ユーザースタ ・拠点名（文字数を100に変更） ○拠点マスタ ・拠点コード（文字列型20文字に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類種類マスタ ・品名登録フラグ ⇒ 品名の利用 ○仮取込データ ・ファイル名 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○他システムデータ用書類データ ・ファイル名 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○取引先マスタ ・取引先名（文字数を200に変更） ・取引先名カナ（文字数を400に変更） ・検索用取引先名（文字数を400に変更） ○その他1マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更） ○その他2マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更）
追加点	■削除したカラム ○コントロールマスタ ・作業フォルダパス ・ファイル種類 ・パスワード要件最終更新日時 ・パスワード要件最終更新者 ・金額必須フラグ ・取引先必須フラグ ・品名必須フラグ ・パスコード ○書類種類マスタ	■削除したカラム ○仮取込データ ・重要一般分類 ・品名登録フラグ ○書類マスタ ・重要一般分類 ・品名登録フラグ ○書類マスタ修正履歴 ・重要一般分類 ・品名登録フラグ ○他システムデータ用書類データ

	・ 重要一般分類	・ 重要一般分類 ・ 品名登録フラグ ○コントロールマスタ ・ 作業フォルダパス ・ ファイル種類 ・ パスワード要件最終更新日時 ・ パスワード要件最終更新者 ・ 金額必須フラグ ・ 取引先必須フラグ ・ 品名必須フラグ ・ パスコード ○書類種類マスタ ・ 重要一般分類
--	--	---

変更箇所	ScanSave-V4.0	ScanSave-V4.1
追加点	■追加したテーブル ・検索用項目一括更新用書類データ ・書類データ先行取込用データ ・バックアップ履歴 ・その他5 マスタ ・その他6 マスタ ■追加したカラム ○仮取込データ ・その他5 ・その他6 ・連携方法 ・対象列 ○サーバーサイド一括処理ログ ・成功件数 ・エラー件数 ○自動タイムスタンプ付与ログ ・成功件数 ・エラー件数 ○書類マスタ ・その他5 ・その他6 ・法令保存期限日 ・pca_slip_number ・pca_slip_data_line_number ・pca_link_view_done ○書類マスタ修正履歴 ・その他5 ・その他6 ・法令保存期限日 ・pca_slip_number ・pca_slip_data_line_number ・pca_link_view_done ○他システムデータ用書類データ ・その他5 ・その他6 ○コントロールマスタ ・その他5 ラベル名 ・その他6 ラベル名 ・年度開始月 ・自動TS_証明書のアラート ・自動TS_メール送信_エラーログ ・自動TS_メール送信_前日の処理ログ ・自動TS_メール送信_証明書期限アラート ・自動処理ログ参照のエラーありアイコンの表示 ・リンクビュー URL の個別出力機能の利用 ・リンクビュー URL のプロトコル ・リンクビュー URL のサーバー名 ・バックアップエラーログ最終確認日時 ・バックアップフォルダパス	■追加したテーブル ・書類データ先行取込用データ ・バックアップ履歴 ・その他5 マスタ ・その他6 マスタ ■追加したカラム ○仮取込データ ・その他5 ・その他6 ○書類マスタ ・その他5 ・その他6 ・年度開始日時 ・年度終了日時 ・起算日時 ・法令保存期限日時 ・pca_slip_number ・pca_slip_data_line_number ・pca_link_view_done ○書類マスタ修正履歴 ・その他5 ・その他6 ・年度開始日時 ・年度終了日時 ・起算日時 ・法令保存期限日時 ・pca_slip_number ・pca_slip_data_line_number ・pca_link_view_done ○他システムデータ用書類データ ・その他5 ・その他6 ○検索用項目一括更新用書類データ ・その他5 ・その他6 ○コントロールマスタ ・その他5 ラベル名 ・その他6 ラベル名 ・年度開始月 ・バックアップエラーログ最終確認日時 ・バックアップフォルダパス ・バックアップ結果メール送信 ・バックアップイベントログ ・バックアップファイルログ ・シークレットキー ・csv_layout ○ユーザーマスタ ・hub_name_other1 ・hub_name_other2

	・バックアップ結果メール送信 ・バックアップイベントログ ・バックアップファイルログ ・シークレットキー ・csv_layout ○ユーザーマスタ ・hub_name_other1 ・hub_name_other2 ・hub_name_other3 ・hub_name_other4 ・pca_user_name ・pca_password ○書類種類マスタ ・金額の単位 ・金額の小数制御 ・課税関連書類 ・その他1ラベル名 ・その他2ラベル名 ・その他3ラベル名 ・その他4ラベル名 ・その他5の利用 ・その他5の必須 ・その他5ラベル名 ・その他6の利用 ・その他6の必須 ・その他6ラベル名	・hub_name_other3 ・hub_name_other4 ・pca_user_name ・pca_password ○書類種類マスタ ・金額の単位 ・金額の小数制御 ・課税関連書類 ・その他1ラベル名 ・その他2ラベル名 ・その他3ラベル名 ・その他4ラベル名 ・その他5の利用 ・その他5の必須 ・その他5ラベル名 ・その他6の利用 ・その他6の必須 ・その他6ラベル名
変更点	■変更したカラム ○書類マスタ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類マスタ修正履歴 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○ユーザーマスタ ・拠点名（文字数を100に変更） ○拠点マスタ ・拠点コード（文字列型20文字に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○仮取込データ ・ファイル名 ・品名（文字数を200に変更）	■変更したカラム ○書類マスタ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類マスタ修正履歴 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○ユーザーマスタ ・拠点名（文字数を100に変更） ○拠点マスタ ・拠点コード（文字列型20文字に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○仮取込データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更）

	・取引先名（文字数を 200 に変更） ・その他 1（文字数を 200 に変更） ・その他 2（文字数を 200 に変更） ・その他 3（文字数を 200 に変更） ・その他 4（文字数を 200 に変更） ・拠点名（文字数を 100 に変更） ○他システムデータ用書類データ ・ファイル名 ・品名（文字数を 200 に変更） ・取引先名（文字数を 200 に変更） ・その他 1（文字数を 200 に変更） ・その他 2（文字数を 200 に変更） ・その他 3（文字数を 200 に変更） ・その他 4（文字数を 200 に変更） ・拠点名（文字数を 100 に変更） ○取引先マスタ ・取引先名（文字数を 200 に変更） ・取引先名カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用取引先名（文字数を 400 に変更） ○その他 1 マスタ ・名称（文字数を 200 に変更） ・カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用文字列（文字数を 400 に変更） ○その他 2 マスタ ・名称（文字数を 200 に変更） ・カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用文字列（文字数を 400 に変更） ○その他 3 マスタ ・名称（文字数を 200 に変更） ・カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用文字列（文字数を 400 に変更） ○その他 4 マスタ ・名称（文字数を 200 に変更） ・カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用文字列（文字数を 400 に変更）	・その他 1（文字数を 200 に変更） ・その他 2（文字数を 200 に変更） ・その他 3（文字数を 200 に変更） ・その他 4（文字数を 200 に変更） ・拠点名（文字数を 100 に変更） ○他システムデータ用書類データ ・品名（文字数を 200 に変更） ・取引先名（文字数を 200 に変更） ・その他 1（文字数を 200 に変更） ・その他 2（文字数を 200 に変更） ・その他 3（文字数を 200 に変更） ・その他 4（文字数を 200 に変更） ・拠点名（文字数を 100 に変更） ○検索用項目一括更新用書類データ ・品名（文字数を 200 に変更） ・取引先名（文字数を 200 に変更） ・その他 1（文字数を 200 に変更） ・その他 2（文字数を 200 に変更） ・その他 3（文字数を 200 に変更） ・その他 4（文字数を 200 に変更） ・拠点名（文字数を 100 に変更） ○取引先マスタ ・取引先名（文字数を 200 に変更） ・取引先名カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用取引先名（文字数を 400 に変更） ○その他 1 マスタ ・名称（文字数を 200 に変更） ・カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用文字列（文字数を 400 に変更） ○その他 2 マスタ ・名称（文字数を 200 に変更） ・カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用文字列（文字数を 400 に変更） ○その他 3 マスタ ・名称（文字数を 200 に変更） ・カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用文字列（文字数を 400 に変更） ○その他 4 マスタ ・名称（文字数を 200 に変更） ・カナ（文字数を 400 に変更） ・検索用文字列（文字数を 400 に変更）
削除点	■削除したカラム ○コントロールマスタ ・自動 TS_電子ファイル保存場所パス	なし

○e-Success-V5 から e-Success-V6 にアップグレードした場合

変更箇所	e-Success-V5.0	e-Success-V5.1
追加点	■追加したテーブル ・その他5 マスタ ・その他6 マスタ ■追加したカラム ○仮取込データ ・その他5 ・その他6 ○書類マスタ ・その他5 ・その他6 ・法令保存期限日時 ・pca_slip_number ・pca_slip_data_line_number ・pca_link_view_done ○書類マスタ修正履歴 ・その他5 ・その他6 ・法令保存期限日 ・pca_slip_number ・pca_slip_data_line_number ・pca_link_view_done ○他システムデータ用書類データ ・その他5 ・その他6 ○検索用項目一括更新用書類データ ・その他5 ・その他6 ○書類データ先行取込用データ ・その他5 ・その他6 ○コントロールマスタ ・その他5 ラベル名 ・その他6 ラベル名 ・年度開始月 ・バックアップエラーログ最終確認日時 ・シークレットキー ・csv_layout ○ユーザーマスタ ・hub_name_other1 ・hub_name_other2 ・hub_name_other3 ・hub_name_other4 ・pca_user_name ・pca_password ○書類種類マスタ ・金額の単位 ・金額の小数制御 ・課税関連書類 ・その他1 ラベル名	■追加したテーブル ・その他5 マスタ ・その他6 マスタ ■追加したカラム ○仮取込データ ・その他5 ・その他6 ○書類マスタ ・その他5 ・その他6 ・年度開始日時 ・年度終了日時 ・起算日時 ・法令保存期限日 br />○書類マスタ修正履歴 ・その他5 ・その他6 ・年度開始日時 ・年度終了日時 ・起算日時 ・法令保存期限日時 ○他システムデータ用書類データ ・その他5 ・その他6 ○検索用項目一括更新用書類データ ・その他5 ・その他6 ○書類データ先行取込用データ ・その他5 ・その他6 ○コントロールマスタ ・その他5 ラベル名 ・その他6 ラベル名 ・年度開始月 ・シークレットキー ・csv_layout ○ユーザーマスタ ・hub_name_other1 ・hub_name_other2 ・hub_name_other3 ・hub_name_other4 ○書類種類マスタ ・課税関連書類 ・その他1 ラベル名 ・その他2 ラベル名 ・その他3 ラベル名 ・その他4 ラベル名 ・その他5 の利用 ・その他5 の必須 ・その他5 ラベル名

	・その他2ラベル名 ・その他3ラベル名 ・その他4ラベル名 ・その他5の利用 ・その他5の必須 ・その他5ラベル名 ・その他6の利用 ・その他6の必須 ・その他6ラベル名	・その他6の利用 ・その他6の必須 ・その他6ラベル名
変更点	■変更したカラム ○書類マスタ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類マスタ修正履歴 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○ユーザーマスタ ・拠点名（文字数を100に変更） ○拠点マスタ ・拠点コード（文字列型20文字に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○仮取込データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○他システムデータ用書類データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○検索用項目一括更新用書類データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更）	■変更したカラム ○書類マスタ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類マスタ修正履歴 ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○ユーザーマスタ ・拠点名（文字数を100に変更） ○拠点マスタ ・拠点コード（文字列型20文字に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○仮取込データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○他システムデータ用書類データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○検索用項目一括更新用書類データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更）

	・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類データ先行取込用データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○取引先マスタ ・取引先名（文字数を200に変更） ・取引先名カナ（文字数を400に変更） ・検索用取引先名（文字数を400に変更） ○その他1マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更） ○その他2マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更） ○その他3マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更） ○その他4マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更）	・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○書類データ先行取込用データ ・品名（文字数を200に変更） ・取引先名（文字数を200に変更） ・その他1（文字数を200に変更） ・その他2（文字数を200に変更） ・その他3（文字数を200に変更） ・その他4（文字数を200に変更） ・拠点名（文字数を100に変更） ○取引先マスタ ・取引先名（文字数を200に変更） ・取引先名カナ（文字数を400に変更） ・検索用取引先名（文字数を400に変更） ○その他1マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更） ○その他2マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更） ○その他3マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更） ○その他4マスタ ・名称（文字数を200に変更） ・カナ（文字数を400に変更） ・検索用文字列（文字数を400に変更）
削除点	なし	なし

e-Success-V6.5 導入・運用マニュアル サーバー編

発行日 2023 年 5 月 1 日

改訂日 2026 年 5 月 11 日

発行元 アンテナハウス株式会社